

あなたの意識です その後

vol.1

「あなたの意識です」(1〜3)という冊子が、二〇一〇年八月〜二〇一一年一月にかけてそこには二二三名の方の意識が会員番号(UTA会当時の番号)とともに掲載されています。また「あなたの意識ではありませんか」(1〜4)という冊子も、二〇〇九年六月〜二〇一〇年二月にかけて、発行されました。そこには三五一の意識が掲載されています。田池先生からCDを受け取られた方もいらっしやいます。今、UTAブックでは、この方の中で、今も続けて学んでおられる方に問いかけさせていただいています。

あなたは、あなたに向けて約十年前に出された意識を覚えておられますか？

「十年は一昔」という諺ことわざがありますが、あなたの中では、この時出された「意識」という問いかけは、時効になっていないでしょうか。

この冊子に心が向いたのも、田池先生からの促うながしのように感じ、ここに掲かかげられた意識は、二二三名の方ばかりか、学んでいるすべての人への問いかけのように思います。

十年前、名指しで出された意識は、田池先生からの、いえ、意識の世界からのプレゼントだと思い、UTAブックでは、これを新たに冊子として発行しようとしています。

十年たった今、あなたは、これをどう感じておられるか、率直な思いを聞かせていただけるようお願いいたします。

***さん、今のあなたを語ってみてください。

私は、***と言います。今の私は、自分自身を嫌っています。自分自身が嫌いなんです。

私は、私を認められない。こんな私は認められない、その思いが、とても強いです。

心の中に、自分の理想とする形がありました。その理想を追い求めてきた私があります。過去からの思いがそうです。私は、自分の中に理想を追いかけました。

異語。

何度転生をしても、私は、自分を受け入れることはできませんでした。

自分を嫌ってきました。自分が愛しいなんて思えることはなかった。どうすれば、自分を愛しいと思

えるのか、私には、それが分かりません。

自分を大切にするといいても、私は、たぶん自己中心的な思いで、その言葉をとらえていると思います。

自分を嫌っている……、私は、今、自分を語ってみて、そんなはずはない、私は、私をこれだけ認めているじゃないか、私にもいいところがある、私にだってこんな素晴らしいところがある、心の中から反発の思いが出てきます。

ああでも、私は、自分を自分で受け入れられない、自分を認められない、自分を自分が嫌ってきた、この思いを今語った時、少し、ああそうだったんだなあって感じます。私は、私を知らなかった。知らな過ぎました。

私の中のたくさんの私が、今、このように答えてきてくれていることを、心に感じます。

異語。

***さん、あなたが瞑想をする時の思いを見
てみてください。

なぜあなたは、瞑想をしようと思うのですか。そ
のところを、正直にあなた自身、確認していきたく
ださい。そこに、これからあなたが学んでいく上で、
色々なヒントがあると思います。

一言で言うならば、欲なんです。あなたが、瞑想
をしようとするその根底にあるものは、欲の思いで
す。その欲の思いをどんどん見てみてください。
こうなりたい、ああなりたい、その思いを、どんど
ん自分の中で見ていくんです。

瞑想することが、もう喜びのほうです。瞑想をす
る先に何もありません。

異語。

***さん、そして、淡々と瞑想を重ねていけ
ば、あなたは、あなたを生んでくださった今世のお
母さんを通して、あなたの中で、母という意識に対

して、凄まじい思いを流してきたあなた自身に出会
うでしょう。

母親の反省とは、今のあなたのお母さん、単にそ
の人の反省をするということではありません。その
人の肉を通して、あなたの中の凄まじいエネルギー
を確認していくこと、それが母親の反省です。

過去より、母の意識に対して、どれだけ凄まじい
エネルギーを流し続けてきたか、今のお母さんを通
して、どんどん自分の中で見てみてください。

十年前というと、まだこの学びに触れたところで、
今もそうですが、何も全く分かっていませんでした。
ただこの意識がそうだと納得したのを覚え
ています。

自分が嫌いで、自分の事が認められない、自分に
冷たくて聳え立っている私です。

私はもつと素晴らしくならないといけないと瞑想
さえも欲の思いでした、他力の延長です。
さて今はどうなのかと自分に問います。

瞑想をしても何も感じなかったり、肉の思いが邪魔をして、集中出来ない時もあります。異語を出していくと、頭では分からなくてもどんどん出てくるので、今はこれでいいかなと思っています。

頭をくるくる回す生き方をずっと思ってきたので、それを少しずつ緩めていこうと思っています。

母に対しても反省しても、子供の頃の嫌な事が余り思い出せない、母を理想化していた所があります。

ところが、塩川さんからの促しで、母に対する凄まじいエネルギーを出してもらい、出てこれたととても嬉しかったです。

そこから、はっきりと自分は凄まじいエネルギーの持ち主なんだという自覚がとて強くなりました。

やっと底の方から出てきてくれて、良かったです。

それから、母と一緒にいると、私と性格がとても似ているので、それ



が嫌でした。

今までだとそんな自分は嫌だと思っていたのを、母は演じてくれてるんだ、極悪人の私なので、さもありなんと認めていっています。

共に帰ろうね……と。

十年前と比べてどれほど変わったか？ 凄くエネルギーの私なので、肉で色々現象が起こりますが、それに振り回されなくなっているのは確かです。

遅々とした歩みですが、こんな私でも良いんだよと、自分を少しずつ嫌いでなくなっています。

自分が嫌いという事は、日常生活で主人や母に瞬時に出す心だと気が付き、それが出るたびに、一緒に帰ろうねと思っています。

この宝物のメッセージを心にぎざんで、本当の私、皆一つの世界を進んでいきます。

***さん、背中の鉄板という意味が、あなたの中で分かってきましたか。

はい、己の偉い私を感じています。やらねばならない、何々しなければならぬ、そびえ立つ私を感じてきました。鉄板を背負^{せお}って、私は、ずっと生きてきたように思います。

どうして、私は、こんなに自分を苦しいところに追い込んでしまったのか、今、そのことを感じています。誰も何もあなたにこうしなさい、ああしなさいと言ったわけではありませんでした。私自身が勝手にそびえ立ち、私自身が勝手に、こうしなければならぬ、ああしなければならぬ、そのように自分を追い込んでいったのです。

そのことを、私は、三月の瞑想会で、少し感じさせていただきました。

苦しいところに追い込んでいったのは私でした。

分厚い鉄板を背負ったのは、私でした。本当に愚かな私を、今、感じています。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、申し訳ございません。心を解^とき放^{はな}つことをやってまいります。私は、何もできておりませんでした。私はできています、私は分かっている、感じてきている、私は、こんなに一生懸命やっている、その思いだけで過ごしてまいりました。その思いがすべて、ブラックであることに、私は、気づきませんでした。心を見ているつもりでした。心は何かを感じ、そして、私は、自分を語ることをしてきたつもりです。

ああでも、それはすべて、私を、苦しい私を押さ

えつけて、語ってきたに過ぎなかった。今、心が少し開く時、ああ、自分は小さな中に閉じこもってきただなあ、そう感じます。田池留吉、お母さんに心を向けてまいります。ありがとうございました。

◇

(CDから抜粋) ***さん、田池留吉です。どうぞ、しっかりとあなたの心を語り、あなたの心を見つめ、自分自身を知っていく方向に、心を向けていってください。あなたがおっしゃったように、何も語ることができないと思います。

自分の中の凄まじさを心で感じていけばいくほど、今そこに肉を持ってあなたが存在している事、それがどれだけの大きな喜び、幸せなのか、愛なのか、心に響いてくると思います。

その思いで、あなたの周りを見てごらん下さい。あなたは素晴らしい愛の中に存在しているんです。何一つ、あなたにとって、不必要なものはありません。あなたが、それを自分の基準で、これはダメ、あれはダメ、こうしなさい、ああしなさい、そうやっ

て、自分の中で支配、区別、差別、そのエネルギーを流してきたんです。はい、どうぞ、その思い、そのエネルギーをしっかりと自分の中で真摯に見つめていってください。

あなたのすべきことは、まだまだたくさんあります。自分を見つめていく時間を大切にしてください。心の中の、安らぎ、喜び、温もり、そういうあなたに巡り合えるまで、しっかりと自分を見つめていってください。そのようにあなたが決めてきたから、今その肉を持っていきます。しっかりと自分の道を歩いていってください。

田池留吉、アルバートその世界はあなたを待ち続けています。お母さんに喜びを伝えていただいたように、あなたもあなたに喜びを伝えていくんです。真の喜びを伝えていってください。それがあなたのこれからの転生です。転生の時間を大切にしてください。あなたがあなたに伝えていくのは喜びです。苦しみではありません。

十年前にいただいたメッセージは私にとって思いもよらないものでした。何もかも肉でしか分からない私が、必死で生きてきたことが、こんなに苦しい私に、石のように雁字搦めの心にしてしまっている事を伝えられビックリしました。真面目に学んできたつもりですが、肉を土台に生きることがどういうことなのか、ただただがむしやりに自分の心を見てくださいました。しかし欲で見ている状態に、中から苦しい思いが間違っていることを伝え続けてくれ、田池留吉の愛の中で、私はもがき続けていたんだと、今振り返って思います。まだまだ聳え続ける愚かな冷たい私ですが、そんな私を、私は、見捨てることもなく、許し続けて信じてくれることを感じていきます。長い間、すべてを全く逆さまに学んでいた事を、中から伝えられ続けてきたんだと、その冷たさにびっくりしましたが、その冷たい私から、なんとも優しい思いが伝わってきました。ただただ優しく包まれ続けていることを感じました。肉の正しい生き方しか分からなかった私の冷たさに、愚かさ

ただただごめんなさいしかありません。

今世この肉をいただいて、逆さまだったと気づかせていただき、冷たい心を抱きしめ続けていける私なんだと思うと、なんて幸せな私なんだろうと思っ
ています。私は、お母さんに産んでいただけたことが、こんなすごいことだったと分かったことが、本当に嬉しいです。

大きなブラックなエネルギーを底知れず使い続けて、破壊させることを正しいとしてきた私に、お母さんの温もりを伝えていきます。気づいていこうね、ともに帰ろうねと伝えていきます。

背中の鉄板は、間違った私の道しるべだと思っ
ています。随分薄くなりましたが、今世無くなると思っ
ていませんか。私と共に帰る私だと感じています。
田池留吉に出会えた幸せな私を、無駄にしないよ
うに、心を見ていきます。このように振り返るチャ
ンスをいただけたことを嬉しく思います。ありがと
うございました。

***さん、あなたの中にも喜びがありましたね。どうぞ、その喜びをしっかりとあなたの中で育んでいってください。

では、あなたの今の思いを語ってみてください。

長い、長い時間がかかりました。ああでも、今世の時間なんて、私の転生からすれば、ほんのひとときだったんですね。

そのひとときのうちに、私は、自分の中をこのように見させていただけることができて、今、とても嬉しいです。

間違ってます。凄まじいエネルギーを蓄えてきた。

お母さんに対して申し訳ない。自分に対して申し訳ない。そんな思いでいっぱいです。

異語。

***さん、どうぞ、自分の中で、母を思う瞑想、田池留吉を思う瞑想、淡々と続けていってください。それがあなたのこれからの転生に繋がってまいります。

他力のエネルギーを蓄えてきたあなたです。あなたもその例外ではございません。しっかりとその他力のエネルギーを、自分の中で見つめ、そして、ともに、温もりへ帰っていきこう、いつも、いつも、そのように、思いを向けていってください。

二五〇年後を楽しみに待っています。

十年経ったんですね。

今、喜びがもつともつと大きな喜びとなって響いてきます。

たくさんの他力の心とともに、母を思う瞑想、田池留吉を思う瞑想が大きな大きな喜びを伝えてくれます。

何より何より嬉しいです。確りと心を見てまいります。ありがとうございます。

****さん、他力の反省はどうでしょうか。他力信仰に使ってきた思いを見てきましたか。

他力のエネルギーを蓄えてきた私は、その中にまだどっぴりの私を感じています。確かに、この学びは本当だと感じています。本当のことを伝えてくれていたあの場に参加させていただいたことを喜んでるのは確かです。

ああしかし、私の中で、自分が過去よりずっと溜め込んできた他力の神々に向けた思いを、まだはつきりとしっかりと感じていません。

子供に対して凄まじい思いを流している自分を感じます。周囲の人達に対して、凄まじい思いを流している自分を感じます。

私は、それをまだまだ自分の中で、抑おさえているような現実があります。

それが、自分の中から自由に解とき放はなしていくこと

がなければ、いくら、この学びしかないと思っても、私を感じている世界は、やはり、ずれているのだと、私自身、思っています。

****さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください

異語。

田池留吉、心の中に田池留吉を思う時、はい、はい、とても私の中に抵抗する思いがございます。肉の私には、まだその思いが響いていないけれど、私の中に、田池留吉のほうに心を向けるなということをかを盛んに言ってくる私があるのを感じます。

田池留吉の目を恐れてきました。田池留吉を恐れてきた。田池留吉に心を向けることをするなという私の中があるのを感じます。

ああこれが私の他力の心、他力の世界、私がつてきた他力の世界でございました。今、そのことを、

少し、感じさせていただきました。

至れり尽くせりの田池先生にどれだけ甘えてきたか、すべて当たり前でした。

いまだに他力の反省は進んでいません。

ですが、先生に出会い、意識を受けていただいたこと、とっても嬉しいです。本当に私の宝物です。

真剣に学んでこなかった自分自身に本当に申し訳ない思いで一杯です。

少しずつでも田池先生が伝えてくださった学び一筋、瞑想を続けてまいります。



愛犬アトム

いつまで一緒にいれるか、どちらが先か？
分かりませんが、ともに歩いていきます。

5

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

己一番の世界を広げてきました。私はやってきました。己一番でございました。ああどうしても、この己という壁を崩すことができなかった。できません。

他力の反省が進まないのは、そうです、私は、他力のエネルギーに一体化している自分を感じています。他力そのものでございます。

私も、自分の中に他力のエネルギーが、しっかりと詰まっていることを感じながらも、やはり、そう、他人事ひとごとのようにとらえていました。

少しは、他力のエネルギーが薄れているだろう、少しは田池留吉に心を向けている、少しは母親の反省ができてきた、とんでもございません。

私は、本当に甘くとらえていました。この学びを甘くとらえていました。田池留吉を甘くとらえていました。この学びすべてを甘くとらえていた。

そんな自分を感じます。

今、私の歳になって、このように厳しく語るのは、肉の自分にとって、とても辛いところがございます。

でも、私は、私自身を語るねばなりません。なぜならば、私も、この学びに繋がったからです。この学びに繋がったからには、どうしても自分を変えていかなければならない、そのように、私は生まれてきたのだと思います。これからの転生があります。しっかりと自分を見つめていこうとしています。だから、私は、私を厳しく、厳しく、見つめていきたいと思います、この申し込みをさせていただきます。他力の反省が進んでいないことを、私自身に伝えなかった。そう伝えなかったです。

***さん、どうでしょうか。あなたの思いを、少し語っていただきました。肉のあなたは、これをすんなりと受け入れていけるでしょうか。

私は、これだけの年月をかけて、この学びをやってきた、その思いが、あなたの中には、確かにある

と思います。その思いが強いです。

ああでも、これからの時間の中で、自分を厳しく見つめていくために、あなたは、転生を重ねていくと思います。

どうぞ、あなたの今の思いを、何度も読み返してください。そこには、あなたの偽らざる思いが溢れていると思います。偽らざる思いとは、本当の自分に会いたいという思いです。

どんなに他力のエネルギーに心を向けても、この学びに繋がった意識は、必ず、自分の間違いに心で気付く時を用意していますと、私は伝えました。

落ち込まず、めげずに、時間の許す限り、自分に誠実に応えていってください。学びは厳しいです。学びは、真実だから厳しいのです。

十年前の私の意識を読んで、この十年間何をしてきたのだろうと思います。何の進歩もない私です、十年前の自分に教えられた思いです。改めて先生からのCDを聞きました。いただいた時は毎朝一番に

CDを聞いて一日がはじまるのです。ここしばらく遠のいていました、大切な宝物としてしまっていたのです。ホームページ2008を読んで涙が止まりませんでした。先生の思いが、胸にしみます。

あの大宝の坂道を思います、どんなに大変だったことか、胸が痛みます。CDの中の私の課題は、「他力どっぶり」と「素直」の二つです。他力どっぶりもそうですが、素直に、素直には、私にとつて大変です……。先生が話してくださいようように、お母さんの胸に抱かれているゼロ歳の自分に戻って瞑想を続けてゆきます。今、心の中からお母さんとの約束を果たさねば、二五〇年後につないでゆかねば、帰りたい帰りたいの叫びが上がってきます。後二回の転生を乗り越えて、タイケトメキチとともに二五〇年後に向かってしっかりと歩いてまいります。二五〇後を思うと嬉しいのです。ありがとうございます。

6

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

自分の中がこれほど狂っていたとは、私は驚いています。自分の中が、これほど荒れ狂っていたとは、自分自身驚いています。

周りの現象から、私は、自分の心を見てきたつもりでした。しかし、自分の中の意識達、その意識達の苦しさ、今にも狂い出し、喚き散らし、本当に真っ暗な中にいる意識達、すべて私でございました。

そんな私を、今、ようやく心に感じ始めています。心が敏感だと思ってきました。少しは私も、田池留吉、アルバートに心を向けているのかなあ、お母さんの温もりを心に感じているのかなあ、そう思ってきました。

心に伝わってくる意識も、私は感じてきました。でも、そんなの、本当に上滑りの意識の世界であり、私の反省であり、そういうことを、今、ようやく、

年月を重ね、心に響いてきます。

お母さん、お母さん、お母さんは、私を受け入れてくれた……。その思いが心に響いてくる時、ああ、私もお母さんに肉体をくださいとお願いをした……。そんな思いが、切々と響いてきます。

お母さん、申し訳ございません。そして、私自身、もっと、もっと、自分を大切にしていこうと、今、感じています。

異語。

***さん、心を語る時のあなたの波動、私は、今、感じさせていただきました。学びを浅く、浅くとらえていたあなた自身を、あなたは、反省されていました。

今、あなたの心に伝わってくるあなたの思いを、しっかりと瞑想をする中で感じていってください。

田池留吉、そしてアルバート、二五〇年後、次元移行、中の意識達は、その方向に思いを向けていけ

ることを、心待ちしています。

あなたが、心が敏感だというその基盤は、肉でございませぬ。そんなちっぽけな世界ではございませぬ。あなた自身、そんなちっぽけな世界に存在しているのではございませぬ。

どうぞ、心を見ていってください。瞑想を重ね、自分の意識の世界を、どんどん感じていってください。

あなたにも、もちろん、転生があり、その転生を経て、二五〇年後に心を繋いでいく大切な今の時間です。自分の心をしっかりと見つめ、その基盤を変えていくこと、今世の肉の時間の許す限り、そのことに専念していってください。

十年前に頂いた私の意識、そしてメッセージを読み返して……。

涙とともに懺悔の思いが溢れてきます。

申し訳ない、申し訳ない、申し訳ございません。

私は本当に地に落ちた意識でございました。

肉のカラが分厚くて、なかなか、なかなか、心の中に浸透しんとうしていきませんでした。

今、ありがとう、ありがとう、本当にありがとう。本当の自分に、肉を持たせてくれた母に、そして出会ってくれた田池留吉の肉に、言葉には乗せられない程の感謝の思いでいっぱいです。

「私は意識です。」

信じて信じて前を向いて歩いてまいります。

肉の時間の許す限り、田池留吉、アルバート、二五〇年後、次元移行に思いを向けてまいります。

このような機会を与えていただいて、本当にありがとうございます。

7

***さん、あなたの心を語ってみてください。

お母さん……、お母さんを求めてきました。憎にくみ

恨うらみながらも、母を求めてきたこの心に、素直になっ

ていこうとしています。

ああでも、それを遮さえぎるたくさんの私……。本当に間違ってきました。自分に冷たいことを感じます。パワーを求める心は、とても冷たかった。

パワーを求めて、私は、幸せになれなかった。だけど、パワーを求めてきた。なぜなんだろうか。

お母さん、あなたの中へ戻っていこうとしている私を感じる一方、凄すさまじいエネルギーを、また一方で感じます。

お前は、パワーを求めてきたのではないのか。お前が求めるパワー、素晴らしいと、お前は、このパワーのもとにひれ伏してきた。そのことを忘れるな。心の中の温もりだと、そんな、たわ言に耳かたむを傾けるな、心を向けるな。

そうやって、私に言ってくる意識達、みんな私なんです。私は、その私を、まだまだ受け入れていけるだけの優しさを、自分の中で確認していません。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、お前に心を向けるなと言ってきた我らの声が、お前には届かないのか。温もりなどお前には要らないはずだった。なぜそんなに温もりを欲しがるのか。パワーをやる。パワーをくれてやる。パワーを身につければ、お前の心を素晴らしい世界へと導いていくぞ。田池留吉に心を向けることをするな。

このように答えてくる私の中の意識達がごさいます。ああしかし、田池留吉は、待ってくれている。お母さんの優しさを感じます。何も言いません。

何も言わないけれど、両手を広げてくれているお母さんを感じます。あそこへ、私は、戻っていいこととしてるんですね。

自分の中を、しっかりと見てまいります。

異語。

もう、十年も前なんですね。

私にとっては、つい先日なんです、忘れることもなく、お母さんを思えば、両手を広げ待っていてくれる母がいます。

肉かもしれないませんが、ずっとです。

私は肉的には、不安定です。

普通に生きる事が大変です。

ただ、いつもあの時の「あなたの意識です」の一文が出てくるのです。

両手を広げて待っていてくれる、お母さん、目を瞑り母を思うと……いつも。

もう何年も本セミナーに行けなくなってしまうしました、ようやくその意味も納得した所です。

未だ、心は軽やかじゃないし、勉強が進んでいるとは言えない自分がいます。

年齢も重ね、少し焦りも正直あります。

前に、田池先生にファックスを送った時に書いた

一文があります。

「蛞蝓なめくじみたいでもいい。這はいずつてでもいい。進んでいきたい」と。

あの時の思いを思い出しました。

有難うございます。有難うございます。

今も苦しいです。とつても逃げ出したいほどに苦しくて……でも、共に帰る。あの温もりへ必ず帰る……そう思えるから。嬉しい。

色んな思いに揺らぐけれど、勉強をしている時だけは心が軽やかになっていくから。

私は、私と一緒に帰る。大好きなお母さんの中へ。もう死ぬまでこれだけ。

有難う。有難う。お母さん、お母さん大好き。

帰っていきます。有難うございます。

他力一筋の私には非常に難しい学びです。でも諦あきらめません……。

私の中が上がってきた思いをそのまま書きました。変な文章だったらごめんさい。有難うございました。

8

***さん、アマテラスと一体化となっているあなたを感じてみてください。

田池留吉、私は、アマテラスの世界に生きてきました。アマテラスを神として崇め奉たてまつってまいりました。この心、今世修正するために、私は、今の肉体をいただいています。心の中にアマテラスを高く、掲かかげてきた私でございました。この学びに繋つながり、そのことを、しっかりと自分の中で確認していく計画でございました。

しかし、私の計画は、途中で曲がってしまいました。己を表してきたのです。心に感じることを、前面に出してきました。私もチャネラーです。チャネラーとしての私を表してきた時でございました。

今は、そのところを、自分なりに見て反省に繋がれていると思っています。

ああしかし、アマテラスと一体化している自分の

心に、本当の自分の思いを届かすには、まだまだ至っていないことが現実にあります。

これが私の現実でございます。今、語らせていただきましたこと、ありがとうございます。

嬉しいです。お母さん、私は、間違つてまいりました。間違つてきました。あなたに肉体をいただき、私は、間違つてきた自分を知りたかったので。

今、この時期に、私は、このように語らせていただけることが、何よりの喜びだと感じています。これから、ただただ、私は、自分を見つめ、人と競争することなく、そして、落ち込むことなく、また、己を持ち上げることなく、淡々とやっていこう、今、そのように思っています。

異語。

***さん、よかったですね。あなたの心を、今語られたように、あなたの学びを進めていってください。いずれ、私達と出会う時がやってくるでしょう。

う。それまで、淡々と自分の道を歩んでいってください。

その過程において、アマテラスもありました。その他諸々の他力の神も、あなたの心に語ってくるでしょう。

しっかりと心を見つめて、二五〇年後の出会いを、大きな喜びとしていこうではありませんか。

この意識を受け取った時、これからの自分の生きていく心の指針と思いました。

ずうっと心に思いながら学んできたように思っています。

十年経つて、すっかり忘れていたと思いました。

あれほど大事に大事に思っていたのに、いつの間にかどこに置いたのか、見つかった時、本当に申し訳ない思いでいっぱいになりました。

今、その時の思いを振り返ってみれば、肉基盤、どんなに頑張っても学んでなかった、肉基準という

事すら分からずにとらえていたと思えました。

今、再度見ました。ズーっとズーっと、私が気付くのを待っていてくれた波動と出会えたと思えました。

田池先生のプレゼント、宝物、どっさりあります。

無駄にせず、生き直します。

ありがとうございます。

9

***さん、どうぞ、頭を動かさず、思いをあなたの中に向けてみてください。どうぞ、そのまま、あなたを語ってみてください。

苦しい思い、寂しい思い、色々な思いを心感じます。瞑想をしていくと、私の中に様々な思いが上ってきます。おそらく、私の過去世達でしょう。たくさんの思いを抱えて、私は、今ここにいます。

を感じています。

ああでも、それよりも、心の中の苦しさも、心の中の哀しさも、寂しさも、色々感じるけれど、私は、やはりこうやって自分を感じることができる今を、嬉しく思っています。

心に伝わってくる思いを、私は、素直に自分に伝えられないところがあります。私は、本当は、もっと素直なんです。もっと、素直だった。

たくさんの間違いを繰り返してきたけれど、私の思いは、素直な私を、もっと自分の中で広げて確認していくことでした。本当は、もっと、自分を語りたい。凄まじいエネルギーを抱えてきた自分を語ることを恐れてきました。

素直にもっと語りなさい、心の中から伝わってきます。

心をもっと広げていってください、そのようにも伝わってきます。

この私の中の思いに、もっと素直になってみようと、今、思っています。

心が上がってくる思い、すごいエネルギーがあります。

私も、凄まじいエネルギーの中を繋いできた自分を、感じていきます。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉。たくさんの私をもっと、もっと、知っていきたいです。田池留吉、心が苦しいことを、もっと、もっと自分の心で感じていきたいです。苦しい私がたくさんいます。

心の中に私は、本当の優しさを伝えていきたい。苦しい私に優しい思いを伝えていきたいです。

ああこれが、私が今ここにある本当の意味でした。自分を優しく包んでいくこと、そのことをするため

に生まれてきました。

お母さん、ありがとうございます。愚か者同士、すごいエネルギーでぶつかり合ってきました。でも、私の中にそのエネルギーを見させてくれるから嬉しいって伝わってきます。お母さん、もう少し、学ばせてください。

十年前に自分の意識を出して頂いたこと、すっかり失念していました。UTAブックさんからメールを頂いて、こんな貴重なものを頂いていたとは驚きました。読み返して、その時を思い出しました。

仕事ばかりの日々で学びから遠ざかっていた当時でした。自分の意識を読んで、激しい気性の肉の自分と照らし合わせて、こんなに素直で穏やかに語ることができる自分があることに衝撃を受けた記憶があります。最後に「お母さんともう少し一緒に学びたい」という一文で嬉しくて涙しました。前向きに学びを続けていこうと思いました。けれど、繰り返し読むこともなく今まで忘れ去っていました。軽く、

軽く流していた愚かな私でした。

今回、久しぶりに読み返してみても嬉しかったです。心の奥に沁しみみました。素直な本当の私が、肉の私に伝えてくれたメッセージでした。

毎日、このメッセージを読んでいます。文中にある「素直」という言葉が気になりました。私は素直でなかったなあ。肉の自分を信じて、肉の自分を全面に出して生活し、学びも頭で理解しようとしています。スーッと素直に田池留吉に向ける瞑想してみたら、とても気持ち良かった。幸せでした、何もい
らなかったです。ただ委ゆたねて、素直に田池留吉に向けるだけで良かったんですね。田池留吉からのプレゼント、大事にしていきます。

こんな機会を与えてくださったUTAブックさんに本当に感謝しています。ありがとうございました。



学びの友と志摩ロイヤルホテルにて

二〇一〇年三月十二日（金）

***さん、心を語ってみてください。

はい、田池留吉、あなたに心を向けるとき、私の中は、申し訳ない思いでいっぱいです。私は、何をやってきたのだろうか。自分の心を見てきたつもりです。私もチャネラーです。自分の思いを心を感じてきたつもりです。しかし、私の心を、今覗いてみると、私の中には、優しさがありません。温もりもまだまだ小さいです。そんな私を私は、誇ってきたんですね。

田池留吉に心を向けたとき、ああ、お母さん申し訳ない、私は、私を知らないできました。そんな思いを感じます。今、心を語りなさいと言われました。心を語れば、私は、私に申し訳ないという思いでいっぱいですということ語りたいたいです。田池留吉、私

の学びは、本当に中途半端でした。生半可なまはんかな思いでやってきました。だから、私は、色々な気付きを自分に与えてきました。それでも、私はまだまだ己の偉い思いの中に、自分を沈めてきました。こんな私は、私に申し訳ないです。

本当に申し訳ない。田池留吉、あなたに思いを向けるとき、ただただ申し訳ないです。そして、ああこれからしっかりとやっていきたいと思えます。田池留吉の世界を心で感じるのが喜び、私もその一端いったんを自分の中に広げていきたい、今、そのように感じています。

田池留吉、お母さん、心を見つめてまいります。己の偉い私を見つめてまいります。他力の中に沈んできた私を、今世、しっかりと、もう一度見つめ直していきます。心が敏感な私です。ああでも、その敏感な私を活かし切れなかった。今、私は、私に申し訳ないと感じています。

***さん、田池留吉です。はい、あなたはあ

あなたに申し訳ないと語られました。それは、ある意味では、大きな一歩だと思えます。

以前のあなたは、そうではありませんでした。しっかりと自分の心を見つめてくださいと、私があなたに申し上げたとき、あなたは、私に即座に反抗してきました。そのエネルギーを、私は、感じてきました。今、あなたに思いを向けたとき、あなたは、自分に申し訳ないと、少し語りました。その優しさを私は、感じさせていただきました。

そうですね。自分に申し訳ないという思いを、もっと、もっと、自分の中で感じていってください。

お母さんに申し訳ない。なぜ、私は、今ここにいるのか。お母さんに思いを向けたとき、私はお母さんの思いに沿って生活をしてこなかった。だから、私は、私に申し訳なかった。その思いを、どんどんどんどん自分の中で感じていってください。

田池留吉に思いを向けるとき、あなたの中は優しい思いになっていくと思えます。そんな時間を、あなたも大切にしていってください。

これから、どんどんあなたの中の心を語っていってください。優しい中で語っていくんですよ。しっかりと自分の心を見つめてください。優しいあなたが待っていることを信じて、あなたの中を見つめていくだけです。どうぞ、周りみんな待っています。あなたが変わっていくことを待っていると思います。あなたが変わっていくことにより、周りが変わっていきます。そんなあなたのエネルギーを、みんな、みんな感じていると思います。

真っ黒なエネルギーを撒き散らしてきたあなたです。どうぞ、そのエネルギーを、自分の中で回収することを、始めていってください。

今世の時間、どうぞ、その喜びの作業を始めていってください。

あなたの中は待っています。二五〇年後のあなたが待っています。

私達は、もちろん待っています。田池留吉、アルバートの世界を、あなたの中で広げてくれることを、私達は待っています。いつまでも待っています。*

***さん、あなたの中で待っています。

どうぞ、心を田池留吉、アルバートに向けることをやってください。田池留吉の世界を、あなたの中で広げていってください。どうぞ、それをやってみてください。

私は「あなたは意識です」を受けて頂き、又田池先生からも「○○さんへの意識」というCDも送って頂きました。

田池先生の声、異語、今もしっかりと私の心の中に宝物としてあります。

意識を出して頂いてからの十年後の今、何年か振りでCDのメッセージのプリントを手にしたとたん、温かい温かい温もり、とろけるような優しい優しい波動に包まれていきました。とっても幸せでした。

十年前には全くこの波動が分かりませんでした。

この温もりの中で瞑想しました。

私の中の岩盤に向きました。みつともない自分は

嫌、みずばらしい自分は嫌、きつちりとした素晴らしい肉でありたい。両手両足を思いっきり突っ張って、ガチガチに固まっています。何億年もかけて作ってきた私は肉という思いです。

田池留吉に反発反抗も去ることながら、この私はすばらしい肉だを、これから二五〇年かけて愛に帰していかない限り、私の二五〇年後も次元移行もないうという現実をきつちりと自分に伝えてきました。とても厳しいものでした。

私の心からの返答は、「必ず必ず愛に帰ります」と出てきました。嬉しかったです。

私の四十数年の学びは間違いなく本物でした。

十年前のこのメッセージの中に、何故生まれてきたのか、何をする為に肉を頂いたのか、本当の自分とは、のすべての解答がありました。

厳しくも嬉しい、優しい、あたたかい波動を体感できましたことが、たまらなく嬉しかったです。

と同時に、二五〇年後に向けて、これからが本番

や、心が引き締まります。(もう何時死んでも良い年なのですが)意識を出し、受けてくださり、書き起こし、CDを作り、送り、してください。田池先生、塩川さんにはもうただただ感謝しかありません。

ありがとうございました。

又、改めて十年前の自分、十年後の自分を見させて頂いたUTAブックの皆様、本当にありがとうございました。

11

****さん、あなたが瞑想をする動機を語ってみてください。

はい、立派な自分、己の立派さを自分の中で確認しなかった。以前はそうでした。その思いがとても強かったです。今は、その思いを、自分なりに見つめてきて、その思いは、少し薄れてきているような

気がします。

しかし、依然として、やはり、私は、己の立派さを認めてもらいたかった。認めてほしい思いがとても強いです。

こんなに私はやっています、こんなに私はやってきました、その思いを認めてほしかったのです。

****さん、お母さんのほうに思いを向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さん、ただただ私を受け入れてくれた。ただただ私を受け入れてくれた、その思いの深さに、私は、己の愚かさを感じ、何とも言えない思いでいっぱいです。

お母さん、お母さんを思う時、何もない私を感じます。何もなかったんですね。いつも、いつも、この私に戻り、そして、毎日の時間を送っていきます。

私なりにやってきたつもりでした。しかし、お母さんの思いの深さを、今、心に感じ、私は、自分の中のエネルギーと真向かいになってはいないことを感じます。

どれだけの思いで、お母さんに願い出てきたのか、今、お母さんの思いを感じ、それが、心に伝わってきます。

異語。

田池留吉の言う方向に心向けることをしてこなかった。今、はっきりと感じます。学びをやってきたつもりになっていました。つもりはつもりでした。私もそうでした。他力の中にいながら、田池留吉の方向に心向けようとしても、できない相談でした。今、自分の中に響いてくる思いは、そのような思いです。

間違ってきたことを感じています。確認できてよかったです。ありがとうございました。

どの冊子のどこに載^のっていたのか、忘れていました。だが文言は忘れようにも忘れていませんでした。あの三年前、大病を乗り切^{うちよつてん}って、有頂天になって落^つちて苦しんでいた最中でしたので、忘れようがありませんでした。

あれから、どうしたら「つもり」「つもり」にならないで済むか、どこまでやればいいのか、瞑想のたびに思っていました。結局のところ、死ぬまでお母さんの瞑想を続けてゆくだけのようです。今世あといくらも時間は残っていませんが、幸い恵まれた環境と時間と空間の中で学べています。ありがとうございました。死ぬまで続けてまいります。

12

***さん、田池留吉のほうに心に向けてみてください。

はい、田池留吉を、今、心に呼びます。はい、心の中の真っ黒な、真っ黒な私を感じます。

田池留吉の目に歯向かっている私のエネルギーを感じます。心の中の凄まじいエネルギーを感じます。

お母さん、くそったれ。お母さん、くそったれ。田池留吉、お前など、死んでしまえ。お母さん、くそったれ、くそったれ、くそったれ。そんな思いを感じます。

ああ、これが、私がずっと、ずっと転生をしてきた中で培ってきたエネルギーだったんですね。すべてを蹴散らしてきました。己の保身のために、すべてを蹴散らしてきた私を、今、感じます。

異語。

***さん、心の中の田池留吉に向けて、あなたの凄まじいエネルギーを感じましたか。少し、感じましたか。その少しでもいいんです。あなたの心

で感じるということを、大切にしていってください。

この学びは、頭で理解するものではありません。心で感じていく学びです。

どうぞ、日々の瞑想を通して、田池留吉に対する思いを、見ていってください。自分の心を押さえつけても、真っ黒は、真っ黒です。

どれだけ、立派な言葉を並べても、あなたの中は、温もりに帰りたい、本当の自分を取り戻していきたい、そんな思いから、今までの間違ってきた自分をさらけ出したい、何もかも洗いざらいさらけ出したい、そのような思いでいます。

どうぞ、その思いを、しっかりとあなたの頭ではなくて、心で感じていってください。

そんなに簡単に温もりに帰ることはできないし、もちろん、自己供養も難しいです。まずは、自分が間違っただけの凄まじいエネルギーを蓄え流し続けてきたか、この宇宙を汚し続けてきたか、そんな自分であることを、お母さんに向けて、そして、田池留吉に向けての瞑想の中で、

感じていってください。

異語で、どんどん、あなたの思いを語ってみてください。言葉をつかまずに、あなたの心に感じる瞑想、それをしていってください。

十年前、私は自分の意識を出して頂きました。

その時私はこんなふうに思っているんだ！

そう言えばお母さんを蹴散らしてきたようにも思うけど、心では何とも分からなかった、というのが本当のところですよ。宇宙を汚し続けてきたという事も全く分からなかったです。

今改めて読み返してみれば、タイケトメキチに歯向かってきた私だったと思います。

「お母さん、あっちへ行け。あっちへ行け」と心で蹴っ飛ばし、そして「お母さん、こっちへ来て。私を見て」と泣き叫んでいました。素直になれず寂しくて虚勢きよせいを張り、それでも私は寂し



くなんかないと、どこまでも素直になれない自分がありました。

十年経った今、出てくる肉の思いは多少薄れたかのようにも思いますが、本当は心の奥底にしつかりと以前と何ら変わりなくこびり付いていると感じます。その心の奥底の肉の思いを根こそぎお母さんの温もりに帰していかない限り、私の意識の世界は何ら変わっていかないと思います。

自分勝手な肉基準の思いで心を見ていた私は、心の奥底にこびりついた肉の思いを離せないでいます。それでも自分を信じて、信じて、自分の中に愛がある事を信じて、本気で肉を離し、肉を離すからこそ愛に帰れると、愛へ愛へ帰っていきます。

ありがとう、ありがとう、全てにありがとうです。

本当に全てにありがとうございます。

***さん、あなたの今を語ってみてください。

心の中に何か不満があるとか、そういうのではありません。でも、私の心の中はすっきりと晴れていないことを感じています。

それは、私自身が計画してきた通りに、まだまだその通りの道筋を歩いていないからです。

肉は一生懸命に行こうとしています。しかし、なにごぶん肉の思いが強い私には、この肉の自分を、まだまだしっかりと抱えながら、何かもうひとつ自分の中で、すっきりとしない私を感じています。

それはその通りです。なぜならば、私は、そういうことを望んでいなかったからです。

私もまた、母から肉体をいただいた時、自分の間違いを修正するために、そのために私を生んでくださいと、そのように母に言ってきたはずですよ。

その思いを私は、しっかりと自分の中心に据えて

いない、それが私の今です。何をどう語ろうとも、私の現実はそうなんです。

色々な現象を通して、自分の道が真っ直ぐに進んでいないことを、私に知らせてくれています。

ただ一点だけを見つめていきなさい、そう自分の中が言ってくれているような気がします。

しかし、心のモヤモヤをすっきりとさせたい思いが現実化してくるには、まだ少し時間がかかりそうです。

田池先生との出会いから、長い年月を経てきました。長いと言っても、私の転生からすれば、ほんの僅かな時間です。その僅かな時間で、しっかりと自分を見つめていくには、あまりにも、私は、多くのものを心につかみ過ぎました。

こうやって、誰憚ることなく、自分を語ることができるのが嬉しい、今、そう思います。

どんなに取り繕い、どんなに飾ってみても、自分が自分を一番よく知っています。

だから、焦らずに、淡々と、自分に誠実にと

ことなんですね。

今世、自分に残された時間、精一杯やってまいります。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、お母さん、申し訳ございません。己が偉いということ、心で感じるには、あまりにも偉すぎました。

私には、何もありません。もうすでに、喜びへの道を示されています。あとは、自分が、その道にどれだけ近づき、そして、真っ直ぐに進んでいけるか、それだけです。

肉の持ち出せば、色々な思いが出てきます。しかし、そんなことは、本当は、どうでもよかったです。

んですね。今、田池留吉を思い、お母さんを思ってみると、そのような気がしてなりません。

メール、ありがとうございます。

“あなたの意識です”開けた途端、お母さんありがとうございました。何が起ったのか一瞬びっくりしました。何度も何度も繰り返し読みました。

形は立派、中は空っぽ、愕然としました。それから毎日毎日、ふと思うと、どんどんどんどん伝えてくれます。肉にとらわれていた自分、肉でたわむれて、肉に流され、全く反対方向を歩いていたことに気づかされました。何にも変わっていない。思う思いの向け先が大きくなりました。思い知らされました。正しく思う、ここが間違っていました。根本がわかっていないのにいくらやっても駄目だということでした。この学びを盾にとり、遊び廻っていた愚かな私でした。

“あなたの意識です”私の大きな転換期になりました

た。ありがとうございました。

14

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

たくさんの反省を続けてきました。母の反省と他力の反省、私は、この学びに繋がり、長い年月の間、自分なりに反省を続けてきました。

しかし、私の反省は、そう、やはり、肉を基盤とする反省だった。

そのことが少しずつ、今、心に響いてきています。少しずつ認められるようになりました。

なぜ、私がチャネラーになったのか。ああそのところを、私は、よく見ていませんでした。

肉を基盤とするチャネラーだと、自分の中で認めることができませんでした。

反省文には書きます。間違ってきました、肉を基

盤としてきましたと。

でも、心の底の底を言えば、自分の感じてきた世界が、みんな肉を基盤としていた世界だったなんて、という思いが、とても強かったです。

しかし、そのことを認めざるを得ないような、今があります。

本当の自分の世界に帰りたい、温もりの世界の中へ自分を帰りたい、そのような思いが、心の底から沸き起こってくれば、私のこんな思いなど、本当に取るに足らないものだったんです。

肉の***を掲げてきた思いは、とてもちっぽけな思いだった。

そのことを、自分の中で認め、心の中で本当にそうだと思わない限り、私は、どれだけ何を感じ、どれだけ反省をしようとも、あまり変わらないことを、今、感じています。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、くそつたれ、田池留吉の思いを抱えて
生まれてきた私が、自分の思い通りに、その思いを
見させてくれてきた、このことが何よりの喜びだと、
今、感じます。

くそつたれ、田池留吉。私のくそつたれは、肉を
基盤としたくそつたれでございました。

くそつたれ、田池留吉。心の底の底から起こるそ
の思いは、大きな喜び。

そのことが、今、ほんの少し自分の中に響いてき
ます。

UTAブックさんからいただいたメールに、「十
年は一昔」という諺ことわざがありますが、あなたの中では、
この時出された「意識」という問いかけは、時効に
なっていないでしょうか」とありました、すぐに十
年前にいただいた自分の意識を読み返しました。私
はCDはいただきませんが、文章として掲載
されました。

涙で読みました。一字一句間違はなく私の意識で

す。今はそのように受け取ることができません。

いただいた当時はどの様に思っていたのかと、自
分の心を振り返りました。

「今頃になってこんなもん出しやがって！」と、田
池留吉氏に怒り爆発の思いしか持てなかったことを
思い出しました。それにも拘かかわらず、それからの十
年間、反省に繋げることができなかったこと、抵抗
勢力しか持つてなかったことを恥はづかしながら暴露ばくろ
しなければいけません。

私は、第一回湯の山セミナーの参加もしている、
所謂いわゆる、古くて学びの長い人間です。そして早くに心
を開き（古い言い方もしれませんが）ました。敏
感だから何でも感じて解わかる、それがこの勉強の私の
目的でした。

目的が叶かなった瞬間からの私は、他のチャネラーと
の戦い争いで、折角せつかくの良い武器を手に入れたのに、
心を見ることに繋げず、我的世界、我は神なりの世
界を広げてきました。

ある時期（第一の危機、第二の危機）には、田池

留吉の意識の流れを完全に無視し、真新しいチャネラーを心に入れる始末でした。

その後の苦しみは耐え難いものでした、苦しい日々が続きました。

田池留吉を心から離していたと知ったのは、昨年（二〇一九年）の後半のセミナー、ワン、ツ、スリーの瞑想の中でした「くそ田池！」の現象の中でした。

田池留吉が心に無い世界は、謂わば、夢遊病者のように（この表現は不適格かな）、ただ宙を彷徨っている感覚でした、継るものも、手にできるものもなく、方向も分からず、目的もなく、自分自身の存在も感じられず、灰色の空間の中に、ただただ「私は田池留吉を捨てた！」の思いだけでした。心も体もフラフラの状態でした。

はつきり、田池留吉の世界を持たない自分を知りました。今までの田池留吉に向けての私の「正しい瞑想」は何だったのかと、根底から間違っていた自分を知りました。

辛うじて席に着いた時、ただただこのセミナーに

参加できていたこと、セミナー会場に出席し、皆とともに集えている現状に感謝の思いしかありませんでした。良くまあ、今日までこんな私を受け入れてくださったと涙涙でした。

十年前の意識と何ら変わりはないかもしれませんが、今はこの文を読んで、抵抗がないこと、涙が溢れてくること、感謝の思いに繋がられること、などの違いを感じています。

塩川さんのメッセージの一文に「愛があるから、愛ゆえに、そうではありませんか」の言葉に感動です。

だからこそ修正しなければいけない、田池留吉、アルバートの世界を軽んじてはいないか、を心深くに留め置いて歩みます。

こんな企画をありがとうございます、心から感謝します、反省に繋げていきます。

***さん、心を語ってみてください。

自分の蒔まいてきた種とはいえ、他力の中に沈んできた私です。その私を思う時、愚かな私ですが、今、ようやく、その愚かな私を少しずつでも認めて受け入れていくことができる今を感じています。

本当に自分で蒔まいてきた種です。自業自得じごうじとくの道でした。他力の神々を求めてきた私は、自業自得じごうじとくの中で苦しみ続けてきました。

それを、今の肉体を通して、自分に少しずつ伝えていける時間を嬉しく思っています。

まだまだ、自分の中の他力のエネルギーを、しっかりと真正面からとらえています。真っ黒な塊かたまりを感じるけれども、その真っ黒な塊かたまりをまだ、充分にとらえ切れていないことを、感じています。それでも、ようやく、私は、本当に愚かな自分であったことを、感じさせていただいています。

田池留吉に向かうエネルギーの中で、そのことを今世、ようやく感じる自分でした。

異語。

***さん、どうぞ、自分を見限らずに見捨てずに、トコトン自分と付き合っていてください。愚かな自分、本当に愚かな自分に、そう、トコトン付き合っていてください。

自分に真摯しんしに生きる、誠実に生きる、自分の本当の思いにほんの僅わずかでも応こたえていける自分を感じていく、それがあなたの喜び、幸せの道です。

そうです、誰もあなたを救うことはできません。あなたは、あなたでしか救えない、それだけを、しっかりと心に留め置いて、これからの肉の時間、そして、これからの転生、自分の中でしっかりと自分を見ていってください。

他力の神々に心売ってきたからこそ、あなたは、今世、この学びに繋がったのです。言ってみれば、

ば、愚かな道を選び苦しみ続けてきたけれど、本当に間違ってきたと、心から自分に懺悔の思いが湧いて出てくれば、愚かな過去は、みんな喜びに変わっていきます。その道は厳しくて険しいけれど、本当のあなたは、そうしていきたくて思っているのではないのでしょうか。本当の自分の思いに応えていく、それにはどうすればいいのか、取捨選択は自分にかかっています。その現実をしっかり自分の中でとらえ、今という時を喜んでいってください。

自尊心と自惚れが強い私は、メッセージを素直に受け入れられずに、くそ田池お前になんかこの私の苦しみなどわかってたまるかと、食って掛かっています。今再びこのメッセージを目にして、ほんの少し心に響いてくるのがうれしいです。



自分を裏切り、見限り、見捨ててきた自分を感じるとき、苦しくて苦しくて当たり前でした。

肉肉、欲欲で学んできたこと、そんな自分を認め素直に受け入れられることなく自分と向き合ってた想っています。長いことかかったけれど、今、私はうれしいです。ありがとうございます。

田池先生に初めてお出会いたときに言われた言葉、大切にして学んでいきます。

16

***さん、母親の反省が、着々と進んでいているとのことですが、それでは、あなたの思いを聞かせてください。

己偉く生きてきました。私は、私を知りません。母に思いを向けると、はい、そんな私を感じます。くそつたれの思いが出てきます。こんな私です。母に思いを向けるとき、優しい母を感じるのに、私の中は、くそつたれ、くそつたれ、あんな母親大嫌い、憎い、憎い、殺してやりたい、真つ黒な自分の思いを感じます。

こんな私です。しかし、私は、もっと母に思いを向けることをやっていきたい、今、そのようにも思えるんです。

なぜならば、私の中は、とても苦しくて暗くて、どうしようもないからです。母を呼ぶとき、くそつたれが出てくるけれど、私は、そのくそつたれを出すときが、一番自分に素直なときだと思えるんです。

これが嬉しいっていうことかなあ、私は、まだよく分かりません。

分からないながら、色々なエネルギーを心感じます。

心が敏感なのかもしれません。このままいけば、

私も狂っていくのでしょうか。何だかそんな気がしてなりません。

お母さんの温もりを心に広げていけば、狂うことはない、どこかでそれを見たようにも思います。

はい、これから、しっかりと自分を見つめていかなければならない、そんな思いが上がってきます。

***さん、あなたに思いを向けるとき、パワーと出てきます。学びに集う動機が、少々違っている、そのように感じます。

そうですね、あなたが語ったように、あなたは、敏感なのでしょう。だから、日々の生活の中で、色々なエネルギーを感じ、あなたの心は、即座に反応していくと思います。

これから母の反省をして、母を思い、瞑想を続けていくと、さらに心は敏感になってくると思います。どうぞ、しっかりと自分の心を見つめていってください。

敏感がいいのではありません。敏感な心を持って

生まれてきたあなたに必要なのは、母の温もりです。その母の温もりが、あなたの中でしっかりと感じられなければ、敏感になってくればくるほど、あなたは、苦しみ続けます。

本当は、真っ黒な自分を感じて嬉しいはずだけれども、そのエネルギーの凄まじさに、あなたは、自分を自分で飲み込んでいくのです。このことが分りますか。

心が敏感なあなたには、母親の反省がとても大切です。

今よりも、もっと真剣に母を思い、反省をしていってください。

母に使ってきた心を、さらけ出していってください。

真っ黒です。凄まじいです。それでも、あなたはあなたをしっかりと見つめて、そして、お母さんに生んでいただいたときの、あのゼロ歳の瞑想を、しっかりとしていってください。



ドッグシェルターにいた
コナンくん（シェパード犬）

さい。

母親の温もり、これからのあなたのキーワードはこれです。母の温もりです。

何かを感じたい、そうパワーを感じたい、そうではありません。

母親の温もりを心にしっかりと持つように、あなたの学びを進めていってください。

「十年経過した今」

十年経った今、ようやくスタートラインに立ったのだなという感じがしています。十年前、この学びを進めていく最高の環境ができていました。距離的にも経済的にも学びを中心とした生活にしていけるような、またセミナーにも参加しやすい環境にありました。ですが、この学びを疑う思いと見下す思いが混在してこの学びから距離を置くようになりました。ですが、

心のどこかではやはりこの学びのことが気になって
いる自分があるのも確かでした。疑心、軽蔑けいべつがあり
ながらも「意識の流れ」関連の本を読んでも特に違
和感を感じない、と何か複雑な気分でした。そして
「あなたの意識です」でメッセージを頂いてからの十
年、再度この学びを進める環境がコロナによって訪
れ、今回は嬉しい限りです。今回を逃せばもうチャ
ンスは巡ってこないような気がするので、今回ばか
りは素直に学びを進めてみようかなと思っています。
十年前から自身のテーマは変わっておりません。「パ
ワーを求める心を見ていく」と「母親の温もり」が
ここからしばらくのテーマです。学びをする動機が
違っているのご指摘を頂いた通り、動機について
は間違っていた、また現在も少し間違っていると自
分でも感じております。初めてセミナーに参加した
時、田池先生に対して怒りが込み上げてきてどうし
ようもなかったことを思い出すと何か恐ろしいです。
学びをまた始められるというせつかく巡ってきた又
とないチャンスです。今度こそはどういう思いです。

17

***さん、心を語ってみてください。

心を閉ざして生きてきた私に、母の思いが微かすかに
届きます。はい、間違っていました。他力の道を歩
んできました。お母さんを私は遠ざけてきました。
私は温もりを遠ざけてきました。私自身を遠ざけて
きた。心に感じることは、そういうことです。微かす
かに感じます。

心の中が寂しくてたまりません。お母さんを遠ざ
けてきた私の中は、真っ暗でした。

頭でとらえてきた学びでした。私は、頭を過信し
てきました。己の頭を過信してきました。反省も、
頭を使ってやってきたように思います。心で感じる
ことの尊とつとさが、私には、なかなか分かりませんでした。
頭が動きました。肉は真面目まじめにやってきました。
しかし、肉の真面目さは、頭を過信することでした。
私の場合、そうでございます。

異語。

***さん、どうぞ、自分の心を見る時間、つまり、瞑想をする時間を充分に取って、あなたの中をもっと覗いてみてください。

ご主人に対して、子供さんに対して、あなたの心をどのように使ってきましたか。形は控えめでも、エネルギーの鋭さ、つまり冷たさを、あなたは感じておられますか。ご主人に対して、子供さんに対して、もちろん、ご自分に対して、どれだけ冷たい心で接してきたか、今のあなたならば、それが感じられると思います。

心の中を覗いてみて、少しずつ自分の間違いを感じている今のあなたなら、自分の出してきた思いのすばさを、これから、瞑想をすることによって、心で感じられると思います。どうぞ、楽しみに、それを感じてみてください。

エネルギーを感じることに、自分の間違ったエネルギーを感じることは、すべて喜びです。あなたが喜

びだから、どんなに冷たくて、どんなに凄まじくても、それを感じられることが、もう喜びです。

そういうところが、ご自分の心に、もっとはっきりと響いてくれば、たとえば、遠いところからセミナーに集ってきたあなた自身、どれだけ思いで、そういうことを続けてこられたか、それが心に響いてきたりして、その他、色々なところから喜びが、じわじわと感じてくると思います。どうぞ、楽しんで反省をして、瞑想をして、ご家族とともに、学びを深めてみてください。

「あなたの意識ではありませんか」だと思えます。送られてきた文章、一回読んだ時、心が冷たいという箇所が心に響いてきました。その通りです。

過去の母の反省文を読み返して、瞑想すると、母に対して、家族に対して冷たい心、出してきたことが分かります。無知で自分中心の心を出してきました。

自分中心の心とは、欲とエゴでした。

母を遠ざけてきたとありましたが、もつとひどい心、出してきたなと思っっています。今世も母を捨て温もりを捨ててきたと思っっています。そのことを思うと涙が出ます。泣けてきます。母は私を頼りにしていました。そんな母の思いを省みず、自分さえ良ければいい心で母を捨て温もりを捨ててきました。

子供には良かれと思っけて口やかましく、干渉干渉してきました。長男は登校拒否寸前で、子供の心狂わせてきたと思っっています。

夫には自分の思い通りに支配してきました。夫は母親を大事にする人で私は家督を継ぎたくないと言い張り、夫を悲しませてきました。

父には自分の思いを押し付けてきました。父の心にフタをし、自分は正しいと思っけて押し付けていました。

父はどんなに無念だったのか。そう思うと土下座



して謝りたいと何度思ったことか。私の心は本当に冷たい。納得、納得です。
田池留吉に心合わせ、反省瞑想し反転して、少しでも冷たい心、解していきます。

18

二〇一〇年四月五日（月）

***さん

***さん、心を語ってみてください。

田池留吉、お母さん、私は自分の思いを、心を見ってきました。見てきたつもりです。はい、田池留吉に思いを向けることを私なりにやってきました。今、

私は自分の周りを見渡したとき、はい、本当に幸せの中にあつたことを感じています。私の心の中は、とても凄^{すび}いエネルギーがいっぱいでした。どうして私はこんなに苦しいのだろうか。なぜ、私はこんなに不幸せなんだろうか。なぜ私は……と、私は私をずっと、ずっと暗い暗い方向に押し込んできたんです。ああでもそれは違っていました。私は、ふうつと、今、周りを見渡したとき、私はこんなに幸せの中にあつた、それに気付かなかつただけだった、そんな私を、今感じています。

お母さん、私は、母の肉を見て、どれだけ心を揺らしてきたことか。すべてが肉でした。肉、肉でした。私のこの心の中は、本当は、幸せな自分を感じていきたくつたはずです。しかし、私は転生の中において、ずっと、ずっと自分を暗い方向に、暗い方向に押し込んでいたんだなあ、今、何だかそんな気がします。ああすべてが私だったんですね。今、私は私を思うとき、そう感じます。

お母さんがとか、誰々がとか、何々がとか、違っ

ていました。全部自分でした。同じことを自分が受けても、本当に自分の心ひとつで、周りの風景が変わっていくんだ、そういうふうには、私は思えるようになりました。

これだけでも、大きな一歩だと私は思っています。もちろん、田池留吉が伝えてくれることは、もっと、もっとすごいことだと思えますが、今の私には、これが精一杯です。

これでも、私は本当に、今という時が嬉しいなあ、幸せだなあと思えます。田池留吉、私には、まだまだあなたが言う宇宙、その世界、そういうことは、まだまだよく分かりません。それが本当のところですよ。

肉の中から、自分を羽ばたかせていないと言えはそれまでです。しかし、私は、まず自分の肉の心、それさえも幸せでなかった私が、今、ふっと思えば、周りにはみんな幸せを私に伝えてくれていた、そういうふうには思える私があることが嬉しいんです。こんな単純なちっぽけなことかもしれませんが、それで

も私の心の歴史からすれば、大きな一歩だと思っています。

これからも、自分の思いを見つめ、お母さんを思い、瞑想を続けていきます。心の中に田池留吉、アルバート、その世界を真実の世界を、少しでも感じ広げていけるように、幸せな自分を信じて、これからも歩いていこう、そのように、今、私は思っています。

***さん、田池留吉です。あなたの心の歴史から言えば、今世、あなたが心で感じたこと、まずはよかったと思います。肉を土台にしても、心の中に幸せだ、ありがとう、その思いを広げていける人と、どんなに恵まれた状況にあっても不平、不満ばかりが募^もってくる人とは大きな違いです。

田池留吉の世界をあなたの心で少しでも感じ広げていけるよう、瞑想を続けていってください。私は、何も難しいことを言っているではありません。私達は、初めから幸せだった、喜びの中に存在してい

る、それが私達だ、そのことをみなさんにお伝えしてきました。

幸せな時間を過ごしてください。日常の中で、ああ幸せだなあとふっと思えるそんな時間を過ごしていってください。

そして、できれば、あなたがご自身で語られたように、田池留吉、アルバート、その宇宙の波動の世界、意識の世界をご自身の心で感じられるあなたであってくださいればと私は思っています。

しかし、感じたい、感じたい、それは欲です。ただただ淡々と自分の心を見つめながら、周りの人達と穏やかな時間を過ごし、その中で、自分の許せる範囲で瞑想をして、心をいつもお母さんに向けていけるようなあなたであれば、知らずのうちに、あなたの心は少しずつ広がっていくでしょう。

田池留吉、アルバートと思えば、あなたの中の宇宙、その波動の世界が少しずつ変わっていくでしょう。それを私は、あなたに伝えます。

私からあなたに送るメッセージ。

田池留吉、アルバート、その宇宙は、あなたの中でいつまでも待っています。

田池先生よりCDを送られてくる二日前頃に、母が幼いころに亡くなり、そして、育ての母も病で亡くなつて、複雑な家庭に育つたこと、そして、そんな中で今の私は一番恵まれた幸せな自分だったと知り合いの方に話をしていました。

先生のCDが届いて読んでびっくりしました。涙があふれてきました。自分が知り合いに話したことが出ていました。先生がそばにいられていたのかと思いました。

義理の中であり、嫁姑よめしゅうとめの争いもありました。町から田舎へ嫁いできて周りは親類ばかり、とてもしんどかったです。テレビのドラマを見ていて、田舎のお嫁さんの大変さを自分と置き換えてみていました。

最近のホームページを読んでいると、なぜかこみあげてきて、自分が間違つて生きてきたことがつづく思い知らされ、自分が良かれとしてきたことが周りのためではなく、すべてが自分の都合の良いようにやってきただけだった。相手が悪いのではなく、すべては自分でした。今世、産みの母、育ての母、お姑さんに出会つて、いろんな思いを出させてもらいました。そして出会えたことを喜んでいきます。

19

***さん、あなたの今を語ってみてください。

他力の中を歩いてきた私にとって、この学びは、大変難しいと感じています。自分のどこがどのように間違つてきたのか、私も、母の反省と他力の反省を繰り返しながら、学んできたつもりです。あまりにも多くのものを、心に入れ過ぎてきた自分の欲を

振り返っています。

心の中の寂しさ、苦しさを思う時、私は、本当に自分に優しくなかったです。そう、今、このように、自分を語ることができて、嬉しいです。寂しかった、苦しかった、そうやって自分の心を素直に言える私がいる、それがとても嬉しいです。

頑張ってきました。自分こそ素晴らしい、我は正しいという思いで、私は、頑張ってきました。そんな自分が何とも哀しい、今はそう思えます。頑張ることなど要らなかつた。自分に優しく、ただただ優しく自分を見つめていくだけでよかつたんです。

私は、あまりにも、肉のことに突っ走っています。これだけ正しいのに、これだけ私は頑張ってきたのに、これだけ私はしっかりとやってきたのに、いつも、いつも、その見返りを求めてきた私が、間違っていたんです。

ああ、本当に、お粗末な自分を感^{そまつ}じています。今、そのことを少し感じ、そして、語れることが、とても嬉しいです。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、お前を殺してやると何度も、何度も歯向かってきたエネルギーを感じます。本当に申し訳ございません。心が荒れ狂っていた、そんな私を何度も、何度も、セミナー会場で確認させていただき、本当に幸せ者です。田池留吉に歯向かうエネルギー、はい、しっかりと見つめてまいります。他力の神々に向けてきたエネルギーが、肉を動かしていたことを、私は、ようやく、少しずつ感じ始めています。

心の中に田池留吉、お母さんと呼ぶ、それがどれだけ喜びであったのか、瞑想を繰り返し、私は、心に感じさせていただいています。

まだまだ、道遠しの私ですが、それでも、今世生まれてきたから、そして、この学びに繋が^{つな}がったから、私の中は、少しずつ変わりつつあります。

他力の中に埋もれていた自分を確認できた、確認していく過程にあった、それがとても嬉しいのです。

己の欲深さを見てまいります。自分は限りなく続いていくんですね。私の学びは、限りなく続いていくんですね。そう思うと、何だか、とても幸せな自分を感じます。

異語。

「あなたの意識です」の発行から十年が経ったのですね。

メッセージをいただいた当初は、鈍感な私にはピンとこないところもありましたが、私の中にはそう思っているんだと、メッセージを素直に受け取り、喜び喜びで読ませていただいたのを思い出します。

十年が経った今、その意識全文をしっかりとほつきりと心の奥底で納得できることが嬉しいのです。全くその通りですと認められることが嬉しいのです。

メッセージの最後に、「自分は限りなく続いてい

くんですね。私の学びは、限りなく続いていくんですね。そう思うと、何だかとても幸せな自分を感じます」を、十年前にも感じていたのだと思うと、意識の世界の不思議さ、素晴らしさ、ありがたさを感じ、嬉しくて嬉しくてたまりません。十年前から、学びの歩みを一歩、一歩、着実な一歩を歩み続けていたということを、はつきりと確信できることにありがたうの思いでいっぱいです。

遅々として進まないと思っていた学びでしたが、今現在は、私の中のたくさんの私とともに、次の転生、そしてまた次の転生へと繋いでいく学びの歩みを、そして、「二五〇年後、必ずアルバートのもとに集結するんだ」を合言葉に学びの歩みを進めているのが本当に嬉しいのです。

また、日々、田池留吉、アルバート、母なる宇宙を思い、みんなで喜び喜びの異語を奏でながらの瞑想を楽しんでおります。宇宙の仲間達にも呼び掛け、喜び喜びの異語で語り合う瞑想を楽しんでおります。

十年前を振り返り、今でもこうしてともに学びの歩みを進めているたくさんの方の意識達に心からありがとうの思いでいっぱいです。

こうして思いを綴らせていただき嬉しいです。ありがとうございます。

20

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

小さい頃より、学びを感じてきました。私の意識の世界は、この学びに触れてきました。そういう機会を持ってきました。今は、肉も成長していて、色々な思いを感じます。お母さんに素直でなかったなあ、今、私は、自分を振り返っています。

小さな、小さな頃、お母さんに素直だった私を思うと、今世、ほんの少し時間を重ねてきただけで、もうこんなに素直でない自分が、たくさん感じられ

ます。これからも、私は、自分の生きていく時間の中で、様々な人と出会い、色々な出来事に遭遇して、自分のすごいエネルギーを感じていくのでしょうか。

今、自分が学んできた時間の長さを振り返り、お母さん、大きくなるということは、こういうことだったんですね、そんな私を、今、感じています。

異語。

***さん、学びをしていく上で、恵まれた環境にありますね。たくさんの方のことを学んでいってください。お父さんも、お母さんも、この学びに繋がっていますから、みんながそれぞれ自分の思いを、素直に語り合えばいいんです。自分を修正するため、そのような仲間が、あなたの周りにはいます。どうぞ、そのことを、大切にしていってください。

あなたのお父さんやお母さんであって、そうではない、そういうことも、これからのあなたなら、心で感じていくことができるかと思えます。色々な可

能性を秘めて、あなたの時間が、これから展開されていきます。

心を押し込めるのではなく、心を解き放つ方向に、あなたの時間を活用していってください。

母のおなかの中にいるときからセミナーに連れられてきました。遊んでいるようで、心は田池先生から流れる波動をしっかりと受け取っていました。私は本当にこの道を真剣に歩んでいくんだと、幼いながらも心は一直線で真剣でした。けれどもその思いに素直になれず、肉の喜びや楽しみを求めてきました。そういう中で自分の出すエネルギーのすごさを感じてきました。

私は父と母を見下げてきました。誰よりもえらく聳え立った心で両親を見てきました。田池留吉の波動を小さいころから感じている、父や母よりも私の方がわかっている、私も母のようなチャネラーにな



りたいと思ってきました。いつの間にか田池よりも立派な私になり果てていました。三十年の間、私はこの思いを膨らませてきました。

今、父と母と向き合い、一緒に瞑想する時間を持つことが嬉しいのです。同じ心癖をもった仲間です。ありがとうございます。私は確かに「私を生んでください」と今世の母にお願いしました。今世にかけてきた思いの強さは、恵まれた環境が物語っています。決死の思いで生まれてきました。今世の時間を大切にしていきます。

21

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

はい、心が苦しくて、苦しくて、私は、本当にど

うすることもできませんでした。どれだけの時間を経てきたことか。そして、今世、母に生んでいただきました。今の肉体をいただきました。学びをするには、厳しい環境でした。私は、学びをすることを、長く反対されてきました。

それでも、私はこの学びを離すことができませんでした。心が狂いそうになりました。もちろん、肉体細胞にも、色々な支障を受けました。それでも、私は、やはり、自分のこの心をどうかしたい、私は、生まれ変わりたい、そんな思いで、今、います。心の中に母を呼んでいる私がいいます。お母さん、私は、本当に苦しかったです。苦しかった転生を経てきました。あなたに対して、とても凄まじいエネルギーを流してきました。それが、今世、ようやく、自分の中に響いてきます。ああ、私は、間違っていました。心の底から、あなたに懺悔したいです。そして、私自身にも、懺悔したいです。私の思いに、この肉は、少し心を向けてくれます。

ほんの少しですが、心を向けてくれています。もっと、もっと、私の思いを聞いてほしいんです。私は、本当に苦しい中を、自分を繋いできた。あなたに私を感じて行ってほしい。瞑想をして、私の思いを感じて行ってほしい。私は、あなた、あなたです。あなたに他なりません。どうぞ、私の思いを、素直な気持ちで聞いて行ってください。

私は、肉体が欲しかった。どうしても、欲しかった。そして、自分を見つめ直したかった。地獄の奥底に沈んでいた自分に、本当の安らぎ、本当の温もり、本当の喜びを伝えたかったです。

***さん、どうでしょうか。あなたも、もう、薄々、いい感じにいると思います。

あなたの中の本物の思いは、ブラックの思いは、切なる思いは、あなたに訴えています。

肉体がすべてだと生き続けてきたことが間違ってきた、それを、あなた自身、もう少し、しっかりと心に感じて行ってください。

厳しい環境かもしれませぬ。ですが、あなたの娘さんも、この学びに繋がつながっています。どうぞ、ともに歩んでいってください。

娘さんの意識は、たぶん、あなたの意識が変わるにつれて、変わっていくと思います。ともに学んでいくことを約束してきました。だから、親子の縁を、今世、結んだんです。どうぞ、互いに互いを見て、そして、心をしっかりとさらけ出していってください。ともに苦しい中を生き続けてきた意識でござい
ます。

はい、どうぞ、田池留吉のほうに、心を向けていってください。

異語。

田池留吉を心で呼んでください。

田池留吉、申し訳わけございません。はい、心を、もっ

と、もっと、しっかりと見つめてまいります。私の中に、喜びがたくさん、たくさん埋もれていることを感じています。それを遮さへきっていた私は、とても己に冷たかったです。温もりが私でございました。心を見てまいります。お母さん、ありがとうございます。今世、この肉体をいただき、ありがとうございます。ともに心を見てまいります。苦しい中を生き続けてきた私は、私とともに、心を見てまいります。

肉、環境、事情は、自分の中の切なる思いが整えていることですか。本間に本間にそうなのか。うちはこの環境の中で、事情の中で肉を持ち、学んでいくと……そう決めてきたと、そう言うのか……。

あの夫の大反対、猛反撃に出会い、それでもそれでもと、その肉、環境、事情を選んできたとそう言うのですか。

私にはそれが需要だから、需要だと……何としてもその肉、環境、その他色々の事情の中で学んでい

くんだとそう言っつて、その肉、環境、事情を整えてきたと……そんな真つ暗な、お先真つ暗な、そんな肉、環境、事情を整えて生まれてきたと、そう言うのですか。

どうせ整えるなら、何の支障も障害もないような肉、環境、事情を整えてくればよかったものを……なぜうちにはそのような肉、環境、事情が必要だったのか……あー、そうですね。自分の作ってきた真つ暗闇の自分の宇宙を知っていくためなんですね。

分かっていますよ、お母さん。そうでもしなけりゃあ、私は自分の作ってきた真つ黒な自分の意識の世界を知っていくことは叶わなかつたと……だからだから、すべてを整えて生まれてきたんだと……蝶よ花よと、何不自由のない肉、環境、事情の中でうちは、この学びに集うことなんてできなかつたと……そして、もし出会っていてもうちは、この学びをし

ていくことは、せんかつたやろうとね。そう、言うんですね。

過酷かこくな肉、環境、事情の中だからこそ、己を知っていくことができるんだと……肉を生かすために生まれてきたのでもなけりゃ、認めてもらうためでも、肉を表していくためでもない……ただただ自分の為……間違い続け、狂い続けてきた自分を本来の自分、愛に帰していくために生まれてきたんだと……そして、そのために整えてきた肉、環境、事情だったと、そう言うんですね、お母さん。

そうやなあ、お母さん。うちは一体誰の為に学んでいるの？……肉の為やないんやわ。今までずっとうちは、この肉で、肉が、肉をと必死になつて頑張つてやってきた？肉、肉、肉……肉ですつとこの学びやってきたつもりやったんや。肉でな……肉としてしか自分を見ることがだけへんかつた。自分を肉としてしか見てへんかつた。

肉で何とかとか。肉の思いを何とかしようとか。全部が全部、肉、肉、肉……肉やったんや。肉で学びをやってた。肉の為に……肉の為に……肉で必死で頑張ってやってきた。そやけどやっぱりやっぱり違ってた。うちの見ている先が違ってた。全く違ってた。

うちは今まで一体何を見てたのか。肉を、肉しか見てへんかった。そやからうちは、うちの心の中の叫び、そややなあ、自分の中の切なる思いのたけを聞いても、伝わってきても、一向にうれしくも、何ともないはずやってん。肉と意識がバラバラでな。肉と意識のギャップが、溝みぞが深くて大きくてな……うちには、いまいちピンとくるものもなかったし、喜べなかったんや。

うちの中がどれほど苦しいと叫んでも、どれだけうれしいと叫んでも……うちには、その叫びを受け止めていくことはあれへんかった。それは肉だから

や。それはうちは、あくまでも肉の目で意識の叫びを聞いてたからや。あんたはあんたで、うちはうちな……それほどの差、ギャップ、隔へだたり、溝があったんや。

だからいくら、中がうれしいですと、ありがとう、幸せです、喜びですと伝えてくれても、そんな喜び、温もりは一向にうちの中では、他人事ひとごとやったんや。

お母さん、うちは何一つとして、自分の中の切なる思いの為にこの学びをしてこんかった。でけへんかった。何しろ肉、肉、肉……肉どっぶりのうちやってん。あまりにも肉の思いの強いうちには、自分が、地獄の底の底の奥底から這はい上がってきたなんて言うことも、まるで他人事、知らぬ存ぜぬで通してきた。それほどうちは、自分に冷たかったということか……。

今までうちは、一体何を学んできたと言えるのか

……何を自分に伝えてきたと言えるのか……全くの白紙や……白紙どころかドロドロや。真っ暗や。真っ黒や。何も自分に学んでこなかった。ただただ、肉で四苦八苦。四苦八苦するだけの学びやった。その四苦八苦する自分を見ていけばよかったものを……うちは、自分の肉の四苦八苦だけを何とかしよう、していくんだと学んでたと、そういうことか……事態を良くしようとな……意識の自分のことなんて、切なる自分の思いなんてそっちのけでな……。

しつかりと学んできなさいと……。

それも今まで肉で掬^{とち}えてきた。万事が休す、みんなそうやった。すべてを肉で掬^{とち}えてきた自分やったんや。そりゃあ学びは遅^ち々として進まんわなあ……分かったふりして今まで来た。それでもうちの中は必死やった。必死に叫び続けてくれてたんやなあ。間違ってるって……そして、うれしいですと……あ

りがとうと……優しいですとね……ずっとずっとそんな叫びをうちは、またまた無視し続けてきてたんか……いいや、無視やないけど、けれどそれを不思議な思いで聞いていた。見つめてた。そういうことや。

肉のうちには分からないとね……何ともまあ、冷たいバカなうちやった。まるで川の向こうとこっち側。そうやって自分を白けたふりして見つめてた。それだけやった。愛^{いと}しいなんて思えるはずもあれへんかった。

どんなに恵まれた中にあるか分かりますかと……。

どんなにどんなに自分にとって、切なる思いにとつて、どんなにどんなに恵まれた肉、環境、事情やったか……うちには今まで知る由^{よし}もあれへんかった。ごめんね、今までごめんなさい、お母さん。

不足でも何でもなかったんや。不必要なものはないと田池留吉は言っていた。すべてが肉にとっては不必要なものでも、嫌なことでも、人でも、態度でも、すべてはうちの中の意識にとっては、最大の優しさであり、愛であり、必要なことやった。不必要なものなんて何も無い。捨てるものなんて何も無いと言うくらいに等しい。

肉、形的、事情を見て、不足と考えるようなこともすべて、その不足は不足やなかったんや。みんなみんな必要やった。本当の自分に帰っていくために、十分に整えられた状態やったと……それはすべて、自分の中の宇宙にとつてと言うことや……。

肉で見れば悲惨です。不足です。不満です。けど意識のうちにとつては、本当になくはならない肉、環境、事情だったんです。だから、ありがとう、うれいですが出てくるんですね、お母さん。すべて

は自分の中の切なる思いにとつての肉、環境、事情でした。

肉の為なんかやないし、肉の自分の為の学びでもない、そういうことが、全くもって分からないうちやった。すべてのことを肉の為に……変えていこうと必死になってやっていた。肉にとつての不足を変えていこうと躍起やっきになっていた。その不足だと思いう思いを見ていけば、それだけでよかったのでした。

肉は何もできませんと、何度伝えていただいたことか……その意味が全く分からなかった。理解できなかった。そして自分は一体何のために、誰の為に学んでいるのかということも分からなかったということでした。全く見ている先が違った。そういうことでした。

自分というものを間違ったままで、ここまで来てしまったということでした。

***さん、思いを語ってみてください。

心を語りなさいと言われて、今、そうですね、何を語ろうかと思っています。自分の中を、そっくりそのまま、全部、全部、間違ってきたと語りたいけれど、私の中には、まだまだ自分を正しいと思うものが残っていると思います。ですが、私の中も、学びの年月を経て、少しずつですが、変わってきているのを感じます。心が楽になりました。心が少しずつ軽くなってきたのは事実です。

夫に対して、子供に対して、そして、周りの人達に対して、私の流す波動は、本当にすごかったと、今、少し感じさせていただいています。

それを思う時、みんなにごめんねって素直に言える私があるのが、嬉しいです。以前は違いました。こんな小さなことに、喜びを見出せる私ではありませんでした。でも、こんな小さなことではありません

んでした。それが、とても、大切なことだった。今はそう感じます。

心を見るたくさんさんの機会を得てきたことが、私には嬉しいです。

立派な自分、素晴らしい自分を崩していくために、心を見続けています。

自分の思うようにいかなかったことがあればあるほど、己が高かったんだ、そびえ立つ自分があったんだ、そうやって、自分を振り返っています。

今は、ただ、こうして、この学びに繋がったことを、嬉しく思います。

凄まじいエネルギーの中を生き続けてきた私の過去、今世も色々ありましたが、今世ほど幸せな時間はないように、今、思います。

***さん、よかったですね。立派な自分、素晴らしい自分なんて必要なかったことを、どうぞ、もっと、もっと、心に感じていってください。

もっと、もっと、優しくなっていってください。

そうなっていけば、今世の喜び、幸せもそうですが、それとは比較にならないほどの、あなたの二五〇年後が待っていると思います。

しかし、これは、これからのあなた次第です。心を落とすのもあなたなら、心を飛ばたかせるのも、あなたです。

異語。

***さん、宇宙を思ってください。

異語。

はい、宇宙に広がっている私達の仲間に心を向ける時、とても苦しい思いを感ずります。ああでも、今、心を宇宙に向けた時、ああ、私は、間違ってきた、私達は間違ってきたという思いを感ずります。

お母さんに心を向けていきましよう、そうやって、私の仲間に心を向けることをやっていきます。

肉の私は、もうよかったです。心を宇宙に向けた時、もつと、もつと、私が心を向けていかなければならないことが分かりました。

ああ、私の中の宇宙、はい、心を向けてくれることを待っていた、そう今、感ずります。田池留吉、アルバイト、ありがとうございます。

真つ黒な宇宙を心に広げてきた私に、思いを向けさせていただきました。

私の中に真実を伝える存在があります。教えられた事を信じ込もうという学び方でした。私はエネルギーに生かされていると思えます。私を生かすエネルギーとは何か、以前から何度感ずっても肉に流されうやむやにしてきました。今はその声に耳を傾けられます。「あなたは意識です。エネルギーです。肉ではありません」何度も聞いた文言です。でも、今はそれが……それこそ真実だと心が叫ぶ。この波動にずつと委ねていたいのです。どんな肉でも良かった。何を思われても良かった。全てを吸収するエネルギー

ギーが、私の中にありました。小さな小さな事に拘り、凝り固まり、沈む癖。こんなに広い世界があったのですね。それが私だったのですね。ずっとずっとこのエネルギーを感じていました。私だけしかない。私だけ。でも、寂しさはない。何も無いけど満たされています。変な感覚を感じることがありました。変ではなかった。そっちへと突き進んで良かったんです。人に受け入れてもらったことばかり考えていました。人を、その物体を意識し過ぎてきました。離せば広い世界しかなかった。何があっても喜べるのは住む世界が違うからでした。田池留吉という名前も必要なくなる時が来るのですね。認められることを求めてきたけれど、何も求めるものはありませんでした。何とも優しい中にいました。その優しさが私でした。優しくなるうと思ふ必要もなかった。全てとひとつでした。ひとつしかなかった。全てが自分の中にありました。自分を信じられる。うれしいです。うれしいです。



NYのグランドセントラル駅

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心の中に何も無い私を感じる時、幸せだと思いません。しかし、それは、一瞬です。一瞬のうちに、私の心の中は、変わっていきます。主人の言動により、私の心の中は変わっていきます。ああ、これが私の他力の思いだ、そう、私は感じています。

主人の話す言葉を聞いたり、姿を見たりして、私の中に、まだまだ心を揺さぶるものがございます。私は、その自分の中の自分を揺さぶる思いに、まだまだ優しい思いを向けることができません。

何もない時は、穏やかな日々を過ごしていますが、ひとたび、私の中に、揺らぎが起きる時、私は、自分の心の底の底のほうから、エネルギーがムクムクと湧いて出てくるのを感じます。このムクムクと湧いて出てくるマグマのようなエネルギーを、肉は、まだはつきりと自覚しておりません。

私の中は、すごいエネルギーの塊かたまりです。こうやって、私は、自分を繋つないできたんですね。しかし、地獄の奥底から生まれ出てきた自分を、まだ、しっかりと感じていない、これが私の本当のところだと思います。

その揺さぶりが、これからの私の転生の中において起こってくる、私の計画でございます。そうでないと、私の意識の目覚めは難しい、それほど他力のエネルギーを心に蓄たくわえてきた私でございました。

心から、「田池留吉、お母さん、ありがとう」、「本当に私は、肉をいただき、自分を見つめることが嬉しいです」、そう心の底から叫べる日が来るまで、私は、自分を見つめてまいります。

今世も、たくさん教材を、自分に用意してきました。こうして、学びに繋がっている私があります。今世は、もちろん、私にとって、大切な時間と空間です。心をしっかりと見つめ、私は、自分を繋いでいきます。

自分の中が、どれだけ荒れ狂ってきたか、どれだ

け自分に冷たかったか、アマテラスのエネルギーの中で、アマテラスにひれ伏してきた自分を見つめていきたい、今、そのように感じています。

異語。

***さん、どうぞ、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、お前を殺してやると心から叫んでいる私があります。私は、お前を殺してやると叫んできました。何度転生を繰り返しても、地獄の奥底から出ることができなかった私は、中が、一斉に、田池留吉目掛けて、刃を向けている、そんな波動を、ずっと、ずっと流し続けてきました。

そんな私が、今世、このように肉体をいただきました。母に生んでいただきました。そして、この学

びに繋がりました。すごいエネルギーです。私は、そのエネルギーを、まだ自分でしっかりと見つめることができないけれど、今、語らせていただき、自分の奥にあるものに、何かが届いているような、何か、ほんの少しですが、小さな、小さな穴が開いたような気がします。これから、その小さな穴が、私の中で、大きくなっていくだろうと思います。それが、これからの私の転生でございます。二五〇年後へと、私を繋いでいくために、転生をしまいいります。

お母さん、今世の肉体をありがとう、素直に、少しか、今、言える私があります。あなたの意識を踏みつけにしてきた過去からの私でございました。

十年前にうけていただいた意識、本当にその通りです。

夫に対しての思い「岩盤」の思い、今もなお変わっていないとつくづく思います。

私は自分が学んでいる事、セミナー参加等自由に

させて頂いていることは感謝です。

共に一緒に学びたいと思ってもなかなか難しく「岩盤」です。

私自身からやさしい波動が流れるように日々瞑想し変わっていきたいと思っています。

24

***さん、あなたは、今、幸せですか。

私は、あまり幸せではないと思います。いいえ、全然幸せではないと思います。自分の中が苦しいんです。苦しい、苦しい、苦しい、苦しいって、毎日、自分の中が叫んでいます。苦しい私を置き去りにして、私は、幸せなはずはありません。肉の私は、早く何とかしたい、この中から、何とか自分を救い出したい、そんな焦りの思いを出しています。自分の中が苦しいって言っているのに、私はそんな

な私を置いてきぼりにしているんです。それが冷たいということが、私には、まだよく分かりません。私なのに、私なのに、しかし、私は私だとは思っていないのかもしれない。だから、こんなに平気で自分の中の苦しさを、足蹴あしげにしているんだと、私は、今、思います。

***さん、あなたの心は敏感です。色々なものを感じているでしょう。だから、もっと真剣にお母さんの反省をしていってください。

お母さんに生んでいただいたことを、どのように思っていますか。

お母さんに育てていただいたことを、どのように思っていますか。

そして、あなたは、この学びに繋がってどうでしょうか。あなたは幸せではないと言いました。なぜ、幸せでないとやるのでしょうか。

学びに繋がっているんですよ。学びを肉で知ったんですよ。そんなあなたが、なぜ、あなたは幸せで

ないと言えるのですか。そのところから、もう少し、自分自身を振り返ってみてください。自分を大切にしていってください。今の自分の時間を大切にしていってください。

あなた、このまま死んでいいのでしょうか、この本を、あなたは、もう読まれましたか。

どうぞ、手に取って、真剣に読んでください。

そして、あなた自身に聞いていってください。瞑想も、反省も、すべて、あなたとあなたの中で行う作業です。

どうぞ、もっと、言うなれば、あなたの切なる思いと真向かいになっていってください。

異語。

「あなたは今、幸せですか」の問いに十年経った今、「はい。私幸せです」とはまだ正直心の底からは言えません。嘘はつけないけれど苦しい苦しいと訴えてくる自分に少しは向き合えるようにはなれたと思

います。

まだまだ苦しいと中は伝えてきますが、昔よりは振り回されず、そんな自分にごめん！ありがとう。ずっと苦しかったね。もう苦しまなくていいんだよ。田池留吉、アルバート、お母さん。母なる宇宙に一緒に戻っていいこう、愛に帰っていいこうねって伝える事ができます！反転もあるし嬉しいです。そして死ぬまで「お母さんの反省」を継続していいこうと思っています。

肉はこの私に伝える為にあるんだと、この時間をして今世に本当にありがとうです。

十年前の今、私は苦しかった！この先もっと強烈だと思えますが当時は地獄、どん底を味わい尽くした感じです。

でもそれがあつたからこそ集中して母の反省をした時期でもあります。

お母さんに産んで頂いたこと、育てて頂いたことどのように思っているか。

心からの感謝はないなーと思いつながら、意識の私

はごめんなさい……ごめんなさい。こんなどうしようもない私を産んでくれてありがとうございます。くそババアと悪態をつく冷たい私もいっぱいおります。すが本当は感謝しかありません。

そして学びに繋がっている私は幸せでないと言いました。それはなぜですか……。

まだまだ心から信じていないから幸せになれてないから。肉肉肉の自分が傲慢で欲の塊の自分がいるからです。

十年経って大バカな自分をさらけ出す事は、恥ずかしい悔しいです。

けれどこれが現実、確かに誰も何も救ってはくれません。この現実を私は認めざるを得ません。

できてない自分を認めたくはなかった。

でもこの機会をU T Aブックさんから頂き自分を振り返る事ができました。ありがとうございます。

何も分かっていない自分をまず認めていきます。

そして本の「あなた、このまま死んでいいのでしょうか」

私はこのままでは死ねません。少しでも死が喜びになれるよう自分を見つめていきます！

ありがとうございました。



***さん、あなたがどんなに苦しさを訴え、不安と恐怖を訴えても、そこから自分を解き放つのはあなたです。

肉のあなたが今感じている苦しさ、恐怖、そんなところではありません。あなたの中には、それ以上、いいえ比べることができないほどの苦しいあなたが無尽蔵にいます。

一方、あなたがセミナー会場で飛び跳ねた喜びのあなた、それもあなたです。そのあなたが本当のあなたです。苦しくてどうしようもないあなた自身は、みんなその状態なのです。

それを信じてください。

でも、何もしなくてはそんなこと信じられるはずがありません。信じよう、信じようとするのは無理だし、欲です。

だから、お母さんの反省です。肉のあなたができ
ることはただひとつ、お母さんの反省です。お母さ
んに使ってきた心を、思いをどんどん見ていくこと
です。ノートにでもいい、口から吐き出してもいい、
とにかく、それを徹底的にやることです。

それ以外に方法はありません。それ以外に何もな
いのです。

田池留吉はただの老人です。何もしない人にとっ
てはただの老人、そのことを忘れないでください。

十年後、今、どう思っているのか……。

本当に身を持って教えて頂きました。

自分の苦しさは自分でしか変えることかできない
事を。

それでももともと、それ以上の苦しさが無尽蔵にあ
ると伝えられた時、きょうがく驚愕したのを覚えてます。

「無理、これ以上は無理！」と自分を諦め捨て去ろ
うと何度も逃げてきた過去散々な過去しかなかった

んだなあと今、つくづく思います。

それを少しでも解放、愛に帰る為に今があるんだ。
今世があるんだ。

来世に繋げられるように自分をバトンタッチした
いです。

そしてセミナー会場で
飛び跳ねた自分、あれは
本当に嬉しかった！

人生で一番嬉しかった
瞬間でした。

お母さんありがとう。

そしてこの機会を下さ
り本当にありがとうござ
いました！



***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

心を見ようと私はしてきました。そして、私は自分の心の奥底を見ようと、今、もがいています。奥底の思いを見ようとしているんです。これは、欲でしょうか。私には分かりません。ただ、私の中で何か語ってくるんです。私は、それが、何かとても気になるんです。このまま、この思いを聞いていけばいいんでしょうか。それが私にはとても不安です。

だから、私は、訊ねました。私は、この学び、田池留吉を本当に信じて、このまま進んでいけばいいのでしょうか。私は、不安で、不安でなりません。何かしら心の中から突き上がってくるものがあるんです。私は、それが何か知りたくて、そう、そんな今を感じています。

お母さんに思いを向け、田池留吉に思いを向けたときに、私の心は、和らぎます。しかし、また私は、自分の心を見つめると、その心の底から、何か、得体の知れないものが突き上がってくるのを感じています。

異語。

***さん、どうぞ、しっかりとお母さんの反省をして、お母さんの瞑想をして、お母さんから流れてくる思いを、自分の中でしっかりと確認していただく。

あなたの中には、他力のエネルギーが、まだまだたくさん、たくさん残っています。もちろん、あなた自身は、この学びに出会い、田池留吉と出会い、そういうことで、とても喜んでいきます。

その喜びは伝わってきます。しかし、それ以上に、あなたの中には、まだまだ凄まじいエネルギーが残っているんです。

あなたが喜べば、そのエネルギーは、益々あなたの中で大きくなってきます。それは、すべてが温もりに帰りたいからです。

その思い、自分の中で受け止めていくということをやっていただくさい。何も恐怖はありません。不安はありません。

もし、あなたが、不安を感じ、恐怖の思いを大きくしているのならば、あなたの感じているお母さんの温もりも、田池留吉の世界もまだまだ、ちっぽけなものです。

だから、もう少し、自分の中を見ていただくさい。欲と二人連れでは、この学び、一歩も進まないことを、私達はお伝えしました。

そうなんです。喜びを感じれば感じるほど、あなたの中の闇のエネルギーを感じていくんです。そのことを喜び切れないあなたは、他力のエネルギーが、まだまだ自分の中に残っている、そのエネルギーをまだまだしっかりとつかんでいる、そういうことではないでしょうか。

まずは、あなたの心を見て、しっかりと自分で気付いていかなければなりません。心で気付く学びです。

田池留吉、お母さんは、いつまでも、いつまでも、あなたの中で待っています。あなたが気付き、喜んでいくのを、ただただ待っていてくれる存在です。どうぞ、自分を信じ、ひたすら、お母さんを思い、田池留吉を思い、瞑想を続けてみてください。

「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」

「あなたの意識です」
十年経った今……。

知りたい、分かりたい、幸せになりたい、欲の思いで学びの本を何度も読みました。

都合のいい言葉で家族を丸め込んで、セミナー参加。

欲と他力に支配されて参加するセミナーは毎回、

頭がどうにかなるんちゃうかと思うほどの痛さで、
身体もしんどい状態になることが度々でした。

そんなときに示して頂いたメッセージ

「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」

「あなたの意識です」

時折、読んでいました、肉の目で。

ブックさん（企画）の招待を受け、十年前の自分を思いながら読みました。

他力ど真ん中で救いを求め、助けて、助けて、欲しいばいの私です。けれど、この時はそれが他力だとは気づいていません。

十年経った今、田池留吉に心を向け「あなたの意識です」を読みました。ここに全てがありました。過去も未来もそして今の私も……優しい誘い（いざな）です。ありがとうございます。

26

***さん、どうでしょうか、己偉い心を、どの程度見てこられましたか。

私は、***でございます。学んできていると思ってきた私の思い、本当に甘かったことを、痛切に感じてきました。田池留吉、お母さん、私は、本当に何にも分かっていなかったことを感じます。

自分の中で、他力のエネルギーを、どれだけ詰め込んできたのか、今世もまた、その上塗り（うわぬり）をたくさんしてまいりました。でも、私は、このように学びに繋が（つな）がり、自分の心を振り返る時間をいただいています。

肉の生活は厳しいものがあります。どちらを向いても、闇の自分のエネルギーが返ってくる、そんな中で、私は心を見る、この今世の時間を選んでまいりました。

真実に目覚める、大げさな看板を打ち立てて、私

は、意気揚々とこの学びをしていこうと思ってきました。でも、自分の足元をすっかり見失って、本当に上ばかりを見ていた自分を思います。

お母さんを思ってみます。もっと真摯な思いで、お母さんを思ってみます。

異語。

***さん、ご主人の思いを聞かれて、あなたは、どのように思いますか。

私の学びに集ってきた動機、学んできこうとした動機、その動機が間違ってきたことは、以前に私の中で感じていました。私自身だったんです。私のために、学びをやっていかなければなりませんでした。そのことを私は忘れて、肉の私を優先させてまいりました。申し訳ございません。

たくさんの教材が、私の周りにあります。笑顔に救われ、癒される時もあります。やはり、私の心

の中から、すさまじいエネルギーを引き出してくれる教材です。そう、どちらを向いても、私も苦しい、苦しい、そのような自分がまだまだたくさんあります。

でも、私達も、家族ひとつになって、自分達の心を見てまいります。

今世、何かの縁があって、このような家族を私は持たせていただきました。その中で、私も本当の喜び、真実に向けて、心を見てまいります。

異語。

はい、おふたりとも、心を、タイケトメキチ、アルバートに向けていってください。

異語。

はい、私達には、次の転生が待っています。心を繋いでいくように、自分達の中から促しを受けてい

ます。それが、今、とても嬉しいです。心を繋いでください。必ず繋いでください。二五〇年後、アルバートに出会うまで、あなた方の転生の中で、心を繋いでいってください。そのように伝わってまいります。今、とても嬉しいです。ありがとうございます。

十年前のメッセージは、今の自分にとって必要なメッセージでした。

この反省の機会を得てはつきりとしたことは、「私は学んでいなかった」ということに尽きます。

「学んでいなかった」現実を、現象を通してはつきりと伝えていただきました。

それは自分にとって、最初はとても受け入れがたい、厳しい現象でした。

その「厳しさ」とはすなわち、認めざるを得ない、受けていかざるを得ない現象だということです。

いい加減さや辻褄合わせは一切入り込む余地がない現象。

否定のしようがない明らかな思いが噴き出し、こ

れは明らかに自分にとっては一つの大きな試練でした。

まさに天変地異だと思いました。自分の中の価値観が完全に一八〇度ひっくり返りました。

今まで自分が大事にしてきたもの、大事にしていると思ってきた価値観が総崩れでした。

このままでは大変なことになる。肉の常識が完全に通用しないほどの強い思いに、肉は巻き込まれるのではないかと本気で危惧しました。今もまだその怖れを抱いています。

それでもなぜか、まるで春のそよ風のような清々しさも同時に感じているのです。

「田池、殺す」のめちゃくちゃリアルな思いと、自分を消し去りたい思い。

すべてを殺してしまいかねないほどの強い思いと、春風のような清々しさを同時に感じている。

このような経験は初めてです。これほどの強い思

いと、それをよしとする思いを同時に体験しています。

不思議な感覚です。

「この学びは命懸けです」と言われた田池先生の言葉を思い返しています。

本当に真剣に、真実一路に学んでいかないと、この道を滑り落ちていく危険性は常にあるということをやっと自分事として捉えることができたのだと思います。

「学んでいない」ということの重大さを、キツチリと教えられました。

今回の勉強のチャンスを、本当にありがとうございます。

27

***さん、あなたを語ってみてください。

お母さん、心の中の苦しさをお母さんに聞いてほしかった。お母さんに、私の苦しさを知ってほしかった。心が寂しかった。心が苦しかった。お母さんに、私を知ってほしかった。

そんな思いを母に求めてきました。心の中に求めてきた母は、私に伝えてくれました。

あなたは、苦しいんですか。あなたは、苦しくないはず。あなたは、嬉しい、嬉しいって、言っているんですよ。だから、私も、嬉しいって、あなたを生みました。

そのように母は伝えてくれました。

しかし、私は、その母の思いを、みんな、みんな捨ててきました。申し訳ございません。苦しかった私は、自分を知らずに、ずっと存在してきたのですね。自分を見失って存在してきた私を、今、感じています。

***さん、田池留吉のほうに、あなたの思い

を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心に歯向かうエネルギーを感じてきました。これが私の過去からの思いでございます。温もりを捨て去った私でした。

心の中に田池留吉を呼びなさい、今、その思いを素直に聞ける私があります。そして、その思いを聞いて、心の中に、田池留吉と素直に呼べる私と、素直に呼べない私とがあることも感じます。

どちらも私の中にあることを、感じます。田池留吉、はい、私は、たくさんの私を抱かかえています。素直に呼べる私を、心の中に広げていきたい、今、そう思います。

異語。

***さん、心を小さくするのもあなたです。

そして、心を大きくするのもあなたです。

田池留吉のほうに心に向けることを、しっかりとやってみましょう。心から田池留吉と呼べるあなたであれば、何も恐れることはありません。苦しかった自分も、全部、その中に包んでやればいいことが分かります。

ともに歩んでいってください。心の中の温もりは、あなた自身です。

お母さんに教えていただいたように、本当のあなたは、嬉しい、嬉しいって、言っていたのです。

今、振り返り、素直にお母さんと呼べば良かった。お母さんを抹殺まっさつし、底知れぬ寂しさにうずくまったらま息を潜ひそめて存在してきた。心の奥にある沢山の私を母の温もりに返せば良かった。

お母さんは、いつもいつも待っていてくれた。喜んで喜んでいけば良かった。

素晴らしい自分なんて、どこにも無かった。

肉の思いが岩盤となって、肉どっぶり、肉基盤。

田池留吉を信じる事をしないで、寂しい、恐怖、心の叫びを奥の奥に蓋ふたをしてきた。

何を学んできたのか……？心見ないで……。

今、田池留吉に心を合わせ、ただ素直になって自分の温もりを信じて思うは田池留吉。日々正しい瞑想しかないです。

田池留吉のほうに心に向けることを、しっかりとやっけていきましょう。ともに歩んでいってくださいと、田池留吉の思いが心に染しみみわたります。



ださい。

己の偉さに驚いています。正しいと思ってきた私は、いったい何が正しくて、ここまで己をそびえ立たせてきたのでしょうか。本当に、自分を思う時、何と愚かな自分だったか、今になって、ようやく感じ始めてきています。これまでにたくさんの出来事がありました。すべて己の偉さ、愚かさを自分に見せるためのものだった、今、そのことを感じます。

肉体細胞に思いを向ける時、本当にこんなすごいエネルギーを、今もなお受け続けてくれている肉体細胞には、ありがとうしかありません。

何も分からずにやってきました。本当に何も分らなかった。

肉の中にまみれる、肉に埋もれる、地獄の底の底に喘あえいでいる、私の意識達に、少しでも、ほんの少しでも優しい思いを伝えて、この肉を終えていきます。

母からもらった肉体、最後の最後まで、自分のた

めに、大切にに使わせていただこう、今、そのように思っています。

***さん、田池留吉を心に呼んでみてください。

異語。

田池留吉、はい、間違ってます。他力の反省をしないで、母親に使ってきた思いをしっかりと見ていきなさい、それを、私は、本当に軽くとらえてきました。母親が、母親という存在が、こんなに大切な存在だったことを、今世の私を通して、私は、初めて感じさせていただきました。

と言っても、他力のエネルギーを、自分の中でしっかりと見ているわけではありません。そのエネルギーは、まだまだ私の中にどっかりと、真っ黒な世界を広げています。

でも、いいんです。私とはかく、自分というものが本当に愚かだったことを、今少しでも、心に感

じています。

私の歴史の中で、今世ほどかけがえのない時間はありません。田池留吉という意識に心を向ける、向けよう、そう自分に言えることが、幸せです。

異語。

***さん、自分に優しい思いを向けていく瞑想を続けてみてください。1+2=3の世界の厳しさは、あなたの中の確かにある優しさを感じることに、その世界が心に響いてくるでしょう。

あなたの中には、限らない優しさがあります。どんなに闇の中に埋もれていた意識だったとしても、必ずその優しさと温もりの自分に戻っていくことができる、その信を、瞑想をすることによって、少しずつ育ててみてください。

十年前のこと忘れませんでした。田池先生に出会い、塩川さんが跡を継いでこの学びに繋がったということ

凄^{すこ}いことだと思っています。

実は肺がんと背骨のがんが見つかり、手術できないと分かって、それもよかったんです。そして初めて主人の涙を見ました。「もうちょつと生きてくれよ」と言われ夫婦の本質に触れました。生みの親でもない私に、二人の子供がよくしてくれます。意識の世界のプレゼント、肺がんに感謝です。必死に心変えていこうとラストチャンスです。先日の検査で肺がんが小さくなったとか。ありがとうございます。

29

***さん、あなたの心を語ってみてください。

学びの道筋を、いつの間にか曲げていった私です。そこには、大きな欲がありました。もともと欲が大きかったけれど、その思いを、私は、しっかりと見ていかなかったです。だから、私の学びの道筋は、大

きく横にそれていきました。

自分が感じた世界を、本当の世界に通じる道だとして信じて疑わなかった私の思いは、欲の思いだけでした。

私は、そのことを学ばせていただきました。私にとって、いい勉強でした。

しかし、私は、そのところの反省を、まだ充分にしているとは言えません。愚かな自分、欲いっぽい自分、そういう反省はしてきたけれど、田池留吉と出会う、セミナーに集う、そのチャンスを得たにもかかわらず、私は、その方向を自ら曲^{みずか}げてしまったことに対する重大さについての深い反省は、まだできていません。

そんな私ですが、今、この時期になって、もう一度やり直していきたいと思うようになりました。瞑想も反省も、このままでは中途半端に終わってしまっています。それでは、ダメなんだ、そんな声がかから聞こえてきます。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、私は愚かでした。心を真実の方向に向けるようにと自分に用意してきた学びのチャンスみずかを、自ら潰つぶしにかかった私でした。

しかし、私は、もう一度やり直そうとっています。自分なりに時間を作り、時間を見つけて、瞑想をしています。母親の反省もしています。

田池留吉、心に感じる思いをしつかりと、自分の中で見つめてまいります。それができるあなたですよ、今、そのようなメッセージがあったように思います。そうでした。私は、私の心を見ていくだけでよかったです。

異語。

はい、私には、自分を見つめる時間が、まだまだく

さん用意されています。自分に用意してきた時間を大切にまいります。

今回、このようなチャンスをいただきありがとうございます。ございます。

本当に嬉しいです。

「あなたの意識です」にのせてもらったメッセージは、時折冊子をめぐっては読み返していました。

今回も読み返してみても、メッセージの重みをより感じました。

嬉しいです。

間違った学びをずっと続けてきてしまいました。が、それでも気付くまで待つてくれている本当の自分に対して、少しでも心の針を向けることができるよう、自分の心を見ていきます。

メッセージにある「それができるあなたですよ」の言葉ほど嬉しい言葉はありません。

あまりにも自分にひどい仕打ちをしてきてしまいました。が、今世、できる限り自分と向き合っていこ

うと新たに思いました。ありがとうございました。

30

***さん、あなたの心を語ってみてください。

素直になって、自分の心を語ってみたい。もっと、もっと自分の心を語ってみたい。お母さんに使ってきた思いを見ていくと、私は、心の中の寂しさを感じます。寂しいからパワーを求めてきたんだなあ、そんな自分だった、今、そう感じています。学びの難しさ、心を見る難しさ、肉に流される自分、色々な思いが出てきますが、学びに出会ったことが奇跡に近い、今、私はそう思っています。

自分も生まれ変わりたい、自分を変えていきたい、心の底からそのように願ってきた私だったことを感じています。

そして、そんな思いが心に響いてくるたびに、肉

の私の愚かさもまた感じます。

本当に肉の思いつて強いんだなあと感じます。それでも、私は、中の思いを、少しでも自分の中心に据えて、愚かな肉の中で、その思いを、しっかりと感じていこうと思います。

パワーを求めてきた心は、とても苦しかったです。真っ黒な世界を、自分の中で作り上げてきました。真っ黒な自分が、自分を苦しみの中に落としてきた、今は微かにですが、そう感じます。

誰が悪いのでも、何が悪いのでもなかった。思い通りにいかないことは、何もなかった。自分が自分を知らずに存在してきたんだなあ、何かしら、そういうことを感じます。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

田池留吉、はい、田池留吉、あなたに会いたかった私を感じます。どんなに苦しい中であっても、本当の自分に出会いたかったんですね。パワーを求めて、求めてきたけれど、私は、本当の私を探し続けてきた。今、あなたを思い、そう感じます。

しかし、くそったれ、田池の思いを、私は、まだしっかりと自分の中で受け止めていません。日々の生活で、くそっの思いが飛び出ていくとき、その思いに愛しい思いを向けてみます。私なりに向けてみます。荒々しいエネルギーを出して、それで終わりではなく、そのエネルギーを自分の中で見つめていきます。学びに出会えてよかったです。私には、まだまだ道遠ですが、しかし、今、自分が感じているものを大切に、自分の中で育てていけば、私にも、明るい兆し^{きざし}が必ず見えてくる、そんな予感がします。

異語。

***さん、田池留吉、そしてアルバート、出

会いを喜んでみてください。素直なあなたの思いを感じます。肉の思いを、少しずつ弱めて、素直なあなたの思いを信じてみてください。

そうすることによって、あなたの中に、喜びが徐々に大きくなっていくでしょう。爆発的とはいかないまでも、喜びが広がっていきます。

今よりも、ずっと、ずっと、しっかりとした足取りで、この学びを見つめ、自分を見つめ、二五〇年後のアメリカの地に思いを向けることができると思います。

それまでは、厳しい転生だと思えますが、どうぞ、二五〇年後の出会いを、自分の中で楽しみながら、そうです、苦しむのではなくて、楽しみながら、これからの時間を過ごしてってください。

出して頂いた意識は、印刷して額に入れ、部屋に飾ってある。

この意識にもパワーを求める思いで額に入れて飾っている事に気付いていない。

寂しかった。お母さんがいなくて寂しい。

だからお母さんの代わりになるものを求めた。

この寂しさを誤魔化すパワーを求めた。

他力信仰をした。神、仏に飽き足らず、遂には宇宙にパワーを求めた。

この学びも同じ思いでパワーを求めた。

救ってください。幸せにしてください。この苦しみを取ってくださいと、学んでいる事をなかなか認められずにきた。

パワーを求める思いは半端ではない。

己を表す思いも半端ではない。

欲、欲、欲の塊。寂しさの塊。愛欠乏症。

なかなか認められないが本当にそうだ。

寂しかった。怖かった。恐怖、恐怖。

真つ黒なエネルギーを出すことが怖かった、許せなかった。

自分は素晴らしい。出てくるな。引っ込んでいろ。

怒ってなんかいない。私はできています。

そんな思いがどれだけ苦しみの底に自分を落とし

込めてきたか。

もうそろそろやめていかないと。

語りた。自分の心をもっともっと語りた。

一杯一杯、詰め込んで蓋をして、我慢我慢してきた。飲み込んで飲み込んで押さえてきた。

いい人間のふりをした。怒っているのに、嫌い！
って叫んでいるのに、好きだと笑って生きてきた。

笑顔を振りまき振りまき、偽善者を演じてきた。

その結果、顔がこわばり笑えなくなり、身体もガチガチになった。

このメッセージをいただいて、十年経った今、自分から出る凄まじいエネルギーは感じるけれど、いまだにどうすることもできない。

このエネルギーに愛しい思いを向けることが出来ない。

やっぱりお母さんの温もりしかない。一番大事なものが無い。

二十五年以上、基本のないまま、何を学んできたのか。

パワーを求めてきた。他力信仰の延長線上。向け
先は、神、仏、宇宙のパワー。

動機の修正がなかなか出来ない。

動機の修正をしようとする動機が間違っている。

何もできない。ここが変わらなければ、何も学べ
ない。

変えようとする思いも、同じ動機ではないか。

もうどうしようもないくらいに染みついてあるこ
の心癖。

もう、先生の言われた事を淡々とやっていくしか
ない。

肉で一生懸命、真摯にやってきただろうか。

全く自信がない。

メッセージで言っていたいただいた、肉の思いを少し
ずつ弱めるという事も、やろうとしてきたが、修行
になってしまふ。煩惱を断つという修行になつてし
まう。

何をして間違ってくる。間違った結果しか出ない。
結果を出してくださいとある。



約10年前と一緒に暮らしていた愛犬
愛 (撮影時18歳)

今、幸せかと自分に問うが、幸せですとは言えない。

しかし、しかし、自分の思いが間違っているから
結果、不幸せなんだ。幸せではないんだという事は
分かってきている。

誰のせいでもないんだ。何が悪いのでもないんだ。
自分の思いが間違っているんだ。

パワーを求める心が、どれだけ苦しいのかを身を
もって味わう。

動機の修正、そんなにはできない。それだ

けを見たって、どれだけ間違えてきたかが分かったら、
そういうものだが、それすらもなかなか難しい。

そんな自分が、ゼロ歳の時の素直な思いを信じて、
少しずつでも真っ黒を受け入れていくことができれ
ば、徐々に自分の中に喜びが大きくなっていくと
言っていたのだ。

本当にありがとうございました。
今からでも、動機の修正を一生懸命にやっつけていき
ます。ありがとうございます。

31

***さん、心を田池留吉に向け、あなたの思
いを語ってみてください。

自分の中を知るのが怖いというのが、私の本音で
す。心の中につけてきた闇の世界は、凄まじいもの
がございませう。人を人とも思わずに、私は、自分の

思いを逃げようとして、すごいエネルギーを流し続けて
きました。

これが肉で生きることでした。肉しか見えなかつ
た。肉の自分しか見えなかった。自分の幸せと喜び
のためならば、何だとしてきました。過去の私は、
間違いなくそうでした。だから、他力の神々にも、
ひれ伏し、どれだけ願いを込め、奉つてきたことか。
思えば、本当に貪欲な自分だったことを感じます。

田池留吉の目は、その私の世界を、真っ直ぐに見
つめています。私だけが私を誤魔化して、私だけが
私から逃げようとしていることを感じます。

はい、真っ直ぐに見つめられた目から、逃げるこ
とができない今を、感じています。

異語。

***さん、田池です。どうぞ、あなたの心を
真っ直ぐに見つめてみてください。どんな思いも、
あなたの中で見つめていくんです。真っ黒などうし

ようもない思いは、みんな同じです。

それを、あなたの中で、しっかりと見つめていきなさい。見つめていくことが、あなたの今世の仕事です。あなたは、今世、そのために生まれてきました。どうぞ、もっとしっかりと自分の生まれてきた意味を、心で分かるあなたに蘇よみがえってください。肉のことは、もう程々でいいです。肉の家族は、程々でいいです。肉のあなたは、程々でいいです。なぜ、あなたは、その肉体を持ってきたのか、しっかりとあなたの中で答えが出せるような時間を、これから刻きざんでいってください。

あなたも、セミナーに、都合をつけて集ってこられたと思います。中がそのように、願っていたからです。そのあなたの中の思いに、忠実に、これからの時を過ごしていってください。

十年前にこの意識を出していただき、その時は、誤ご魔ま化かしのきかない意識の世界への恐怖を感じながらも、自分のエネルギーの凄すごさを認めたくない。そ

れほどでもないはず。というのが本音でした。ただ、学び続けたい。自分を知りたい。なぜ生まれてきたのか。という問いが自分の中にありセミナーに集い続けました。それからの肉の現象は厳しいものでした。どんなに努力しても肉で頑張っても崩れていく。努力して頑張った結果、事態が整ったようにみえても自分の思いが変わらなければ何も変わらないということを体験することになりました。今やっと、この十年前のメッセージは、自分が自分に託してきたメッセージだったと思えます。次々に出てくる他力の思い。凄すまましいエネルギーを感じ、そのエネルギーが田池留吉を呼ぶ。お母さんを呼ぶ。それがどれほど嬉しいことか、言葉では表せないけれど、私の中が挙こげて喜んでいる。自分の冷たさを感じるようになり、そのエネルギーがお母さんを呼び、また喜びに変わる。これが私の生れてきた目的であったと思え、また嬉しくなっていく。真つ黒なエネルギーを出しながら、これからも自分に出会っていきます。

***さん、心を語ってみてください。

心の中を覗いてみても、私は、まだよく分かりません。自分を生んでくれた母親に対しての思いを見てください。すごい思いが出てきます。こんな思いが出てくるのに、お母さん、生んでくれてありがとう、私は、あなたから生まれて嬉しいです、生まれてきてよかったです、こんな私に辿り着くのは、いつのことでしょうか。そのような思いが出てきます。

母の反省を第一に、母の温もりをと、答えは分かっています。ああしかし、本当に母親の反省が、そんなに大切なものなのでしょうか。すごいエネルギーを感じます。母を思う瞑想をした時、すごいエネルギーを感じます。自分の中にある本当の自分、温もりの自分、そんな私は、到底信じられない、今、そんな思いでいっぱいです。

***さん、あなたは、結果を求めています。結果を求めているんです。それがすなわち、あなたの他力の心です。あなたには、これまで、随分パワーを求めてきた転生がごさいます。あなた自身、これまで自覚されているかどうかは、分かりませんが、あなたに思いを向けた時、パワーをくれ、この思いが響いてきます。田池留吉に心を向けるのは、パワーを自分の中に見出すためだ、自分の中にパワーをくれ、そんな思いが響いてきます。だから、あなたは、結果を求めているんです。

パワーを求めてきたあなたです。日々動く心を見る、お母さんの反省をして瞑想を続ける、こんなことをやってみたって、自分の中は変わりっこない、あなたの中は、そう言っています。

しかし、やってみてください。本気になってやってみてください。自分を変えていこうと思ったから、あなたも、今世、生まれてきたことを、心で感じてごらんください。どれだけ自分が愚かだったか、どれ

だけ自分が間違ってきたか、そして、その愚かで間違ってきた自分が、どれほど愛しいか、心に響いてきます。もっとも、それは、地道なことを、淡々としていかなければ分らないでしょう。しかし、やればやるほど、心に感じるものがあるはずです。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

凄まじい勢いで、田池留吉と思っている。訳が分からないけれど、それがとても苦しくてたまりません。田池留吉を思うことが、とても苦しいです。自分の中が爆発しそうです。田池留吉を思うことで、自分の中が爆発しそうです。そんな思いを感じます。

異語。

***さん、私は、田池留吉です。学びを続け

ていくかどうかは、全くあなたの自由です。あなたが決めることです。あなたの心が決めることです。

右へ行つて、あなたの心に感じるものがあれば、それをまた見ていく、左へ行つて、あなたの心が感じるものがあれば、それを見ていく、ただそれだけです。そして、そんな自分は、今、幸せかどうか心に聞いてみる、そうやって、あなたは、自分の行く先を自分で決めてください。

すべてはあなたの心次第です。心に感じるものが苦しいなら、それはあなたのものです。心に感じるものが喜びなら、それもあなたのものです。あなたは、あなたの中で、あなたとともに生きていく、どれだけ時を経ても、このことは、何ら変わりはありません。

あなたの意識ですに掲載されたメッセージへの、今の自分の思いを伝えたいと思います。

あの頃はメッセージを呼んでも、あまりピンと

来てなかったように記憶しています。「パワーを求めてきた？ 何のことだろう。記憶に無いけど」と、肉の次元でしか見ていませんでした。

その中で、引っかかったメッセージの一文、「右へ行つて、あなたの心を感じるものがあれば、それを見ていく。左へ行つて、あなたの心を感じるものがあればそれを見ていく。あなたは、あなたの中で、あなたとともに生きていく」日常生活で、様々な出来事があり、色々な思いが瞬間出ますが、いつもこのメッセージは心に留め置いています。

今、改めて読み返してみても、感じた思い。メッセージの通りでした。パワー、パワー、肉の私を幸せにする為に田池留吉のパワーが欲しい。今でも心向けると苦しみが発火しそうになり、これがそうか、こっちが本当の田池留吉か？ 思いを向けても喜びあふれる自分に出会えていません。

お母さんの反省をないがしろにして、結果を求める心癖がまだ自分の中にあります。とにかく田池留吉に合わせれば良いのだ、今も結果を追い求める思

いがとても強いです。十年経つても変わらない自分に焦あせりを感じます。

瞑想するといつも上がってくる思いが、母のぬくもりを心に確立していない限り前には進めない。あなたは肉のぬくもり、偽物にせもののぬくもりで何とかしようとしている、偽物のぬくもりは仕事はできませんと。

十年前のメッセージをないがしろにし、あつという間に十年経ち、一歩どころか半歩すら進んでいない今の私です。

あの時のメッセージをもう一度読み返し、動機の見直し、母親の反省、他力の反省をしっかりとやっていきます。

このような機会を頂きありがとうございました。

33

***さん、心を田池留吉のほうに向けてみて

ください。

心の中に温もりを求めてまいりました。ああしかし、凄まじいエネルギーを培ってきた私の中に、それを自分の中で確立する道は、まだまだ遠いです。肉の頭では分かっています。この学びは、真実を伝えてくれていることも分かっています。

ああだけど、田池留吉のほうに心を向けた時、私の意識の世界を、今、つぶさに感じます。真っ黒な、真っ黒な世界を感じます。そんな中で、私は、数え切れないほど転生をしてきたんですね。そして、今世、田池留吉に心を向けることを、教えていただきました。

はい、私の基盤は、肉です。田池留吉に心を向けた時、心の底から出てくる思いは、この肉の幸せをずっと求め続けてきましたという思いです。ああだから、私は、母を見下げてきた。私の思いを叶えてくれなかった母を呪ってきた。ずっと、ずっと、そんな思いで、母を見続けてきたと出てきます。

他力の神々にも、すべてを捧げたのにと、呪いの思いが出てきます。

ああこれでよかったです。私はこれでよかったです。今、私を確認させていただきました。

異語。

***さん、あなたが感じている母なる宇宙の波動を、今、心で思い起こしてください。

異語。

母なる宇宙の波動に、はい、思いを向けてみます。心の中に伝わってくる思いは、こうです。

「母なる宇宙の波動を感じていくためには、もっと心を見ていってください。あなたの中で感じている世界は、私がお伝えしている世界とは、まだまだ大きな開きがあります。それでも、あなたは、このように肉でも努力されていることは確かです。そう

やって、あなたは、あなたの心を見ていくんですよ。母なる宇宙の世界は、あなたが感じている世界よりも、もっと、もっと、広くて、広くて、大きくて温かい世界です。どうぞ、日々、淡々と瞑想を続け、心を見ていってください。今、あなたにお伝えすることは、このことでございます。」

異語。

***さん、あなたの心で感じられたと思います。どうぞ、お母さんに向けて、瞑想を続けてください。母の温もりを、もっと、もっと、あなたの中で、育てていってください。母の温もりを感じていくにしたがって、他力の中に沈み、他力の神々を求めてきた自分自身の間違いに、心から気付いていくはずですよ。頭ではなくて、心で気付いていくはずですよ。その作業を淡々と続けていってください。それが、



まず優先されるべきことです。

メールをいただきありがとうございます。懐かしい思いで読ませていただきました。自分の中では十年よりもっと昔のように感じていました。頂いた当初はいつもいつも手元に持ち歩き読み返していましたが……。今はワンピースの方がインパクトが強く、いつしか本棚の隅に、心の隅に追いやられてしまったのを感じさせてもらいました。今は田池留吉の肉亡き中で、しかもコロナウイルスで世界中が大騒ぎ、よって肉の制限もありセミナーも中止、いつも聴き慣れた、「基本は自分ひとり」の学び、自分を救うのは自分しかない。これが現実。目に現象化している今、本当に田池留吉からのメッセージ、意識の流れの確実に頑なな心が解けていくように思います。肉体にも少しは不自由も感じる年になりましたが、家に居ながら学べる環境にあることに感謝しかありません。

ん。長く学ばせていただいた中に沢山の宝物があります。その宝物の一つ一つを思い起こし二五〇年後の自分に繋^{つな}げていけるように日々の生活を田池留吉、アルバートを思い、母なる宇宙に思いを馳^はせながら、ふるさとの歌を唄い喜びで瞑想を続けていきます。

34

***さん、心を語ってみてください。

ようやく、自分を少し語りたいと思いました。他力の神々にひれ伏してきた自分を、少しだけ語りた
いと思いました。

厳しい戒律^{かいりつ}の中で自分を縛ってきた心を、語りたく
なりました。

苦しいことはやめにしましよと伝わってきます。
自分の苦しきから目を背^{そむ}けることが、どれだけ自

分に冷たかったか、私は、今、少し感じています。

正しいと思ってきました。自分の信じてきた神は、
正しかったと思ってきました。しかし、どれだけ自
分の心を捧^{たさ}げても、私の中の苦しみは、どうするこ
ともできなかったことを、もう認めざるを得ません。

少し、自分の中を見た時、こんなにも寂しかった
のか、こんなにも苦しかったのか、こんなにも辛^{くる}かっ
たのか、そういう思いが、心に響いてきます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみて
ください。

異語。

田池留吉、はい、まだまだしっかりと心を向けら
れない私は、田池留吉に対して、素直になれないこ
とを感じます。

だけど、私も、もう自分を素直な目で見つめてい
きたい、優しい目で自分を見つめていきたい、その

ような時期に来ているのかなあと、今、田池留吉を思う時、そう感じます。

心の中には、真っ黒な、真っ黒な私の世界が、ずっと、ずっと広がっています。素直になっていきたいです。はい、そう思います。

***さん、ゼロ歳の時のあなたを、思い出してみてください。

異語。

お母さん、お母さん……。お母さんだけを見つめていた私があります。こんなにも安らかな私がありました。お母さん、今、優しさが伝わってきます。

この優しさで、私は私を見つめてまいります。優しい目で、私を見つめていきます。厳しくて鋭い思いで自分を突き刺していた、そんな私だったことを感じます。

***さん、田池です。どんな時も、ゼロ歳のあなたに戻って、自分を見つめていってください。あなたがあなたを受け止めていく以外に、幸せになる方法はありません。このことを、どうぞあなたの中で実践してってください。あなたの心の奥底に、本当の自分があることを信じて、他力の神々と決別する勇氣を持ってください。

決別するとは、他力の神々を自分の中で、受け止めていくことを言います。

UTAブックからのメールで「あなたの意識です」が送られてきました。

エッ、私!! 慌てて本を探し確認しました。

確かに自分のページに印を付けてありました。

私は周りの人から田池先生からCDが送られてきていると聞き、妬み、ひがみ、嫉妬で、どうかせ私なんかと自分を落とし込める思いでいたことを思い出します。

欲の思いで外ばかり見ていたのですね。

「あなたの意識です」を何度か読み返して、初めて
 檀原セミナーに参加できた時の思いが溢れてきます。

檀原神宮、ああ、檀原神宮で巫女だったときの思
 いがすべて出てきました。

「あなたの意識です」はすべて繋がっていた。

そして、最後のメッセージ、

「他力の神々と決別する勇氣を持ってください。

決別するとは、他力の神々を自分の中で受け止め

ていくことを言います。」

でも私は切り捨て、なかったものにしようと思死
 だった。受け止めるなんて無理、そんな思いでずーっ
 といた。何も進歩していないことに気付かされる。

十年前に素直になりたいと語っていた。今も素直
 になりたいと思っているのに素直が分からずにいま
 す。

「あなたの意識です」ありがとうございます。しっ
 かりと田池留吉、アルバートに思いを向けていきま
 す。UTAブックさん、ありがとうございます。

***さん、結論から言いますと、あなたの本
 当の思いとは、どんなに大変な現象に出会おうとも、
 真実を見つめていきたい、それがあなたの本当の思
 いです。しかし、この思いをあなたの心でしっかりと
 と感じるには、あなたもお分かりのように、とても
 難しいです。まだまだそんなところではないと思ひ
 ます。結論から言えばこうです。

どうぞ、今のメッセージを聞いて、今のあなたの
 思いを語ってみてください。

はい、肉、肉で生きてきた私には、そうです、そ
 んな私には、まだまだとてもなれません。肉が第一、
 肉の自分しか知らない私には、今世、出会った現象
 を、自分の中で、しっかりと受け止めることは、ま
 だまだできません。これが私の今です。

どんなに心を見ようとしても、そこから私は、心
 を離すことができません。でも、私の本当の心を開

かせていただきました。私の本当の思いを聞かせていただきました。そうなんです、これからの転生の中で、もっと、もっとすごい出来事に出会って行くのだと思います。それらは、私が私に計画してきたことでした。それほど、間違ってきた中に生き続けてきた自分を、真実の方向に向けるのは大変なことだった、今、そう感じています。

まだまだ、私は、私の中では、何も始まっていないような気がします。今、自分を語らせていただきたい時、私の中は、まだまだ何も始まっていない、そう感じています。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉と呼ぶことを伝えていただいた。そのことだけでも、私の中には、大きな出来事だったので。こんなチャンスに、私は今、恵まれ

ています。何はさておいても、このチャンスを活かし、少しでも、自分の中を変えていこうとすることが、私に残されたことだった。

肉の母を見て、心が上がってくる思いを、どんな私の中で見ていき、どんなに凄まじいエネルギーを使っているか、どんな自分の中で感じていかなければなりません。肉の母も、私も、肉を持つ時間は限られています。

甘く、甘く、とらえておりました。田池留吉、はい、私は、甘く学びをとらえておりました。

異語。

***さん、田池です。お母さんに使ってきた思いを見つめることにより、あなたは、他力の世界に沈んできた心を感じていくことになるでしょう。そのエネルギーは凄まじいです。あなたの中に鎮座する神々、その思いを、自分の中でもっとしっかりと感じていってください。

生半可なまはんかな思いで、あなたは生まれてきたのではない。自分の中のエネルギーを感じることに、その凄まじいエネルギーが指し示す方向が見えてきます。それらは、本当は何を求めているのか。母の温もりが心に響いてくれば、間違いなく、それは、私田池の指し示す方向と一致してきます。それを心で知るには、そうですね、これからの時間を大切にしていってください。

今回の企画、本当にありがとうございます。自分の十年間の学びについて振り返るいい機会になりました。

田池先生のホームページに出された自分へのメッセージは印刷して、パソコンの前の壁にずっと貼ってありました。印刷したのは「2009・7・12」とあります。ほぼ十年間貼ってありました。すっかり色あせてしまったので、何か月前コピーをして、田池先生の写真がついているファイルに大事なものとしてしていました。

冊子が出ていたのは覚えていなくて、改めて本棚の奥を探したら、ちゃんとありました。読んだ形跡がなかったので、多分自分のだけ目を通してほかは読んでいなかったと思います。今度新しい冊子が出たらちゃんと全部目を通したいと思います。

「あなたの意識です」は自分の思いや質問を先生に送って、それに対して塩川さんがメッセージを送ってくださいましたよね。この当時、娘の死から二年経過していましたが、私の中ではこれも意識の流れの一環として受け入れようとしても、肉では悲しくて悲しくて泣き叫んでいました。そんな心の葛藤かつどうを書いて先生に送ったような気がします。塩川さんは的確にメッセージを送って下さいました。

「肉、肉で生きてきた私、肉が第一、肉の自分しか知らない私、今世出会った現象を自分の中でしっかりと受け止めることはまだまだできません。私の中ではまだまだ何も始まっていない」「それでも私の本当の思いとは、どんなに大変な現象に出会おうとも、真実を見つめていきたいということ」「今世田

池留吉、田池留吉と呼ぶことを伝えていただいたことだけでも、私の中では大きな出来事だった。こんなチャンスに私は今恵まれている」

そして田池先生からのメッセージ「生半可な思いであなたは生まれてきたのではない。自分の中のエネルギーを感じることに、そのすさまじいエネルギーが指し示す方向が見えてきます。それらは本当は何を求めているのか。母の温もりが心に響いてくれば、間違いなく、それは、私、田池の指し示す方向と一致してきます。それを知るには、そうですね、これからの時間を大切にしてください。」

あれから十年、肉の現象が起きなければなかなか心を見ない私、肉、肉が優先の私、肉の幸せを目標に、つまり他力でこの学びをしていた私。明らかに間違っていますよと教えてくれる現象が、東日本大震災をはじめ次から次へと周囲に起きてきました。「なんだよ、なんでだよ」とどれだけ人を批判し、人を恨み、泣きわめいてきたことか。どれだけ自分

が聳え立ってきたことか。「我は神なり」「我に従え」の思いを周囲にまき散らしてきました。私は大うそつきです。表面上は優しさを装いながら、中は恨み、つらみで燃えたぎっていました。何もかもさらけ出すことの爽快感、最近はずき苦しむ自分を母の温もりでやさしく包んであげられるもう一人の自分の存在も感じられるようになりました。肉から意識への転回、十年前は「何も始まっていない」意識への転回がようやく最初の一步を踏み出したような気がします。

五月十五日、UTAブックさんからメールをいただいた直後の私の思いを殴り書きしていましたので、そのままお送りします。

田池先生、帰ります。私は愛でした。私は意識。私は真実の世界へ帰ります。ありがとございます。私は自ら望んで、この学びに出会うために、自分で自分の肉の世界を選んで歩いてきました。すべての現象がこの真実の世界に帰るためにありました。あ

りがとうございます。田池先生、ありがとうございます。この道を選んで一緒に歩んでくれた本当の私にありがとうございます。どんなに肉で苦しんでも、本当の私は私を見捨てなかった。いつまでも待ってくれた。「あなたは愛です」と待ってくれた。本当の私は田池留吉です。田池留吉は私です。ああ、初めて私は「本当の私」「真実の私」を感じる事ができました。

36

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心の中に過ぎる思いは、田池留吉に向けた時の私の思いです。凄まじいエネルギーを溜め込んできた過去からの私を、今世、ようやく、自分の中で知ることができました。すべては、私を忘れ去ったからでした。私は、自分を忘れ去って生きてきたことを

知りました。

こんなにも一生懸命に生きてきたのに、こんなにも頑張って生きてきたのに、そうやって、今世もまだまだ、その自分を崩すことが難しかったけれど、ああしかし、その一生懸命に生きてきた、頑張って生きてきたという私の思いが、私を苦しめていたんだ、今世の私はようやく、自分を縛っている思いが、どれだけのエネルギーなのかを知りました。

形を整えることが大好きでした。形にはめ込んでいくことが大好きでした。

心を縛って生きてきた、心を縛って存在してきたその苦しさを、今世の私は、この肉を通して、感じさせていただきました。

お母さん、あなたを蹴散らしてきました。我こそ素晴らしい、そうやって、あなたの意識を蹴散らしてきた私でございました。

***さん、そうですね。自分を縛ることは、とても苦しいです。心を縛って生きてきたあなたの

波動は、とても苦しかったです。そう苦しかったです。よかったですね。心の中を、もっと、もっと自由にしてあげてください。苦しいあなたを、優しい思いで包んでいくことを、これからも、学んでいただく。

あなたに伝えてくれている優しさを、心で感じていってください。

限りない優しき、限りない温もり、瞑想をして、あなたの中で、その世界に触れていってください。

異語。

***さん、私は、田池留吉です。あなたの心の世界を、私の世界と合わせていった時、まだまだズれていることをお伝えしておきます。

私の世界は、もっと、もっと広いです。心の中にある田池留吉の世界、アルバートの世界に、あなたの心をしっかりと向けていってください。

はい、心から田池留吉を、そして、心からアルバー

トを呼べるあなたになっていってください。

異語。

私、***の意識でございます。田池留吉、申し訳ございません。心を見つめてまいります。しっかりと心を向けてまいります。ありがとうございますました。

なんか知らんけど嫌やった。この企画、なんでこんな企画してん！と、私の中は怒ってた。こんなんほじくり出さんといて欲しいわ！（本題を、ドバっと目の前に出された感覚）。そこまで言われたない、そこまで面倒見てもらいたないわ、自分で気付けて、自分でそうやあれ見直そうとかって思ったときに見直したいし、こんなことまでやってもらいたないし……とかとか、もう、反発の思いしか出てけん。

そうやない、もっと素直に受けていかな、とかと

思うて、何回か自分のとこ読んでみるけど、一向に、思いが進まへん。言葉で一字一句説明しようおもてもできへんわとか。ああ、おんなじこと言われてる、直近で。こんな嫌や、私は私のペースでやるし、やってんねんから、こんな感想送ってこいとか言うても分かれへんやろ！何言うたらええねん、と、かなり心は反応してます。

実際読み直してみると、半年ぐらい前に、香世さんからおんなじこと言われました。エーと思た。もうこんな時から言われてるんかいなど、それで約十年も全く変わってなかったんやと、なんかそれが明るみになるのが嫌なんか、まともに反省につなげようと思ても、心が猛反発。

それやったらそれで、出るもんは出さしてもらおうと、今率直な思い書かしてもらってます。こんなんな、名前伏せて会員番号伏せたかて、読んだら私やて分かるやろ!! どうか言うて、まともな反省文書こうと思ても、今のこの思いがある限り書けそうにない。

ここまで書かせてもらって、少し自分の思いが見えてきました。こんな最悪な自分の思い、ほんまに書いてもええんかいな。こんなん書いて、なんか自分に罰でも当たらんのかい



いつも一緒にいてくれるワンコと夫です

な。香世さんに、何を書こうと自業自得（じごうじとく）ですから……とかつて、言われてしまうんちゃうんかいなとか……、そんな思いで心はザワザワしてきた。

怖い、怖い、怖い。ああそうか、私はずっとこうして自分の思いを縛ってきたんやな、その一因が、この他力の思いに如実（にょじつ）に出てるなあと考えた。びびってる。神を恐れてきた他力の思いやと思った。一生懸命に他力をしてきました。幸せになりましたからです。そのために、神に忠誠を誓ってきた自分でした。神が私を幸せにしてくれる。神が私に幸せを与えてくれる。そのために、私は神に忠誠を誓ったのです。この思いがしっかりと自分の中に根付いていました。

この学びに出会ってから、本当に一生懸命やっていると思ってきたけど、それがすべて他力やと気付くのに、ほぼ三十年掛かりました。そしてやっと、自分の心を見る喜びを知りました。あれだけ恨んで憎んで罵って馬鹿にしてきた私の環境全てに、ありがどうの思いが出てくるようになりました。この環

境の中で、自分の心を見ていけることを喜んでいる私があります。だから今回のこの企画に、心は素直に反応してくれたんだと思います。そしてそれを出さしてもらって、私は自分の心を縛るといふ心癖の一因をまた一つ教えていただきました。そして素直に自分の心を語ることはとても嬉しいことだとも教えていただきました。すべては自分の心を見るための教材なんだということも改めて感じました。とても嬉しくなりました。これからも自分の心癖とともに喜んで歩んでいきます。ありがとうございました。

37

***さん、心を田池留吉に向けて、あなたの思いを語ってみてください。

田池留吉に心に向けた時、私の世界を、私がつけてきた世界を感じます。真実の方向ではなく、肉を

本物としてきた他力の世界に、自分の幸せと喜びを求めてきたことを心に感じます。

形に生きてきた私です。どうしてもその形の世界の中で、自分の喜びと幸せを求め、そこで幸せな自分、喜びの自分に到達することが私の思いでした。そんな他力の世界にずっと心に向けてきたことを、私の中が伝えてくれます。田池留吉に思いを向けて心を語る時、そのことを語らずにはいられません。

その世界を自分の中で、しっかりと見ていきなさい、見ていかなければならない、見ていかなければ、私の心は、正しい方向に向けることなどできない、中がそのように伝えてきます。

***さん、あなたの中は正直です。意識は正直なんです。波動の世界は正直です。あなたの心は、そのように語っています。おそらく、肉のあなたは、この学びを幾分やっていると思っっているでしょうが、とても、そんなどころではありません。あなたの中に思いを向けた時、私の心に感じるものを、そ

のまま言葉で表現すれば、中は、そんなところではないということになります。これをホームページで見ると、あなたの心がどのように動いていくのか、それは、またあなたの勉強です。

ただ、あなたは、あなたの心を、しっかりと見ていくことをするだけです。

おそらく、あなたは、そうされるでしょう。あなたの中は求めているからです。それは、私の心に伝わってきます。

出てくる思いにしっかりと心に向けて、自分を語ることをしていただく。

異語。

***さん、田池です。お母さんに使ってきた思いに、心に向ける瞑想を続けていってください。あなたの中の凄まじいエネルギーを感じるでしょう。母に向けてきたエネルギーは凄まじいです。

真実の方向に行くためには、そのエネルギーを、

自分の中で確認して、そして、受け止めていかなければなりません。そのことを、あなたの中で感じていくことから、まず始めていってください。

何をぬかすか。そんなこと思っていない！当時の私はそうでした。この学びを肉の勉強と同じように思っていたからです。今まで一生懸命にやってきました。負けるものか！誰よりも早く真実を知るのだ！欲とも思わず、欲でやってきました。田池先生から「あんた一生懸命にやってるから教えたるわ。欲や！」言われた時に「えっ？」と思いました。私は言われた通り、一生懸命に真面目まじめにやってきましたのにそれが欲だったなんて……。努力やない。素直さや」本当の「素直」が分からなかった。

「お母さんに使ってきた思いを見て下さい」「自分の凄まじいエネルギーを知って下さい」「優しくなつて下さい」セミナーの中で、日々の生活の中で自分のブラックのエネルギーにへきえきしていました。「自分から逃げたい。こんな自分から逃げてしま

たい」と何度思った事か。でも出来なかった。やるしかなかった。中に思いを向けると「助けてくれ」と言っているから。「お前しかないんだ」と言っているから。くそつたれ！くそつたれ！中から出る思いは全て自分なのだ。相手ではない。毎日毎日ゼロ歳の自分を思いながらお母さんに心を向ける。田池留吉に心を向ける。宇宙を思う。ただ思う。素直になってただ思う。意識が仕事をやる。肉は何も出来ない。「肉の思いを緩ゆるめていきなさい。あなたは肉ではありません。」「あなたは愛です。まだまだ信じられなくてもそれが本当の事です」意識の転回をしていく事だけが自分を救う道だと思いました。

毎日毎日……。少しずつ、少しずつ……。量が質に変わっていききました。「ああ……。お母さん、御免なさい。私は間違ってきました。ありがとう、お母さん、私は今幸せです」「お母さん、ありがとう」この思いに行きついた時、私は私を許す事ができました。肉の幸せを求めた自分も、「我一番、我は神なり」の思いで生きてきた自分も全て自分なんだと、「愛し

ている」と思う事ができる様になりました。

嬉しかった。ただ嬉しかった。ただ自分にありがとうでした。永遠に続く学び。ただ思うは田池留吉、アルバート。ただ思う事がこんなに嬉しいなんて。何も要らない。幸せを感じるのに本当に何も必要としなかった。私は私を思うとき、ただ嬉しい。「くそったれ！」も「田池死にさせ！」も全て嬉しい。全て喜び、本当に嬉しい。学べる事が嬉しい。ありがとうございます。

……この思いを出した後、肉の思い（他力の思い）、仕事の段取りを考えている思いが出てきました。油断も隙すきもない。淡々と自分の心を見ていく事だけです。

38

***さん、心を語ってみてください。

何のために生まれてきたのかを、自分に問い続け

ています。今世、セミナーに集えてよかったです。自分の間違い、心の中の間違いを見させてくれるこの機会を得ました。他力の思いを心に掲かかげながら、私は、ずっと転生をしてきた者でございます。神を求めてきました。宇宙のパワーを求めてきました。何度も、何度も転生を繰り返してきました。たくさん、の過去世達が、私の中で叫びます。間違ってきた、間違ってきた、どうして、自分は肉という形を持ってくるのか、その思いに、今世、私は、ようやく応こたえていけるような、そんな今です。

ああしかし、私の中には、まだまだたくさん暗闇があります。母に使ってきた思いを見ているが、母に対して、私の心の奥深くに、まだまだすごいエネルギーを抱かかえています。母の意識に対して、まだまだ、私は自分を崩していない部分を感じます。

それは、田池留吉に対してもそうです。だからこそ、これからの転生があるのだと思います。自分の心の奥深くに進んでいくこと、私は、そう、これからの転生の中において、そのような計画を立ててい

ます。

どんなに苦しい転生だったか、今、心の中が一斉いっせいに叫んでいます。

その心の叫びが、これからの転生を計画していくのだと感じています。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、心の中で呼ぶ田池留吉の世界、まだまだ小さいです。ああでも、今世、この世界を心で少し感じた。これだけでも、大きな出来事です。

心の中を覗く時、田池留吉の思いを私は、感じます。しかし、その思いをまだしっかりと受け止めることができない状態が、今の私です。

田池留吉、心を合わせてまいります。

異語。

この学びに出会えたという事 자체가、本当に凄い事だったと実感しています。そして又、意識の世界で進化するという事の難しさも感じています。が、今年、二〇二〇年は、節目ふしめだという気がしています。何もかもキャンセルとなって、十分に時間があります。故郷を捨てて、NYまで逃げていった私でしたが、今その私がふるさとに箱詰めになっています。ところが、こんなに良いところを私はどうして捨てて、アメリカまで行ったのだろうというくらい、カルフタブルな自分に出会って、自分でもびっくりしています。間違っていたという思いが、じわじわと押し寄せています。

これからの十年間は、母との時間だと思っています。何もかも捨てて転地を求めて、自由をもとめて、NYに行ったのですが、今回、またふりだしに

戻されたような気がしています。メッセージの英訳も、やはりじめて見ると、自分が受けるメッセージが違ってきている事に気がつきました。私の心はいつも、いつも、NYでした。音楽はもちろんですが、それ以上に、やはり、この学びの二五〇年後が、知らないまでも、心の中にあつたのだと思います。とにかく、強い強い思いでした。その思いを実現したのです。が、一方で、母を捨て、故郷を捨て、己一番、我が力を現せて然り、という思いもあつた事を否めません。が、そんな地で、私は、この学びと出会いました。意識の世界の計画と云えば、一言ですが、本当にもの凄い筋書きだと思えます。そして、二〇二〇年、又私は、ふるさとに、箱詰めとなりました。しかし、私の心は、以前とは違います。母と共にいる時間は、限られている事を肝に銘じています。この時間が私には大事な事を、私の意識は知っています。

何もかもを自分の心の外に求めていた時は、幸せとはほど遠い心の世界でした。しかし、今は、そ

うではない事を知りました。全てが私の心の中にある、何も外に求める必要もない。喜びが私の心の中にあつたから。そう思えたとき、この自然豊かなふるさとが、何もかも、全てここにある事が分かりました。そして、何よりも、私の母が、肉を持っていてくれます。ああ、本当に愚かであつた。その思いが、自分の中から、沸き上がってきます。意識の流れは、もう待った無しのところまで来ています。だから、今、こういうことが起こつた。うかうかしてられない、本当に、残された時間は僅か。意識の転回、肉からの脱却は、もう今しか残されていない。間違つて、間違つて、転生を重ねてきた。その自分に、今報いる時が来た。心の中に全てがありました。他力に生き続けて来た、長い歴史に、私は終止符を打ちます。この心一つで良かった。田池留吉、アルバートが、私の心の中に存在している、それだけで、十分だった。心が、宇宙へと広がります。私達の仲間が待っています。この宇宙が、進化します。私も共に歩みます。有り難う、アルバート。肉なくして

も、心は、一つ。頑張ります。

田池留吉の方に心を向けてみてください。

はい、田池です。その通りです。残された時間は、長くはありません。その肉あるうちに、二五〇年後に続く道をしっかりと心に繋いで下さい。これからの時間十年間お母さんと共にいる時間を大事になさって下さい。そこに全てがあります。そこからあなたの学びを進めていって下さい。少しずつですが、あなたの心は、広がってきています。その作業を続けていって下さい。毎日の積み重ねが、きっと、あるときアウフヘーベンします。頑張ってください。ありがとうございます。

39

二〇一〇年五月のある日、田池先生から少し大きめの封書が届きました。開けてみると、紙に印刷さ

れたメッセージと田池先生がメッセージを読んでくださった音声と異語のCDが入っていました。

いつも読むと心に響くものがあって、じわっと涙が出てきました。

当時はうれしくて何度もメッセージを読み、CDにあった音声を聴いていました。

今思うとその喜びは、田池先生に認められたい思いが強かった私が、先生からちよつと特別に何かしてもらった喜びに近かったな、と思っています。

そしてここ数年は、メッセージを読み返すことも、CDの音声を聞くこともなくなっていました。

UTAブックさんの問いかけとそのことについてのホームページの文章を読んで、私は甘かったな、と思いました。

改めて読み直して、このメッセージをいただいた喜びはそんなちっぽけなものではないと感じます。その意味、その凄さ、まだまだ私は全然分かってないと思いました。

それから毎日朝の瞑想の始めと夜寝る前に音声を

聴くようにしました。当時はメッセージの文言の方に思いがいつていましたが、今は後半の異語の方に心がいきます。こっちが本編だったんだ、という感覚です。

異語に合わせて異語を語り始めることもよくあります。本当にすごいすごい宝物をもらっていたんだな、と思います。

ここ最近瞑想すると、これしかない、ここしかない、という思いが出てきます。

田池先生にいただいた宝物を大切に大切にしながら、メッセージにそって真剣に学び、この人生を生き抜いて、二五〇年後に繋いでいくんだ、と思っっています。

以下、送っていたいただいたメッセージの全文です。

***さん

二〇一〇年五月二十日（木）

***さん、心を語ってみてください。

お母さん、私は、あなたの思いを感じてきました。素直になっていきます。自分の中を、もっと、もっと素直に広げていきます。心の中に培ってきた世界、そのエネルギーを、私は、あなたに向けて、もっと、もっと素直に出していきます。自分を閉じ込めていました。心の中の苦しさを閉じ込めていました。それが、どれだけ自分に冷たかったか、今、私は心を感じています。

心を見つめてまいります。お母さん、あなたに肉をいただきました。今世の私は愚かでした。本当にあなたを見下げ、見下げ、見下げ続けてきました。私ほど素晴らしい者はない、そのように私は、あなたにこのエネルギーをぶつけてきました。そうではありませんでした。

ああ、私は肉にもあなたを見下げていました。そうなんです。私は、意識の世界はもちろんのこと、

肉でもあなたを見下げ続けてきました。ああそうではありませんでした。私が一番愚かでした。あなたから、今世肉をいただくかなければ、私のこの愚かさはずっとこれからも、ずっと、ずっと続いたでしょう。今世この肉をいただいて、私は、自分の中を語るということを知りました。本当に愚かな自分を心にかけています。

自分のエネルギーを、もっと、もっと見つめていきます。お母さん、これから、しっかりと自分を見つめていきます。

素直な私、喜び溢れる私を知っていききたい。今、母に思いを向けたとき、そう自分が語っているのを感じます。

嬉しいです。お母さん、ありがとう。心の中にお母さんと呼べる私があったんですね。嬉しいです。素直に呼べる私を、もっと、もっと知りたいと、今、心から思います。

***さん、田池留吉です。どうぞ、しっかりと

と瞑想を続けていってください。頭を働かすことなく、あなたの心で感じたものを信じていく、そんな瞑想を続けていってください。

あなたの心は叫んでいます。自分の本当の姿を知りたい、もっと、もっと自分に優しくなっていきたい、そのようにあなたの心は叫んでいます。

私達は、その叫びをあなたに伝えていきます。

このような形で、あなたにメッセージを送っています。

どうぞ、田池留吉、アルバート、そしてその宇宙をあなたの中で呼べるあなたになっていってください。

そのためには、まずお母さんの温もりをしっかりと自分の中に広げていくこと、自分のエネルギーを感じ、そのエネルギーをしっかりと見つめていくことです。

お母さんの温もりは、自然とあなたの中から出てきます。なぜならば、あなたが温もりそのものだからです。あなたが培ってきたエネルギーを感じていけばいくほど、温もりのあなたが出てくるんです。

それをあなたに伝えたいと思います。あなたのエネルギーをもっと、もっと自分の中で知りなさい。知っていくということは、母の温もりを感じていくということですよ。

それを瞑想の中で、やり続けていってください。

そして、あなたの心が今よりも少し広がって、宇宙と自然に呼べるようになったら、宇宙に心に向けてみてください。

セミナー会場でも申し上げたように、あなたにも宇宙を感じてほしいのです。あなたの中に広がってきた宇宙は待っています。

心の中に宇宙と素直に呼べるあなた、そんなあなたを私達は待っています。あなたの中で待っています。心の中に宇宙、田池留吉、アルバート、しっかりと呼べるあなたに蘇よみがえってってください。



***さん、あなたの心を語ってみてください。

田池留吉にずっと、ずっと反抗をしてきました。これでもか、これでもかと、私の中は、田池留吉を目掛けて、凄まじい勢いで反抗をしてきました。こんなに私の中が、必死に訴えていたのに、私は、この肉を前面に出してきました。それが、私の一番大きな過ちあやまちでした。肉を前面に出しながら、田池留吉のほうに心を向けることなど、全く不可能でした。そのことを、ようやく、私は、自分の心で感じ始めてきています。

自分の中が定まっているようで定まっていなかったです。それを認めます。私は、自分を誇ってまいりました。肉というものを誇ってきました。田池留吉は、私の肉を認めなかった。この学び一筋と言いながら、決してそうではありませんでした。心が定まっておりますでした。

田池留吉に反抗する思いがこんなにもあるのに、私は、その思いに蓋ふたをして、いかにもこの学びをやっていますという風を装よそおってきました。

私の中は、そんな肉の私に対して、どこか冷やかな思いで見つめている。

「もっとしっかりと心を見つめる。もっと自分を見つめる。素直になって、ありのままの自分を見つめる。中途半端に学びをするな。」

私の中で、狂った間違った意識達が叫んでいます。私の叫びでした。あれは、私が私に対して伝えてくれていたメッセージでした。

異語。

***さん、ゼロ歳の時に戻ったあなたの思いを、思い出してください。そして、その思いを、ずっと心に広げてみてください。それから、その中で、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、私にずっと、ずっと真実の方向を指し示してくれていました。今、あなたに思いを向けた時、何とも言えない優しさを感じます。

田池留吉、あなたを私は、やはり肉で見て、肉で感じていました。

心の目であなたを見ていたつもりですが、私は、肉の目であなたを見ていた、今そのことを感じます。田池留吉のほうに心を向けるとは、こういう感覚でした。

はるか、はるか彼方^{かなた}から、私はあなたを目指してやってきた意識です。

ああ、田池留吉。はい、私の中の宇宙に、はい、そこに、もっと、もっと心を向け、思いを向け、あなたの中で感じていってください、このようなメッセージをいただきました。

異語。

***さん、お母さんの反省を続けてきたとのこと、どうぞ、温もりに対し、徹底的に歯向かってきたあなたの思いを、どんどん心で感じ、そして、その中で感じる揺るぎない母の思いを信じ、宇宙へ心を向けていってください。

しかし、その過程で、肉の***を表そうとすれば、たちまち、心の針が狂っていきます。あなたは、まだまだそのような状態です。心がビシツとしないのは、その狭間^{はざま}にあるからです。

あなたが、安定飛行をするためには、ただただ母を思う瞑想を続けることが必要です。どれだけの凄まじいエネルギーを心に蓄^{たくわ}えてきたか、じっくり自分と向き合い、そして、それでも、そんな自分を包んでいこうと、自分に限りない優しさを注いでいけるまで、自己を確立していってください。生半可^{なまはんか}な思いでは、到底歩いていけない道、それがアルバートへの道です。

凄い意識を受けてもらっていました。

1. この意識を受けてもらった前提

この意識を受けてもらった少し前、セミナーのお風呂の湯船の中で田池先生から、「あなたは確かに何でも器用にこなす。しかし、ビシッとしたところがない！いつになつたらやるんや！」と言われましました。

自分なりにこの学び一筋、一生懸命やってきたつもりなのに「ビシッとしたところがない！」と言われたことがよく分からなかったので、意識を受けてほしいと思い、申し出たのでした。

2. 意識を受けてもらって

僕はこの学び一筋、真剣にやってきたつもりでした。この学びの誰よりも真剣に一生懸命やってきたつもりでした。しかし、受けてもらった意識は「これでもか、これでもかと田池留吉をめがけて凄まじい勢いで徹底的に反抗してきた」というものでした。

正直言ってよくわかりませんでした。何が徹底抗戦なのか、何が凄まじい勢いでいきおの反抗なのか分かりませんでした。

3. この学び一直線……暴走列車の如くごと

どれほど苦しい環境の中から学んできたことか、仕事から帰ってきたら瞑想して、意識を受け、田池先生に送るということを日課にしていました。その当時から学び始めて二十年弱、田池先生に送った意識や反省文は千回を超えていたのではないかと思います。

この意識を受けてもらった後も、とりたてて大転回をしたわけでもなく、日々、同じペースで田池先生に反省文や田池留吉のメッセージを送り続けていました。

4. 田池留吉のメッセージを五十回受ける

ある時、田池留吉のメッセージを五十回受けて先生に送るといふ皆への課題がありました。僕は毎朝、メッセージを受けて通勤前に先生に送っていました。

た。そして、五十回受け終わったとき、先生からメールがきました。ちょうど学びの仲間は、先生からCDが送られてきた頃だと思えます。

「田池です。メッセージをどのように活用していますか。反省、瞑想は進んでいますか。お知らせください。では、お元気で。」

ご承知の通り、田池先生にどんなにメールを送っても、先生から返信がくるということはめったになく、おそろく四〜五年に一度、返信がくるかこないか、そんな頻度ひんんどだったと思います。僕は嬉しくなり、メールをもらったその夜、さっそく先生に電話をしました。

5. 田池先生との電話

電話の内容は自分にとっては猛烈に厳しいものとなりました。

「あなたの受ける意識は十段階では1か0・5の段階。まったく意識の転回が進んでない。基盤きばんがまったく違う。田池留吉のメッセージではない、波動が

違う。母親の温もりがまったく分かってない。母親の温もりが分からないということは、何も分かっていないということ。二十年も学んできてこんな状態ではどうしようもない。己が偉い！私の言葉をどのようにあなたがとるか知らんけど、あなたはまあ、一言で言うなら偉い！己が偉い！己が偉い！」ということだけは言うとかわ。あなたは自分の肉を過信してる。肉が強すぎて意識が出てこれない。全部、頭でやってる。私のホームページ、読んでるか？お母さんの反省がほとんどできていない、反論できたらしてみ。できへんはずや。」

僕は電話を切った後、茫然ぼうぜん自失じしつとなりました。茫然自失、今まで猛烈な勢いきほいで、この学び一筋で暴走列車のように全速力で駆け巡ってきました。「これしかない、これこそが真実だ、これしかない！」と懸命に走り続けてきたつもりでした。

こんなにも学び一筋、二十年やってきて結果がこれかと思いました。日々、欠かさず読んでいた

ホームページを読んでるかとかまで言われたことが大ショックでした。

自分ほど強いものはいないと豪語してきた全速力の暴走列車が、とてつもなく巨大な力強い存在に真正面から立ちはだかられ、衝突して、跳ね返され、木っ端みじんに打ち砕かれたのでした。

電話を切り、机に向かって座った時、気がついたらポロポロと大粒の涙がとめどもなくほほを伝い流れ落ちていました。

何もやる気が起きず、ただただ茫然自失、心が交通事故にあい、気を失い、救急車で運ばれたのでした。絶望のどん底に落ちていきました。

6. 田池留吉からのメッセージ

あの電話の二日後に田池先生がメールをくれました。た。

「田池です。」

実践↓喜び・温もり↓闇を包む・宇宙に流す↓愛。
メッセージの活用とは意識の転回・自己確立、上

記の実践。」

そして、その十日後にもメールでメッセージをくれました。

「田池です。肉を誇る、認めさせようとする思いがまだ強くありませんか。」

自分の闇、田池留吉に抵抗するエネルギーを認め、優しい温もりで包んでいこうとしてきましたか。

お母さんの温もりを感じていますか。

あなたの宇宙に心を向けてきましたか。

田池留吉の宇宙、温もり、優しさ、喜び、広さ、大きさをどのように感じていますか。

幸せですか。

あなたからどんな波動、エネルギーが流れていると思っていますか。

本当に、間違いなく、あなたの心は田池留吉、アルバートに向いていると確信していますか。

では、お元気で。」

7. 気をとりなおして……

先生から田池留吉のメッセージを送ってもらいましたが、気は晴れませんでした。意気消沈^{いきしょうちん}茫然自失^{ぼうぜんじしつ}。病氣入院中。日々の日課であった反省文や意識を受けて送るといふこともやめてしまいました。瞑想もやめてしまいました。ホームページだけはかろうじて読んでいたのか記憶はありません。二十年やってきた結果がこれか。人生をかけてやっていこうと、勤務先でのポジションも全部降格を願って出てセミナー一筋に迎えるように整備し、どこまでも真剣に向き合ってきた学びの結果がこれかと思うと、自分が木っ端みじん^ぼに崩壊し、大粒の涙がポロポロとほほをつたう夜を何度も過ごしていました。絶望の日々でした。

8. 田池先生は絶対に僕に悪いことはしない……

間違っているのは僕に決まっている……

しかし、そんなことばかりはしてられない。心は茫然自失のままでしたが、「田池先生は絶対に僕

に悪いことは言わない、間違っているのは僕に決まっている」と頭は思っていました。肉では田池先生が大好きでした。あの電話から一か月目くらいから、何とか気をとりなおして再出発を始めました。

田池留吉のメッセージを受けるのはしばらくはやめにして、お母さんの反省のみ重点的にやり直そうと思いました。ひたすら、お母さんにしてもらったことだけを思い出していこうと思いましたが。それを日々の日課として、母親の反省を再び田池先生に送るといふ生活になりました。

先生から返事が欲しいとか、認めてほしいとか、そんなこと思いませんでした。ただひたすら送り続けました。

「受けたメッセージは10段階の1や」と言われたことが頭から外れず^{はず}、「0・5点か1点の意識でもええわ。来る日も来る日もお母さんにしてもらったことをひたすら思い出していこう。これだけをひたすらやっていこう」と思い、何の見返りも求めないと心に決め、先生に送り続けました。

9. 全部、肉だった……

あるとき、「自分がやってきたことは全部肉だったのではないか」と心の底から浮かんできました。風がふわっと吹いたかなといううつつとした思いでした。そして、そのことをメールに書いて先生に送りました。あの衝撃の電話から一年くらいが経過していました。

「全部が肉基準でした。瞑想をしないと肉基準の自分であったということすら分かりませんでした。肉基準で母に刃向かい、自分はやっていて、自分はすばらしい、何が悪いかとやってきました。瞑想をしても意識に入っていけなかった。いつまでも肉でいる方がいい。肉でいる方が自分を正しいと言えるから。意識に入っていけば、正しいなどと口が裂けても言える状態ではなかった。情けない状態でした。肉を基準に田池留吉に刃向かってきました。立っている位置がまったく違っていても分からず、田池留吉に戦いを挑み続けていたのでした。肉が基準

だったから大きな顔をして戦いを挑み続けられたのでした。無知でした。何一つ、心で分かっている状態でした。」

これを送ったらすぐに先生が返信してくれました。

「田池です。嬉しいメール、ありがとう。楽しみにしています。奥さんによろしく。」

10. 肉基準ということがどうということか心で分らなかった……

先生が連絡をくれたのは、あの電話の時からでした。「なんで、こんなメールには返事をくれるんやろう?」と思いました。なぜ、メールをくれたのか、この時はさっぱり分かりませんでした。

しかし、徐々にそういうことだったのかと思えました。「あなたの意識です」で伝えられたこと、そして、田池先生との電話で厳しく言ってもらえたこと、「田池留吉に徹底的に刃向かう」というのはこういうことだったのかと思いました。

肉でどんなに全身全霊を込めて取り組んだとしても、肉基盤であれば、それは欲望でしかなかったのだと思います。田池留吉が暴走列車に急ブレーキをかけてくれました。田池留吉しか急ブレーキをかけたくれる人、かけられる人はいなかったんだと思いました。僕は己が偉いから、田池留吉以外のの人から言われても聞けなかったと思います。しかし、田池留吉が僕の前に大きく立ちほだかつてくれて、「おまえは間違ってる!」と伝えてくれました。

この一瞬を願って願って願ってきたんだと思いました。

「誰か、この暴走列車を止めてくれ!」と心の奥底から悲痛な叫びをあげ、地獄の奥底を這いずり回ってきたんだと思います。

この一瞬のために宇宙の果ての果てからこの地球を目指してやってきたんだと思いました。今は田池留吉の肉はありません。あの一瞬、あの瞬間、田池留吉の肉と奇跡の時間を共有させてもらっていたん



すべてを見透かし、すべてを知っている目

だと思いました。

あの電話の後の一年間、夢遊病者のように、やる気がない者のように自分で自分を見ていましたが、今思うと、夢遊病者でもやる気がない者でもありませんでした。暴走列車からみればやる気のない者のように思いましたが、過信していた肉が崩れ、肉が徐々に弱まっていつている時間だったんだと思います。

11. 再び「あなたの意識です」……

「あなたの意識です」を読み返すと、「田池留吉にこれでもか、これでもかと凄まじい勢いで徹底的に反抗してきた」とあります。これは「肉基盤の自分が暴走している」ということでした。「他の誰よりもこの学びを真剣にやっている、そして、実際に真剣に打ち込んでいる」という思いが「徹底的に反抗」だとは思いますが、思いませんでした。しかし、「このことが自分の一番大きな過ちだった」のです。

暴走した「肉を前面に出しながら、田池留吉に心

を向けるなどまったく不可能です」、まったくその通りでした。

「超真剣に学びに向かっている、この学びこそ人生という猛烈な思い」こそが「徹底的に反抗している」ということでした。長い長い転生の過程において、このことが分からず苦しみぬいてきたのです。

そして、遂にそのことを分かるためにすべてを整えてこの地球のこの時に肉をもらった「はるか彼方から田池留吉を目指してやってきた意識」であったのです。受けてもらった意識には、見事なくらい必要なことがすべて書かれてありました。

そんな何物にも代えられない貴重な時間と空間を経験させて頂いていました。「二十年やってこのありさまか」と、大粒の涙がほほをつたい途方にくれ絶望の日々を送っていましたが、そうではありませんでした。意識はひたすらに田池留吉、アルバートへ帰る道のりを探りながら懸命に歩み続けていたのだと思います。肉には分かりませんでした。

12. 最後に……

「田池先生は絶対に僕には悪いことはしない。間違っているのは僕に決まっている。肉では田池先生が大好き」、二十年学び、田池先生と数えきれず共に過ごさせてもらい、肉でそのように思えたことは命綱いのちづなでした。

「二十年やってきて（今では三十年ですが……）、こんな状態ではな、せっかくやってきたこんなんではだめや」と言われ、絶望のどん底でしたが、暴走列車が学んできた一つの成果は「田池先生は絶対に僕に悪いことはしない、先生の言ったとおりになり直していこう」と肉で思えたことでした。

「田池留吉に懸命に肉でくらいつき、暴走列車を止めてもらう」、そんな筋書きすじがを描いてきたのだと思えました。

そしてこの筋書き通りの体験をできたことは、自分にとって人生の宝物となりました。どんなにその時は絶望の日々であっても、意識は計画通り、ただただアルバートへの道を歩こうと懸命に模索もさくし続け

てたのだと思います。

田池先生はその五年後に亡くなりましたが、田池留吉の肉と時間を共有できた二十五年間、お金では買えない何物にもかえられないとてつもない経験でした。厳しすぎて絶望のどん底に叩き込まれたと思つたあの電話は、暴走列車を止めてくれる巨大な愛のエネルギーだったのだと思います。肉はどん底と思い込んでいても、意識は懸命に真実に帰ろうと必死だったのですね。意識を受けてもらうということは凄すていことでした。そして、受けてもらった意識に真剣に向かい合うことがこれまた物凄いことでした。愛のエネルギーの巨大さ、完璧さに改めて気づかせてもらいました。

13. メッセージを受けるということ

そして最後にふと思つたのですが、あの電話の後で田池先生が送ってくれた田池留吉のメッセージは「メッセージを受けると言うことはどういうことであるか」を教えてくれていたのです。十年たった

今、やっと分かりました。

「田池です。実践↓喜び・温もり↓闇を包む・宇宙に流す↓愛。」

メッセージの活用とは意識の転回・自己確立、上記の実践。」

メッセージを受けると言うことは、本当に本当の田池留吉のメッセージを受けたならば、受けているそばから宇宙に愛が流れていき、闇を包み込み、喜び、温もりへ闇が帰っていつてしまうということでした。「あなたが田池留吉のメッセージを受けているときはどうや、受けると同時に愛へ帰っていつて感か？ただ受けてるだけじゃ全然ためやで」ということでした。

UTAブックさん、こんな貴重な機会を提供してくださり、ありがとうございます。

41

***さん、思いを語っててください。

自分の中に溜め込んできたエネルギーを、心の中で知っていくには、私は、まだまだ時間が必要だと思っています。これからの時間を大切にしていきたいと思っています。自分が溜め込んできたエネルギーに、私は、しっかりと蓋ふたをしています。まだがっちり私の中に固まった状態かたまりです。そんな心の中にある塊を、少しでも緩ゆるめていこうと、私は、今の時間をいただいています。私も、苦しい中を生き続けてきた、そんなことを感じます。思いを語ることの優しさを、もっと自分の心で感じていきたい、今、そのように思います。

***さん、田池留吉を心に呼んでみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉。心で呼ぶ難しさを感じます。ですが、素直に田池留吉と、お母さんと、心で呼ぶ私があったことを信じていきたいです。素直にお母さんと呼んでいた頃の私に戻っていきたい。私の中は、そう言っています。

異語。

***さん、そうですね。心をもっと語っていただく下さい。思いをもっと語っていただく下さい。ゼロ歳の時のあなたに戻り、お母さんに抱かれていた頃のあなたに戻り、その頃のあなたを思い出して、自分を語っていただく下さい。

心の中に語りたい思いがあるはずです。お母さんに甘えたい思いがあるはずです。お母さんって、ただただ呼んでみたかったあなたの思いがあるはずです。そこから始めていただく下さい。お母さんって、素直に呼べたなら、あなたの中は、少しずつ語り始めます。

お母さん、こんなに苦しかった。お母さん、こんなに寂しかった。本当に寂しかった。お母さん、私は寂しかった。いつもお母さんに側にいてほしかった。

そんなところから、あなたの心を語ってみてください。そうしていけば、なぜ、あなたは、他力へと走っていったのか、心で感じていくはずです。心を閉ざしていることが、苦しかった、ポツンと、あなたがそう呟けば、あちらからも、こちらからも、その思いに賛同してくるでしょう。

どうぞ、ゆったりとした時間を作っていただく下さい。自分が用意した時間を大切にしてください。

懐かしさと涙と新鮮な思いで読ませていただきました。

これからも大切にしていききたいと思います。心を語るのが苦手な私ですが、少しでも変わっていったらと思います。

私はCDもいただきました。思いがけず、ありがたくて、以来毎日聞かせていただいています。

3・11の津波の映像を見ていたら、パニックの発作をおこしてしまい、自分の力で眠れるようになるのに一年近くかかりました。

たびたび襲ってくる死の恐怖に怯えながら、一日に何度も何度も聞いた思い出があります。

田池先生、塩川さん、スタッフのみなさん、ありがとうございます。

42

***さん、心を語ってみてください。

心の中の思いを語ることをしてこなかった私に、

心を語りなさい、そう伝えてくれています。

苦しかった私でした。お母さん、苦しかったです。こんなにも苦しかったのか、母の反省をしていく時に、私の出す思い、出すエネルギーを感じます。

苦しいだけでした。苦しい中に私はあった。そう、そんな苦しい私を、母は、母の意識は、受け入れてくれたのですね。

どうしても、どうしても、私は、生まれてきたかったのですね。

苦しい、苦しい、苦しいと、私の中が、叫び続けてきた、この心を感じていってください、そんな優しい思いを、今、感じさせていただいています。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、はい、田池留吉に対して、大きな、大きな間違いを繰り返してきました。我こそ素晴らしい世界にある、そんな思いを、ずっと、ずっと、田

池留吉に向け、流し続けてきた私の中の他力の世界
でした。

田池留吉を思う時、その他力の世界が、私の中に
まだまだしっかりと鎮座していることを感じます。

それでもなお、私の心を語りなさい、と言ってく
れた優しい中であつたんですね。

他力に使ってきた心を見てまいります。田池留吉、
その心を見てまいります。

異語。

十年前は姑しゅうとめさんが入院しており他県迄行って必
死で生きてたなあと振り返っております。

田池先生と塩川さんで一生懸命作って送って下
さつたCD感謝で一杯です。

本も本棚に色は褪あせてるけど新しい様にしまつて
ありました。今読み返しております。

CDを何度も何度も区切り毎にハイと返事をしな

がら聞いてきましたけれど、心で分かると言う事は
難しかったです。

他力の思いの恐ろしさ、凄すままじさを、どうぞ、自
分の中でしっかりと広げ見つめていって下さい。

「私は何も間違っていない」と言ってる私に、「い
いえ、そんな事はありません。真つ黒なヘドロを宇
宙に撒まき散ちらしてきた、それを本当にあなたの心で
感じて見つめて下さい。瞑想を続けていって優しい
思いに蘇よみがえって下さい」と頂きました。

ハイ、有り難うございます。言うに言えない恐ろ
しい凄まじいエネルギーを発してきたなあと本当に
本当に申し訳なかつたと心からお詫わびです。

どれ程現象の中で、このアマテラスは素晴らしい
んだと唸うなつてきたかと言う事を感じさせて頂きまし
た。

申し訳ありませんでした。我一番のこの心は出せ
ば出す程奥深くに染そまっています事を知りました。

何億年も、我に従え、この我を敬えと聳え立ってきたこの間違ってきた心。間違っている事も分かりませんでした。

苦しかったです。苦しい心を表に出してはいけな
いと、どれ程押し込めて、素晴らしい自分を長い長
い年月演じてきたんだなあと感じております。

そして今世、心の中のため込んできた間違いを出
していって下さいという現象の場を頂いて今、段々
心が軽くなり安堵で一杯です。

この現象の場がどれ程優しく、温かい場所なの
か、嬉しいです。

心の底の、底の、底の、奥底にため込んできた肉
として生きてきた過ち、認める訳にはいかなかった。

とても、とても認める訳にはいかなかった。でも
今どれ程どれ程、長い年月苦しかったかと、間違っ
ているから苦しいんですと伝えて頂き、このまま肉
を脱ぐ訳にはいかないと、間違って、間違って生き
てきたんだと反省しております。

そしたら、心が広がってきました。段々心が軽く

なって、ああ嬉しいです、嬉しいです。ああ私は愛
だったんだ、愛だったんだ!!

初めから愛だったのに、自分で土壺に嵌って出ら
れなくなってしまうのだ、どれ程無知とエゴと欲
にかたまってカチカチになって、大間違いの道ばか
り歩いて田池留吉にどれ程愛を伝えて頂いても、愛
をぶった切ってぶった切って、セミナーに参加して
きた事を今心からお詫び申し上げます。申し訳ござ
いませんでした。

愛、心のふるさと、母なる宇宙に帰って参ります。
そして、人間は目には見えません、形ではありません。
せん。意識、波動、エネルギーですと伝えて頂いた
幸せです。

この肉は何にも何にも誇示しなくても良かったん
だ、消えてなくなる物ばかりをどれ程心の中に、は
ちきれても大切に握り締めてきたか分かりません。

ああ、嬉しいです。嬉しいです。先生の異語と共に
喜びが心の中一杯に広がっていきます。

田池先生、塩川さん、学びの一員にさせて頂いて、

心から有り難うございました。

二五〇年後の再開を必ず果たして参ります。今世思う喜び、思える喜びを伝えて頂いて有り難うございました。嬉しいです。

UTAブックさんにこの様な課題を頂いて、田池先生、塩川さんに作って頂いたCDを今一生懸命に聞いて、自分の学ぶべき事が全部入っていたと、優しさの中で泣きながら聞いております。

有り難うございました。

43

***さん、心を語ってみてください。

私は、私を認めてほしかった。この思いが強かったです。この私を認めろ、そうやって、私は、田池留吉に向かっていききました。頭では分かっています。

肉の私など、どうでもいいことなど分かっています。しかし、心の中から出てくる思いは、私を認めろ、この思いだけです。

母に使ってきた思いを、ずっと見てきました。どれだけ己が偉かったか、母の言動から、私は私を見ってきました。心の中は、とても苦しかったです。自分を正当化してきた私は、自分の心の苦しさを分かちつつ、どうしても、それを認めることができなかつた。受け入れることができなかった。

認めよう、受け入れよう、肉で努力してきました。しかし、実際は、そんな自分自身を、ずっと突っばねていたように思います。

***さん、あなたは、田池留吉を信じていますか。

異語。

私は、田池留吉を信じようとしています。しかし、

これは、信じていますかの答えには、なっていないですね。信じようとしているけれど、信じていない、それが私の答えです。

田池留吉を信じようとしているけれども、今現在は信じていない。そうですね、あなたの答えは、そうだと思います。

田池留吉を信じていないあなたが、何をどう語るうとも、すべては肉基準です。肉の基準で、色々あなたの思いを聞いてみても、もう答えは分かっていると思います。長い間学んでこられたあなたです。知識は十二分にあると思います。どうぞ、しっかりと瞑想を続けていってください。

先ほど、あなたの中から、私を認めろという思いを、強烈に感じました。あなたの心は、そう語っていました。その思いを、しっかりと見ていってください。自分を認めさせる思いが、とても強いのです。その思いを、少し緩めていくというか、弱めていく

だけでも、あなたにとって、今世、大きな一歩になるのではないのでしょうか。ただ、そう容易く変わらないということは、あなたの学びの年月からしても、お分かりでしょう。

どうぞ、しっかりと瞑想を続けていく中で、本当の優しさに出会ってってください。母の意識があなたに伝えてくれた思いの深さに、出会ってってください。

「今、あなたは覚えておられますか?……」

この問いに、私は殆ど、いや微塵もと言って良いほど、覚えてませんでした。

そこで一日一回は、この私の意識を目にし、時には自分で声にだして読んだりして、まずは、「この意識は私だ。大切にしよう」ここから始めました。

やがて、私はそらに案じて言えるようになりました。

しかし、この行為は全部、肉の行為にしかありませんでした。原点の母親の反省は、やったつもりが

やってませんでした。

私は、ある時は集中的にノートに向かったり、日々の日常生活で思い出したり、ある時をふっと思い出したりして、如何に自分が己が偉い！そればかりでした。

そして、途中でやめてしまいました。

また、また……の連続でノートに書けば書くほど、書こう！となつていかなくなりました。

母親の介護、お金の問題、私自身の難病発見や治療。肉の身体のことを最優先、肉のことにどっぷりになり、セミナーに参加するだけになっていき、セミナーから帰ると、また肉でどっぷり。それで大きな顔をして「私は何とかやっている」肉で生きていました。

そして今、ある言葉がズシーンとききました。

まず、この学びありき！

つまりは、お母さん、田池留吉、アルバート、私は肉ではありません、私は意識です、私は愛です、

みんな一つ……この学びです。

これがまずあって、異語が飛び出す。

私の身体がどんどん痛い所が多くなって動けなくなつても、それが出来る。

実は先日、油汗がぼたぼた落ちるくらいの痛さの中、いつてみましたが、結果全くダメでした。

この体験は、めっちゃ大切なものとなりました。
甚^{はな}だしい0点そのものの結果でした。

やっても厳しい、塩川さんのホームページには触れられているけれど、まだ何もやってない私はその厳しさを抱きしめながら、今世やっていくしかありません。

私の中は、「お前なんかやめてしまえ！いくらやったってこそ田池はお前の中から消えない！いい加減分かれ！」

十年後の私は、同じ、己が偉い！のままでした。

今回、この事実をはつきりと認める、認めきる、それが素直になれる第一歩、本当に本当に良い機会を頂きました。

お母さんの反省、瞑想を死ぬまでやっていきます。もう、時間がありません!!
もう一人の自分が自分に伝えてくれました。
した。

UTAブックさん、私に本当に良い機会を作ってくさり、ありがとうございました。

塩川さん、ホームページにずぼっと書いて下さり、ありがとうございました。

そして、中の私、田池留吉、アルバー
ト………ありがとうございます、
いました。

何度でもお伝えします。

ありがとうございます。ありがとうございます。
ございました。



2匹の我が家の愛犬です。両方とも訳あり犬です。

1匹目(左)は、とめちゃん。未熟児で生まれ、売り物にならないというブリーダーの友人から縁があった子です。物凄く明るい波動を振りまいていましたが、散歩中、リードから離れて飛び出し即死でした。
2匹目(右)も訳あり犬です。娘がめっちゃくちゃ可愛がっています。部屋中走り回ってイタズラが大好きですが、てんかん持ちの子です。しかし、とにかく明るいです。

****さん、その通りです。すごいエネルギーを感じます。それでも、あなたは許されています。それでも、あなたは、待ち続けてもらっています。どうぞ、あなたの思いを聞かせてください。

田池留吉、お母さん、申し訳ございません。長い時間をかけて、本当のことを学ばせていただきました。

まだまだ道遠しの私を感じます。それでも、私は、今、自分の心で感じています。それでも、許されている、それでも待ち続けてもらっていると。

このことを感じ、私は、今世、本当に自分に誠実に存在しているかと思いました。

どこまでも、どこまでも、狂ってきた私です。今世も、狂い続けてきました。自らの出すエネルギーで苦しみ続けてきました。

本当に自分に冷たかったです。苦しい自分に、さ

らに、苦しいエネルギーを注ぎ込んできました。そのことを、私は、心で感じています。

異語。

****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、真っ黒な、真っ黒な世界を感じます。

田池留吉、本当にそうでした。そんな私を、冷たくあしらってきました。どれだけそびえ立ってきたか、分かりません。今も、自分の周囲の人達に、そのエネルギーを流し続けています。そびえ立っているエネルギーを、流し続けてきた私でした。

田池留吉、申し訳ございません。ただただ、その思いで、いっぱいです。

少しでも、心を軽くして戻っていきなさい、そんな思いが伝わってきます。

異語。

***さん、田池留吉です。

これから、二五〇年に至る激動の時の中で、どうぞ、ご自分を大切にしていってください。

大切にすることはどういうことか、今世、しっかりと学んでいってください。

常に頂いたコメントと何のために生まれてきたのかと共に学んできました。まだまだ肉基準ですが、今肉ある事が嬉しいです。

タイケトメキチ、二五〇年、宇宙を思う事が喜びです。そんな自分を信じてこれからも学んでいきたいと思います。



***さん、心を語ってみてください。

他力の反省をやっていきなさいよ、そう何度も、何度も、私は、促^{うなが}されてきました。自分の心が、色々なものを感じ、不安と恐怖の中で過ごしてきたこと

もありました。その体験が、私の中にあります。もう一步、心の奥深くに踏み出せないのは、そのためだ、私は、そうやって、自分を自分で押し留めていたような気がします。ああでも、それは、自分自身にとっても冷たいことでした。いくら、私が私を押し留めても、苦しい私が私に訴えてきている。それを感^とじます。早く、解^{はな}き放^{はな}つてもらいなさい、その思^{はな}いが伝わってまいります。

異語。

***さん、お母さんを思ってみてください。

異語。

はい、お母さん、お母さん。はい、お母さん、嬉しいです。何もありません。あるのは、優しい思いだけです。はい、この心で、私は私を見つめてまいります。私も、自分の心を解き放つために生まれてま

いりました。

お母さんと思えば、ごめんなさい、嬉しいですよ。
と優しいです。

また凄^{すご}い責めるエネルギーも出ますが……。
でも他力の心、肉基準がそんなわけがないと押し
込めます。

それがどんなに自分に冷たく、自分を大切にしてい
なかつた事なんですね。

45

***さん、田池留吉を思ってみてください。

私は、***の意識でございます。

田池留吉、はい、心の中に田池留吉を思っています。
お母さん、私は、あなたからこの肉をいただきます
ました。肉がすべてだと思ってきた私の中を見ていく

ために、あなたから肉体をいただきました。

しかし、今世も、その思いを忘れ、この肉にとら
われてきました。

今、田池留吉を思う時、心の中に、ああ私は自分
を忘れ去ってきた、ああそんな中から、生まれてき
たんだ。私の中には、苦しい、苦しい意識が、たく
さんあることを感じます。田池留吉に向かって、そ
の苦しさを叫んでいるのを感じます。

この心を知っていくために、私は、生まれてきま
した。

申し訳ございません。お母さん、申し訳ございま
せん。

己を表すことに喜びを感じてきた私の思いを、
しっかりと見てまいります。そのように誓ってきま
した。

なぜ、私は、今世、学びに繋^{つな}がったのか、ああこ
の苦しい自分を感じる時、それは、納得、納得です。
田池留吉、あなたと出会いたかった。この思いを
感じます。

異語。

***さん、あなたの中は叫んでいます。その思いを、しっかりと自分で受け止めていってください。

あなたは、何も特別ではありません。ただただ、自分の苦しさを受け止めたがために、生まれてきた意識、ただそれだけです。

こう言えば、お分かりでしょうか。あなたの中には、自分が特別だという思いが、しっかりとあるんです。その思いを感じます。

どうぞ、苦しい自分を優しい目で見つめていってください。優しい思いで受け止めていってください。

あなたの意識です。

私の、特別という思いについて、田池先生は選民意識ですと、お教えくださいました。



私は、自分は偉い、別格、そのように思っ、言葉や態度にも出してきました。

あれから十年、光陰矢の如し、青年老い易く学成り難し、肉の人生はこの格言のごとくでした。

私は特別という思いが、私を今世、意識の流れに誘ってくれたと思っています。

二五〇年後もこの思いと共に生まれて、この思いがアルバイトとの出会いを誘引するとも思っています。

全ての思いが、優しく、温かく、嬉しく、喜びに包まれていると、今、私はそのように思っています。ありがとうございました。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

母親の反省をしていると、自分の間違いを見せられるけれど、それを私は拒否しています。

私は、間違っていない。何も間違っていない。お母さんをそんなにひどくは思っていない。お母さんは私をちゃんと育ててくれた。確かに敵しいところもあったけれど、□うるさいところもあったけれど、私は、あの母なしでは生きてはいけなかった。

そんな私は、母親に対して、死ね、死ね、殺してやる、そんな思いを私自身が出してきたとは思えませんでした。

しかし、自分が母の反省をして、母に思いを向けてみると、心の中に、死ね、死ね、死ね、死ね、死ね、死ね、死ね、殺せ、殺せ、殺せ、殺せ、殺せ、殺せ、殺せ、殺せ、あいつを殺せ、そんな思いが私の中に流れているのを感じます。

ああこれが私でした。私の中には、他力の神々が宿やどっています。母を殺してきました。他力の神々に絶すがってきました。何としても、己の世界を築きたかったからです。私は、母親の温もりを、まだ感じていません。

お母さんに思いを向けることをやってきたけれど、母の温もりの中に私がいたなんて信じられない。母の温もりを、まだまだ拒否している。そんなもので幸せになれるはずがない。何で、あんな母親に、私が教えられることがあるのだ。そんな思いが広がっています。

***さん、あなたの心は、すごい勢いきおいで語っています。それをすべて、あなたが押さえ込んでいくだけです。

あなたの中のエネルギーはすごいです。どうぞ、そのエネルギーの解放に、今世の時間を費つやしていただく。

母親に対してもそうです。もちろん、あなたの周

りの人達に対して、あなたは、すごいエネルギーを流してきたけれど、それをあなたが自分の肉で抑えてきたのです。

苦しかったはずですよ。とても苦しかったはずですよ。ああでも、それが、女たるもの、母親たるもの、妻たるもの、そうやって、あなたは、過去より、ずっと自分を押し殺して生きてきたのではないのでしょうか。

そうではありません。あなたの中のエネルギーを解き放つ方向に行ってくださいと、あなたは確かに、今の母親から肉体をいただきました。

どんな肉体でもよかったです。ただ、肉という形を持って、この世で生活をしながら、自分を見つめていきたかった、あなたの思いはそうだったはずですよ。それを信じるか信じないかはあなた次第ですよ。どこまでも地獄の奥底で苦しみ喘いでいるのか、少しでも、そこから這い出してくるのか、すべてはあなたに係っています。

異語。

母の反省、そうでした。私の中にずっと固まって崩せない。何をおいても母の反省そう伝えてもらったのに。見て見ぬふりをしてきました。こんな私でも待つてくれる自分にまた母の反省から始めます。何度でも何度でも心を見るだけでした。

47

***さん、心を語ってみてください。

私の中のエネルギーを感じます。他力のパワーを求めてきた私の中はすごいです。この思いで、ずっと存在してきました。

今世のあなたに、私は、自分の中に蓄えてきたエネルギーを見るために、ひとつの肉体を持ってきたと、伝えてきました。

しかし、肉を持てば、その思いを見ることなく、増幅ぞうぷくさせる方向に進んでいった自分がありました。

他力のパワーを求めてきた心にあるものは何だったのか、しっかりとそれを見るために、今世を選んできた私です。今、あなたに伝える私の思いを、心で聞いてください。

私は、あなたです。私は、あなたです。どうぞ、私の心を、しっかりと感じていってください。他力の思いを、しっかりと見ていってください。

そのエネルギーを、見ていくために、私は、生まれてきました。

異語。

***さん、あなたの中のアナタが語りました。母親の反省をして、母の思いを心に広げていってください。あなたが、あなたを受け入れていくまで、あなたの苦しみは続きます。

生半なまはんか可な思いで、生まれてきたのではないことを、

知ってってください。

肉を持っている時間を、大切にしてください。
***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉に心を向けるチャンスなど、そう何度もあるはずがなかった。田池留吉に心を向けるチャンスも、今の私は、自分に用意してきました。このことを、私は、あまりにも軽くとらえてきました。自分の中の思いを、私は、軽くとらえてきました。

今世、千載せんざい一遇いちぐうのチャンス、この言葉の重みが、私には分かっています。

当時、自分の思いを出して頂いて、そうだ、そうなんだ、自分の他力の思いをわかつてはいたものの、今ひとつ心ではわかつていなかったんだ、という事をあらためて教えて頂いたと感じました。

外にパワーを求めてきた自分がなかなか心でわかない自分でした。

ああ、私は自分のこの思いを受け入れていたと思ってきたけど、全然そうではなかったんだ、受け入れる、という思い自体がわからない自分でもありました。

どこまでも己偉い自分が聳え立っていました。そして母の反省が全くわからなかったんです。

そんな思いでいた期間が長かったのですが、二〇一七年に死を感じた自分の病気を体験してから、自分の心の状態が、向け先が、田池留吉、お母さんと思っても他力の思いで、助けてくれ、救ってくれ、何とかしてくれ、という思いで向けている状態だったという現実には直面するようになりました。

母を捨ててきた、母の思いなんか何だ、それ以外の思いで私は這いあがってやる、そんな思いですっ

と生きてきた自分でしたが、困った時、苦しい時、ましてや自分が死んでしまうのかも……という恐怖と絶望に押しつぶされそうな時に、決まって呼んでいたのは、やはりお母さんでした。お母さんの思いはすべてを受け入れてくれました。

他力の思いでお母さんと呼んでいただけで、ずっとずっとそれでもお母さんを思う瞑想を続けていると、何回かに一回位は優しい思いに触れられる自分がいました。苦しい思い、他力の思いも溶け込んでいくような感覚。いいよ、いいよ、と一緒に帰っていきこうねという優しい思いが心を満たしてくれます。

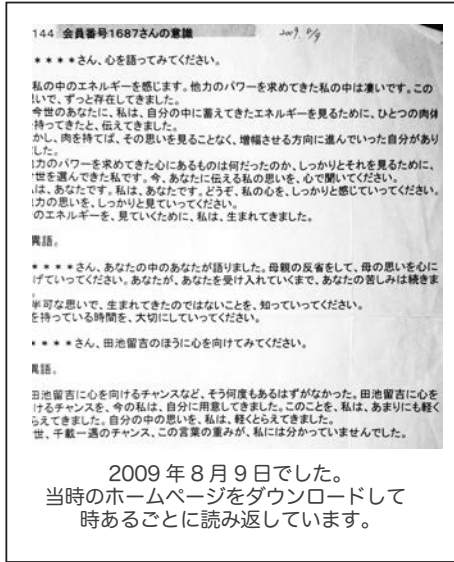
今現在は、はい、私の思いでした。私はこの思いとともに生きてきました。私自身でした。

そして他力の思いがあったからこそ、この学びに繋がりました、と思っています。

母の思いを捨て、寂しくて寂しくて彷徨い、間違いつづけてきました、間違った方向に心を向けて生きてきましたが母の温もりを求めていた自分に帰って

いきまます。

ずっとずっと待っていてくれた思いにありがとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。



48

ギーを、しっかりと見てきましたか。他力の中に沈

***さん、あなたの中にある他力のエネルギー

んでいるあなたを感じます。どうぞ、そのほうに心を向けてみてください。

はい、心の中に作ってきた他力の世界は、我こそ素晴らしい、私は素晴らしい、私にパワーをくれ、パワーこそ私の幸せの源みなもとという世界です。

そのように私は、転生を重ねるたびに、他力の神々に心を向けてきました。今世も、他力のエネルギーの強い場所に、肉を持ちました。その中で私は、今、自分の心を振り返ると、自分の中にどうしようもないほどの、狂ってしまうほどの寂しい思いが、心に蹲うずくまっているのを感じます。

これが、私の他力を求めてきた結果でした。その結果を、今世の肉を通して、見つめています。この心を自分で包んでいくことをしない限り、私は、これからも、その寂しい、寂しい中に自分を沈めていなければなりません。

自分を甘くとらえてきました。学びを甘くとらえてきました。田池留吉を甘くとらえてきました。甘

くどらえるというよりも、田池留吉をずっと、ずっと下に見てきた私があります。

そびえ立つ牙城^{がじょう}、すべては私のことでもございました。

他力の神々を上置き、私をないがしろにしてきた結果、私は、寂しい、寂しい心に成り果てました。母に思いを向けようとしても、肉の母親が目の前にちらつき、肉の母親の言動が心に入り、周りの人達の下らない言動や思いが、自分の中を、かき乱す。そんな私は、私を見ることをしてこなかった。自分に冷たかった。今、心の世界を語る時、そう言わざるを得ません。

異語。

****さん、ホームページをご覧になりましたか。もう、私達は、次元移行へと思いを進めています。そのほうにしっかりと心を向け、それぞれがしっかりと自分の心を振り返っています。

そういう時です。どうぞ、あなたもしっかりと心を見つめ、あなたが歩いてきた道を、自分でしっかりと受け止めていってください。

今世、残された時間、あなたは、あなたを見つめることに、エネルギーを注いでいってください。

これからの二五〇年、あなたに限らず、とても厳しい時間です。

どうぞ、心を次の転生へ繋いでいく、その準備に勤しんでください。

すっかり「あなたの意識です」の本を忘れていました。その当時のことを思うとその出された意識を受け入れられない自分があり記憶の隅に追いやっていました。十年たつて肉でも色々あり、後どれくらいセミナーに行かれるのかなとか後どれくらい生きられるのかなとか、そういうことが現実問題として考えるようになっていた時でした。

改めて読んでみて自分の学びの甘さを痛感しています。

でも以前よりは、素直にそうだなと思える自分があります。自分の思いを真^ま直^すぐに見つめていこうと思います。この様な機会を頂きありがとうございます。

49

***さん、他力信仰の歴史が長いようですね。あなたの思いを語ってみてください。

幸せになりたかったです。喜びを感じたかったです。人生の時間の中で、私は、その思いを重ねてきました。

あまりにもそびえ立っている自分があり、今、自分の中を見ようとしても、殆^{ほとん}ど見る事ができない状態です。

心の中に培^{つちか}ってきた他力の世界は、肉の私が考えている以上に、根深いものがあります。

私は、***の意識でございます。

肉の生活の中で、自分を解^とき放^{はな}つことがとても難しいです。

もっと自分に優しくなっていくてください。私は、苦しみの中から生まれてきました。***という人生、その中で、私は、自分の苦しみをもっと、もっと見つめていきたいと思ってきました。

しかし、この世に肉体を持たせていただいた時から、また、私は、色々なものをつかみ、そして、苦しみを作ってきました。

自分に自分が冷たいことも、まだよく分かっておりません。何がどうなのか、自分の中は、何から、語っているのか分からないくらい、たくさんものを詰め込んできたように思います。

異語。

***さん、あなたの今の環境がどのような状態であるのか、私には、定かではありません。しかし、

今、あなたが語ったように、意識の世界は、とても言葉で言い尽くせないほどの暗闇です。

どうぞ、肉の生活を程々にして、というしかありません。もっと、あなたが、本当にするべきことがあるはずですよ。私は、あなたを感じ、そのように語らせていただきます。

難しいのは承知の上です。それでも、あなたは、このようにして、学びを知ったのです。どうぞ、その事実をしっかりと自分の中で広げていってください。やるか、やらないかは、あなた次第です。

他力の中に沈んでいくのは、簡単です。そこから、どのようにして、自分を解き放していくか、もっと、自分と真向かいになっていってください。

あなたの意識ですの応募は、学び始めてまだ間もないころでした。

「ご希望される方は、クリックしてください」の下に赤字で、母親の反省、瞑



パン&トム

想、温もりが今ひとつ進んでいない方は、進めてから申し込まれたら良いとお勧めします」とありました。自分はまだまだと思いつつも申し込みをさせていただきます。

学びに出会う前は他力信仰をこれだけが真実だと思いい、言われるままに無我夢中でやってきました。それは考えている以上に根が深いと教えて頂きました。

自分が自分を知らない。自分で苦しめ、自分に冷たく、自分が悲鳴を上げていると感じても欲の思いでたくさんものをつかんできました。

そうやって形を整え、見た目ばかりを気にして生きてきました。

自分に自分が冷たいと教えてもらっても、肉の生活をほどほどにと教えてもらっても、どうすればいいのかわかりませんでした。

私が本当にするべきこととは、学びをどう続けていけばいいのかわからなくて

逃げようとする自分がいました。

最後、「もつと自分と真向かいになつてください」
大きな課題を頂いていました。

己偉くて、こんな私は認められないし認めたくないから、自分の心を見ることをしないで、きれいなところだけを見ていました、

この十年出していただいた意識は時折読んで、私の勉強が進んでいるのかの尺度しやんどにしています。

でも、他力信仰は形だけ止めて、心から間違つてまいりましたというところまでの反省がまだできていません。自分の間違いと真向かいにならないで今でも逃げている状態です。いつ、向き合うのか、今回いい機会を頂いたと思います。他力の反省において出てくる壁を崩さないともう先には進めないままです。終わると思いません。

ありがとうございます。

今は、私の意識の世界が言葉で言い尽くせないほどの暗闇だと教えてもらったことも、ようやく自分

で納得できるようになってきました。

こんなにも躰そびえ立っている自分がこの学びに出会えた事を喜んで、焦あせらず、たゆまず、毎日淡々と続けていこうと思っています。

50

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、自分の心を見ているつもりでした。しかし、私が見ていたのは、本当に肉を中心とした心の世界でした。やはり、心の底には、肉の喜びと幸せを求める思いがありました。

その思いを強く求めるわけではないけれど、滞とどまりなく、この生活がいけるように、そんな思いを持って、私は、心を見る学びをしていました。

他力そのまま였습니다。他力信仰の延長のままでした。

心を田池留吉、アルバートに向ける喜びを感じてきたつもりでした。

ああしかし、私を感じてきた心の向け先は、他力そのものでした。

それが、何となく、今頃、心に響いてきています。

こんな喜びの機会を得たのに、私は、本当に、自分を冷たくあしらっていました。

愛とか、優しさとか、温もりとか、喜びとか、幸せ、そういうものを感じる私の心の基盤が違っていました。

まだ、私は、ほんの少しそう感じているだけです。しっかりとその基盤を持っています。持ちながら、田池留吉、アルバート、二五〇年後、そういうふうな思いを向けていこうとしていた、そのことに、今、少し気付いています。

***さん、そうですね。心につかんだ他力のエネルギー、なかなかそう簡単には、そこから自分を解き放していくことは難しい、ようやく、あなた

自身、心で感じてこられたと思います。

たくさんのお金を他力信仰に使ってこられたあなたです。

大枚を使う、その思いを、もっと自分でじっくりと見ていってください。

大変なことだと思えます、そこに使ってきたエネルギー、凄まじいものがあるのではないのでしょうか。私は、以前からそのように感じておりました。

なぜ、それだけのお金を投じていったのか、その点が、あなたの反省のポイントでしょう。

その当手を振り返り、欲いっばい、そして愚かな自分自身に出会ってってください。もちろん、もうこれまでに、そのところの反省は、何度もされてこられたと思います。

しかし、もう一度、母親の反省と並行してやってみてください。

宇宙、次元移行、そんな言葉に踊るのではなくて、あなたが、今世、生まれてきた意味を、瞑想をする時間の中で、しっかりと感じていってください。

生まれてきたくて仕方がなかったあなたの思いが、心に響いてくれば、本当に愚かだった自分に、**自ずと懺悔の思いが噴き上がってきます。** 何度も、何度もその体験を重ねてください。

あー私は、母を殺してきた。目の前から消えてくれ。見たくなかった。こんな母親の姿を見たくなかった。怖かった。嫁に行つてから母のことが気がかりで、兄嫁たちとうまくやっているかとか、気になっていた。だけど、私が夫や夫の両親に出した心は、兄嫁に負けないくらい、いやそれ以上でした。小学三年生から**小姑**。ずっとお世話になってきたのに、感謝の思いなど微塵もなかった。こんな心のままに、夫と結婚生活をスタートした。うまくいくはずがない。自分の思うようにいかない。全て、夫のせいにしてきた。幸せになりたい、この心を救つて欲しいと他力信仰に走った。なぜ、他力信仰にそれだけのお金を投じたのか？ お金に力がある、お金の力で目に見えない世界を変えてほしい。自分の力では変

えられない世界を変えてほしい。お金にはパワーがある。パワーがほしい。見返してやりたい、認めさせてやりたい。何よりも自分を救いたい。手っ取り早く救つて欲しかった。母に出した心が、あまりに恐ろしかった。甘えに甘え、何もかも母を頼りにしてきて、最後に母に出した心。老いて寝たきりになってしまった母のおむつを初めて替えました。どこにそんな力があつたのかと思う力で、母は私の手の甲をちみった。一瞬、母に出した心が母に伝わった。恥ずかしかった。誰にも言えない。隠した。現象の時に、母を語りなさいと言われ、今世だけではなくあなたは親を殺す心癖があると指摘された。老いて病んで寝たきりの母の姿は私。だから、怖い、恐ろしい。全くの利己主義。親を思う気持ちもない。そんな自分を認められない、認めたくない、母を思うことから逃げていた。その時に、感じた思いを無視して、タイケトメキチに反発してきた。肉を素晴らしくしたいと心を外へ外へと向けてきた。他力信仰の延長のままでした。これが現状、現実。凄まじ

い他力のエネルギーをもって生まれてきた。母の死んだ年齢に近くなって、今、読み返す機会を頂きました。学んでいるつもりで全く学んでいなかった。ゼロ歳の目でお母さんと呼ぶ。素直に、タイケトメキチを思う。ここから始めていきます。ありがとうございます。

51

***さん、心を語ってみてください。

はい、心に感じる世界があるのに、私は、まだそこに今一步を踏み出していない、私の愚かさを感じます。

私は、真実の世界を知りたいと思い、母にこの肉をいただきました。

そして、田池留吉の学びに集いました。途中、私は、この学びから去ってしまいました。肉の事情で

す。肉の事情がどうであれ、私は私を見限ったのです。そのところに立ち返り、もう一度反省を進めてみます。

肉のことを持ち出せば、それぞれにそれぞれの事情があり、それぞれにそれぞれの立場があります。私は、そんなところから、この学びを見ていたと、今、心に感じています。

今一步踏み出せないのは、はい、しっかりと肉を握にぎっているからです。

肉とこの学びは両立しない、頭では分かっていますが、私の心がそれを実践することを、阻はばんでいます。肉を自分だと思っているからです。生活はどうなるのだろうか、この思いが優先していました。

違いました。今、自分を語るとき、私は、真実の世界を知って、自分を変えていこうと思い、生まれてきたんだ、この思いが、しっかりと心にあるじゃないか、私は、また自分を裏切っていくのか、そんな声が聞こえてきます。

心を見ることを第一にして、この学びを第一にし

ていくこと、それが私の思いでした。

肉の生活は、私が見て、その私の本当の思いに従っていけば、肉の生活など、整っていくはずだ、私は、今、そのように感じます。

申し訳ありません。私は、肉をつかみながら、この学びをしていた。

私の一歩が歩み出せないのは、そこにありました。今、そのことを確認させていただきました。

***さん、田池です。あなたも心で感じておられる通り、今世の時間、今という時が、本当に大切な時なんです。

私達は、二五〇年後の次元移行を目指して、真実を伝えていく意識です。

その真実の世界に足を踏み入れたあなた、もう少し、しっかりと自分を見つめていってください。

今という時が、どれだけ大切な時間か、あなたの中で、もっと確認していただく。

それには、瞑想をする時間を、あなた自身が作っ

て、その時間を持つようにしていただく。

それぞれに生活があり、瞑想に時間を割くきということが難しい事情があるかもしれません。ですが、私達はお伝えします。

あなたの世界を感じるからこそ、お伝えしたいんです。

どうぞ、今世という時間を大切にしてください。今世は、次の転生くわんに繋いでいく大切な時間です。

あなたも、瞑想をして、そのことを心で感じていただく。

もし、あなたが心でそのように感じられたならば、その感じた思いに素直になって、これからの時間をどのように過ごしていくか、自分で答えを出してください。

私達は、強制はしません。どなたに対しても、自己選択、自己責任、そのようにお伝えしています。

しかし、真実、意識の流れ、その流れは、速いスピードで変わってきています。学びもすでにお伝え

している通り、学びの現実はあるが想像している以上に遥か先を行っています。どうぞ、あなたもしっかりと自分の心を見て、瞑想をして、その流れに沿うようになさってください。よろしく願います。

私の十年前の意識というか学び方はとてもとても未熟で学んでいるなどと恥ずかしくてお話し出来るものではありませんでした。

今こうしてUTAブックさんから十年前の意識です……と言われて本当にそうでした……と……あれだけ一生懸命、命懸けで教えて下さった田池先生に申し訳ない……と……本当に思っています。



我が家のワンコたち



今の私の中の本当の自分はどの様に感じているのでしょうか……。自分に聞いてみました。

あなたの中の本当の自分、タイケトメキチです。

今では、肉の時間がどんなに忙しくても毎日瞑想の時間を一〜二時間必ず取っているのは……当時からすると少しずつ真剣に学んでいる……その様になります。ましてや、この頃は、この瞑想によって自分のこれからの行動を決めて本当の自分からのメッセージに従って淡々と真実に向かっていている事は良かった……と思っています。

「もうお年ですからあと残りの時間をしっかりと自分の中と対話して、今世最後の時間を最大限使って下さい」と、中の本当の自分からのメッセージでした。

毎日の瞑想の中で、心の底からお母さんありがとう、田池留吉ありがとうが言える、思える様になり、母なる宇宙に心を向けると、どこどこまでも広がっ

て中から喜び、ぬくもりのエネルギーが止め処なく噴き出て……とてもとても嬉しい喜びになりました。いく、こんな状態も体験できる様になりました。ありがとうございました。

52

二〇一〇年七月十六日（金）

***さん

***さん、心を語ってみてください。

***さん、田池留吉です。心をどんどん語りあなたのエネルギーを自分の中でどんどん知ってってください。自分を知っていくことが自分を救っていく唯一の道です。良い悪いは別にして、あなたの中をただただ知っていく、そしてそのエネルギー

ギーを感じていく、そこには良いも悪いもありません。ただあなたは本当のあなたを忘れ去り、母の温もりを捨て去り、自分を見捨ててきた冷たいあなた自身を感じていくだけです。それが良いとか悪いとか、そういう問題ではありません。そういうことはるかに超えた次元のことです。全てが狂ってきた、全てが間違ってきたのです。全てをご破算にして、あなたは本当に生まれ変わる、そのために、今世、あなたはその肉をお母さんに願い出ました。そのあなたの思いを、もっとしっかりと自分の中で広げていってください。

あなたが何をどのように感じようとも、今のところは、残念ながらあなたの基盤は肉です。確かに心に広がる世界はあるでしょう。しかし、あなたの中の他力の世界、それもまたあなたの中に、依然として、強い勢力を誇っています。どうぞ、そのほうに心を向け、しっかりと自分を見つめていってください。あなたにとって、今世の時間がどれだけ大切な時間であるのか、これからの転生の中のあなたが心

に告げてくるでしょう。心を繋いでいくことを目標に、あなたの中をしっかりと語り、しっかりと感じ、そして、本当のやさしさ、本当の温もりの中へ、その自分を帰していく、その自己確立の道をただただひたすらに歩んでいってください。田池留吉、アルバート、その意識の世界は、そのことをただひたすら待ち望んでいます。自分を受け入れていく喜び、その喜びをあなたの中で広げていってください。

はい、私の中にあるのは喜びでしょうか。それとも苦しみでしょうか。そんな私の問いかけに私は答えます。喜びでも苦しみでもどちらでもいいんです。ただただあなたはあなたの心を見ていくだけです。あなたはすぐに頭で解釈していこうとします。その心癖を緩めてください。私の中がそのように伝えてきます。

はい、お母さん、私は、自分のこの頭を誇ってきました。お母さん、私は今もそうです。まだまだこの頭の回転を緩めることができていません。そんな

私が心を語ることを伝えられました。心の中の思いを語ることが喜びだと私は私に伝えてくるんです。苦しみでもありません。喜びでもありません。そんな私をどのように受け止めていくか、受け入れていくか、私は心の中に自分の回答を求めようとしていますが、まだまだ肉の私をしっかりと握^{にぎ}っているこの心の中に、はっきりとした答えを引き出すことができな、そんな状況です。しかし、今、私は自分の心を語り、自分のエネルギーを感じ、これからの自分を思うとき、やはり、嬉しいなあ、ありがとうお母さん、素直にその思いが出てきます。この素直な思いをただただ信じて、広げていけばいいんですね。そう思えました。やさしく私を受け止めて、素直な思いを広げていける私を信じていきます。はい、お母さん、あなたに対して凄^{すさま}じいエネルギー、本当に凄^{すさま}じいエネルギーを、何億年と流してまいりました。苦しかった、この心のうち。今こそ、自分の中から変わっていくことを自分に伝えてきたんですね。だから、私は、このようにして今世もまた肉を

いただきました。己を誇る、その肉をいただきました。その心癖を弱めてまいります。今度こそ、今度こそ、しっかりと自分を見つめ、自分の中には、凄^{すさま}じいエネルギーを蓄^{たくわ}えてきたたくさんの私がいることを、本当に心でしっかりと感じる事ができるまで、私は私を見つめていきたい、今世、そのように初めて思えました。己を誇る事のくだらなさ、空^{むな}しさ、やるせなさ、色々な思いを心に抱^{かか}え、このように存在させていたでいること、本当にありがとうございます。

ここ二、三年の間に起きた現象は肉の私の全知力をもってしても何一つ解決できるものではありませんでした。まさしく天変地異そのものでした。

それは子供たちの家庭に現れました。ある日突然ではなくなるべくしてなる原因があり、それが形となって現象化してきたものばかりでした。

小石ではなく大きな岩石が投げ込まれ最初は絶望と不安の中で肉でできることを精一杯する毎日で

した。大きな波、小さな波を家族とともに、最初は溺れながらだんだん上手に波乗りができるようになります。そういう事態にならないと見れない心がいつばいいつばいありました。

そういう原因を作ったお前が悪いと責め裁く思いが強烈にとめどもなく出てきました。許せない、許せない、自業自得だと……。

でも田池留吉に反逆する思いは私のそれそのものでした。それを私に見せてくれていた現象でした。肉は押しなべて愚かの極みにつきます。

私はずっと先生というか師というかそういう人を求め続けてきました。いろいろなところを探し求めたけれどどこにもいなかった。友の一言に反応してやっとこの学びに出会わせていただきました。田池先生の反転の促しを受けたとき、ああこの方は私がつつとずっと探し続けてきた本当の神だと思いました。

今なお何もわからない中にすっぽりはまり込んでいますが、焦らずたゆまず諦めずに学んでいきます。

こういう機会を与えていただきありがとうございます。した。

53

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

たくさんの他力をしてきました。過去からの歩みは、他力の道です。そんな私は、心を見なさいと伝えてくれる世界を知りました。

心を見なさい、私には、まだよく分からないことばかりです。

母親の反省をしています、本当に何か大きな分厚い壁を感じています。

こんな中に私はあった、ただじつとつづくまで、そんな自分を感じています。

異語。

***さん、あなた自身が語られたように、大きな分厚い壁、その前にあなたはうずくまっている、言葉で表現するならば、そんな感じですよ。あなたの意識の世界は、そんな感じですよ。

そんな中から、あなたもまた今という時をいただきました。お母さんに肉をいただきました。

今度こそという思いを秘めて、肉をもらって来んです。

あなたの中に、その思いが染み込んでいくには、まだもう少し時間を要します。

それでも、現実には、あなたは、この学びを、肉で知ったのです。そのことを喜んでみてください。

果てしなく続いてきたあなたの時間、そんな中から、ようやく、真実の方向を、自分に知らしめるそんなチャンスをおも、あなたも用意してきたのです。

他力信仰をしてきた心を、じっくりと見てみてください。焦らずに、その思いを見てみてください。

肉で振り回されているとあなたは感じておられ

ます。

それだけでも、今までのあなたを思えば、大した変化だと思いませんか。そうあなたが感じられるということは、大変なことなんです。

肉に振り回されている、そう感じている今を、喜んでみてください。

意識の転回、あなたが考えているよりも、はるかに難しいです。

まずは、母親の反省、他力の反省、継続してってください。

異語。

十年前、「あなたの意識です第三巻」に載っているのを読みました。

「母親の反省、他力の反省、継続してってください」と頂いてありました。

肉に振り回されている自分が少し楽になっている感じがします。

他力の中にいる自分、死後の苦しい自分、その中で固まっている自分です。

お母さんの温もりの中に帰りたい、帰ります。異語のリズムに感じられない私があります。

肉体が動いてくれるまで、共に学んで参ります。ありがとうございます。

54

***さん、どうぞ、あなたの思いを語ってみてください。

この学びに繋がったことを喜んでいきます。私は、自分を道徳という枠の中に押し込めて生きてきました。とても苦しい、小さな中に自分を押し込めて生きてきました。心を縛ることをしてきました。

この学びは反対でした。自分を解放していくことを伝えていただいています。自分を解放して、

そして、自由な自分を心で感じ知っていくことを、伝えていただいています。

私は、自分の中を、もっともつと解放していきたいです。道徳に縛られた心を解放したい。今、私は、自分の肉を通して、このように語らせていただいていることが、すでに幸せだった、今、そのように感じます。

***さん、あなたのお母さんを思ってみてください。

異語。

はい、母を思う時、私の中には、ああ、母に対するの恨み辛みの思いが、しっかりと感じられます。それが私のエネルギーでした。

私は、恨み辛みをたくさん抱えて、そのエネルギーをたくさん抱えて、転生を続けてきました。何もかも恨んできました。何もかも憎んできました。そんな

な私が、今の母親を通して、そのエネルギーと向かい合っています。母を恨んできました。母を蹴散らしてきた。母のことを、どうしても、母を受け入れることができなくて、苦しんできました。

そうだったんですね。私は、私を見ていけばよかったですね。

私のこのエネルギーを肉の母を通して、感じていけばよかったですね。

今、少し心が軽くなりました。

異語。

***さん、どうぞ、あなたの中に思いを向け、瞑想を続けていってください。田池留吉、まだまだその方向に心を向けるということは、あなたにとっては、難しいかもしれませんが、何の欲もなく、ただ無心にお母さんのおっぱいを吸っていた時の思いを思い出しながら、日々、瞑想を重ねていってください。立派なあなたはいんです。立派なあなたを

目指さなくてもいいんです。ありのままのあなたを見ていけば、やがてそこから、本当の喜び、本当の幸せ、本当の温もり、そんなあなたを知っていくでしょう。焦らず、たゆまず、自分に誠実に、これからの時を過ごしていってください。

十年前のメッセージの中の「立派なあなたはいのです」、それがずっと響いてきていました。

聳え立っていました。我一番の宇宙のまま、それを膨らませようとしていただけでした。十年間、「立派なあなた」のまま、肉基盤のまま、学びをしてきたとようやく分かりました。

肉の傍らで学んできたつもりは無かったけれど、厳しい現象が、それを目の当たりに教えてくれました。もう捨て置くな、と叫びは容赦なく押し迫ってきて、本当に猶予が無いことを感じます。

肉の母も老いた肉を携えて、今も尚、この立派な私に私の間違いを教え続けてくれています。うらみ、

辛み、憎しみの苦しい、苦しい思いを、母に吐き出してきました。この肉の母を受け容れることが出来ずに苦しんできたけれど、ようやく、母にお願いして産んでもらったその意味が伝わってきています。

肉を本物とする思いは、依然、立ち塞がって、へきえきとするけれど、思うは田池留吉一筋の道、険しくて厳しいけれど、勇気を持つて変えていかなければと思えた嬉しい勉強でした。「立派なあなた」



とともに何も持たなくていい世界を目指していきま
す。ありがとうございます。

55

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

長く学ばせていただいたのに、私は、何をやってきたのだろうかと、ついつい自分を小さくしてしま
います。これが私の心癖でした。

己が偉くてそびえ立っているから、自分を小さく、
小さく感じてきたんですね。今、自分の思いを心で
感じる時、私は、私に冷たかった、本当に冷たかつ
たことを感じます。

母親の反省がまだまだ進んでいないと思います。
母の温もり、そう母を思う時、そう田池留吉を思う
時、嬉しいと思う時もあります。

ああしかし、私の中は、まだまだ溢れるほどの喜

びに出会っていないです。ふっと母を思い、ふっと田池留吉を思えば、喜び溢れる自分がそこにあるなんて、私は、信じられないんです。まだまだそんな状態です。

ああしかし、今、自分の中を語る時、私には、言い尽くせないほどの私の思いが心に詰まっていることを感じます。

言い尽くせない思いを詰めてきた自分を、今まで、そ知らぬ顔をして、私は学んできた、私は反省をしてきた、そうやって、私は、自分に甘かったんですね。今、そのところを少し感じさせていただきました。

異語。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、はい、田池留吉。心の中に、やはり、あなたに対する恨み辛みがたくさん残っているように感じます。

まだまだ私のアマテラスのエネルギーが、すごいです。アマテラスが愛しい、アマテラスが愛しいなんて、まだまだ思えない私の現実があります。

アマテラスのエネルギーで田池留吉に歯向かってきた心、この心を、もっと、もっと見つめてまいります。

アマテラスこそ、私の中で待ち続けてきた温もりでした。その思いに突き当たるまで、今世の時間、許す限り心を見つめてまいります。

ありがとうございます。田池留吉、申し訳ございません。

十年という年月が過ぎた今、再びこうしてその時いただいた意識を確認し自分と真剣に向かい合う機会をいただけたこと、今更ながらありがとうございます。

我は神なりの心を抱えたまま、長い年月、他力の中で生き続けてきました。

己一番、我に従え、私は正しいと、聳え立つて聳え立つて。

しかしながらそんな自分を認め、受け容れることができずに苦しみの中に彷徨い続けてきました。

ようやく、ようやくでございました、今、こうして自分の、間違いを認め、温もりの中で語れることが嬉しいのです。

私はアマテラス、真っ暗い闇の底の底からようやく、ようやく一筋の光を見い出してございます。

まだ闇の中から抜け出したとは言い切れないけれど、私の中に微かな微かな一筋の光が見え始めてまいりました。

ともに帰ろう、ともに帰ろうのいざないが、優しく、優しく私の心に、響いてきます。

ああー、許されて、許されて。私はアマテラス。母の温もりの中にあつた自分を忘れてた。

ありがとうございます。ありがとうございます。

ああーようやく、ようやくでした、こうして自分の中に心を向け、アマテラスを思うとき、私はアマテラス、私は、アマテラス。アマテラスが嬉しい。アマテラスとあることが嬉しいと響いてきます。嬉しいのです、うれしいです。

恨んで呪って生きてきた。心を外に肉を掴んで形を求めて、間違ってきた、間違つて生きてきた。

ああー忘れてた、忘れてたけれど、私には本当の幸せがあつたんだ。思える幸せが、思える喜びが。本当の喜びが。

幸せな私があつたんだー。喜びの中で生きている幸せな私があります、ありがとうございます。本当にありがとうございます。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

心の中に他力のエネルギーをしっかりと詰め込んでいます。

母親の反省がなかなか進みません。他力の私が邪魔をしています。他力のエネルギーが、私の心の蓋ふたをしっかりと閉じています。そのことを、私は、ただ自分の心で分かっています。

他力のエネルギーが、どれだけ欲のエネルギーであるのか、自分の心の中で、まだまだはつきりと感じられない、そんな私です。

確かに、母親の反省を少しずつ、進めています。母に使ってきた心を、自分なりに見ているつもりです。

でも、いつも、いつも同じことばかりです。同じことの繰り返し、こんなことで、私の中はどうにかなるんでしょうか。

私は、自分の思いを知りたいのです。自分が、今、どちらの方向を向いて、どうなっているのか、私は、自分の心を知りたいのです。

異語。

***さん、あなたが語ったように、あなたの心は、まだまだ闇の奥底に沈んでいます。どちらを向いても、真つ暗闇の中にいると思います。

もがけばもがくほど苦しい、苦しいと、あなたの中が言っている、私は、それを感じます。

ああしかし、そんなあなたも、今そこにいるではないですか。今世、お母さんに生んでいただいたのです。そのことを思いながら、どうぞ、お母さん、ありがとう、そんな思いを広げてみてください。

何かを知りたいとか、何かを感じたいとか、そうではなく、ただ、今、自分がそこにいて、ホームペーシを見れて、本を読めて、瞑想ができて、そうすることができるとか、どれだけ幸せなことなのか、

きつと、あなたは、心に感じていくと思います。

学びに集ってこられた人達は、必死で自分の心を見つめてこられたし、見つめていると思います。それでも、まだまだです。あなたもどつぞ、焦らずに、一日、一日、ただただ自分と向き合っていてください。

信じる【信】が弱いせいか、心に邪魔をする己が偉いせいか、他力の蓋が今も開かない状態にあります。

それでも、十年前の言葉の、今そこにいるのではないですか。瞑想が出来て、ホームページが見れて、反省も、お母さんありがとうの思いを出して……の言葉を見ると、その当時は分からなかったのですが、今は、ただただ嬉しくなります。

愛、母の温もりを呼びおこし、本当の自分と出会うまで、続けていきます。

ありがとうございます。

57

***さん、心を語ってみてください。

私の心の中にある思い、嬉しい思いと苦しい思いと、色々な思いが交錯していく中で、来世の私に思いを向けています。

来世、私も、アメリカの地に転生をしていくことを感じます。私の来世、二五〇年後、それまでの間に転生があるかと思いますが、二五〇年後に転生をしていくアメリカの地、私の中にも何か、そこから喜びが溢れてくるのを感じます。

しかし、その前に、私は、まだまだ自分のやるべきことがあります。今世、私がやるべきことがあります。それは、私の中のアマテラスの心をしっかりと見ていくことです。

心の中に蓄えてきたアマテラスの思い、アマテラスのエネルギー、しっかりと見つめていくことです。それをしなければ、私の未来は、とても苦しい、

辛い、悲しい、そんな感じがします。

今、私がしていかねければならないことは、二五〇年後に思いを馳せ、喜びの自分を信じながら、このアマテラスの心を見ていくことだと感じています。心を見ていきます。

***さん、アルバートを呼んでみてください。

はい、アルバート、アルバート、嬉しいですよ。心の中にアルバートが語ってきます。これから、私はこのアルバートの思いを自分の中で感じていきます。しっかりとアルバートに心を合わせ、私の中の闇の私に心を向けていきます。アルバートが語ってくれる、アルバートが伝えてくれることを信じていきます。心を広げていきたいと思えます。

十年前に頂いた「あなたの意識です」。反省ノートに挟んで、何度も読み返していました。当時の率直な感想は、大変な課題をもらったなでした。アマ

テラスのエネルギーを見つめていくなんて、本当に私にできるのかな？とも思いました。

メッセージを頂いた十年前、「アマテラスは、全宇宙を支配する大きな大きなエネルギー、我に従え、我は素晴らしい、我こそすべてを支配していく意識だ」。とてもじゃないが、自分の手には負えない。どこからこのすさまじいエネルギーに切り込んでいけばいいのかわからないと感じていました。

大噴出、大崩壊の現象で、アマテラスのエネルギーを自分の肉体を通して思いつきり出させて頂きました。どんなに我は素晴らしい、我こそは全宇宙を支配するエネルギーだと豪語しても、中は空っぽでした。どんなにエネルギーを出しても出しても、何一つ掴み取ることができませんでした。そんな不安と恐れを覆い隠すために、さらに外へ外へとエネルギーを広げていきました。エネルギーの中心棒が何も無いのです。掴んだと思ったものは、次の瞬間に

は跡形もなく消え去っていました。外へ外へ求めていく虚しさだけを痛感していました。

その後、自分なりにアマテラスの供養を続け、アマテラスと対話をしていきました。そんな中で心に響いてきた思いは、「アマテラスは、自分がこんなにも苦しくて、真つ黒なエネルギーの中にいることを知らなかった」ということでした。ストーンと心が納得した瞬間でした。ああ、そうなんだ。そうなんだ。そうだったんだ。アマテラスも自分の帰るところが分からなかったんだ。分からないから不安で恐怖で、外へ外へと探し求めていくしかなかったんだ。私と一緒にだった、ただ、アマテラスに伝えてあげればよかったんだと思いました。

帰るところは外にはなかった。帰るところは自分の中に初めからありました。自分自身が愛、帰るべきところでした。お母さん、お母さん、いつもいつも待って、待ち続けてくれていました。「帰ってお

いで、こっちだよ。帰っておいで」といつまでも待ってくれていました。私もアマテラスも同じでした。本当の自分を忘れ去り、ぬくもりを捨て去って、私は素晴らしい我が宇宙を認めよと、長い間さまよい続けてきました。

自分の中に思いを向ければ、お母さんのぬくもりを感じます。帰るところがあることが本当に幸せでした。何の不安もない、ただただこのぬくもりにゆだねていけばいいだけだと伝わってきます。アマテラスとともに次元を超えていく、絵空事ではない、現実にここにある道でした。

「ともに、ともに……」という思いがあふれてきます。アマテラスは恐怖の存在ではなく、自分自身、大切な仲間でした。十年たった今、心からそう思うことが嬉しいです。これからもアマテラスとともに歩んでいきます。アマテラスと呼べることは、本当に幸せなことでした。

***さん、今のあなたの思いを語ってみてください。

苦しい、苦しい、苦しい。どうして私の心はこんなに苦しいのだろうか。ああ、私は、本当に苦しい中に今いる。私の心の中を、私は見てこなかった。苦しいだけでした。恨み^{うらみ}辛み^{つらみ}の思いが、しっかりとあるだけでした。

人を恨む心、人をないがしろにする心、人を見下す心、そんな思いを、いっぱい詰め込んで、私は、今存在しています。

この心を、私は、自分の中で、掘り下げることにはなかった。いつも、いつも人のせいにしてきました。この心の苦しさを、人のせいにしてきました。

それを、私の周りの人達は、伝えてくれました。私の心を、自分で見てこなかった。今の苦しみを、自分の中でしっかりと見てこなかった。私は、そう

思っています。

***さん、苦しい、苦しい、あなたは悲鳴を上げています。あなたは、苦しみの中から、その肉を持ってきた。そして、その苦しみのまま、また、その肉を置いていくのですか。

どうぞ、ホームページを見てください。ホームページを見て、あなたの意識の世界は、どんな叫びを上げているでしょうか。

私には、伝わってきます。宇宙へ帰りたい、母なる宇宙へ帰りたい、そんな思いが、私には伝わってくるんです。

あなたは、まだまだ、ご自分を知りません。小さな、小さな、肉の粹^ちの中で、苦しい、苦しいと喚^{わめ}き散^ちらしているだけです。

そうではないことを知るために、あなたは、今肉を持って、この学びに集ってきたのではないのでしょうか。

私が、いくら、そのようにお伝えしても、あなた

自身が、自分の心を見ていけない限り、どうすることもできません。ただ私が言えるのは、ホームページを見てください。そして、あなた自身を見てください。ということです。ただそれだけです。

私達は、もう前を向いて、真^まっ直^すぐに突き進んでいます。

私達から心を離すのもあなた、私達に心に向けていくのもあなたです。すべてはあなたの心にかかっています。

十年前の私、ただただ苦しい苦しい苦しめられている周りのすべてに苦しめられていると、のたうちまわっていました。そして心の中でさえ苦しいと言ってはいけないというのか、こんなにも苦しいのにそれを苦しいと心の中で叫ぶことさえも間違っているというのか、それでも私が間違っているというのか、こんなにもこんなにも頑張っているのに、心の中で苦しいと言うことも間違ってる、と言われたように思ったような感じが思い出されます。

本当に苦しくて苦しくて、その苦しさを誰か受け止めてほしい認めてほしい慰^{なぐさ}めてほしい賛同してほしい、そしてその苦しみの原因を正してほしい、そんな思いしかありませんでした。

すべてが人のせい、自分は悪くない、自分が絶対に正しいと言い切れないこともあるけど、そうなたのには理由があるんだ。それは周りのせい。自分のせいではない。

人のせいにしたくてしているんじゃない、自分にも悪いところがある事も頭では理解している。

けれど色んな事や言動にどうしてもどうしようもなくなくなってしまっただけで、自分のせいじゃない。

そういう捉^{とら}え方でした。すべてに対して偉すぎました。自分の出すエネルギーは放置でした。

けれどそんなふうには思えなかった。謙^{けん}虚^{きょ}に気を使い顔色を伺いながら周りに合わせ、できるだけ波^{なみ}風^{かぜ}をたてないよう息をひそめ、陰では死にそうなくらい泣きながらも我慢してきたんだ。

それなのにそれでも私が間違っていると言うの

か、頑張ってるのに頑張れって言うのか。

これが人生をかける勉強、反省して瞑想して幸せになんてなれるもんか、幸せってなんなんだ。

こんなに頑張ってる私が間違っていて、周りが愛だなんて思えない。愛って何？ 幸せって何？ 人生って何？ 先生の言う愛なんてわからない。こんなセミナーが人生なんてわからない。幸せだなんて思えない。

十年後の私、すべて愛でした。私は幸せです。先生の言う通りでした。

この文を目にした時、本当に嬉しかったです。その通りです、と思いました。十年前にほんの少しだけでも心でうなずくことができたらな……、アホだなと思いました。

もちろん今も色々あり、大波小波に溺れおぼれそうになったり嫌になったり膨れたりすねたり怒ったり泣いたりいじけたり、相変わらずすぎて笑ってきます。でもでも何にもかえられない幸せです。



心を見ることを知りました。心で知りました。異語で寂しい思いを出すことを教えてもらいました。自分の思いを見て出せることがこんなにも幸せなんだと思います。それだけで良かったんですね。十年前とは全く正反対の生活は最高に幸せです。ありがとうございます。

59

***さん、あなたの心を語ってみてください。ようやくです。少しずつですが、自分の中にすごい欲の塊を抱えていることを感じます。本当に欲いっぱいです。心を見つめ、自分を修正していこうという思いは確かにありました。しかし、それにも増して、私の中は、欲が渦巻いていました。他力信仰をしてきたそのままの心で、この学びをとらえてきたことに、ようやく少しですが、気づき始めています。本当に愚かな

自分でした。

私も、これから自分に残された時間を大切に、自分に誠実に過ごしていこう、今、そう思っています。

***さん、お母さんを思ってみてください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さんを素直に、ただただ素直に呼んでいた頃の私を思い出していきます。私は、私を取り戻して行くにはそれしかなかった。他力のエネルギーを自分の中に大きくして、母を見下してきた思いを、素直に見つめてまいります。

お母さんが嫌いでした。お母さんを受け入れることをしてきませんでした。

そんな私が田池留吉のほうに心を向けることはできない、当たり前のことでした。今、母を思い、自分の心の貧しさを感じています。

少しでも、自分の中を見つめていくことができる

のは、お母さん、あなたに生んでいただかなければならなかったことを感じます。

お母さん、私は、愚かでございました。

「あなたの意識です」をいただいた頃、私はセミナーに行けることがとても嬉しく、又自分なりに一生懸命学んでいると思っておりました。

それだけにいただいた意識の本当の意味がわからず、そうかなあと、とても寂しく感じていました。

ましてや私が大事に思ってきた、あの母を「嫌いでした」という言葉（思い）が氷のように冷たく冷たく感じられ涙が滲にじみました。

ですが今は納得です。この学びを肉でとらえ肉の中で学んでいた私です。

今母を思うとき「お母さんは優しくかった」「田池留吉ブツ殺せ、あんな奴死にさらせ」そう思ってた田池留吉アルバイトが私の中に存在している。そう思えます。

お母さん、私はずるくて汚かったです。私は間違



ある日、孫の絶叫が聞こえてきて、飛んでいくと、このようになっていました。（テーブルの上へ上がりたくて失敗したようです。）

えて間違えて生きてきました。本当の自分を間違えてきました。愛を間違えてきました。

愛を間違えて、愛を忘れ去って生きてきました。

お母さんごめんなさい。ごめんなさい。

ああ、宇宙です。宇宙が優しくかった。宇宙が優しくかった。本当の自分ごめんなさい。ごめんなさい。

60

***さん、心を語ってみてください。

自分なりに心を見てきたつもりです。母に使ってきた思いを、私は、自分の中で見つめて、今、申し込みをさせていただきます。

まだまだ母に対する思いを、しっかりと心から解けていない私ですが、しかし、母という存在が、私を解き放はなしていくのに、最も重要なキーだと、心に感じています。お母さんの反省が、本当に大切なことを、身に染しみみて感じています。

これからも、やり続けていくのが母の反省だと、私は、思っています。

そんな私に、この心の中から突き上がってくるのは、やはり他力のエネルギーです。他力に使ってきた思いは、凄すごまじいのです。

凄まじいエネルギーが、私の中に、しっかりとあります。母親の反省を通して、少し、自分の中が解けた頃に、他力のエネルギーを、少しだけ感じています。

今、そのエネルギーが、突き上がってくるのを心に感じます。

そうですね。これから、私は、なぜ自分が生まれてきたのか、今、ここに肉を持っている、この今という時を、もっとしっかりと見つめていかなければならないと、今、思います。

異語。

***さん、心に培ちかってきた他力の世界、あなたもすごいものを持っています。すごいエネルギーを持って、今、そこにあります。学びに集えたのも、

そのエネルギーを見てくださいと、あなたの計画でした。

どうぞ、田池留吉を思ってください。

今、学びは、とても速いスピードで、一五〇年後、次元移行へと進んでいっています。しかし、ホームページにも書きましたように基本は、焦らず、たゆまず、真摯な思いでということ、それに尽きるのです。

そして、喜びが本当の自分であるということ、それも基本中の基本です。

心をしっかりと見つめていってください。そして、可能な限り、セミナーに参加してください。

しっかりと瞑想をして、宇宙に向けることができます。あなたになっていってください。

宇宙は待っています。心の中で待っている喜びのエネルギー、力強いパワーです。しかし、それも焦っては過去からの同じ繰り返しになります。だから、どうぞ、基本に忠実であってください。

「あなたの意識です」に出させていただき十年が経ったのですね。あれから（学び始めて一年くらいだったので）私の心は大揺れ、大荒れ、泣いて、喜んで、叫んで、苦しんで、落ち込んで、意識へ転回していく時の心は、他力の中の私を、混乱させました。長かった。

主人に反対されていきましたから、真実を早く知りたいと焦って学んでいました。年月が経つ内に塩川さんの次に蘇るのは私と心は叫んでいました。私の他力からくる闇の中の思いが炸裂していました。

十年間何をしてきたのだろうか？嬉しい。この学びしかない。そんな思いの繰り返し。二、三回私はもうやめた方がいいの？ などなど……。苦しみました。苦しかった。

そうやって苦しんで学んでいたら、苦しみは愛。主人は愛。と、凄い喜びのパワーでした。その喜び

感じながらも次の闇が……。

確かに感じる田池留吉、アルバートの世界。それなのに闇の深さも感じます。何をしてきたのだろうか。

しかし、今、伝わってきます。もう大丈夫よ。どんな苦しみも寂しさも、優しく包んでいけるよ。包んであげれる私もいるよ。

甘えて、甘えて、甘えている私にそう伝わってきます。

力強い愛のエネルギーを感じます。

これからです、焦らず、たゆまず、真摯な思い、それが喜びだと本気で思えます。

心が解とき放はなたれていく私の思い……。

こんな私になれたこと、本当にありがとうしかありません。

61

***さん、あなたの心を語ってみてください。

学びに集い、心を見てきました。今、その中で、私は語ります。

心を見てきました。そう見てきたつもりでした。しかし、私は、心を書き出しはしたけれど、その心の修正に努めていません。母の思いに従って、今の生活をしていないと思います。心の中に、わかまっっているエネルギーが、たくさん、たくさんあります。自分では、こんな心癖、あんな心癖と、自分なりに見てきたつもりです。

しかし、その心癖を、私は修正できていないんです。母の大きな愛の中で、私は生かされていることなど、まだまだ感じられません。だから、私は、自分を修正していくことができないのかもしれない。

心癖は分かっています。しかし、その心癖を、いつまでも、いつまでも引きずったまま、その中で苦

しんでいる自分を見るたびに、本当に、これだけそばえ立っている自分があるんだなあと、今、語りながら思います。

何もしていない、何もしていない、何もできない、そんな私があるんです。

この苦しさばかりを感じる、今日この頃です。

自分の怠慢たいまんでした。肉の中にあって、こんな心どうしようもない、周りみんなそうなんだ、そんな中で、自らみずかをその中に沈めてきました。

やはり、私は、自分に甘い、甘い自分を感じています。意識の私を信じるよりも、肉の私を信じています。

肉の平安を求め、肉の幸せを求めている、そんな私を感じます。

異語。

***さん、せっかくご自身で、今世のチャンスを作ってこられたのに、本当にもつたいないと思

います。ですが、これから、ご自身の心を見て、そして、少しでも、自分が生まれてきたことに対する責任てんというか、必死な思いにこた応えていってください。肉を持ちながら、学びをしていくのは、難しいのは百も承知です。しかし、あなたは、自分のその肉を切望してきました。

自分を変えていきたかったからです。ただひとつ、それだけの思いで、あなたは、今世生まれ、そして学びに集ったのです。その自分の決意を、もっと自分の中で見つめていってください。

もう十年という月日が流れたのだと思います。

田池先生が「十年二十年あつという間ですよ」の言葉がよみがえります。

この文章を書いた時と「意識」をいただいた当時の事を思い出します。

「せっかくご自身で、今世のチャンスを作ってこられたのに、本当にもつたいないと思えます」を当時、

自分の勝手な解釈で「チャンス逃し、もう手遅れです」と言われた様に思い込んで、手遅れなんだと落ち込みましたが、読み続けていくうちに、

「自分を変えていきたくったからです。ただひとつ、それだけの思いで、あなたは、今生生まれ、そして学びに集ったのです」を読んだ時にごめんさいと申し訳なさで涙が止まらなかった事を思い出しました。

十年経過した今ですが、「自分を変えていきたくった」の思いにまだまだ心の底から感じていない自分がいます。

エルセミナーでの反省ノートを読み直しますと、そこには今より「素直な自分」が存在しています。

現在、自分は素直になっていると思いましたが、素直という意味を誤解していたのかと思います。

十年前のチャンス「意識の世界からのプレゼント」だったのに、月日の流れで記憶の片隅に追いやられ

て忘れていました。

まだまだ自分にあまいですが、千載一遇せんざいいちぐうのチャンスと肝きもに銘めいじて再度原点に戻って正しい瞑想をし、日々方向性は間違えてないかの確認をしながら、自分に用意したチャンスを逃のがす事なく意識の世界に思いを向けて素直に楽しみたいと思います。

幼いころ無邪気（素直）に喜んでいた自分を思い出しました。

この感覚を忘れていました。

自分を見つめ直す機会をありがとうございました。

62

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私の中に何かあるのか、よく分かりません。心を見ることを、始めていますが、まだまだです。と

というのは、私には、この学びに対しての知識もあやふやなところがあります。

しかし、今、私は、私を思うとき、ああ私も、自分の中に、本当の自分と出会いたいという思いを感じている、そんな私がいることを感じます。

この思いに素直になって、自分の心を見ていく、そうすることが、この学びなんです。今、私は、自分を語るとき、そのような思いが伝わってきます。

お母さんに、私を生んでいただいたことを、どう思っているのか。私は、もう少し、自分で深く見つめていきます。

私は、これまで、お母さんに対して出してきた思いを書き出してはみましたが、なぜ、そんな思いが出てきたのか、私の中でよく分からないところがあります。また、母を殺してきた、憎み恨んできた、そういうことを、見たり聞いたりしますが、私の中も、そんなにすごい思いがあるのか、まだまだ私には、実感がありません。

ただ、自分が他人に対して出している思いという

か、自分の心は苦しいってどうか、そういうことは分かります。

そのことと、母親に対して、本当にすごいエネルギーを出してきたというところと、まだ、私は、自分の中で結びつけていない、そんな感じですよ。

異語。

***さん、焦らなくてもいいですけど、しっかりと本を読み、ホームページを見て、可能ならば、UTA会に参加してください。

この学びの基礎を、まずしっかりとらえてください。

あなたにも、生活があります。日々の暮らしがあります。そんな中で、この学びを継続していくことは、確かに難しいと思います。

それほど、肉、形を本物とする思いの中で、私達は、ずっと存在してきたのです。そのエネルギーの強さを、これから、あなたも、少しずつ心を見るこ

とにより、瞑想をすることにより、そして、日々の生活の中で、感じていくと思います。

しかし、いずれ、あなたも、自分の中に本当の世界がある、本当の自分が存在している、そういうことを体験される時がやってくるでしょう。

焦らずに、日々、楽しみながら、喜びながら、しかし、ここで伝えていただいた基本をしっかりと持って、毎日を送っていきましょう。

それぞれに、それぞれの道があります。その中で、自分を見つめるそのチャンスが必ずやってきます。その時に、しっかりとご自分を見つめ、この学びと出会ったことを、本当に心で喜べるあなたであってください。

そのような学び方をしてみてください。
そして、ポイントのひとつ。

この学びは、心を縛る学びではありません。心を解き放つ学びです。

ここにポイントを置いて、あなたなりに、精一杯学んでいってください。

十年前のメッセージ、当時は学びの年月は浅かったのですが、本当のことが知りたい、自分のことが知れるチャンスとして申し込みました。

十年の間、時々読み返していましたが、改めて今読み返すと、本当の自分に出会いたいという思いに素直になって自分の心を見ていく、そうすることがこの学びと自分が自分に答えていたのに、この大事なことを横に置いて学んでいました。

本当の自分に出会いたいという思いを掴んで欲の思いを膨らませるのではないかと、欲一杯で生きてきた私は自分のことが信じられず、メッセージは読み返すものの、掴まないようにと意識して素直ではありませんでした。

お母さんに出してきた思い、すさまじいエネルギー、本当にその通りです。

今世のお母さんに対してだけでも見下げて見下げて怒り狂った私を出してきました。でも肉の母は最後

まで家族でいてくれました。思い返しても信じられないくらいです。母の大きな現象も私にとっては、間違いですよ、気づいてくださいという愛の現象、そのことがやっと少しわかるようになり、お母さんの意識はずっと愛を流してくれていると思えます。

この十年前のメッセージは自分の学びを進めていくことが凝縮ぎようしゆくしてありましたが、十年経たった今も課題が多いです。十年経ってしまい、残されている時間がないのかもと思うとまた焦あせってしまう欲の思い出ますが、楽しみながら、喜びながら心を縛らないようにですね。

「あなたの意識です」はブックさんがおっしゃる通り意識の世界からのプレゼントでした。

メッセージに向けて少し瞑想をし、感じた思いです。

本当の私が私に伝えたメッセージです。本当の自分からのメッセージを信じてこれからも学んでいっ

てください。本当の自分を信じていってください。喜びです、うれしいです、うれしいです、ありがとうございます。

63

二〇一〇年四月二十二日（木）

***さん

***さん心を語ってみてください。

心で感じるということはどういうことかなあ、頭を巡らせてきました。心の中を辿たどっていくと、私は恐怖の思いに突き当たります。心を見ないといけな。なぜなのか。心の中に恐怖があります。心を見なければ、私は、これからどんな世界に落ちていくのか。そんな恐怖を抱かかえ持ちながら、私は心を見て

いた。今、そんな自分を感じています。

頭を回してきました。お母さんの反省はこれでいいのか、こうするのか、瞑想とは、ゼロ歳の私を思うとはと、私は、いつも頭を回してきました。心の中を空っぽにして、何も思わずに、何も考えずに、ただ、ふうっと、お母さんを思う、ふうっと思うことが私にはできませんでした。

はい、今、ふうっと思いました。

はい、私の中には、恐怖の思いがたくさんあります。寂しい思いもありますが、それよりも恐怖です。怖いです。私のこれから先がどうなっていくのか、ああ、やはり私は肉でした。肉の私をしっかりとつかまえていました。だからこそ、そうなる前に心を見なければならぬ。瞑想をしなければならぬ。心を見て瞑想をして、そして、ここで教えてもらったことを、少しでも、自分の中に取り入れてということでした。

私の根本は肉でした。恐怖に駆られた思いから、私は、そうしていました。今、そのように感じます。

そうではないことを、私のまた心の隅っこから伝わってきます。

「あなた、優しい思いを向けてください。私達の思いを聞いて。」

そんな思いが心から上がってきます。

そういえば、私は小さかった頃、お母さんに、甘えていました。お母さんに甘えていることが幸せだった。自分の思いを素直に言えることが幸せだった。そんな私を今感じています。そんな時、お母さんが私を邪険にしたら、私はとても悲しくて辛くて。そうだったんです。私が今、この苦しい私にずっとそうしてきたんだ、今、そう感じます。

お母さんを思う瞑想は、そんな私に優しい思いを向けることを教えてくれていたんです。

ふうっと思いを向ける、どんな私でもよかったんです。

ただお母さんに思いを向けながら、私を思っただけよかったです。

これって、頭ではないような気がします。何かし

ら、心から伝わってくる思いです。ああこれが私の思いでした。思いの世界でした。頭を使って、何とか、何とかと思ってきました。そうして、私は、同じところをグルグル回っていただけでした。

その思いが、とても私を苦しめていた。私が私を苦しめていた。そんなことを今、感じています。

***さん、田池留吉です。焦らずにたゆまずに、どうぞ、瞑想を続けていってください。

あなたは、今なぜそこにいるのですか。あなたは幸せですか。

そうやって、自分にいつも、いつも問いかけてみてください。

心の中に何かを感じる時もあれば、何も感じない時もあるでしょう。それでも、いつもお母さんをおもって、私、田池留吉を思って、静かな、ゆったりとした時間を日々の生活の中で待つようにしてください。

心の中に、私、田池留吉がいつもあなたに呼びか

けていることを忘れないでください。

特別なことではないんです。私はいつもあなたに語っています。本当のあなたがあなたに語っています。肉を自分だとする思いが、その語り掛けに気付けないだけです。

日々、喜んで周りの人達と生活をしていく中で、しかし、思いは自分の中に向けることを淡々としていってください。

そうしていけば、瞑想をしなければならぬと自分を縛ることもなく、いつの間にか、瞑想をするのが楽しい、嬉しい、幸せ、そんなあなた自身になっているでしょう。

要は、あなたが本当に幸せを感じていればいいのです。幸せであるのかどうなのか、本当に喜びであるのかどうなのか、それはあなた自身が一番よく知っています。自分に素直に、自分に誠実に生きていく、それがあなたが本当に望んできたことではないでしょうか。

***さん、あなたの心を田池留吉にしっかりと向けてください。

異語。

田池先生から送られてきたCD付きのお手紙を読
んで。

先生から送られてきたCDは、今でも田池留吉に
向ける瞑想をする時に聞いています。

そして、今回、十年前に送られてきた時の封筒を
もう一度、見てみました。

その封筒の中には、「***さん、心を語って
みてください」というCDに録音されていないプリ
ントも入っていて、私は、その文章のことは、すっ
かり忘れていました。

十年経った今、もう一度読んでみて、涙が止まり
ませんでした。

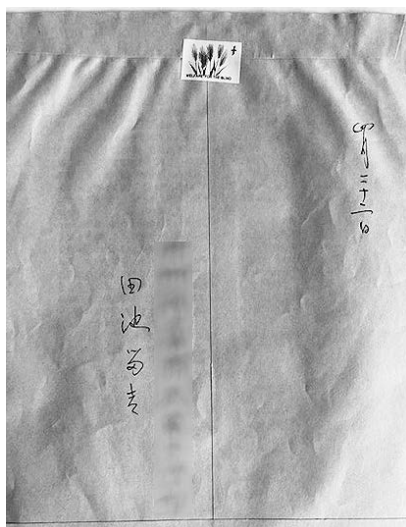
先生から送られてきた封筒を見ても、涙が止まり

ませんでした。

ああ、私は、十年間、一体何をしてきたんだろう。
十年経った今も、私の根本は肉です。

己偉く、聳え立っています。申し訳ございません。
田池留吉、お母さん、ごめんなさい。

また初心に戻って、学んでいきます。



田池先生から送っていただいた封筒

二〇一〇年四月二十日（火）

***さん

***さん、心を語ってみてください。

心苦しく生きてきた私です。何が間違ってきたのか。すべてが間違ってきた。私は、自分を誇ってきました。この己という肉を誇ってきました。

その間違いを心の中で感じることはとても難しかったです。今もなお、私は、この肉をまだまだそばえ立たせています。

心の中に感じるものがあります。お母さんの思いを感じるけれど、まだその思いが浅いです。

何かをしたとき、ふっと思うとき、私は、この肉の自分を、ああ今とても大きく表している、そういうエネルギーを流している、ふっとしたときにそう

感じます。

母への思い、母の思いをしっかりと心に広げていかなければなりません。心を狂わせてきた私です。私は、自分を見失ってきました。過去の私はその苦しみの中にありました。暗黒の世界、本当にそうでした。息もつけないほど苦しかった。そんな暗黒の中で、私は母から肉をいただきました。母の思いが伝わってきます。心の中に伝わってきます。優しい思いです。私は、この思いを自分の中に忘れ去ってきました。苦しくて当たり前でした。とても、とても苦しかった。寂しくて苦しくてどうしようもない私を、今感じています。

そんな私に今、ひとつの肉を持って、心を語らせていただいています。田池留吉と呼べる今がどれだけ喜び幸せな時なのか、心に感じています。苦しければ苦しいほど、暗黒の世界を感じれば感じるほど、今という時がどれほど大切な時なのか、心に響いてきます。

肉を掲^かげて幸せになれるはずがありませんでし

た。肉を表して幸せになれるはずはありませんでした。

私は、いつも、いつも、その中で地獄を見てきました。

肉という影の中で、私は苦しみ続けてきたんですね。今、自分を語りながら、その苦しさが伝わってきます。

苦しい、苦しいと私の中に訴えてくるたくさんの意識達に、もっと思いを向けていこうと思います。

苦しかった。ようやく素直に何も思わずに、何も考えずに、ああ苦しかった、ただそう言える私があり、それが何だか嬉しいというか、ほっとしている妙な感じがします。

***さん、田池留吉です。はい、どうぞ、自分の心をもっと、もっと自由にしていってください。恐れることはありません。私は、あなたの中で、あなたが自分の中を自由にしてくれるのを待ち続けています。

立派なあなた、そんなあなたももういいんです。ただお母さんの思いに素直に従って、その思いに沿って、あなたを見つめていってください。母の思いをあなたの中で広げていったとき、もっと、もっと、あなたの心は広がっていくでしょう。田池留吉、アルバートの宇宙を、心に広げていけると思っています。頭ではないんですよ。あなたの心で感じていく世界です。

心が敏感なあなただから、おそらく、瞑想をして、色々な意識を受けていると思います。ですが、あなたの中の根本、母への思いをもう少ししっかりと見つけていくんです。

お母さんの温もり、まだあなたの中でしっかりと広がっているというわけではありません。

そんな中で心に色々なものを感じていけば、それはあなたを混乱させるだけです。

お母さんへの思いを、もう少ししっかりと見つめ、その温もりを自分の中で確立していってください。

己という思いが出てきたならば、その思いをどう

ぞ、しっかりと見つめていってください。

あなたの中の宇宙、凄まじいエネルギーのもとに苦しく喘ぎ続けてきた宇宙は、あなたの中で、その思いをもっと、もっとしっかりと見つめてほしい、そのように、あなたの中から伝わってくると思います。

宇宙へ心を向ける瞑想、本当はあなたにも、もう少し、しっかりと宇宙へ向ける瞑想をしていただきたいのですが、あなたの中は、まだそういう準備が整っていないと思います。母の温もりを、まずは、しっかりと自分の中に確立していってください。

あなたの中の温もり、優しさ、それを信じていくそんな瞑想を続けていってください。宇宙に向ける瞑想、それよりも、母の温もりを心にとしっかりと確立させること、それがとても大切だと、私はあなたに伝えます。

今回読み直してみても、やはり、一番大切なのは母親の反省だと思いました。

この学びに出会った当初、何冊もノートを書き、何度も母を思う瞑想をしてきました。

けれど、そのすべてが肉であったということ、今少しづつ感じていきます。

今回、読み直す機会をいただいて、肉が基盤、私といえど肉の私しかない、そんな思いがしみついていて、どうにもならないことに気づきました。

あなたの中の田池留吉と言われても、肉の自分の中に田池留吉がいると、無意識のうちに思っているお粗末な私でした。

そして、私は数えきれない転生のたびに、数えきれないほど母を殺し、母をなきものとしてきたことにも気づきました。

自分の中から、母を消し去る、抹殺する、ゼロ、無にしてしまう、言葉でどう表現したらいいかわからないけれど、とにかく母を全く無視するというか、消し去ってきた転生でした。

憎くてたまらなかつた、母親が憎くて憎くて殺し

てやりたくて、殺しても殺しても飽き足らなくて、抹殺して、憎んで恨んで、どうにもやり場のない思いを母にぶつけ、母を殺してきた。

いらなかったのです、私には母親などいらなかったのです。

本当に、本気でそう思ってきた転生でした。

母親を呼べませんでした。

憎んで殺してきたものをなぜ呼ばなければならぬ、私の心の世界から抹殺したものをなぜ呼ばなければならぬのか、激しく抵抗してきました。

転生のたびに母親を心の中で抹殺し、存在しないと思い続けてきた自分には、ゼロ歳の瞑想もできませんでした。

ゼロ歳の自分を思うと、どうしても母親の存在を認めなければならぬからです。

自分が生まれたのは、母親が産んでくれたから、母親が存在したからです。

それを認めたくないから、ゼロ歳の自分に心を向

けることができませんでした。

生まれてきたくなんかなかった、だから母親を憎み続け、ぎりぎりど歯噛みをして自分の人生を恨み続けてきた。

そういう転生の繰り返しでした。

だから、今世、この学びに出会う必要があります。

この学びに出会うために生まれてきたという事実が自分の中で必要でした。

そうでなければ、明確に自分が望んで母親に産んでもらったと自分の中で認められないからです。

自分の意志で生まれてきたと認められた時、初めてやっと母親の存在も認められるからです。

だから、今世は、意識の私にとって、唯一無二のチャンスであり、絶対不可欠な一つの転生でした。

お母さん、今は呼ぶことができます。

自分の心に気づけたからだと思います。

長い間、怒りと憎しみに狂って母親を殺し続け、そして寂しさの中でさらに狂ってきた自分の心に気

づけたから、お母さんと呼べるようになったのだと思います。

自分が自分に気づいてほしかった。

だから、自分が自分の邪魔をしていた。

お母さんと呼ぶことの邪魔、ゼロ歳の自分を思うことの邪魔をしていたのです。

ゼロ歳の自分も思えるようになってきました。

お母さん、申し訳ありませんでしたという思いが出てきます。

よかったと思います。

田池先生は、私が母親を呼ぶことに抵抗して抵抗して、抵抗し続けているうちに死んでしまいました。

苦しくて苦しくて苦しくて、どうにもならない苦しさを抱えて、私は途方にくれました。

肉の先生が、どれだけ自分の中の支えになっていったかを知りました。

自分の中で、田池先生を頼るといふか、怒りをぶつけて甘えるといふか、肉の先生はそういう存在で

した。

一人で学んでいかなければならない、当たり前のことでした。

その厳しさが自分の中にはありませんでした。

自分は、この学びをしている、自分を見つめていると思ってきたけど、実情は全くダメでした。

母親を殺し続けてきた自分の心しつかりと気づけませんでした。

母を呼べない自分の心の軌跡をしつかりと受け止めてきませんでした。

ただ、肉の田池先生に甘えながら学びにつながってきただけでした。

大切なことは、すべて伝えていただいてありました。

自分で申し込んで、出してもらった意識です。今回読み直せてよかったです。

コロナウイルスの影響もあり、いつも外に向いてばかりの自分も少しは中に向ける時間と機会が増え

ました。

セミナーもないので、自分でやっていくしかないという状況も、愛でした。

本当にありがとうございました。苦しかった自分の心を開放していけるような感じがします。

肉の世界ではなく、意識の世界のお母さんになりと出会って、今世を終わるようになっていきます。

65

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

自分の中に、本当のことを知りたい思いがありました。本当のことって、いったい何だろうか、私は、そのように自分の中で思っていました。

自分の中を見ること、心を見ること、自分を感じること、そういったことを、私はこの肉を通して伝

えていただきました。

それが、私の今世でございました。私は、今、自分の中に、真つ黒な、真つ黒な自分を感じ、もう吐き出してもいいんだよ、吐き出してもいいんだよ、みんな苦しかったね、そんな思いを感じています。

そして、その場を、私自身がこのように用意してきただんなあと感じています。ああでも、私の中は……。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、私は、どこかでこの思いを知っているなあと、今、感じています。お母さんを思います。心の中に母を思う時、私の中に、エネルギーを、大きな、大きなエネルギーを感じます。

そう、田池留吉に心を向けることを、私は、自分で望んできたんだなあと、今、思っています。

ひとつの肉体を持って、その肉体を通して、凄ま

じいエネルギーを、今、心に感じています。

田池留吉……。はい、間違った道を歩いてまいりました。田池留吉、私は、間違った道を歩いてまいりました。他力のエネルギーを心に蓄えてきた。ああ、幸せになりましたからです。幸せになりましたから、だから、他力の思いを心に蓄えてきた。他力の神々を求めてきたことを感じます。

間違ってきました。今、私は、そのように感じます。

異語。

***さん、どうぞ、心を見ることを淡々として、そして、瞑想を淡々と続けていってください。あなたが心に感じているように、今世、あなたが、自分で用意してきた時間と空間、どうぞ、大切にしていってください。

もちろん、一足飛びには進んでいかないと思いません。しかし、今、田池留吉に向けた時に感じたあなた自身を、しっかりと心に受け止めて、田池留吉の

ほうに心を向けながら、真つ黒な自分を見ていってください。

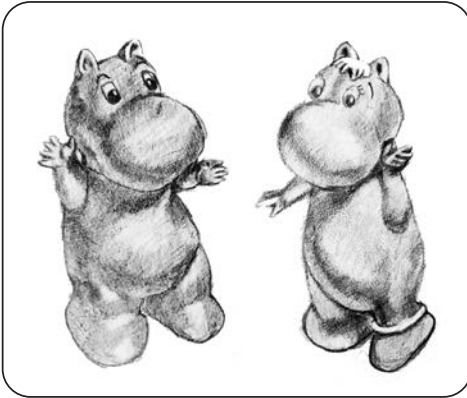
この私の意識を文にしてもらったのを読んだときはうっすら感じていた私以上に深く映し出してきたってびっくりしました。今頻繁になぜ今生生まれしてきたのか、何のために産んでもらったのかを何度も問いかけてきてやっとな確にいえません。私はほんとのことが知りたかった、真実にめぐり合いたかった、このために何が何でも母親に産んでもらいたかった。そして真実を伝える人に会えて本当の生き方をする。それが叶った事、最高に幸せです。私がこの学びにたどり着けたのは十三年前の主人の交通事故死です。物心ついたころからどこかに真実があるはずだとずっと探し求めていろんな宗教をしたりいろんな本を読み漁っていました。結局人の道、女の道として四十八年間常識的に生きてきました。そして突然の主人の事故死。当時偶然同じ新興宗教をしていて数年前の同じ時期くらいにやめていた友人

がこの学びを教えてくださいました。すぐには本を読むことができなかったですが、半年後のセミナーに参加しました。そして言われるとおり母の反省を必死にしました。まずは母の反省をして母のぬくもりを感じることに思いました。一筋縄には行かないと漠然ぼくぜんと思っていました。予想以上に難しいです。突然死んでしまった主人には思いを寄せませんでした。母の反省、母の瞑想そればかりでした。他力のぬくもりを感じられるようにと。どうしても頭のほうが先行するのかなかなか敏感にはなれません。体が動くことがあって、ああこれが私のエネルギーだとしても頭を通してないからわかっていないような感じがする。漠然と母に使ってきた思いにはすさまじいエネルギーがあるとは知っていた。最近主人に向けてみた。私の設定通りに私は学びに繋がった。私は自分の思い通りになるようにものすごい思いを使っていた。これは母親に対してもそうだった。私は思い通りにしてきた。主人にはなにも言わせない

ように気持ちよく過ごさせるようにして、右か左かの別れ道には強く強く思い通りになれと念じていた。主人の亡くなる前、私たち家族はどん底だった。私もいっぱい働いたが割りとおつげらんとしていた。主人は相当苦しんだと思う。たくさん我慢をしてもらっていた。私は母に向けたと同様に主人にもすさまじいひどいエネルギーを出していた。こんな思いで接してきたのだから、主人もいたたまれなくなつて姿を消したかったのかも知れない。可愛かわいそうに、私が殺したようなもんだ。今主人を思うと泣けてくる。主人と学びがしたい。あとの生活は主人のおかげで暮らしていける。意識の世界は別れないとあった。私はずっとずっと前、なんで人は別れないといけないのか疑問に思ったことがあった。各自家に帰るのは当たり前だから離れるのは当然のことなのに何故か疑問だった。あの思いは肉ではないのかな。今は絶対無理だけど、例えば雨が降っていてぬれている人がいたり、急いでいる人を見ると知らない人だけど車に乗せてあげたい衝動に駆かられた。

私は優しい。もちろんひどい思いをいっぱい使ってきたけれど、優しくしたい、仲良くしたい。人が笑っているのを見ていたい、人と人が仲良くするのが嬉しい。めちやくちや汚れている自分も感じる。自分さえよければ良い。欲の塊かたまり。卑いやしい。優しい自分に戻りたい。形の世界だからしょうがない、生存競争、負けていられない、比較する。欲で物を手に入れた。人より早く多くいいものを。醜みにくい争い。何をあせているのか、あわてているのか。勝手に競争している。欲だらけ。醜い。真っ黒だ。

ここを見ていかなければならなかった。真っ黒な自分。母に使ってきた思い、汚い、かっこ悪い、恥ずかしい、情けない、みじめ。それが自分だったのに人事のように鵜呑うのみにしていた。なんと己偉しか。私はそんなに偉そうにしていな思っていた。十年間心を見るのがわからなくて自分を見ていなかった。最近少し本当



の自分の切なる思いに触れたように思う。そうまでしてこの学びに出会うように設定してくれた。奥底に真っ黒が詰まっているのをわかるまでじっと待っていてくれていた。今世この真っ黒な自分を自分で救うことを教えていただいた。誰かに、何かに頼る心癖がこびりついている。いつもいつも一から、まだスタート地点にも立っていないかった。私が恥ずかしい。まだまだ底のほうにある汚いものを全部出していこう。

生活も瞑想する環境も整っている。あとは自分次第だ。肉に向けたらどんな天変地異が私や家族を襲うか、いつ命がなくなるか恐怖が襲う。今の平和が信じられていない。喜ばうと思ったらいくらでも喜べる。ひたすら瞑想をと学べているのが幸せだ。本当の私が今世の私にうっすら繋つないでくれたように、私も来世の自分にこの思いをしっかりと繋つなげるよう

にしたいと思います。なかなか肉の壁を破れないでいる。心に感じる日と全然響かない日がある。まだまだだと思う。死ぬまでに私の設定したとおりにいけるだろうかとも思うし、今転回しなくちゃとも思う。この機会を頂きありがとうございます。

***さん、あなたのエネルギーを心に感じてどうでしょうか。今、あなたの思いを聞かせてください。

どれだけ反省と瞑想を繰り返して、心から田池留吉、お母さんを思えども、私の中では、あまり変わっていないことを感じます、反省をしてきました。心を見てきました。本当に、私は、それを繰り返してきました。瞑想も、続けてきました。続けています。それでも、なかなか自分の中が変わらないことを思うと、私は、過去から本当にどれだけの思いを、心

に溜め込んできたのか、それも、真っ黒な、真っ黒なエネルギーを良しとしてきたのか、今、それが、つくづくと分かります。

母に使ってきた思いは、とても凄まじいです。母などくそ食らえでした。すべては、我一番でした。我が神でございました。

その思いは、今も、まだまだ続いています。反省と瞑想を繰り返す中で、我一番なり、我は神なりの思いを振り返ってきたつもりです。

しかし、田池留吉の目を見て、自分を語る時、やはり、私の中に、我は一番なり、我は神なり、我の言うことを聞け、我に従え、我にひれ伏せ、そのように出てきます。これが、私の現実です。

今、語るのが喜びです。現実には、現実として、しっかりと、私の中で受け止めて、さて、これから、どのように自分の歩を進めていくのか、それが問題ですが、私は、私の中で、しっかりとやっていると、今、思っています。

異語。

***さん、田池留吉、静かに、静かに、田池留吉を、心に呼んでみてください。

異語。

はい、静かに、静かに、本当に静かに思いを向ける時、田池留吉の目は、私をしっかりと厳しく見えています。真^まっ直^すぐに見ています。私は、この目を恐れてきました。この目を恐れながら、我一番の世界を広げてきました。他力の中にあつた私は、所詮^{しよせん}、そんなちっぽけな世界の主でございました。今、そのことを感じます。お母さん、お母さん、こんな私を生んでくれたあなたに対して、心からの懺悔^{ざんげ}がまだできかねます。

ひとつ、ひとつ、やっていこうと思いますが、母の意識の深さ、母の意識の広さ、この心で感じるには、あと何度転生をすればいいのか、私は分かりま

せん。しかし、心を見ることを、自分に伝えてくれた今世を第一歩とできるよう、この肉体があるまで、しっかりと自分を見つめてまいります。

異語。

***さん、自分を救いゆくのは、限らない優しさです。何も要^いらないんです。過去からのあなたは、すべてブラックです。何も良いところはありませんでした。優しいあなたを感じれば、それが、はっきりと分かります。優しさだけ、あなたの中のたくさんさんの意識達は、優しい思いに飢^うえています。言葉は要^いりません。母の温もり、母の優しさ、ただそれ wait っている意識達を感じてみてください。

約十年前に私に向けて出していただいた意識、冊子「あなたの意識です」、「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」をU T Aブックさんから送っていただきました。

十年前……セミナーに参加し、心を見て学んでい
るのに、生まれてこれたことを喜べない思いに戸惑
い苦しんでいました。正しく生きてきたはずの私に
なんでこんな苦しみ苦悩が延々と続くのか、幸せに
なりたいたのになれない悔しさ、得体の知れない不安
恐怖焦り怒り等々が渦巻く自分の心をどうすること
もできずお手上げ状態の現実がありました。当時冊
子の内容は本当にその通りだと頭で納得しただけで
した。冊子の内容を心は素直に喜べず、むしろ怒り
と虚しさを覚えていたように思います。田池先生に、
苦しむ肉を、苦悩する肉の心を救ってもらうため
の学びでした。今もその延長線上にあることに、そ
して、学びの動機が根底から間違っていることに十
年たった今やっと心で気付かせてもらったところで
す。十年前の私への意識の内容が十年後の今心に温
かく優しく響きます。

いつの頃からか多武峰、転生輪廻からの解脱、密
教、曼荼羅、熊野古道、千日回峰、行者等々の仏教
用語に魅かれるものがあることに気が付き始めまし

た。中でも転生輪廻からの解脱という響きに涙する
ものがありなんでやろ?と……学ぶ以前から生ま
れたくなかったのになんでお母さんは私を産んだん
だと激しく母を責める思いがあることは知っていま
した。我は神なりという思いが溢れ出てくるように
なり、その恐ろしくも凄まじいエネルギーに翻弄さ
れ自分を見失いそうになる体験を何度もしました。
恐怖でした。外の肉に救いを求めました。右往左往
する中で田池留吉を思い出したその瞬間、嘘のよう
に狂いの現象は消えたのです。自分の中に田池留吉
はほんまに存在しているんやという薄っぺらい確認
と同時に、田池留吉をまったく信じていない自分の
現状を思い知らされた現象でした。当時発刊された
「愛と死の真実」を繰り返し読んで記憶があります。
以来、私の中で思いが変わり始めたきっかけになっ
たように今感じます。

それは苦しさ、寂しさに喘いでいるたくさんの
自分から、あなた私達を助けてください、この苦し
みから私達を救ってくださいという自分への促し、

メッセージだということを、心を見る実践を通して
少しずつ感じ、実感できるようになってきました。
そして、そのメッセージはお母さんの温もり、優し
さとともにあることを瞑想の中から、かすかにかす
かに伝わってくるように感じます。

肉を本物とする徹底抗戦のエネルギーの実体、そ
れは我一番、己一番という底なしの欲のエネルギー
で自分を肉に縛り付けている宗教という岩盤の存在
がはっきり見えてきています。外の誰かが何かが宗
教を神を作ったのではなく、肉を本物とする自分の
欲の思いが作り上げたものだということを、今世心
で知り得たことは奇跡だと思っています。日々の瞑
想の中で、日々の生活の中で、自己確立を目指し、
本当の自分、愛へ帰る道筋へと軌道修正きどうしゆせいできる肉が
今ここにあることが感謝です。肉あればこそです。
私がお母さんに肉をくださいと懇願こんがんしたから、お母
さんは私を産んでくださいました。生まれたくない
という悲痛な叫びは生まれたいという喜びの叫びで
した。転生は喜びでした。

田池留吉、アルバート、母なる宇宙を思う瞑想の
中で、闘いと破壊のエネルギーの自分とともに、共
にお母さんを思いながら歩いていこう、共に帰ろ
う、本当の自分に帰ろう、必ず帰ります、お母さん
生まれてきてよかった、待っていてくださいと、こ
の肉を通して語り合い、通じ合える喜び、嬉しさを
二五〇年後の転生へと繋つないでいきます。待っていて
ください、お母さん。

UTAブックさん、本当にありがとうございました。

67

***さん、心を語ってみてください。

心の中に、たくさんの私を抱かかえながら、今、私は
ここに存在していることを感じます。その感じてい
る私は、私を裏切り続けてきました。自分を冷たく
突き放はなし、切り捨ててきました。

肉の私だけが幸せであればいい、肉の私が、この肉の喜びを手に入れられればいい、そうやって、私は、たくさんの私を切り捨ててきた。心の中から切り捨ててきた冷たい、冷たい私と、今、向き合っています。

母の反省を通して、こんなに冷たい私があったのか、こんなに冷たい波動しか流してこなかった私があったのか、そんな私に驚いています。

しかし、母は私を受け入れてくれました。あの憎^{にく}たらしい肉の母を見ると、そんなこととも思えませんが、今、瞑想をして母を思うと、こんな私を、こんな冷たいどうしようもない私を受け入れてくれた母の思いを、感じます。

ああこれが、私の本当に望んできたことでした。この思いを心に抱え、私は、これから存在している^こうと思います。

どんなに、どんなに私を素晴らしいと誇っていても、この頭をどんなに素晴らしいとしても、私は喜びではありませんでした。

私の中には何も残らなかった今、心の中に、空^{むな}しさが寂しさが広がるのを感じつつ、そのことを確認しています。

お母さん、ごめんなさい。何て愚かだった私でしょうか。ああそれでも、これからの時間、まだ私に残されている時間があると思います。

その時間の中で、私なりに心を見て、田池留吉、あなたの言うことを、心で感じられる私になっていきたいと思います。

***さん、時間を無駄にしないでください。これからの時間を無駄にしないでください。あなたの中には、もう色々なことに心を使って、本当に愚かだったという思いが広がっているといます。

これから、あなたは、本当にあなたを見つめていくことに、時間を過ごしてってください。

そして、あなたの人生、自分の中で、合格点が出るようなあなたになっていてください。

私は、その日が来るのを待っています。

たくさんの意識を、あなたも感じておられるかも
しれません。しかし、その基盤を変えていくこと、
そうしないと、あなたは、せつかくの自分の計画を、
自分自身で潰つぶしていくと思います。どうぞ、しっか
りと自分を見つめ、自分のエネルギーを感じ、そん
な自分に優しい温もりの思いを伝えてください。

あなたの周りには、学びの仲間がいるでしょう。
その仲間達とともに、本当の仲間として、心を開
いて、ともに歩みを進めていってください。

五月十五日にUTAブックさんから「あなたの意
識です」と十年前に出していただいた私の意識が届
いていました。

十年前の私の意識を読み返し、「ああ、そうです。
そのとおりです」と全面的に納得です。当時の私の
思いを振り返りつつ、十年経たった今の自分はどのな
のか、自分の思いを確認してみました。

十年前に意識をいただいたときは、自分でも語っ

ているとおおり、学びに集つていながらも肉の色々な
ことに心を使い、学びを足蹴あしげにして、心身ともに
疲弊ひへいして、漸ようやくこれからは心を入れ替えてしっかり
学んでいこうと決意した頃でした。まさに自分を裏
切つて裏切つて、心の叫びなど無視で肉の幸せを
追い求め、夢（幻想）破やぶれて、やっとブレーキがか
かり、立ち止まって自分が全く違う方向に突っ走つ
ていたことに気付いたときでした。だからといって
突っ走つてきたエネルギーを急に弱めることはでき
ず、学びの方向に自分の舵かじをきつて動かしていく
のにさらに時間がかかりました。当時、「白紙撤回、
総崩壊」をテーマに反省と瞑想を繰くり返しました。
全然できなくて、結局このテーマで五年くらい勉強
し続けたことを覚えています。

最近、瞑想をして、やっと心の底の底に閉じ込め
てきた自分自身と真正面から向き合えるようになって
きました。

どれほど苦しい、寂しい、助けてくれと叫び続け

てきたことか。振り絞るような自分の思いを感じるにつけ、ただ、ただ自分自身に申し訳ない思いで一杯です。ごめんなさいという相手は私自身でした。ごめんね、ありがとうという相手は、私が散々突き放し、切り捨ててきた私自身であったことによりやうく気付きました。苦しいと寂しいと悲しいと訴える自分が嫌で見たくなくて、そんな自分を心の底の底のずっと奥底に突き落とし、沈めて蓋をして封印してきたこれまでの人生でした。しかし、苦しかった、苦しかったと訴える声を聞き、苦しくて苦しくてたまらない自分と真向かいになったとき、もう何とも言えない喜びが私の中に蘇ってきました。苦しい私は無尽蔵に私の中にいるけれど、その自分の叫びを受け止め、ともに田池留吉に向ける嬉しさ喜びを知りました。

そして、十年前も十年経った今も、私の課題は今もなお、母の反省と温もりです。これは私にとつて、今世の肉を終えるまで、そして肉を終えてからも続

く最大の課題です。

私の肉の母は、お互いに肉を持ち、ともに学ぶ計画を立ててきた学びの友でもあります。母は私の心の底の凄まじいエネルギーを振り出し、引き摺り出してくれる存在です。私も母も恐ろしいほどの闇のエネルギーを抱えています。互いが互いの教材として切磋琢磨しながら学ぶことを選んできました。私にとつて母は今もなお難攻不落の存在ですが、真実を知らずに生きてきたこれまでの転生、過去の自分に思いを馳せれば、肉の母とともに真実に触れ、ともに学べる今のこの時間は何にも変えがたい、かけがえない時間です。私の闇と母の闇、ともにともにならなくていいのなら、その先にはきっと大きな大きな喜びが待っているに違いない。そんなふうに思えるようになりました。

十年前にいただいていた「基盤を変えていかなないと、せつかくの自分の計画を潰していく、自分をしっかり見つめ、自分のエネルギーを感じ、自分に優し

い温もりの思いを伝えてください」というメッセージ、以前はぼんやりしていたけれど、今ははっきりと私の心に響いてきます。基盤を変える、肉から意識への転回なくしては何も始まらない。そして母の温もりでしつかりと自分の闇のエネルギーを抱きしめられなければ、私の闇のエネルギーを喜びに返すことができない。そのような状態では、私は自分の計画を遂行できない、二五〇年後、アルバートとともに宇宙の友とともに次元移行はできない。そういうことだと理解しています。

今もまだまだ道遠しであることには変わりありませんが、十年前にはまだ明確でなかった色々なことが、今やっと自分の中で明確な形となって響くようになってきました。

そして、この十年の間に、私にはともに歩める学びの仲間が飛躍的に増えました。

最初は家族だけでこじんまりと学んでいましたが、そのうちに同年代の学びの友と学ぶ機会に恵ま

れ、やがて地域の学びに参加するようになりました。気が付けば、老若男女を問わず、心を開き、ともに喜びを分かち合い、学べる友が沢山沢山できていました。

そして、肉を持たない友についても、十年前にはその存在がまだまだ自分の中で信じられず、半信半疑でしたが、今は私の中にはっきりとその存在を感じる事ができます。黙って待ち続けてくれていたこと、ずっと伴走し、ともに学んでくれていたことが良くわかります。沢山の肉のある友、肉のない友とともに学びを進める私の大切な仲間です。

いただいた私の意識を思い、目を閉じると、ただ、ただ温かい温かい思いが伝わってきました。いつもいつも愛されていたこと、慈しまれ、優しさに包まれていた自分であったことが感じられました。嬉しくて、嬉しくて、ただただ嬉しくて涙が止まりませんでした。

今、私はもう一度自分を見つめ直すチャンスをいただいています。

いろんな形で学びを^{うなが}促し、後押ししてもらっていることを感じています。

私の人生、自分の中で合格点が出せるようにこれから残された私の時間を使って学んでいきます。

今回、このような貴重な学びの機会をいただいたことが本当に嬉しいです。

十年前の私に出会えて嬉しかった。ともに学べて嬉しかったです。ありがとうございます。



何年かぶりに花を咲かせたゲクシクジャク(サポテン)です。もう枯れたと思いきや、今年みごと復活しました。

68

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

苦しい中を生き続けてきた私は、今世の母の思いを受け、一つの肉をもらいました。

ああしかし、肉をもらった私なのに、自分の思い通りに、これまでの時間を過ごしていませんでした。肉、肉で過ごしてきた我が人生を、今、振り返っています。心の中に、自分を振り返るとき、本当にたくさんの過ち^{あやま}を繰り返してきた、そんな自分だったこと、それだけが心に響いてきます。

お母さん、申し訳ありません。私は、自分に対して、まだ何も約束を果たしていない自分を感ぜます。

ああそれでも、今、ふっと自分を思い、瞑想をすると、「今からでも遅くはありません。あなたが自分に思いを向け、そしてあなたの歩いてきた時間を振り返り、母の思いを感じてください。」そうやって、

お母さんの思いが伝わってくるような気がします。

心の中を振り返ると、私は、とても、とても言葉にはできないほどの凄まじいエネルギーを流してきました。

周りをみんな殺してきました。八つ裂きにしてきたと言ってもいいでしょう。気に食わないものは、すべて、即、殺してきました。そんな私のエネルギーでした。

そんな私に、今、心を語る時間が残されています。自分と向き合っている、ようやく、私は、今、自分の中で、少し思えるようになりました。それが、嬉しくて申し込みをさせていただきました。

異語。

***さん、田池です。

そうです。あなたは、あなたを振り返ってってください。あなたの過去も未来も、すべて、今、一点にあります。

今をしっかりと見つめてってください。お母さんの意識の中で、あなたは、どれだけ苦しみ続けてきたことでしょうか。

それも事実ならば、温もりの世界も、喜びの世界もあなたの中で、確かに待っている世界です。

そして、その世界を、あなたの中で広げていけるのは、あなたご自身です。

私、田池留吉のほうに心向け、しっかりと心を見つけてってください。

チャンス^{チャンス}を悉く潰^{つぶ}してきたあなたですが、これからの時間、しっかりと自分と自分の間で、ただただ心を見つめ、自分のエネルギーを感じ、そして、母の思いを感じ、喜び、喜びで時間を過ごしてってください。

どんな自分も受け入れていける、そんな喜びの世界が、あなたの中にも確かにあります。それを信じてやってってください。

この度、十年前の私の意識を見る機会を頂きあり

がどうございました。

私は常に心を外へ外へと向けていました。己偉い自分、聳え立つ自分、心を見ているようで見ていない、そして己偉い自分を表す事ばかりしてきました。何も分かっていませんでした。以前にセミナーで出していた意識を何回も聞き直しました。聞き直していると田池先生の言葉が心に入ってきます。

ああ自分を見ていくだけで良かったんだと、気づかせていただきました。この事を忘れずに心を見ていきます。このようなチャンスを頂き本当にありがとうございます。ありがとうございました。

69

***さん、あなたの心を語ってみてください。

自分の中にある欲の思い、他力のエネルギー、私はそれに縛られて生きてきました。小さな中に押し

込めて、自分を解き放つことなく過ごしてきたこれまでの時間を振り返っています。

お母さんに申し訳ない思いが出てきます。しかし、私の中には、まだまだ自分に優しくなれないそんな私を感じています。

他力のエネルギーは、本当に凄まじいんですね。冷たい、冷たい、暗い中であつた私を感じます。そんな私に優しいいざないをしていきなさい、はい、今、そんなメツセージを感じています。

私は、私を見つめていきます。他力の中に苦しんできた私は、私を見ていきます。これからも、私は、私を見ていただけなんです。

今、ゆったりとした時間を用意しています。まだ身体も健康です。こんな中で、私が私を見つめていける、私は、そのことがとても嬉しいんです。

どれだけこの時を待ってきたか、まだ自分ではよく分かっていませんが、私の中は、そう伝えてきま

す。
お母さん、申し訳ない。お母さんの思いを踏み

じって生きてきたこれまでの私でした。これから私は、自分を見つめてまいります。

異語。

***さん、どうぞ、しっかりと自分を見つめていってください。

あなたのお勉強は、これからも永遠に続いていきます。今世の自分の学びを通して、それを感じていってください。今は、その通過点に過ぎません。しっかりと心を見ていくことを学んでいってください。母に使った思い、他力のエネルギーを膨らませてきた思い、どちらも、しっかりと見ていってください。あなたは、まだまだ自分の奥底のエネルギー、その凄まじいエネルギーに気付いていないけれど、とても大きなものがありますよ。

しっかりと心を見つめていってください。あなたが心を見ていけばいくほど、そのエネルギーがあなただに伝えてきます。

もっと、もっと、伝えてくれ。もっと、もっと、優しさや温もりを伝えてくれ。凄まじいエネルギーが飛び出していきます。

どうぞ、臆せず^{おく}に、自分をしっかりと見つめていってください。

ただただ、お母さんに心を合わせ、田池留吉に心を合わせ、ゆったりとした中で、瞑想を楽しんでいってください。あなたがすることはそれだけです。

十年一昔と諺^{ことわざ}があるが、学びに出会ったのが三十年前になる。妻に連れられて八尾センターに行った。その時チャネリングしてくれた。貴方は全く駄目な人間です。良い所等無く、真つ黒の意識ですとのコメントされました。こんな所に二度と来るまいと思つた。

十年後、次女が大学卒業して、家族で北陸に記念旅行に行った。翌日、近くでセミナーあるので寄ってみないと言われて、ホテルながやまに行った。桐

生さんに、突然だけど、一人追加できますかと伺うと、気持ちよく了承してくれた。そして、初めて田池先生にであった。どっしりとして、優しそうな感じ、何となく近寄りがたい雰囲気だった。家族が計画した旅行、未知へのスタートだった。

その次のセミナーは琵琶湖グランドホテル、田池先生に初めて挨拶した。ようやく来たな。とニコリ微笑んでくれたので、私が手を伸ばして握手して貰った。分厚いすっかりした頑丈な手だった。参加の人達も大変楽しそうで喜んでいいる。家族も嬉しうなので、いい勉強なんだ。出来るだけ参加しようと思った。

当時、一泊二日の参加、前日泊等で参加、殆ど初日のセミナー終了後、直ちに帰宅した。どの様な講話がされるのか気にしながら帰った。

当時、お母さんの反省と他力の反省、その時の心を見る。そうすれば自然に全てが整う、と話されていた。この部分は教えだと思った。しかしその為にするべきことがある。五本指靴下の重ね履き、禁

煙、禁酒、神社仏閣への立ち入り禁止、選挙厳禁、冠婚葬祭不用等、世間一般とかけ離れた考え方だった。厳しいけれどできるところからやっっていこうと思った。この時点では肉の生活が整う事が幸せと思っていた。

二〇〇〇年に母が九十歳で亡くなりました。長年特養老人ホームに入所していて、度々お見舞いに行きました。最後には話も出来なかったが、小さくなった目でしっかりみてくれた。母から言われた言葉、人は騙せても自分を騙せない。自分に正直に生きなさい。今になれば心に響く意識の世界への言葉。葬式には参列しなかった。

二〇〇三年、退職も覚悟しながら、妻と一緒に、セミナー参加したので、月に一度月火曜日の休暇をお願いに行きました。妻も懸命に頼んでくれたので、社長から許可を頂く事ができました。その後毎回全日程の参加が出来るようになりました。社長に泣いてお礼申し上げました。

二〇〇八年退職し、新しい街に引っ越しして、新しい生活がスタートしました。働いていた時、社員から、何故格別に便宜べんぎを図はかって貰うのか、どんな勉強しているのかの質問は全く無かった。社長よりその事を聞くなど指示されたようだった。その点、心苦しい事でした。公私に亘わたって社長ご夫妻には、大変お世話になり、ありがとうございます。

二〇一〇年メッセージを頂きました。静かな環境の中で、ゆったりと時間が流れ、体も健康で、セミナーにも毎回参加して、満足の日々でした。学びの結果として、整ってきたと喜んでいました。

メッセージ、欲の思い、他力のエネルギーに支配されて、心を見る事、お母さんの反省とどこおが滞とどっている事指摘された。暖衣飽食だんいほうしょく、醉生夢死すいせいむしの生き方が間違っていたと、深く反省するドンピシャのタイミングだった。ありがとうございます。

肉から意識への転回が、本当の自分に帰る道、形

を整える為に頑張る事が、自分を苦しめたり小さくしてきた。正直に生きなさいとの母の言葉も、頭に浮かぶ。

再度のメッセージが学びの方向を教えてくださいました。その後二〇一三年、二〇一七年と二回の転居。より良い環境求めて、其れなりに良かったと思います。山かなたの彼方に幸せがあるのでなく、心の中にこそあると実感しました。

二〇二〇年、コロナウイルスがパンデミックとなり、世界で何十万人が亡くなり、世界がパニックに陥おちっている。今、何が必要で何が不要なのかと問われる。澄み切った青空の下でゆったりと自分に向き合う。故郷の替え歌と共に散歩する。

そして、十三個の言葉を想う。

①田池留吉 ②アルバート ③お母さん ④肉体細胞
⑤母なる宇宙 ⑥万象万物は愛 ⑦意識の流れ―次元
移行 ⑧意識の転回―自己確立 ⑨磁場反転―自己供

養⑩意識―永遠、無限、波動、エネルギー⑪アマ
テラス―心の友⑫UTTA―愛への道標⑬みちしるべ共に共に
心の故郷愛へかえろう。心の針の向き先を常に確認
する。タイケトメキチへの信が深いほど、本当の自
分に出会える、愛に出会える。

二五〇年、三〇〇年の前に、タイケトメキチを呼
んで死ねるのか、毎日の日常にある。

アサギマダラ。春に日本列島にきて、秋に南に帰
る。十センチほどの大きさながら、南は台湾、中国
の一部から、北は会津磐梯山まで飛び交うか。二千キ
ロ以上飛行する。そのエネルギーは只飛ぶこと。誰
に教えてもらわなくても、何処かに到着する。そこ
が目的地なのだ。人間以外の生物は自分をよく知っ
ていると思う。ありがとう。

アサギマダラ



***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、本当にお母さんに楯突^{たてつ}いてきました。自分に歯向かってきました。優しい温もりを蹴^け散^ちらしてきました。そんな意識の中で、私は、苦しみ喘^{あえ}いできました。真つ黒な世界を広げ、真つ黒な波動を宇宙に流し、私自身を見限^みつてきた、この心の中です。だからこそ、私は、母に生んでもらい、この学びに集えたのだ、そう思います。

学びを知ったのは、心が敏感になって、素晴らしい自分を知っていくためではありませんでした。学びの出発が違っていた。そのことを、この頃つくづく感じます。たくさんのチャンスを踏み潰^{つぶ}してきました。己の偉さで踏み潰^{つぶ}してきました。

今、自分を語れることが、不思議なくらいです。なぜならば、どれだけ心を見て、反省をして、瞑想をしても、私の心の中は、苦しいからです。苦しい

ということは、あなたが間違っています、その原点に立ち返って、私は、本当に、一から学んでいきたいと思っています。

己の偉い私がこのような思いになれること自体、不思議です。不思議だけれど、これが意識の流れと言え、流れなのでしょう。

肉をつかんで、肉でやってきました。意識の流れに素直ではなかった私でした。今、母に思いを向け、田池留吉に思いを向け、自分を感じるとき、もう苦しむのは止めよう、苦しみ続けてきた自分が、あまりにも哀^{あは}れで悲しくなりません。

お母さんは、そんな私を生んでくださいました。母に使ってきた心はすごいエネルギーです。

そのことを私は、全く忘れ去っていました。私は、地獄の奥底の底の底にあったから、母から肉をいただいたのです。

その思いに立ち返りなさい、そう私自身がずっと伝え続けてくれました。

***さん、心を見る大切さ、心を見る優しさ、心を見る嬉しさ、それをご自分の中で広げていってください。

喜んで、喜んで、心を見ていってください。喜んで、喜んで、瞑想をしていってください。

自分が自分に与えた時間、自分が自分に与えた環境、その肉、すべては喜びです。喜び以外は何もありません。

心を落とすのもあなたなら、心を広げていくのもあなたです。

優しい母の温もりが、あなたの中で待っています。あなたも感じておられると思います。優しい母の温もりです。

優しいあなたです。優しいあなたがあなたを待っています。

心を私達に向けてください。優しく、優しく向けてください。そんなたくさんのあなたを心に受け止め、これからも、一歩、一歩、歩いていきましよう。

あなたがお母さんの温もりを、その心で少し感じ、

そして、それが、少ししっかりとしてきたならば、そうですね、あなたにも、やはり、宇宙を思っているのだと思います。

暗黒の宇宙を思ってください。宇宙を思うことは喜びです。暗黒の宇宙は喜びを伝えてくる、この瞑想の醍醐味だいごみをあなたも心で感じていってほしいと思います。

どうぞ、まずは、お母さんの温もりを、自分の中でしっかりと思い起こしてください。己の偉いあなたでは、宇宙を思う時、あなたの心には苦しみだけが広がっていきます。

ですが、選択していくのはあなたです。そして、その責任を取るのもあなたです。真まっ直すぐにご自分を見つめ、今世、生まれてきた喜びを心に広げていってください。

十年後の本人が、今、どう思っているか。

UTAブックの皆様、今回、このような機会を与

えていただき、本当にありがとうございます。肉でもいろんな意味での区切りの時で、本当に最良のタイミングで、こうして自分と向き合う時間をただけましたこと、ただただ嬉しいです。

今まで大量の反省文や体験文を田池先生そして塩川香世さんにファックスやメールで受けていただき、その全てが己を表してきた、という自分の現実
に直面したとき、長い文章を書くことに、自分の中でとても抵抗を覚えました。でも、今回の呼びかけに、とにかく、今思っていることや書きたいことをただ書くという思いでパソコンに向かっています。

まず、本題とは、ずれるかもしれませんが、昨日、子供たちが「家で結婚式を開く」と、子供たちだけで全てを企画してパーティを開いてくれました。私が派手なことが好きではないのと、この勉強をしてきたこともさらに輪をかけて、結婚式を挙げていません。形より中身の方が大事だと思っていました。だから結婚指輪も、田池先生が「ワン、ツー、スリー

のツーで指輪」と言われてから、二人で結婚約十年後に買いました。そして、十八年後に子供たちが「お母さんたち結婚式してへんのやったら、うちらが開く。日程はこの日やから」と言って結婚式を開いてくれました。

「君たちはなぜ結婚したのか？」というタイトルで始まる、パワーポイントで家族の写真やメッセージを組み入れたスライドショーを作成して、その会で披露してくれました。

その会で、夫から「家族一人一人の、直してほしいところと良いと思うところをみんなで言い合おう」という提案がありました。

夫から言われた私に直してほしいところは、「ゆったりすること、怒りが出てもすぐそれを爆発させないで、一呼吸置いてからにしてほしい」ということでした。今までも何度も学びの友から、同様のことを田池先生から言われてそれを実践した結果、自分がいぶん変わることができた、という体験を伝えてもらってはいました。しかし、私はどこまでも

己が偉いため、この爆発のエネルギーを田池留吉に明け渡してなるものかと反発してきました。今回、夫から言われてもそれに反発することなく、自分の思いを押し通すことが全てだという立ち位置から一歩も出られてないんだなあとしみじみ認めることができませんでした。これも、意識を出していただいでから十年間の、肉も意識も含めての体験の積み重ねからようやくたどり着いた結果かなと思いました。

そして夫が私に言ってくれた、私の良いと思うところは、「真^まっ直^すぐ、素直で、正直なところ。それとを大事にしてほしい」と言ってくれました。私はとも不器用^{ぶきよう}で駆け引きが苦手で、大勢の人の中でのつもさまよってきました。世間で生きていくためには、もうちょっと器用に、相手の心理をつかんで、うまく立ち回る術^{すべ}も少しは習得しなければと頑張っでそんな自分になってみようとしたもののそんな自分に何か違和感も感じて、嘘をつけない自分が大嫌いでした。何か苦しいことに直面したら、こんな私だから苦しいんだ、と自分を責めて嫌い続けてきま

した。

この十年間の中で幾度も「自分なんか死んでしまえばいい!」と思った時がありました。その度に塩川香世さんから「己偉い自分をよしよししてあげたらいいんや」と笑顔で言ってもらったことを思い出して自分を見つめたことが、私をこの学びに曲がりなりにもつなぎ止めてくれました。田池先生が塩川香世さんという存在をしつかりと残して逝かれたことが、私にとつては、この学びは本当だどつなぎ止めてくれた大切な事実でした。

このお話をいただく何日か前から、田池先生が、夫宛に録音してくださった意識の音声を聞きながら二人で数回ですが瞑想をしました。

結婚した当初、うじうじぶつぶつ文句ばかり言っている夫を見下していました。「文句ばかり言っているのは田池留吉に心を向けようとしてへんからや」「私はきつちりと時間を取ってしっかり田池留吉に心を合わせようとしている」と。そんな私だっ

たから、田池先生が夫に向けて送って下さったメツセージも当時は「それはあなたのことでしょ」的な、上から目線的な、私はもつと出来ている的な受け止め方しか出来ていませんでした。

今は、曲がりなりに私も外に出て給料をいただく仕事をするようになり、社会に出たらそれなりの荒波もあるんだということを世間知らずながら肉でも勉強している中で再び音声聞かせていただいた時、「これってまるまる私のことじゃないか」と心から思えました。

田池先生の肉を初めて目にしたのは中学二年生の時。それからもう数えるのも難しいほどの年月が過ぎていきます。若い頃から勉強を知って、本当に勘違いも甚だしい私が満載でした。肉の人生の折り返し地点も大分過ぎていゝる今になって、分かっていないってことが分かれて良かったなとも思います。

その年齢、その年齢で、この学びの捉え方、感じ方がありました。振り返れば、その時その時、そ

れが一番良いと思つて自分なりに選択し、歩いてきた結果が今あります。がむしやらに反省して、田池先生の肉がある間に目覚めたいと必死の欲丸出しで戦ってきた自分、それが間違っていたんだなあとやつと見えてきた自分。

肉では親という立場になり、初めて受験という、子供の努力を横から見守るしか出来ないという経験をしました。

肉でもいろんな経験をして、お母さんとお父さんの気持ちの片鱗を少しでも知れることは本当にありがたいなあと思いました。

私が夫に直してほしいと言つたのは「一緒に掃除がしたい」というところ。土日仕事などの予定が一杯で忙しく動きまくっていた夫でしたが、コロナのおかげで土日の予定がほぼなくなり、初めて一緒に木を切るなど庭の掃除できたことが嬉しかったです。そして良いところは「いろいろあるけど、特に

良いと思うところは、打ちひしがれているときもちゃんと私の話を聞いてくれること」と言いました。

夫とまだ籍を入れていなかったとき、六月の下呂のセミナーで田池先生が「今から仲の良い夫婦を出します」と言って、現象の輪の中に、夫婦で学んでいる方たちを指差しして呼び入れていらっしやいました。まさか自分達が呼ばれると予想もしていなかった時、田池先生がとびきりの笑顔で指差しして下さいました。

今まで何度転生してきたか全く分かりませんが、これ以上最高の結婚はなかったと思います。それだけでいい、結婚式はもう十二分だと思っていたところ、さらに輪をかけて、子供たちがまた企画してくれるなんて。そしてそのことをちゃんと記録しておくように、このような機会をいただいたこと。

肉はいずれ消えていく物と、しよせん所詮教材と、心を見ればそれで良いんでしょ、肉はどうでも良いんで

しょ、田池留吉の波動が分かればそれで人生の目的は達成するんでしょ、そのためにはセミナーに行き続ければ分かるんでしょ、現象の場に少しでも多く出て何かを感じればそこに近づくんではよと、若い時の私は、とにかく田池留吉の波動を知って、この二五〇年間に一回だけの転生でと、効率と結果を求めて必死でした。そうではないよ、ゆっくりね、ゆっくりね、と田池先生が言っているような気がします。

甘えん坊の私は夫に「あなたより先に死にたい。見送りたいくない」とか「子供たちもある程度大きくなったし、勉強も曲がりなりにも知っているから、いつ死んでもいい」というようなことを言ってしまったことがあります。「そんなこと言わないで」と夫は悲しそうな顔をして言葉を詰まらせていました。

以前、携帯の写真データをパソコンに移行するときに、データが全て消えたと思って絶叫したことがあります。かわいい子供達の写真が全部なくなってしまった！と本当に発狂状態でした。(結局、違

うところにしつかり保存されていたことに後で気づいたので
が) 写真が消えただけでもあんな心が出てくるんだから、家族
が死ぬっていうことは想像も出来ないけれど、いずれは乗り越
えていかなければいけないんだろうなどと確認させていただきま
した。

「死」にあまり免疫のない私はこれからそれをどう乗り越えて
いくのか、全く未知です。そのときにちゃんとこの勉強の結果
が見えることだけは確かだと思えます。

「喜び以外は何もありません」一点の曇りもなく、心からそう
言える世界を今世垣間見させていただきました。

それをこんなものと、忘却の彼方に捨て去るのか、苦しみの
たうち回る中で思い出していけるように日々育んでいくのか、
今日を起点に、私の今世のまた十年未来を見据えて、日々の時
間を積み重ねていきます。

暗黒の宇宙が自分の中で爆発していくのを待っているのを感
じます。



生まれてきた瞬間、それまでの痛みが全て消えて、ただうれしさが広がっていく感動を、今世、3度も
体験させていただきました。

以前、NHKの番組で見たのですが、ブラックホールに吸い込まれたその奥に、また新しい世界が生まれようとしている、という研究結果があると言っていました。

自分の中のブラックホールのその奥の奥まで見つめていけるように、お母さんを思って、自分に優しくなりたいと思いました。

とりとめのない私の思い、文章化する機会をいただきありがとうございます。

どうせ私は己を表そうとしているだけなんだと、自分を切り捨てないで、私は私に「あなたの言いたいことは何？あなたは何を思っているの？何でも良いんだよ。本当のあなたは優しいんだよ」って自分の心を自分に分かるように出来る手法を、今回確認できました。

本当にありがとうございます。
また何か思い出したら、自分を恐れず、文章にしたためていきたいと思いました。

71

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

なかなか、他力の中から抜け出せることはできないけれど、私も、今、自分を見つめ直す時期に来ていることを感じます。心にたくさん思いを詰め込んできました。欲と二人連れでこの学びをやってきたことも事実です。しかし、私の中が、私に伝えてきます。

もっと、心を見てください、もっと、もっと、心を見てくださいと。

あなたは、この学びに繋がったんでしよう、今世、この学びに繋がったんでしよう、私達の苦しみを、もっと、心に感じてくださいと。

そのように、私に伝えてくれる私があることを、心に感じています。

****さん、心をもっと開いていってください。
あなたは、あなた自身が決めてきた道筋を歩いている
とは言えないと思います。

今世のあなたは、もう少し、自分の中を語るとい
うか、自分の中を見ていくというか、そういう道筋
にあると、私は感じています。

まだ、体力があるうちに、気力が衰えないうちに、
どうぞ、あなたの中を、もっと、しっかりと見ていっ
てください。あなたの中の苦しい意識達、苦しいあ
なたと会話をしていってください。

肉のことは、もう程ほどいいではないですか。
あなたの中が、望んでいることを、肉は素直に従っ
ていってください。

そうすれば、あなたが、なぜ今世、肉体を持って
きたのかということ、お母さんに生んでいたいた
ことを、もう少し、しっかりと心に感じられ、あな
たの心の中にその思いが届き、喜びを感じていかれ
るのではないのでしょうか。

また、あなたの姉妹達も、この学びに繋がって

ますが、今ひとつでございませう。それは、他力の中
にある自分達を、しっかりと見ていないからです。
凄まじいエネルギーを感じているものの、その自分
に対して、まだまだとても冷たいです。どうぞ、一
人の母親から、肉体をいただいた姉妹達、ともにしっ
かりと心を見ていってください。

そうでない、大変もったいないです。せっかく
この学びに繋がったのに、今のままでは、大変もっ
たいないと、私は、感じさせていたいただいています。
****さん、どうぞ、まずは、あなたが心を見て、
自分の中を、少しでも変えていく方向に進んでいっ
てください。それに続いて、姉妹達も、何らかの刺
激を受けると思います。

異語。

****さん、田池留吉のほうに、心を向けてみ
てください。

田池留吉、申し訳ございません。長く、長く学ばせていただきました。はい、ひとつ、ひとつ、しっかりと心を見てまいります。

自分の心を見てまいります。お母さん……、お母さんをおもう時、何とも言えない思いを感じます。

あなたの思いを、心に受けながら、私は、あなたを責め裁さばいてきました。自分の中のエネルギーに、優しい思いを向けることを、あなたは、教えてくれたのに、私は、そのエネルギーを、すべて、あなたにぶつけてきました。違っていました。お母さん、あなたに向けて、私は、瞑想をしてまいります。田池留吉が伝えてくれたことを、もう一度、自分の中で見つめ直してまいります。

田池留吉、申し訳ございません。己の偉い私でございました。どれだけあなたから、優しい思いを感じさせていただけてきたことか。

それを今、心に感じます。すべて、私の勉強不足でございました。

あなたに対しての思いを、もう一度見てまいります

す。心の中に、本当に田池留吉を呼べる日がくるまで、あなたに思いを向けていきます。今世、生まれてきたことを喜びたい、本当に心の底から喜んでみたい。今、素直に私を語らせていただいて、ありがとうございます。

はい、姉妹達とも、仲良くしてまいります。本当の意味で、仲良くしてまいります。心の中に培つちかってきたエネルギーは同じでございました。

◇

***さん、あなたの心を、今の心を語ってみてください。

他力のエネルギーを、私は、見てきたつもりです。母の反省も、私は、してきたつもりです。今、ここに至って、その自分を振り返っています。

私は、やはり、自分に甘かったです。学びを甘くとらえていました。

自分の心の中には、他力のエネルギーがしっかりと詰まっていることを感じます。母に使った思いも、

まだまだその見方が甘かったです。

しかし、今、自分の思いを語りなさいと言われたとき、やはり嬉しいとそのように、伝えさせていた
だきます。

嬉しいんです。こんなに間違った私でも、今ここに許されて存在していること、そして心を見つめる時間が残されていること、それがとても嬉しいんです。

私は、私に正直に生きていきたいと思いません。これから残された時間、自分に誠実に、素直に、正直に生きていきたいと思いません。

これからの人生を、時間を、そのような思いで過ごしていこうと、今、私は思っています。だから、心の中から出てくる思いは、嬉しい、ありがとう、よかった、そんな思いです。

この歳になって、今、この状態になって、私は、ようやく自分からありがとうと伝えていただきました。それがとても嬉しいということです。

肉の私は、愚かでした。本当に愚かでした。肉の

私は何もできませんでした。できると思ってきました。何でも肉でできると思ってきました。

傲慢ごうまんでした。その思いがとても傲慢ごうまんでした。

そのことに少し気付きました。ありがとうございます。

異語。

***さん、自分で気付かれたこと、大切にしていってください。

自分で気付いていくことが大切です。自分の心を見て、瞑想をして、そして、自分に思いを向けて、優しい自分自身を感じて、そのような時間に、これらの時間を使っていってください。

周りの色々なこと、あなたには、しなければなら
ないこともまだまだあると、自分では思っておられますが、私、田池からすれば、そんなことは、本当にどうでもいいことなんです。あなたは、ただあなたの心を見ていく、そのことに時間を費つやしていい

てください。

そんなにもう、あなたにも時間は残されていないと思います。

まだ自分は身体も健康だし、どこかといって悪いところはなと思っておられるかもしれませんが、三年、五年、十年などあつという間に過ぎていってしまします。これまでのあなたがそつでしたでしょう。私は、肉の時間など、あつという間に過ぎていくことをお伝えします。

心を見ていくことの大切さ、瞑想をすることの大切さ、そして、生まれてきたことを喜んで、喜んで自分の心で感じていけるこれからにしていってください。田池留吉、アルバートを思い、あなたは、あなたを見ていく、ただそのことに専念していただきます。

メールありがとうございます。

「私の十年前の意識」全然思い出す事が出来ませんでした。

私自身の意識を読み、とても嬉しくて、嬉しくて涙が出てたまりません。

十年たった今、あまりかわっていない自分の意識。本当に田池留吉に申し訳なく、これからも自分の中、しっかりと見て、もつともつと喜びを広げてくださいと思います。

母から肉体を頂き、何故生まれてきたかをもう一度、自分の中に問い、瞑想をしていきます。

72

***さん、どうぞ、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。はい、私も自分の中に沖繩の神を、ずっと、守り神として宿やどしてまいりました。そんな過去からの私を感じます。沖繩王国という中で、私の心は、ずっと縛られていた。そ

のように感じます。

母の温もりにも心を向けていくことを、自分に伝えようとしています。

なかなか厳しい道のりですが、私は、母の温もりを自分に向けて、その温もりで自分自身を包んでいきたい、間違ってきた苦しかった私を、私が包んでいきたい、そのように思っています。

***さん、心を閉ざしてきたあなたの中に、ほんの少しですが、少し、心を緩める、そんな兆しが見えているような、そんな気がします。

どうぞ、そのことを信じて、日々の時間の中で、瞑想をしていってください。あなたにも、ゼロ歳の時、無心にお母さんに抱かれていたあなたがありません。ただただ、そのことを信じて、どうぞ、心を向けていってください。

ほんの少し緩んできたその隙間から、優しい思い、温かい思いを感じていってください。そして、少しずつ、少しずつ、その隙間を開けていくようなあなたであればいいと、私は、思います。

学びの道は人それぞれと思います。私の場合、お母さんだけでよかった。「お母さん一筋に学べよかった」。いろんな言葉が飛び交い頭をぐるぐる回し、いつの間にか迷路にはまり、難行苦行。

難しく考えることはなかった。考えなくても田池留吉がお母さんと、心は伝えてくれました。いろんな言葉、知っていればよし。頭をぐるぐる回す必要はなかった。素直な心でお母さんを思えばよし。優しさで心が広がればよし。

意識のお母さんは何時も私の側にいます。私を責め裁きもしないし、批評もしない、救いもしません。「ただ私がいちを向けたとき」、優しく包み込んでくれます。

今も、苦しさは尽きることなく出てきます。もっと優しい自分を知りたい、今の心境です。

***さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

心の中に自分を呼ぶ時、己の偉さに、本当にびっくりです。私は、こんなにそびえ立っていたのか。この私が学びに集えたことと自己、不思議なほどです。こんなにそびえ立った私が、田池留吉という肉を知り、そして、この学びを、肉を通して知りました。それがどれだけのことなのか、自分の中でどれだけすごいことなのか、私は、今の今まで、全くそのことを知ろうとしませんでした。

己がそびえ立ってきたからです。自分というものを、全く知らずにきました。中からの叫び声、自分の中のエネルギーが私のこの身体を動かす、そして、大きな声が出る、そうやって、私は、自分を感じてきたはずなのに、私は、自分を知らずにきました。

自分の心を知らずにきました。自分を全く知らず

にきたと言ってもいいでしょう。

私は、今、そう思います。本当に愚かな自分でした。愚かな自分を全く知らずに、今まで、のうのと生きてきた、そんなことを感じています。

愚かな私に伝えてくれている出来事、あなたのエネルギーを感じていきなさい、そうやって伝えてくれていたんです。

ああでも、私の中に、その自分を受け入れていくことなど到底できない。

今、私は、後ずさりをしている状態です。

異語。

苦しいときの神頼み、おぼ溺れる者たむもつか掴む、そんな言葉が浮かびます。

ああでもいいんです。そうやって、あなた自身を見つめていける今という時を喜んでください。と言っても、今のあなたでは到底無理でしょう。

まだまだあなたの心の中に思いを向けることをし

てくださいと言っても、あなたの今の状態では、この言葉の真意がよく分からないと思います。

ですが、あなたは語りました。自分は愚かだったと。自分は、本当にそびえ立ってきたと。本当にその心から思うのなら、どうぞ、この学びを、原点からやり直してください。

中途からではありません。全くの原点からです。あなたがこの学びに出会った時の自分を思い出し、そして、そこから母の反省を重ねていってください。もう自分は、肉でも充分やってきた。いいえやっておりません。

それを、あなたがあなたに伝えている、今現在なのです。

もうすべてを捨てて、自分が生まれてきた意味を、心で分かるまで、この学びの最初からやっていくべきだと思います。

気の遠くなるような話かもしれませんが、しかし、あなたは、気の遠くなるような時間、空間を経てきました。

これから残された肉の時間、必死で、その自分の歩いてきた道を振り返って行ってください。

ただそれだけをやっていこう、本当に自分の心で決めてください。

十年前、この文章を目にした時、自分にはできない無理だとひるんだ瞬間があった。しかし、私はあの時決意した。真剣に自分と向き合うと。今世意識の転回をはたすんだと。

私はこの学びをあまりにも軽んじていました。本当に甘く捉とらえていた自分だったと、ある現象を通して心で気づくチャンスを受けました。この現象はとても厳しいものでした。

過去よりずっと神、仏なんとかのパワーに縫すがってきたこの心。苦しい時悲しい時自分の力ではどうすることもできない時、祈り縫ぬってきた苦しい暗い思い。

その思い癖が飛び出してきた。その思いをしつかりと見ることもなくきた。自分ではちゃんとやってき

たと思つているところがあつた。

神と金で幸せになれると信じて疑うこともなく生きてきた。どこか胡散臭いと思つてもすぐに欲が勝つ。それが世間じやないかと曖昧にしていく、流されていく自分。己を聳え立たせ闘う事にエネルギーを注ぎ込んできた。

そこに、生きてる存在価値を見出していた。

そんな中に沈み込んで意気揚々と生きてきた私がこの学びに繋がつて十一年目にこの現象を用意しました。

セミナー参加していたら田池先生が何とかしてくれる。何とかなる。自分を救うのは自分とずっと伝えてもらつているのに安直でお手軽な方法を取つていく自分。

真剣に自分と向き合うことから逃げていた冷酷な自分。「己が聳え立つてきたからです」本当にその通りです。学んでいるポーズだけの自分。しかしあの現象は基盤が変わらなかつたら何にも変わらない

ことを伝えてくれました。

私にとつて大きな節目でした。

これぐらい厳しい現象を用意しないと自分と向き合えない己偉しの自分。でも、あの時これこそが自分が愛である証だと素直に思えた事が嬉しかったのも事実です。

心の針がほんの微々たるものでも田池留吉、愛の方へ動くと今まで私を感じたことがない世界がある。確かにある。田池先生が講話で話されていたことが心でわかる。心でわかるつてこういう事なんだと思つた。

私は凄いいものに途轍もないものに出会つてる。すべてを一八〇度変えなければ全く解らないものが今ここにある。心で感じて初めて今世自分が自分に用意した今という時の凄さに肉の自分はどこか立ちすくんでいる。

表面の表面をほんのほんの少しかすつただけなのになんかわかつた、出来たと思つてしまふ愚かな自分。どこまでも甘く捉えているんだ。聳え立つ自分。

本当にどうしようもない自分です。他力の根強さ深さを感じる自分。

私の中の思い達。必死に伝えてくれているのにあの時は現象を前に怖気づいてしまった自分でした。何にもできずただ、恐怖のエネルギーに飲み込まれていくだけの自分でした。

私はずっと繰り返して体験してきた心の世界。

現象は間違い狂い続けてきた自分が「お母さんの中に帰りたい、ただ帰りたい。この思いを今伝えていただけ。受け入れてもらいたいだけなんです」と伝えていたのに……。

思いはとても優しかったのに私は目の前の形だけをつかみ心も体も全身恐怖の坩堝だった。

心の奥底から吹き上がってくるエネルギー。異語となり雄叫びとなり自分が自分に伝えてくれている。必死に伝えてくれている。

「お母さんの中に帰りたい、ともに帰りたい。苦しかった自分とともに悲しかった自分とともに帰りたい。帰ってまいります。お母さんの温もりは私達で

した。私達が温もりでした。」と伝えてくれる。

あれから、十年。決意とは何回もするんじゃないというメッセージが以前ホームページに載っていた。私がしたあの時の決意は決意ではなかったのか。一回だから決意なんだ。

その場凌ぎの軽いものだったのか。あなたの意識ですを読んで「決意した」延長線上に自分の欲を叶える他力どっぶりの思いがしっかりと根底にあったんだ。本当に根強く根深い思い。岩盤。

年齢とともに落ちていく体力気力。あの時の決意が遠くにある。肉に流されすっかり忘れてしまっている自分もある。もう適時、旬は過ぎたのか。

肉の中にどっぶりと沈み込んで威張り散らし大將になっている自分にも気づくことなく心の針は外一直線の自分がある。闘いを好んでやってる自分がある。アマテラス全開の自分。

でもその思いたちと向き合う瞑想の時間がある。優しい嬉しい時間がある。

意識の転回はとても生易しいものではないけれど

私はこのハードルを自分に用意している。このハードルを越えない限り何回も何回も厳しい現象を自分に用意していると思っている。

それほど今世にかけてきたんだ。喜んでいられるだけでええんやで、と伝えてくださったのになかなか難しい自分。

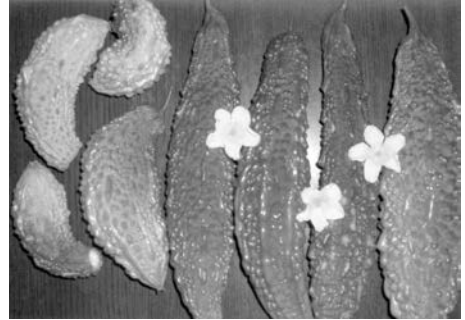
本当に私ってどうしようもない奴と思いながらも今がある。今という時がある。それがとても嬉しくてありがたいと思う。

毎日自分への問いかけをする。なぜ生まれてきたのですか、なぜ今ここにいますかかと。

「私はお母さんの中に帰りたい。アマテラスとともに帰りたい。」

異語で語る。楽しくて優しい時間。自分が自分に伝えてくれている、この波動の世界。

何とも言えないありがとうが優しく広がっている。この優しい波動を、ありがとうの波動を信じていこう。



バートとともに。

私の中のたくさんの宇宙たちが待っているんだ。待ち続けてくれているんだ。
肉の私がすることはこのこと。今しかない。だから今やれることを今やっていく。喜んで楽しんでやっていくだけ。
アマテラスは田池留吉とともにアル

74

***さん、心を語っててください。

はい、私は、今まで、頭を誇ってきた、頭で解^{かい}釈^{しゃく}してきた、そのように何度も言われ、また自分でもそう思ってきました。

そのことで、なにくそという思いと、心を小さく

する思いと、色々な思いの中で、私は学びを進めてきました。

今、心を語ってくださいとメッセージを受け、そして、私は自分を見ています。自分を見てみると、私は、こんなに幸せの中に包まれていた、幸せの中に存在していた、そのことだけを感じます。

頭とか肉とか、そういうことは、全く私の中にはありません。

ただ私は、幸せな中に存在している、その中で、私は、自分を見つめていける、こんな幸せなことはない、私は、今、そのように思っています。

肉を誇る、頭を誇る、頭を過信する、本当に下らないことだけれど、私は、それをずっと、ずっとやり続けていたんですね。そのエネルギーたるや、すごいです。すごいエネルギーを自分の中で振り返っています。

だからこそ、私は、そういうものをもう自分の中に追い求めず、ただ今、幸せを感じ、語っている自分を信じていこう、そのように思います。

何もなくてもよかった。ただ今ここに存在していることだけが幸せでした。

母に思いを向け、宇宙に思いを向け、今、私は、そんな幸せな自分を感じています。真っ黒な自分ではなかったんですね。何も誇るものがなくてよかったんですね。

頭など、要りませんでした。私の肉を離せば、私の頭など、何の役にも立たない、それが現実なんです。意識の世界の現実、今、心で感じています。

***さん、瞑想をする時間の中で、幸せなあなたをどんどん感じていってください。ただ田池留吉、アルバート、そして宇宙に思いを向けるとき、あなたの心の中から喜びが溢れてくると思います。

真っ黒なエネルギーとともに、その底にある喜びの思い、幸せな思い、本当に、本当に嬉しい時をいただいている、そんなあなたが感じられると思います。どうぞ、宇宙に思いを向けていってください。宇宙は待っています。

「私達は待っています。宇宙はあなたに呼びかけています。心に向けてください。あなたの宇宙に心に向けてください。真っ黒な、真っ黒な宇宙に心に向けてください。あなたの心の中に、優しい思いと温かい温もりで、真っ黒な宇宙を思ってください」。そんな呼びかけを、私達は、あなたにしています。どうぞ、どうぞ、しっかりと心に向けていってください。

母の温もりを思いながら、心に向けていけることを喜んでいってください。田池留吉、アルバート、その宇宙はあなたを待っています。

これからの転生、厳しい転生ですけれど、あなたの中で心を繋いでいけるあなたを感じます。

どうぞ、しっかりと心を繋いでいってください。そして、二五〇年後、喜びの中で、私達と出会いましょう。

そのためには、まず、今世、今という時間、しっかりとあなたの心を見て、次の転生に繋いでいくことに専念していってください。

あれから十年、再び資料を目にして、こんなに優しい思いの中、ずっとずっと今もなお待たれている幸せな存在を確認して小波を大波にとらえがちな思い、その全部が全部肉という岩盤、肉基盤の上で解放できず手離せないでいるのがよくわかります。確かに「夫婦仲良くしいや。みんな仲良くな」という思いにこけつまろびつ、少しづつ治ってきたことを感じて、ゆったりと穏やかな今を思うと本当に幸せです。でも無尽蔵の真っ黒な宇宙はお前の漆黒の闇はそんな程度じゃないと瞬間凄まじいエネルギーとなって容赦なく噴き出してくる。やっとここへきてその凄まじいエネルギーを吐き出せることが嬉しいと、この喜びだよ、生まれてきたこと、今があること、「どんなあなたであっても私は信じてます」という思いが心が上がってきて喜んでいればいいと自分に言ってやれる、そう思えることがまた嬉しいとなってきました。肉を置くその瞬間まで二五〇年後の次元移行目指して、ただ淡々と怯むことなく歩んでい

くだけです。学びに出会えて本当によかった。お母さんありがとうございます。お母さん、私を信じてくれてありがとうございます。

75

***さん、心を語ってみてください。

はい、心をしっかりと、今の自分のほうに向けています。今、自分の中を見つめています。

アマテラスのエネルギーを蓄^{たくわ}えてきた私ですが、そのアマテラスのエネルギーに、しっかりと心を合わせています。優しい思いで、アマテラスを見つめています。

アマテラスを毛嫌いすることなく、アマテラスを見つめています。今、私は母に生んでいただいたことを嬉しいなあと素直に喜べる私があります。

アマテラスの心を感じていけばいくほど、私は、

その思いが心に上がってきます。

アマテラスも本当の自分に帰りたいかったんだ、お母さんの温もりの中に帰りたいかったんだ、私は、ようやく自分の中で、そのような思いを少しずつ広げていける私になってきました。

アマテラスを誇りとしてきた自分、アマテラスのパワーを求めてきた自分、すべて、すべて間違っていました。冷たい心で私は、ずっと存在していたのです。

そうではありませんでした。アマテラスの心に温もりを、本当の優しさを伝えるために、私は、このようにして肉をいただいできたんですね。

本当にそうでした。肉を持てば、アマテラスの心を、その思いを膨らませるばかりでした。ただただアマテラスの僕となって、アマテラスの心をこの宇宙に広げてきた、そんな私でした。

今、私は、母の温もりの中にある自分を、ほんの少し感じています。

ほんの少し感じただけでも、とても嬉しいです。

心をしっかりと見つめてまいります。お母さん、ありがとうございます。

***さん、あなたの心の中に寂しさがありません。寂しい思いがしっかりとありますよ。田池留吉、アルバートに心を向けるときのあなたの思いを見つめてみてください。

アマテラスの心は、寂しい思いをあなたに訴えています。はい、アマテラスのエネルギーに支配されてきたとあなたは思っておられますが、アマテラスの心は、あなたに寂しさを訴えています。支配する心も、もちろんあります。アマテラスの寂しさ、そこに、心をもう少し向けてみてください。田池留吉、アルバート、そして、お母さん、素直に呼べるあなただからこそ、私は、こうして伝えています。寂しいあなたを包んでいけるあなたであってください。田池留吉、アルバートは、いつまでもあなたの中で待っています。あなたの中に、温かい、温かい大きな、広い、広い宇宙が広がっているんです。

の宇宙をあなた自身、感じられるように、一日、一日、田池留吉、アルバート、そしてお母さんに向けて、瞑想を続けてみてください。

「あなたの意識です」「あなたの意識ではありませんか」そして、田池先生から送っていたいただいたCD。どれほどの愛をいただいていたことか。私のすべてを知っていて、どうすることが愛に帰れる道なのか、すべてすべて答えをもらっていました。

なのに、当時の私はいつもアマテラス。アマテラス一色だ。

どうしてもいつもアマテラスしか言われないの？アマテラスの意味もよくわかりませんでした。

ようやく自分の中に蓄えたエネルギーの凄さを、やっと最近になって少しずつ認められるようになってきました。

私は素晴らしい、我に従え、逆らう奴は打ち首じゃ。私は清く正しく美しい。思いは瞬時に出てき

ます。

これが私が掴^{つか}んできたアマテラスだった。

どれほど己が偉いのか、聳^{そび}え立っていることすらわからず、長い間セミナーに集いました。

この凝^こり固まった心を変えていくための、私の環境でした。

いくら肉で私は正しいと言っても、心は正直でした。苦しいのは自分が間違っているんだ。

瞑想の中で少しずつ、苦しいけれども嬉しい、間違っていたけれどそれでよかったんだ。

頭ではよくわからないけれど、なんだか嬉しい。

沢山抱^{かか}えてきた闇が待ってくれている。温もりを伝えていきたいなあと思う。

真実の世界から、いっぱいいっぱい宝物をいただいています。



本当に宝の持ち腐^{くさ}れでした。この宝の山をひかり輝く山にしていきたい、していこう。

私の中のアマテラスは待ってくれています。

アマテラスとともにを合言葉に学んできます。

ふるさとへ帰るために……。

UTAブックさん、嬉しい企画をありがとうございました。いきました。

十年前を振り返るチャンスをいただきました。

76

二〇一一年三月二十六日

***さん、あなたの心を語ってください。

はい、私の中に母の思いを感じながら瞑想を続けています。少しずつですが心の広がりを感じます。しかし、私の中には、まだまだたくさん間違っただけの思いを広げて、苦しい、苦しいと言ってくる私を感じます。

それもまた私の中でしっかりと受け止めていかなければならないのです。

己偉い私の中に、ようやく自分をしっかりと受け止めていこう、ささやかながらもそんな優しい私を見いだすことが出来ました。

お母さん、それがとても嬉しいです。

私は今世、自分のエネルギーを感じていくための環境を整えてきました。

学びを知らないとき、そして学びについてまだはつきりと自分の中で感じていないときは、この自分の環境を呪い^{のろ}恨み^{のろ}、母を本当に呪^{のろ}ってきました。恨んできました。自分を恨んできました。

しかし、その思いが今、とても申し訳なく思いま

す。私が私に立てた計画です。誰にも責任はありません。

ただ私が私に真実を伝えたかった。だから、私は今の環境を選んできたんだ、少しずつですが、そう思える私があります。

今、母に思いを向けるとき、私の中でたくさん間違っただけの思いを見つめていきなさいというお母さんの優しさが広がっていきます。

これからも少しずつですが、自分なりに瞑想を続けていきます。

己偉い私は、何か一足^{いっせくと}飛びに、この学びが自分の中で飛躍^{ひやくてき}的になっていけばいいななんて思ってたけれど、それは全くとんでもない思い違いでした。私は私に立てた計画通りに進めていけることが、それが喜びだったんです。今、私は自分を語らせていただきそのように思います。

***さん、宇宙を思ってみてください。

田池留吉、アルバート、はい、宇宙を思う私の中

に少しずつ喜びが広がっていきます。苦しい苦しい転生を重ねてきました。

宇宙達の苦しい思いを感じながらも、私は自分の中で素知らぬ顔が続けてきた。

そんな私、冷たい私を感じさせていただいています。心の中をもっと、もっと見つめてまいります。田池留吉、アルバートありがとうございます。

***さん。田池留吉です。どうぞ、淡々と自分の生活の中で瞑想を続け、この学びを進めていってください。

あなたも今世の肉を閉じ、再び肉を持つ転生があります。その転生の中でどうぞ、ご自分を繋いでいってください。

私達と二五〇年後に出会えるよう、ご自分の心を繋いでいってください。

今世はその大切な時間なんです。あなたの心の中にその自覚が少しずつ芽生えてきていると思います。どうぞ、瞑想を通してその自覚をもっと、もっと

強く、強くしていただけるよう、私達は待ち望んでいます。

厳しい転生です。しかし、心を繋いでいくこと、その事を今世のあなたにあなたは約束したんです。どうぞ、次の転生に心を繋ぎ、そして又次の転生かもしれません。

二五〇年後に私達と出会えるよう、心をしっかりと見つけていってください。



***さん、あなたは、今どこに心を向けていますか。

私は、***です。私の日々の生活は、とても忙しいです。でも、自分で時間を作って、瞑想しようと思っっています。でも、身体が疲れたり、色々気が散ったりして、私は、瞑想に集中できない、そんな時がよくあります。自分のエネルギーは、セミナー会場で感じさせていただきました。間違ってきたことを、私は、自分の中で、感じてきたつもり

です。ああでも、こうやって語る時、私の感じてきたものは、やはり浅いものだったなあって、今、思っています。心をどこに向けているのか、ストリートに聞かれた時、タイケトメキチ、アルバートって答えなかったけれど、私の心の向け先は、欲を伴ったタイケトメキチ、アルバートだった、そのように、今、感じていきます。

異語。

***さん、そうやって、躓きながらもいいんです。しっかりと心を見て、心の向け先を確認していただく。私は、もうやってきた、できて、いる、そんな思いなど必要ありません。たとえば、あなたの娘さんに、どのような思いを向けておられますか。あなたの娘さんから、どのような思いが返ってきますか。あなたも、そういうことを、自分の中で感じられると思います。そうやって、肉としてではなく、意識、ともにひとつだという思いで、娘さ

んを見て、そして周りの人達を見ていってください。

この頃は、パートに行つて、息子家族が同居していて、孫の世話、食事の世話、一人暮らしの父の家に毎日、通つて見守り介護。

本当に、忙しい時間の中、自分の瞑想の為の時間を必死に、確保する、この生活の中で、流されていくのではなく、心を見るための色々な出来事なんだと自分にいつも言つて聞かせて、がむしやらに、日常の生活と学びの両立をはからうとして、無我夢中でした。しかし、なんとか、ここから抜け出したい、何を見ればいいのか。いつも自分に問いながら、日常、吹き出す闇のエネルギーと格闘しながら、肉では必死に学ぼうとしていた頃だったと思います。

だから、次々に問題噴出で、今考えたら、凄じエネルギーを出すから、又問題が次々に、表れて、その後始末に追われ、そんな他力の中で、全く、肉々の中での瞑想でした。

肉の次元での学び、それも程度の低すぎる学びを

やっていたんだと思っています。

心が真^まつ直^すぐに向かないのも当然だったと今思います。でもその時間も必要だったんだと思います。

メッセージは、そんな私に、肉の世界から、目を離して、まず田池留吉にしっかり向けて合わせてからの瞑想。娘からの伝わる意識の世界、ゆったりと流れる意識の世界にまず自分を置いて、意識、ともにひとつだという思いで、娘や周りを見ていってくださいと、いってくださったのですね。やはり、日常生活の中に追われていては、田池留吉を思うこと、合わせる事が難しいことがよく分ります。

まず仕事を辞めました。その後、息子達も独立して、家を離れ、父も四年前に他界、今は、娘と夫との暮らし、時間的にも経済的にもゆったりゆっくり。

十年たって、その時の自分にありがとう、一生懸命やってきたねと思いをかけてあげたいです。今の環境を喜べるのは、あの苦しい時代があったから、

今の生活があるんだと思えます。学びに集中できる時間をたくさん持てるのが肉の喜び幸せだと実感します。その時は五十歳入ったところ、元気だったけどもうどんどん下り坂、本当に日々大切に、自分の中のエネルギーと出会って、愛に帰ろうと伝えていく仕事をやっていきます。



四つの文章（一部省略させていただいています）を読ませていただいたの感想。

三年ほどの間に、四つもいただいて、その中になぜかの、進歩が、見られるように思います。そしてそれから、十年たった今、あまり、進んでいない。その私の言う進歩といっても、肉の次元から見てのこと、上^うつ面^{めん}の思いは、少し変わったような感じがあるけれども、やはり意識の世界としては、最初から、なんの進歩もない、相変わらずの、肉の次元での、学びということが、よく見て取れます。

肉の自分の考え方や、肉の生活は、十年ほど前より、学ぶ姿勢も変わったし、時間的にも、経済的にも余裕ができていくけど、意識の世界から見れば、微々たるもの、一歩も進んでいないというのが現状なんだなあと、この本物の学びの厳しさ、難しさを感じます。

CDをもらった頃ぐらいからは、自分の真つ暗な宇宙を思うのも嬉しくなってきた、宇宙に向ける瞑想も、母を思う瞑想も、喜んで、瞑想は生活に根ざしているつもりでした。しかし大切なのは向ける方向。どんなに自分ではやったつもりでも、やっていないのと同じ。相変わらず己偉い。

こうして、見てみれば肉次元では、何も進んでいない。意識の世界が変わってしまわない限り、



二五〇年後の出会いには難しい、出会っても意識の世界での出会いにはならない。今のままのやり方では、この先十年やつても、もう見込みない。ここで、相当頑張らなければ、どんな体力気力も落ちていく一方。本当に今が二五〇年後なんだ。自己確立できていなければ、元の木阿弥もくあみ。厳しい転生が待っている、死後の世界で意識の供養ができるようにならないければ、沈み込んでそのまま宇宙の藻屑もくず、が現実。

しかし、いただいたメッセージにもあったように、この学びは一足飛びいっせくとにはいけない、焦りあせは禁物。意識の自分を信じて、欲を出さず、ただただ素直な心で、淡々と喜んで喜んで、真つ暗な宇宙達の思いを受け止めて自分の中の愛へ帰す繰り返し。優しさが必要なんだと思います。

又、改めて今、こんな幸せな機会を与えていただき、思うことは、

本当に凄^{すご}い凄^{すご}い凄^{すご}い学びに出会った、宇宙一幸せな自分だという事実。

肉持った田池留吉との出会い、本当に凄^{すご}い凄^{すご}い出会いでした。どれだけしてもらって来たか、こうしてこんな機会をいただいて、セミナーで毎回、娘の頭を撫^なでながら優しい波動を流してくださいましたこと、言^よって頂^{たま}いたことが蘇^{よみがえ}ってきます。消えないです。本物だった。いつもいつも、ここを忘^われません。いつもいつも、大切に生きていきます。今も今も届^といています。田池留吉からの思い。ありがとう、しかありません。

田池留吉をしっかり信じているのか、自分に問^とうて、自分の中へ中へ、自分の与^よえた最高の環境の中^ちで喜びを広^{ひろ}げ、本当の自分、田池留吉の思いに報^{むか}いるため、歩^あみを半歩でも進^{すす}めていくしかない。全部自分の中にあると教^おえてもらった。後は、先生の存^{ぞん}命^{めい}中は出来なかつた課題に取り組^くんでいきます。

自分の元いたところ、ふるさとへ帰^{かえ}る喜びの道^{みち}を、自分の宇宙達^{うちゅうたち}とともに歩くことの幸^{さい}せをかみしめて、肉^{にく}終^{しま}えるまで、田池留吉を思^{おも}う瞑^{めい}想^{そう}三^{さん}昧^{まい}で過^{すご}したいです。

それこそが本来の私、私の幸^{さい}せ人生^{じんせい}だからです。

ブックさん、本当に本^{ほん}当^{とう}にこ^こんな機^き会^{かい}を与^よえてくださりありがとうございました。

77

***さん、心^{こころ}を語^{かた}ってみてください。

はい、自分なりに心^{こころ}を見てきました。心^{こころ}を、田池留吉、アルバートに向^{むか}けてきました。しかし、私は、まだまだ自分のエネ^エルギーを、私^{わたし}の中で確^た認^{にん}していません。己^{おのれ}の偉^偉いエネ^エルギー、確^たかにし^しっかりとま^まだあります。

他力を求めてきた思いが、確かにまだしっかりとあるんです。この心、田池留吉、アルバートに向けるとき、もっと、もっと心を見つめてください、そのように私に伝えてきます。

私の中に、優しい思いをもっと、広げていけると思っています。

私は、自分を肉だと思ひ、この肉を誇ってきました。知らず知らずのうちに、そのエネルギーを流し続けてきました。周りに流し続けてきました。その思いを、まだ私はしっかりと見れていない、そんな感じがします。

自分を語るとき、私の中には小さな、小さな世界を誇ってきた自分を、今感じているけれど、まだその思いはしっかりと残っていると感じます。

田池留吉、アルバート、申し訳ございません。本当の自分に帰る道を、ひたすら歩いていくことを、私は誓ってきました。そんな私なのに、何度転生をしても、その思いを忘れ去っていたんですね。

今、素直に自分を語れます。己偉い思いも喜びで

語れます。

今まで苦しかったです。私は、自分を隠して生きてきました。良いところを表現しようと思ってきました。そうではなかったんです。良いも悪いもありませんでした。私は、真っ黒でした。真っ黒な私が私。その私を真正面から受け止めていける、そのことだけが喜びでした。

私は、今、そのように感じています。

***さん、そうですね。真っ黒なあなたをしっかりと受け止めていける道、それがアルバートの道です。素晴らしい自分を誇っていく、そういうのは、アルバートの道ではありません。

優しいあなたを見つけていくためには、真っ黒なあなたをまず見つめていくことです。真っ黒なあなた、どんどん出てきます。真っ黒なあなただからこそ、温もりを伝えてくれるんです。

その優しさが分かりますか。真っ黒なあなたは優しいんです、本当に優しいんです。その優しさをど

んどん見ていってください。

母に生んでいただいたあなたです。お母さんからその肉をいただいたあなたです。そのことだけが、あなたの中の優しさ、あなたの中の真実です。

私は、そのようにお伝えします。どんな心が出てきても、喜んでいってください。己を誇ることなく、自分を見つめていってください。

学びをしているから、自分は立派、そうではありません。真っ黒だから、私は、生まれてきた。

真っ黒だから、私は私を見つめていける、その原点に立ち返っていってください。

田池留吉、アルバートは、あなたの中で待っています。宇宙は待っています。宇宙に思いを向けることを、あなたもしていってください。

宇宙は変わっていますよ。あなたが思っている以上に、速いスピードで、意識の世界は変わっています。どんどん、あなたは、あなたを見ていくだけです。どうぞ、そのことをやり続けてください。

十年前の私、その私へのメッセージ。いつも心にありました。今も、これからもずっと持ち続けていくと思います。

肉を自分とする他力のエネルギーの膨大さに、本当に真っ黒な私がやさしいなんて感じられる時が来るのかなあと、日々の思いを綴りながらの十年でした。

瞑想も、肉だと思うエネルギーの強さに、なかなか正しい瞑想とはなりません。そんな中でも、マイナスのエネルギーに突き動かされ愚かを形にしてしまふ私を、温かい目で見つめ、ただ気付くのを待ち続けてくれている私があったことを知った日がありました。心がぱっと広がったその時に今までの全てに「ありがとう」と心より言えた私がありました。口を動かし異語をひたすら出し続けていけば、やがて涙し、ただ語れてうれしいと伝えてくれる、そんな思いにも出会いました。

真っ黒な私を責めて裁いて、頭を叩いて出てくるなど閉じ込め、冷たく切り捨て続けた私なのに、そ

んな私を責めることなく、ただ「語れたことが嬉しい、ありがとう」と伝えてくれる思いに、なんとも言えないやさしさを感じたのを忘れることが出来ません。ただそこにあつてエネルギーを放出しているだけのようです。

「ああ本当だ、真っ黒はやさしいなあ」つてメッセージを心で分かるのに十年です。私の進捗度しんちやくどはとても遅いですが、もらったメッセージを確かめられる今があることが嬉しいです。

自分を見つめていけば必ず、メッセージを流し続けてくれる自分に出会う。

自分を見つめること喜びでした。自分と語ること喜びでした。正しい瞑想の中でしか真っ黒な自分がやさしいだなんて分かりっこなかったです。だから正しい瞑想しかなかったんですね。

出るがままに異語で語らせてあげられる、真っ黒な私にとってそれだけが喜びでした。そして、そのやさしさを知った私も喜びでした。ただその道を歩いていくだけでした。

唯一瞑想は自分の中に針を向けていく作業、その癖をつけていくためには日々正しい瞑想の励行れいこうしかないんだと、愚かな肉に言い聞かせながら、これらの時間を送つていこうと思つています。

78

私は、***です。心を語りたい、語りたい、途轍とてつもなくすごいエネルギーを蓄たくわえてきた、他力のエネルギーを蓄えてきた心を語りたいと、自分の中から飛び出てきます。

心を語れることが嬉しいです。お母さん、申し訳ありませんでした。どんなにしても、母の思いに応こたえていかなければなりません。

私は、お母さんの温もりから生まれてきました。お母さんに、ようやく、そのことを伝えることができます。

間違つてきました。お母さん、ごめんなさい。お

思います。お母さんありがとう。ごめんなさい。間違っていました。それらの言葉も、「そうだろうなあ。そうなんだ」そんなお粗末そまつな状態そまつだったと思います。自分の中の必死さを察する事が出来なかった。もう一度メッセを受け取る事が出来たこと、本当に意識からのプレゼントだと思います。十年の年月が過ぎ、田池先生が伝えてくれていた事、やっとやっと心に響くようになりました。あのメッセ通りです。今嬉しくて嬉しくて、微々たる歩みかも知れませんが、進むべき道が示されている。こんな幸せはないと思っています。幸せを求め必死に生きてきた今まで、意識の転回が出来ていない以上は全て間違いました。それが私の岩盤だと思えます。強固な岩盤ですが、帰っておいで、帰っておいで、待っています。その優しさを感じられる事、本当にありがとうしかありません。只々この道、共に共にありがとうございます。

79

***さん、どうぞ、心を田池留吉に向けて、あなたを語ってみてください。

田池留吉、田池留吉、申し訳ございません。はい、長い年月、私も学ばせていただきました。

私は、自分の中を見てきたつもりです。母に向けて瞑想もしてまいりました。

しかし、今ひとつの私を感じています。田池留吉を心から信じられない私を感じています。

なぜなんだろうか。自分に問いかけてみました。心の中の他力です。他力の思いをしっかりと見てこなかったからです。

私は、他力の反省をしてきたと思ってきました。でも今、田池留吉を思い、その自分を語る時、その他力の反省が、中途半端になっている、いいえ、それどころか、私自身、本当に、自分が間違った道を歩いてきたことが、よく分かっている、そのよう

な感じがします。

上滑りうすべりでございました。表面だけを見て、私は、一生懸命やっていると思ってきました。田池留吉しんし、真摯しんしに自分と向き合うということを、簡単に流してきました。

しかし、長い年月、長い時間、私には必要でした。上滑りの反省でも、反省を重ねてきたことは、確かです。そういうことを重ねてきて、ようやく私は、自分の中が、上滑りの反省だったことに辿たどり着いたのです。

心の中で気付くことは、容易たやすいことではありませんでした。田池留吉、申し訳ございません。本当に申し訳ございませんでした。

異語。

***さん、よかったですね。心を語ってよかったですね。綺麗に自分を飾ってみても、心の底にある思いは、あなた自身を物語っていました。あなた

の波動が物語っていました。

転生を重ねてきた結果、自分は、これからどのように存在していくのかということ、ただ一点にエネルギーを集中させていこうとする思いの強弱を、波動は物語ります。波動は正直です。

そういうところから、私は、あなたを感じさせていただきました。あなたの中の他力のエネルギー、今一度、しっかりと見つめていってください。

古くから学ばれてきたあなただからこそ、これまでの反省と瞑想が、本当に活いきてくるようになればいいと思います。

長い年月は無駄ではなかった、長い時間が必要だったと、あなた自身は語られました。それならば、ただ一点に自分を集中させていってください。

そこから流れてくるあなたの波動を、私は、きくとキャッチできると思います。

長い間セミナーに集っているだけでした。ひとつも本当のことは学んでこなかった。初めて学ばせて

もらった時と同じ心癖、他力のエネルギーにがんじがらめ、狂っている自分がどんどん見えてきました。

「自分が設定してきた現象を受け入れる」「真剣に心を見る」ことなく、その中で大きく大きく闇を膨らませていく毎日でした。「苦しい、苦しい、なんとか今の現象を」。田池留吉に歯向かう凄まじいエネルギーの中で堂々巡りでした。学ぶ動機の反省もできていない、間違った道を歩いていることにも、心の底から気付くことなく、我一番、自分は正しい、負けてなるものがガメツクガメツク突っ走ってきました。

田池留吉、アルバート、申し訳ありません。本当に有り難うございます。苦しんできた自分、心の底から気づかせてくれた自分に感謝です。喜んで喜んで瞑想していきます。

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心を見ることを怠っていました。心を見ることを怠ってきました。

心の中にすごいエネルギーを蓄えてきたのに、私は、自分の中をしっかりと見ていません。

それが今の私の現実です。

心の中を覗いてみるのが恐いんです。私の中にどれほどのエネルギーが蓄えられているのか、私は、セミナー会場で感じてきたはずです。

しかし、私は、今、自分の中にしっかりと蓋をして、肉の喜びと幸せを求めています。自分の思いとは、裏腹な生き方をしています。

自分に冷たく過ごしています。こんな私です。私の中に凄まじいエネルギーを詰め込んできたから、それを見るために、今世生まれてきて、今世それを見るために、今があるというのに、私は、自分の思

いとは裏腹な生き方をしています。申し訳ございません。

私は、自分をしっかりと見つめていきます。これからの時を大切に、自分を見つめていきたいと思えます。

肉の喜びと幸せの中に浸り切っている私です。どうしても、この思いを緩めることができずに、私は、ここまでできました。

田池留吉との出会いを喜んでいたはずなのに、私は、やはり他力の中に沈んでいきます。自分では心を見て、そして反省をして、瞑想をしようということが続いているつもりですが、私の本音は、そうではありません。

肉の喜びと幸せをしっかりと握りながら、この学びをやり続けようとしています。こんな浅はかな自分を今、感じています。

自分の心を語るにつれて、本当に浅はかな自分、愚かな自分を感じます。私は、自分の波動を今、感じています。暗く厳しく、真っ黒な中にある私を、

感じています。こんな私を今まで、放りっ放しにしていた、そんな自分を、今、感じています。

***さん、肉で生きる辛さ、哀しさ、苦しき、あなたはもうすでに心でご存知のはずです。だからこそ、今世生まれてきて、学びに集ったのです。学びに集い、自分の心を見つめてみよう、自分を変えていこう、お母さんの温もりを心に思い出していこう、そうして自分に決意したから、生まれてきたのではないのでしょうか。

その原点に立ち返ってください。優しいあなた、温もりのあなた、その心に押し隠したまま、また時を過ぎてしまうのでしょうか。

大変もったいないと思います。せっかくの出会いです。せっかくの学びとの出会いです。

どうぞ、もっと真剣に自分を見つめていってください。

こんなチャンスは、もう二度とあなたの前には現れないでしょう。

これからのあなたの転生はとても厳しいものです。二五〇年後の出会いはあるかもしれませんが。しかし、その時、あなたの意識の目覚めがあるかどうか、それは今世のこれからの時にかかっているといます。

それほど大切な時間なのです。このことは、あなたに限らず、どなたも同じです。学びに集ったということは、そういうことです。

そのチャンス^{みずか}を自ら潰^{つぶ}していくということは、どういうことでしょうか。

私は、そのようにお伝えします。

出してもらった意識は全くその通りのものでした。今読み返してみても、びっくりするくらいその通りです。すごいなと思います。自分なりに先生が伝えてくれたこと、塩川さんが伝えてくれたことに、真面目^{まじめ}に真剣^{まけん}に取り組んでいくつもりでした。そして、肉の



喜びと幸せなんて求めていないと思っていました。だけど、私はしっかりと心の奥底で肉の喜びと幸せを握り締めていました。この手を離すものかと、必死になって、死んでも離さないというくらいのエネルギーで握りしめているのに、そんな自分ではありませんと、そう自分で評価してきました。

本当に順調に生きていました。この意識を出してもらって、それでも肉は曲がりなりにも整っていたので、今の調子でやっていけばいいのかもしれないと思っていましたが、思い通りにいかなくなった時に私が肉を通して実際に出したエネルギーは破壊そのものでした。私は正しい、私は間違っていない、私の言うことを聞け、私の思い通りに動けば間違いないと自分の思いを押し通すことしか考えられない私を現実突き付けられました。絶望でした。でもそれが私の心の現実でした。こんなにも荒れ狂うんだと、自分の望む形

に戻すことにここまでなりふり構わずに荒れ狂うんだと思いました。そうした時に、私は目に見えない自分の意識に対して、こんなにも暴力的な思いで自分に都合の悪い思いは封じ込めてきたんだなと思いました。出てくるな。消え失せろ。そんな私なんて認めない。冷たかった。それにも気付かなかった。だから現象化せざるを得なかった。現象化しても私は認めようとせず、周りに責任転嫁せきにんてんかしまくりました。

どれだけ何をしても、事態は私が望む形にはならなかった。でも、今となってはそれが良かったと思えます。こんな心を見せてくれた環境があるがたい。間違っていると必死になって伝えてくれた存在があるがたい。間違ってきたのは私だった。間違いを押し付けようとしたのは私でした。意識よりも何よりも、まず肉の安定をこんなエネルギーで私は求めていたことを知れて、本当に肉を自分だと思っただけで生きるということは本来の自分からかけ離れていってしまうんだと感じました。

すべてプラスと、田池先生が言っていた意味が、

とても深いです。こんなことまで良かったと思えるんだと、自分でもびっくりです。こんなにもどうしようもない自分に、肉を持っている間に、元氣な間に、肉がまだある間に出会えてよかったです。

81

二〇一〇年七月二十日（火）

***さん

***さん、心を語ってみてください。

自分の今の状況、私は自分の中で苦しみ喘あえぎ続けています。肉は元氣です。肉は澆刺はっらつとしています。肉は忙しいです。

しかし、私の心の中は、そういう私と全く違います。

心の中を見つめてくださいと自分が自分に訴えている、この私の訴えを、肉は聞いているようで聞いてくれない、そんな私が、今伝えます。

「心は苦しい。心が苦しい。心を見てくれ。心を見てください。もっと、もっと自分の心を、自分を大切にしてください。」

私達はそのように伝えます。こんなチャンスは、もう二度と巡ってこない。

必死で伝えているんです。あなたは、まだまだその肉のあなたをしっかりと握り、そのところから田池留吉、アルバートと呼んでいます。

そうではないんです。あなたの中に、私達、この苦しみ喘ぎ続けている意識があることを、どうぞ心で知ってください。

そんなもの、とつくに知っている、あなたの心からその反発がきます。

しかし、私達は伝えます。それでは、私達のこの苦しみ喘ぐ心の叫び、あなたはどの程度受けてくれますか。もっと真摯に私達と真向かいから向き

合ってください。

あなたはあなたの言い分があるでしょう。しかし、私達はこの心の苦しみから、どうしても抜け出していきたいんです。自由な伸び伸びとした温かな、広い、広い世界に私達を連れて行ってください。心からそのように伝えていきます。」

私は***。

この思いをずっと、ずっと感じてきました。しかし、私はその自分の思いに真向かいから取り組もうとはしませんでした。色々な思いが出てきます。しかし、そのすべてが肉なんです。肉のところから、私は、色々な言い訳を並べ、私には私の道筋がある、最後はそれで私の中を閉じてしまいます。

こんなことではだめなんです。

なぜ、私が、田池留吉、その意識が肉を持っているこの時期に、肉を持ってきたのか、私の中でもはっきりとしていかなければならないと思います。

心が敏感な私というこの肉を今世選んできまし

た。チャネラーとして、その肉を選んできました。しかし、根本的に私はその間違いに気付いておりません。なぜ、その肉を選び、今ここにあるのか、自分の心の悲痛な叫びを私は全部、押し留めています。はっきりとそのように、自分に伝えてくれたメッセージ、やはり、そうだったんです。素直に受け取ります。

***さん、田池留吉です。

あなたのご事情、今の立場、それがあなたの中で色々あると思います。それらをすべてひっくり返して、あなたはあなたの本当に計画してきた道を歩いていってください。

そのために、あなたは、今世肉をいただきました。その自覚をもう一度、自分の中で確認してください。

田池留吉からのメッセージ、あなたにはとても厳しいと思います。しかし、私達は、ただ一点、次元移行という意識の流れをすべての意識たちにお伝え

する、そのために存在しています。

こうして、三次元に降り立った私、田池留吉の意識が伝えていていることを、あなたが何故、素直に受け止めていけないのか、そのところから、あなたの反省をしていってください。そびえ立っている己の意識、自分というものは、はっきりとあなたの中で確認していってください。

私、田池留吉はただ前を向いております。意識の流れをただただ伝えていている意識、それが田池留吉、アルバートの意識です。

あなたに伝えることは何もありません。

ただ、あなたはあなたの心を見て、本当に自分を真向かいからとらえる瞑想をしていってください。

心の中にすべて、回答は送っています。

今世という時間、あなたのその肉、大切にしてください。

そうするかどうかは、すべてあなたの選択です。そして、あなたの選択に関わらず、意識の流れは厳

然として流れています。そのことを、ただ私達はお伝えします。

◇二〇二〇年五月十九日

いただいたのは十年前です。

その時、何度も何度も読み返しました。

でも、そのあと戸棚の奥にしまっておりました。

今回UTAブックさんのご提案により、戸棚から出してきました。

再度読ませていただき、初めていただいた感覚なのです。

本当に、その通り……。

十年間何をしてきたのか？ そう自分に問いかけてしまいました。

つまり思いは何も変わっていない自分がいたのです。

時間の経過で、肉の忙しさは変わりました。

でも、思いが変わっていなければ苦しいままです。

すべてを肉の次元からしか見ていない、見えていない自分を確認するのに時間はかかりませんでした。

どうしようもない自分だと、しばらく落ち込みました。

少しは変わったと思っていたこと自体、そびえ立っている自分を確認できたということです。

今回の企画により、私は、再度先生からメッセージをいただけたということになります。

ブックさんに感謝です。

大事に、大事に、戸棚の奥にしまっていた意識のプリントとCDでした。

「大事」の意味が違っていました。

封筒には先生の自筆で手書きの宛名書き。
裏書きの先生のご住所も素晴らしい自筆です。

そんなところを、強くしっかりと印象に残した私
でした。

まさに肉、肉だとわかります。

一人ひとりにCDに吹き込んでくださったこと。
先生が切手を貼って、ご自分でポストに投函して
くださった愛。

私はそれを、どれだけ心で受け止めてくれたで
しょうか？

全部、私の中にありました。

田池留吉は私の中にありました。

田池先生、ありがとうございます。

こんな愚かすぎる自分も受け入れていきます。

再度何もないスタート地点から始めます。

苦しむ自分の心から逃げずに対峙たいじしてまいりま
す。

こんな素晴らしい機会をいただけましたこと、塩
川さんブックさん、本当にありがとうございます。

◇二〇二〇年五月二十日

十年前のメッセージで言っていたいただいたこと。

肉の私をしっかりと握りにぎ、そのところから田池留
吉、アルバートと呼んでいる私。

その意味がよくわかるのです。

私は自分は頭がいいと思っています。

何でもできると思っています。

頭の中では常に、次の段取りが構築されています。

そんな自分が、大きく振りかぶっています。

その域から出れない自分があります。

もがいても、苦しんでも、自分の誇ってきた頭脳から抜けられないのです。

私はできる。

私は大丈夫。

私は常にこうしてやってきた。

おくびにも出さないけど、私の中にはそんな思いが渦巻いています。

そんな思いの中で瞑想をしても、握っているモノを放さない^{はな}と本当に向けることは出来ないです。

十年前のメッセージが、ようやく心の中でストンと落ちました。ありがとうございます。

今朝、海外瞑想をしながら、やっと先生の言われる意味を感じた私でした。

課題を与えてくださって、ありがとうございます。



田池先生と愛犬ゴロ

****さん、あなたの心を語ってみてください。

心に培^{つちか}ってきた他力のエネルギーを、自分の中で見ていくことは、なかなか難しいです。私の中は、まだまだ他力のエネルギーに埋まっています。ですが、それを少しずつ解^とき放^{はな}していかなければと、私は、母の反省をするたびに思います。

根^ねっこが同じ、そう根^ねっこは同じでした。母に向けてきたエネルギーは、すべて、他力の神々に向けてきたエネルギーでした。貪^{どんよく}欲^{よく}に他力の神々を求めてきた私でした。

頂^{ちやう}点^{てん}に立ちたかったからです。この心の中を見てみると、やはり、我一番の頂^{ちやう}点^{てん}に立つことを望^{のぞ}んできた自分が、たくさんあります。

まだまだ、私は、肉の思いが強いです。

ああしかし、それも仕方ありません。自分が選^{えら}んできたこと、この中で、私は、少しでも自分を見

つめていきます。

難しい道だけれど、自分を見つめていこうとしています。

異語。

****さん、瞑想をする習慣はあるようですが、しかし、あなたが、もう少し長い瞑想を試みようかと、ふっと思った時、その時、素直にそうなさってください。

他力のエネルギーが、まだまだしっかりとあることは、あなたが感じている通りです。

****さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、学びに集^あったことを喜んでいきます。他力の神々を、しっかりと握^{にぎ}っている自分を確認でき

て、嬉しいですよ。こんな私を、生んでくれたお母さんを思います。田池留吉、あなたを思う時、母が出てきます。他力の中にずっと苦しんできた自分の世界を、今、感じています。はい、今、その世界を感じ、もっと、真剣にやっつけていかねばと、私は、思いました。

今回の「あなたの意識です」の件について、忘れていたのが本当のところですが、自分の会員番号と内容を読んで思い出しました。ナンバーもゴロのいい番号で、とても気に入っていました。セミナーでのメッセージや先生からお話をされて自分に関係するものはテープに保存しているのに、このメッセージが抜けていたのは、少し愚かだったと反省しております。

でも当時と今と、「大きく変わったか」と問われたら、「変わりました」と言い切れないと思います。

しかし、最終の下呂セミナーで、先生から十名前になささいと、自分を呼んでいただいたのにはびっくりしてとても嬉しかったし、今世学びに集ったこ

とを喜んでいると、核さんからメッセージをいただき、この件の内容と自分の意識が喜んでいると言われ、やはり、田池先生の肉と出会えたことはかけがえのない人生と言えると幸いです。

他力のエネルギーはギッシリありますが、メールを読んでNo.1〜3のどこにあるのだろうかと本を探している時、「あなたの意識ではありませんか」の本もありました。その本の77頁、学びで一番大切なこととは何でしょうか。塩川さんのメッセージを見つけてきました（77〜78頁）自分に懺悔ざんげするということについて、79〜80頁、私がノートにパソコンからコピーしたのを大切にいつも見ていました。各所に赤字で題目が書かれており、とても良い本のひとつです。ブックさんから今回のこの「あなたの意識です」は皆様のためにもなるものだとのことにて古いというか、核さんからのメッセージ、そして各本も時には読んでみるのもいいと私は思いました。瞑想は肉体労働をしている者はあまり良い結果は出ません。

よって私は今のところ、毎日「宇宙の風」を重点にCDやテープを聞くほうが多いです。

学びの体験談ではないので書きませんが、今回のテーマをいただいで、この「あなたに語り掛けましょう第1巻」に出会えたというか、見つけたというか、大変な収穫となりました。

先生とお話をしたことがあり、塩川さんはセミナーに参加されてから全セミナーに参加していることを聞かされて、やはり核さんだと思いました。私等は、学ぶことには違いはありませんが、学ぶ動機が、先生の人柄に心酔^{しんすい}し、大阪弁で、下ネタの話もされて、なんと気さくな良い人なのかと、講話が大好きだった人間です。

でも、少なからず、あまりセミナーに参加することが少なかつたとしても、自分の本質を知ることができたなら、それはそれは今までは異なり、良い方と出会わせてもらって、学ばれた方々皆様と同様に素晴らしい学びと人生だったと感じます。今世は宗教には全く興味がなく、神、仏が存在するという

よりも、神社や仏閣にたまたま行った時は、手を合わせる事が良いことだとして教えられ、自ら望^{みずか}んで行ったのは、子供が生まれる前、結婚してからは当然です。本も多いし、毎日毎日メッセージを信され、本当に塩川さんは世に香る、お名前通りの香世さん。自分のお仕事とはいえ、ほとんど全ての方の意識を受け、発せられるメッセージ、あだやおろそかにする事はできません。頭が下がります。

今回のブックさんからの発案により、数少ない、個人へのメッセージ、大切にしてまいりたいと反省しております。私が何を伝えたいのか、分かったようで分からない文章になりましたが、行き当たりばつたりの反省的なもので申し訳なく思いますが、こんなに早く天変地異が起るとは、自分の今世の命の中でとはとビックリいたしております。残り少ない命の中でタイケトメキチ、アルバート、片時も忘れぬよう、瞬時に心に呼べるよう生きていこうと決心しております。

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

母親の反省を通して、自分の醜^{みにく}い心を、たくさん、たくさん見させていただきました。そして、私は、セミナー会場で、自分のエネルギーを感じました。そのような体験があつて、私は、今、この学びのことを振り返っています。田池留吉を振り返っています。

そうすると、私の中には、嬉しいという思いと、くそつたれという思いが、同時に湧^わき起こってくるんです。嬉しいってというのが、私の本当の思いなんです。くそつたれ、これは、他力の思いなんです。そう、それは、頭では分かっています。ああでも、私は、そのくそつたれをしっかりと握^{にぎ}っている、そのことに、まだまだ気付いておりません。

他力のエネルギーが、しっかりと心の中にあります。欲を満たしてくれた他力の神々にひれ伏す思い

が、たくさん、たくさん残っている、そんな自分を、今、感じています。

そんな私に、母は言いました。

「あなたの心の中に、素直な思いがあるんですよ。その思いを思い出していきなさい。私は、そうやって、肉を用意しました。

あなたが、私から生まれてきたのは、自分の素直な思いに気付いてほしいと、あなたが言ってきたからです。あなたの中に、そんな思いがあるのをしっかりと信じていきなさい。」

母親の反省を通して、私の中に伝わってくる母の思いがあります。

その思いを信じ切れずにいた私は、本当に愚かです。今、私は、私を語るとき、ああこんな思いが、自分の中にあつたんだ、そう思うと、少し嬉しくなりました。

異語。

***さん、はい、しっかりとあなたの心を見ていってください。他力の神々にひれ伏してきたあなたです。欲の思いで、他力の神々のエネルギーを求め、求め続けてきたあなたです。

しかし、母が言ったように、あなたの中に素直な思い、本当の自分を信じていこうとする強い思いがあるんです。その思いを、どうぞ、しっかりと信じて、その思いだけを見つめて、母親の反省、他力の反省、母を思う瞑想、田池留吉を思う瞑想、宇宙を思う瞑想をしていってください。

時間の許す限り、瞑想をしていってください。自分に思いを向け、心の中にお母さんを、本当に心の底からお母さんと呼んできたあなたのたくさんの意識達とともに、田池留吉のほうに、思いを向ける、ただただそのことを、やっていってください。

あれから十年ですか？

長く感じましたが、あつという間でした。

頭では、ふっと、今でも何もかわってないなあ、

同じことを繰り返しているんだなあ、という思いが出てきました。

でも、そのメッセージにすっと思いを向けると、まったく違っていました。

続けてきたこと、続けられてきたことにありがとう。そして、これからもこの学びを続けていくということを、しっかりと感じる事ができ、ただただ、ありがたうの思いしかありませんでした。

二五〇年後、三〇〇年後に繋いでいく過程を感じています。ただ、ひたすらありがたうの思いの中で。

「素直な思い」という言葉がありました。その素直な思いにすっとならずと寄り添いながら、続けてこられたこと、これからも続けていくことを、より深く信じる事ができた瞬間でした。

頭をくるくるまわす心癖はまだありますが、次第に弱まりつつあるように感じます。

うれしい瞑想を素直に喜べる自分を、これからもすっとならずと信じていきます。

難しく考えることは何もなかった。ただただ喜び



母が鉢植えの花を育てていて、それほど手間暇を掛けていないのですが、毎日のように「ごめんね、ありがとう」と花に話しかけながら、自分の子供のように接しているようです。「きれいに咲いたよ」と見せてくれます。何年も咲かなかった花が咲いたり、もうだめかなと思っていた花が咲いたり、話を聞けばいろいろんなことがあったようです。そんな花が咲いてくれて、とてもうれしいのだと思います。

* 健太さん、お母さんのことを、どのように思っていますか。

はい、私は、* 健太です。お母さん、お母さん、私は、お母さんから生まれてきてよかったって思っていますよ。今の肉体を、お母さんからいただいて、ありがとうございます、私は、いつもあなたに、伝えていきます。お母さん、その私の思いを信じていってください。私の肉体は、このような肉体ですけれど、私も、自分の中に、たくさんの思いを抱えて^か存在しています。私は私で、このような肉体をいただくことを、予定してきた意識でございませす。その中で、私は、周りの人達から、色々なものを感じ、すべてが私の心の表れだと思っています。お母さん、自分を暗く、暗く、落とし込めないでください。私は、あなたの明るい笑顔、優しい笑顔、それがとても大好きです。それ以外は、あなたには似合わないと思います。

私は、***でございます。健太の思いを、私は、何度も聞かされました。喜んでいる波動を感じさせていたいただきました。でも私の中で、その時はそれで喜ぶ思いがあるけれど、時間が経たつにつれて、私の中から出てくる思いで、その思いを消し去っていくのを感じ、とても苦しい思いを感じています。私は、とても暗い、暗いんですね。形を見ている私の心は暗い。今、健太の思いを聞いて、そう思いました。

私は、**健太。

異語。

これからの転生に、私は、心を繋つないでまいります。タイケトメキチ、アルバート。アルバート、アルバート。二五〇年後に必ず出会うことを、私の心は知っています。**健太、今世は、このような環境に肉体をいただきました。しかし、私は、アルバートあな

たとの出会いの中で、この心の中を、爆発させてまいります。ありがとうございます。

健太の意識を出してもらってから、そして今。

重度の障がいをもつ健太が幸せなのか知りたかったです。学び始めの頃は、私たちは意識です、という知識だけで、こんな体に生まれてきても幸せ？だといいなと思いつまうと、そう思いたかったんです。

セミナーと一緒にいけるようになって先生が指さして回ってくると、抱っこしている健太を丸めて投げつけたくなりました。こんな体で幸せなわけないだろ、幸せなはずがない！これのどが幸せなんだ、そういう感じでした。

でもセミナーに行けば帰るころにはうれしくなり、家に帰れば現実の生活の中で奔走ほんそうし四苦八苦し、何が喜びだ、そんなわけない。仲間に「先生が健太君はアルバートを知っていると云ってたよ」と言わ

れても、私にはなんの実感もないからわからない。

セミナーに行くたびに「うれしい」と思ってもすぐに否定しました。セミナーで喜んだのも、健太がうれしいと言った気がしたのも、私の思い過ごし、そう思いたいだけで、幸せなわけではないよね。私だったらこんな何もできない体、絶対に幸せだなんて思わない、死にたい、生かしている事が親のエゴに思える。その繰り返しでした。

現実の生活では、重度の脳性麻痺の上に何度も肺炎、腸閉塞、呼吸不全、膝炎等々。矢継ぎ早に現象は起き、緊急入院で命にかかわるような決断をしなければならぬ時はもう一番苦しくて、なぜいつも私が決めなければいけないの？もうそこから逃げたくて逃げたくて、腹立たしかったです。

それでも、これでもかこれでもか、とやってくる



ものから伝わってくるものがある。

「おかあさん、僕は愛です、喜びなんです、産んでくれてありがとう」？そんなはずない……思い過ごし。いや、でも、なんだろう。どれだけ否定してもどんどんやってくる、もう否定できない勢いくる、もう否定できない勢い

で押し寄せてきました。そうだったんだ、私が納得、確信するまで長い時間がかかりました。

生まれた時から、いいえ、お腹の中からずっと変わりなく「おかあさん、おかあさん、僕は幸せだよ、ありがとう」って伝えてくれてたのに私が受け取れなかっただけでした。

愛を否定してたんです。

意識を出していただいた時はまだ、頭で、そうだったんだ、うれしいと思ってる？ そうだといいな、ぐらいで、でもそれが私の心の中で、ポカポカと広

がっていったのだと思います。

肉の私にたどり着くまで本当に長い道のりでしたが、そう思ってから、私が育ててると思ってたけど、全くの逆だったと知りました。肉で学んでいる私よりも、健太は意識の世界を信じて、田池先生に出会っただけでそれがどれだけの喜びであるか、今世の人



生のすべてをかけて、もう二五〇年後に定めて歩いていました。

うろろしているのは母親の私の方ですが、嬉しいときは健太とはつきりとながります。

私が心から、お母さんありがとう、産んでくれてありがとうと叫ぶとき、健太が心の中から叫んで一つになるのです。だからこんな体で産んでしまつてこの子は幸せなのか？と不憫ふびんに思い悩み苦しんでいたことは大きな勘違いだとはつきり知ります。だから、もう肉の心配をしなくなりました。

まだこの先、先に死ぬのは健太？私？同時？私はまだ、そういうことで思いめぐらせてしまいますが、何もしやべれない、形でも伝えることができない肉体をもった健太だからこそ、そんなはずないと否定し続けても、それでも伝わってくるもの、見えないけど感じるものが、それが時をへ経て確かなものになる、私にとってどうして

も必要な環境でした。

子供が障害児だからとか、少しでも健常児に近づけようとか、この子の為に頑張つてやってきたことは、全部、この子が自分の汚点おてんだと思つたからです。消し去りたくても、この時代この国だから、殺人者になりたくなかったから殺せなかつただけだと思ひます。

苦しんだことがバカみたいです。でもその苦しんだたくさんの自分と共に、これから先も一緒に進みます。全部承知の上で、「産んで下さい」「はい」と親子になって、ともに田池先生に出会う、それだけでよかつたんです。

肉はあとどれぐらい生きられるかわかりませんが、最後までこの肉体を大事に使わせていただきませす。

健太、二五〇年後にまた会いたいね。その時はお父さんも一緒に。ごめんなさい、ありがとう健太。

85

二〇一〇年六月一日（金）

***さん、心を語つてみてください。

心の中に、田池留吉、アルバート、その宇宙を広げています。私の中の宇宙を思い私は瞑想を繰り返しています。宇宙に向けて瞑想をしています。まだまだしっかりと宇宙を呼んでいるわけではないけれど、私の中の宇宙は、今か、今かと待ち続けているようなそんな気がします。

凄まじいエネルギーの中を生き続けてきました。そんな宇宙に、私は、自分の心で感じたものを伝えていきたい、そのように思っています。はい、たくさんの間違いを繰り返してきました。心の中に凄まじいエネルギーを溜め込んできました。とても、とても苦しい転生を繰り返してきました。他力のエネルギーの中に沈み込んできた私の中に、ようやく、

少し明るさが感じられます。

心を見つめることを学んできました。お母さんに生んでいただいて、私は心を見ることを学ばせていただきました。自分を見つめる大切さ、自分を見つめる優しさ、そういうものが心に響いてきます。

はい、今、私は、自分の中をもっとしっかりと見つめなければならぬ、そんな自分の声が聞こえてきます。まだまだ他力のエネルギーを心に抱^かえています。宇宙に向ける瞑想を続けていく私に、もっとしっかりと心を見つめていきなさい、そうやってお母さんが呼びかけてくれています。優しい母の思いを感じます。狂わせてきた心、その中に私は今、ほんの少しずつですが、安らぎと優しさを伝えていきたい、心からそのように思います。

お母さん、お母さん、お母さんと呼ばば呼ぶほど、狂い続け間違いつけてきた私が、本当に手に取るように感じられる、こんな私を今までほうりっぱなしにしてきたんですね。今世、自分を見つめる中で、ようやくそんな自分に思いを向けることが嬉しいです。

***さん、田池留吉です。どうぞ、しっかりと心を見ていってください。あなたの中の宇宙は待っています。心を私、田池留吉の方に向け、あなたの中の宇宙を呼んでみてください。もう少し心が広がっていきましょう。

しっかりと母の温もりを心に思い出しながら、あなたの中を呼んでいくのです。ただただ嬉しい、ありがとう、それだけで良かったんです。優しいあなたがあなたを受け入れてくれるでしょう。

もう苦しまなくてもいいんです。もう苦しんでいくのはやめましょう。そうやって、あなたがあなたを受け入れてくれる、そんな時間を瞑想の中で持つていってください。瞑想を続けることが喜びです。ただただ思い、あなたを見つめること、その時間を持つていってください。

母に思いを向け、ゼロ歳の頃のあなたを思い、ただその中で幸せを感じていたあなたの心、その心で宇宙を思ってください。

どんな宇宙でも、あなたの中に伝わってくる思いをしつかりと受け止めてください。

ともに帰りましょう、そのような呼びかけをあなたの中でしていただく。

私達は待っています。あなたがもつと、もつと、優しく広く大きくなっていくのを、私達はただただ待ち続けています。

手元に届けられた音声CD、もうそれはそれは数え切れないほど聴きました。悲しい時、寂しい時、そして嬉しい時も先生の声はいつも私の側そばにありました。宇宙という言葉は十年前の私にはあまり心には響かなかつたけれど、本当の私が私に教えてくれていると信じ、分からないなりにひたすら聞き込みました。母が亡くなり、そして父も亡くなり、一人ぼっちの寂しさと悲しさで気が変になりそうになっても、愛用のアイポッドの再生ボタンを押すことだけは出来ました。優しい先生の声にどれほど救われたか分かりません。十年前に頂いてから又四回引つ

越しましたが、先生の手書きの封筒とCDがどこかに紛れ込まないように毎回くどいほど確認したものです。お札と言われようがお守りと言われようが、しょうしんしょうめい 正真正銘、私の宝物です。

宇宙、お母さん、最近になってテーマがピンポイントで示されるようになって、例えば肉の努力でも、文言を頭に叩き込んでおいて本当に良かったと思います。瞑想をすれば必ずその文言と声が響いてくるのです。苦しい時、先生の「ただただ嬉しい、ありがとう、それだけで良かったんです」もうドンピシャリのメッセージが肉声で伝わってくると心がほどこけて、ああそうだったと、嬉しくなるのです。こんな魔法のようなパワーはどこにもありません。

メッセージの後に流れる先生の異語との対話は、当時はまったく分からなかったのに、今はありがとう、先生ありがとうと心から溢あふれてきます。父と母と愛犬も一緒になって、宇宙のリズムで語り合う、語り合える今があると思えば、何とすごい宝物を頂

いたものかと、今更ながらその幸せを噛みしめていきます。

86

二〇二〇年二月二十日（土）

***さん

***さん、心を語ってみてください。

はい、田池留吉、お母さん、申しわけございませ
ん。こんなに素晴らしい環境の中に身を置きながら、
私は自分の歩を進めていませんでした。素直では
ありませんでした。今、素直に自分を振り返って
います。

振り返れば振り返るほど、暗くて辛い自分を感じ
ます。寂しかった自分を感じます。どれだけそびえ

立ってきたかを感じます。

しかし、私は、今、自分を振り返る中で、本当に、
心をゆったりと振り返る時間がある、今があること
が喜び、そんな原点に立ち返っていることを感じて
います。

田池留吉、アルバート、私の中にも、喜びが本当
の喜びがあるんですね。私は、それを信じていきま
す。田池留吉、アルバート、心の中にその思いを広
げていけることが喜びなんですね。

そうやって、私は私を誘いざなっていいけるんですね。私
は、今、そのメッセージを受けています。

あなたはそうなんですよ。そのメッセージを自分
の中で信じていってください。そうやって、素直に
心を開いていくんです。

あなたの心は、苦しくて暗くて小さい世界ではあ
りません。あなたの中には、広い、広い、大きな温
もりの、安らぎの世界があるんです。

そういうメッセージが来ます。ありがとうござい
ます。

本当にありがとう。私が私に伝えてくれた。素直になれば、私は、私に、こんなに優しい思いを伝えていける。そのことを学ばせていただきました。ありがとうございます。

異語。

***さん、田池です。どうぞ、しっかりと心を見つめていってください。そして、瞑想をしていってください。あなたの心の中を感じていってください。どんどん感じていけると思います。

あなたも心は敏感です。それを自分で蓋ふたをしないでください。どんどん自分を解とき放はなしていってください。そして、己の偉い自分を感じながら、またその中にも、優しい、優しい自分を感じながら、そうやって、一歩、一歩、進めていってください。自分に蓋ふたをすることは、一番、自分にとって冷たくて厳しい、そして、寂しいことです。

自分に蓋ふたをすることなく、自分を解とき放はなしていく

道、そんな道を歩いていってください。

田池留吉、アルバートに心を向けていってください。アルバートを呼んでください。二五〇年後のあなたを見つめていってください。そして、今を見つめてください。今がどれだけ大切な時なのかを感じていってください。あなたの心は、それを感じられるはずです。もうその準備はできているはずです。どうぞ、心を田池留吉、アルバートに向けて、どんどん自分語りをしてください。

そして、宇宙を語りてください。宇宙を語ると、あなたの仲間が待っているでしょう。あなたの仲間は優しく、優しく、待っていると思います。今か、今かと待っていると思います。そんなあなたに、私は、伝えたい。どうぞ、宇宙を思ってください。私、田池留吉は、あなたに伝えます。

意識とCDを送っていただいたので、送ります。次から次へと、アイディアあふ溢れる企画に圧倒されています。

本当に、こんなにたくさんのお宝を田池先生から、
頂いていることに驚きます。

「間違っていました」

と肉じつぷりの現状を見えています。

「絶対にあきらめない」

の言葉を忘れないようにします。

「……アメリカの大統領が訴え続けた

「Yes, We can Change.」で……進んでいきます。

ありがとうございます。

◇ はっきり一言 108 (二〇〇九年二月十八日 田池先

生のホームページより)

差別の土地に生まれてくる人達よ、偽りの神々に、
貧困・差別に光を放って行ってください。暗黒の土
地に、国に光を、そして、ともにひとつの世界へ移
行していきましょう。偽りから真実へ、真実の愛
へ、アメリカの大統領が訴え続けた「Yes, We can
Change.」に進んで行ってください。

87

***さん、思いを語ってみてください。

私は、***でございます。私は、***、
***を誇ってまいりました。心の中に田池留吉
を思い浮かべるとき、私は、この身を誇ってきた。私
を認めなさい。田池留吉、私を認めなさい。この思
いを、強く、強く、田池留吉に向けてきました。私は、
肉でございました。田池留吉を肉として見てきた私
の心がございます。とても苦しいです。自分の周り
の人達に、この思いを広げました。まず、私を
認めなさい。それから、あなたを認めます。まず、
私を認めなさい。そして、私の言うことを聞くので
す。私は、立派なんです、私は、素晴らしいんで
すよ。その思いを広げました。心を見ると
この学びに繋がりましたが、私は、この心をひた隠
しにして、貞淑な妻を演じてまいりました。とんで
もございませんでした。私は、この心にすさまじい

エネルギーを抱え、夫に仕え、舅、姑に仕えてきました。すべては、愚かな私のなせることでした。

本当に頭隠して尻隠さず、どんなに繕っても、繕っても、私のエネルギーは、そう、みんなに流れていました。だから、私は、とても苦しいものが、自分に返ってきました。自分の心が苦しいということ、私は、自分に教えていたのに、己が偉かったから、私は、それに、なかなか気付かなかった。感じるということとはあっても、心で気付く、心でそれを気付き、そして、自分の心を改めるところには、至りませんでした。愚かな私を、はい、みんなは受け入れてくれていました。今、そのように、感じます。心を、ようやく、私は、心を語り始めました。苦しかったです。反省をしても、私は、上滑りの反省しか出来なかった。己高しの心を隠したまま、自分を隠したまま、自分の心を隠したままの反省でございました。

読み返してみても……



アメリカ・ユタ州。UT313号道路。正面は、ラ・サル山地。

第一印象は十数年前とあまり変わっていないなあ

と自分の、勉強不足を感じました。セミナーは凄い場でした。貴重な時間だったと心にしみじみと響きます。

この意識をいただいた当時、私はそこまで己を誇ってはいない、と納得がいかなかった記憶があります。これほど己高しをはっきり指摘されても自分の現状を認められませんでした。「感じる」ということはあっても、心で気付く、心でそれを気付き、そして、自分の心を改めるところには、至りませんでした」。その通りです。私は、自分が苦しいのは、聳え立っているからという簡単明瞭なことがわかりませんでした。心から懺悔することができませんでした。ようやく最近になって、いろいろな体験を通して、自分の己の偉さに少しですが心で気付きました。やっとやっと自分に少しですが懺悔ができました。嬉しいです。本当に嬉しいです。田池先生、お母さんありがとうございます。

真つすぐにこの道を行きます。

88

二〇一〇年九月二十一日（火）

***さん

***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、お母さん間違っていました。己偉い私がありました。とてもとても、あなたの思い通りには動かない私がありました。とてもとても、苦しい私がありました。心の中を見ていくと、母に歯向かってきたエネルギーが凄いことを感じます。お母さん、私は間違っていました。どんなにあなたが凄いエネルギーを出そうとも、私はそれ以上のエネルギーであなたを塞ぎ、覆いつくしてしまっただ、そんな心を感じます。

私はすべてにおいて、この心を使ってきました。周りの人達にこの心を使ってきました。

たくさんの間違いを繰り広げてきた。今、私はそのことしか言えません。自分の心を見ていくと、間違ってきました、ごめんなさい、間違ってきました、ごめんなさい、ああそうです、間違ってきました。すべてすべて間違ってきました。今、私はここにくうやって肉体を持って、このように自分を語れるのも、お母さん、あなたがいたからです。そんな簡単なことが私には本当に長い間分かりませんでした。

苦しい、苦しい、苦しい中をこうやって繋いできた私に今、母の思いが届けられます。

少しずつ、少しずつ、あなたは自分を見ていくんですよ。そんな母の思いを今、心に感じながら、私は、日々暮らしています。

全てが整えられていたのに、私の中からこの思いを素直に出すことができなかった。お母さん間違ってきました。すべて間違ってきました。この思いを出すことを私は拒んできた。それほど己が偉かったです。偉すぎて、偉すぎて、間違っていると何度も、目の前に突き立てられても、私は、そんな

自分を素直に受け入れられなかった。今ようやく、そんな自分だった、そのことを感じています。

***さん、田池留吉です。どうぞ、心を見ること、お母さんを思うことを続けていってください。ゼロ歳のあなたに戻り、ただただ優しくった母を思い、素直だったあなたを思い、瞑想を続けていってください。

たくさんの間違いを繰り返してきたことに気づき、それでもなお、これからも存在していく喜び、存在していける喜び、それをあなたの心で私は知ってほしいのです。

生きていることは喜び。こうやって存在していること、それ自体が喜び。本当に、今ここにこうしてあることが喜び。あなたの心の中でその喜びを広げていってください。

心の中に優しいあなたを、本当に優しいあなたを思い出し蘇らせ、そのあなたとともに、真っ黒な真っ黒なあなたとともに、ひとつになって、歩いていっ

てください。

心の中にある優しき、温もり、広がり、すべてのあなたがその世界を待ち望んでいます。どうぞ、ただただ自分を見つめ、ゼロ歳の目で自分を見つめ、そして、あなたの中に優しきと温もりをお伝えください。

異語。

田池留吉からのメッセージのCDをいただき、今感じることを。

私達は今世お母さんから肉体をいただきました。

田池留吉との肉の出会いがありました。私達はすべてすべて約束してきたこと自分の心に今しっかりと思い出し原点に戻る。何故生まれてきたのか、私は愛あなたも愛ひとつ。田池留吉からのプレゼントCD。いつも私に心を向けるのですよと。

パソコンを開くと最初にこのCDを開くようにし



ハドソン川（旧久保邸にて撮影）

てあります。次にホームページへと進みます。思えばこのメッセージが伝わってきます。

無償の愛、田池留吉、本当にすごいことをしていただいたんだと改めて、感謝です。

己偉い肉のどっぶりの私を受け入れ、ともにともに二五〇年後アルバートと出会えると信じて心をつないでいきます。

田池留吉、この意識を受けてくださった塩川香世さん、UTAブックさん、この機会をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

89

***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。心の中に神を作ってまいりました。他力の神を作ってまいりました。私は、他力の神の世界を広げました。

***の世界を広げました。この肉を誇るとともに、私は、パワーを求めてきました。寂しかったからです。お母さん、寂しかった。お母さん、寂しかった。どれだけこの心をお母さんに向けてきたか、なのに、あなたは、何も応えてくれなかった。その恨み^{うらみ}つらみが、まだまだ私の心の中には、たくさんございます。私は、その思いを異性に向けてました。

異性に向きました。とても、とても、寂しかったからです。

ああ、この心も身体も癒^いしてほしかった。私は、そのような思いで、ずっと、ずっと生きてまいりました。

異語。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉、お前なんかくそつたれ。くそつたれ。お前なんか、死ね、死ね、死ね、死ね。ああそのような思いを、私は、常に広げてきました。田池留吉の優しさも温もりも、何もかも、私には信じられなかった。

この心ですつとずつとセミナーに通い続けてきました。私の心の中に広がる思いは、寂しさでございませす。寂しさを埋めてくれるために、セミナーに集ってきた、私の動機は間違っておりませす。

私はこの「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」に載せてもらって嬉しかったです。でも当初はこんな悍ましい私なのかと、しばらく自分の箇所をゆつくりと読むことが出来ませんでした。

認めたくなかったのです。そして本当に長い年月がすみました。その十年の間に三匹いた愛犬が一匹ずつ亡くなり、最後が去年の六月末に亡くなり、なんとも言えない気持ちになっていました。その時学

びの友が言っていた言葉「私はどうしようもない思いが出たりしたらこの「あなたの意識ではありませんか」の自分の箇所を読んで前に進んでいくようにしている」というような言葉を思い出し、私も自分の箇所をもう一度しっかり読んでみようと思ひました。途端に「ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい。私です、私です、私です」と涙とともに出てきました。やつと、やつと、なのです。十年も前にメッセージを頂いていたのに私は何をしていたのだらうと、今はいつも私のそばに置いてあり、私の宝物になりました。

90

***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、心を語ることを恐れてきました。自分の中のエネルギーに、私は驚いています。私は、瞑想を

する中で、自分に思いを向けていけばいくほど、本当に愚かな自分を感じています。

私の中にこんなに凄まじいエネルギーがあったのか、私は、瞑想をするたびに、それを感じています。こんな私が、今世、生まれてきて学びに集えたと、本当に奇跡に近いと思います。大変なことだったんですね。

地獄の底の底もいいところでした。私の意識の世界は、そんな世界です。

今、自分を語るとき、何から語っていいのか分からないくらい、たくさんのエネルギーをこの心の中に感じます。

もっと、心を見つめてくれ。もっと、素直に心に向けてくれ。優しい思いを向けてくれ。苦しい、苦しい、怖がらず、怖がらずに、私達に思いを向けてくれ。そんな意識の世界を感じています。

この心の中に、本当にすごいエネルギーを蓄えてきました。

今世、私は生まれてこれてよかったです。今、自

分を語りながら、本当にそう思います。こんな私がありました。ああ、すごいです。すごい世界を感じています。心に蓋をして生きてきたことは、どれだけ自分に冷たく愚かなことだったのか、今、心に感じています。

***さん、はい、恐怖せずに、どんどんどんなあなたの中を見つめていってください。異語であなたの心を解きほぐしてってください。優しいあなたが待っていますよ。今、あなたに思いを向けています。

優しいあなたを感じます。はい、凄まじいエネルギーの中にあるけれど、ああしかし、あなたも優しいんです。

あなたも、お母さんに思いを向けてみましょう。

お母さんに思いを向けたとき、あなたの中に、お母さんありがとう、素直にそう言えるあなたがいるではないですか。

そのあなたを信じて、そのあなたに思いを向けな

がら、苦しくて他力の中にがんじがらめのあなた自身を包んでいってください。

怖がることはありません。すべてはあなたです。あなたなんです。何も怖がることはありません。あなたが恐怖の思いを向ければ、その間は、さらにあなたの中で大きく訴えてきます。強く、強く訴えてきます。

恐怖せずに、その思いを聞いてあげてください。とても優しい思いですよ。本当に優しい思いなんです。

自らを苦しみの中に突き落としてきたあなたです。そんなあなたを自分の中で優しく迎え入れて、受け入れて、包んでいく、そんなことができるのは、あなたが、今、肉を持っていてる時間だけだと私はお伝えします。

あなたがその肉を離せば、そうですね、あなたの現実は、とても厳しいと思います。おそらく、今のままでは、田池留吉を呼ぶことは難しいでしょう。だからこそ、今、しっかりと母に思いを向け、あなたの中の苦しみを包んでいってください。優しい思

いを向けていってあげてください。

できれば、その肉を離れた後も、お母さんと呼べるようになっていってください。優しい思いで、あなたを包んでいくことを、学んでいってください。

あなたは、何を学ぶために、何を学んできたか。

私は、肉が自分と思う心がとても強く、肉の幸せを求めてきました。

どんなに肉の幸せを求めても、欲で頑張っても、その時だけの喜びでした。その心癖は幾度となくしつこくしつこく出てきます。

うまくいくことはなかった。「田池留吉と欲は合いません」、その言われた意味が分かるまでは、苦しみでしかなかったです。思いが間違つて、苦しみを全て切り捨て、冷たい冷たい己偉い自分です。そのような自分を受け入れ、お母さんの温もりで包んでいくことを学ばせていただきました。

私は生まれてこれて良かったです。田池留吉、お

母さん、ありがとうございます。これからも心を見てまいります。ありがとうございました。



我が家の柚の木に鳩ちゃんが卵を産みました。雛になったのを確認したのですが、その後、雛の姿が無かったので、どうしたのか気になりました。その後母鳥が帰ってきたけど雛がいなかったので、子を持つ母親の気持ちになりました。どうしたんだろう？

91

***さん、アマテラスについて、あなたの思いを語ってみてください。

はい、私は、生長の家でアマテラスに対する私の思いを、今世もまた膨らませ続けてきました。アマテラスに対する思いは、とても強いものがございます。アマテラスにひれ伏してきた意識でございます。

そして、私は、学びに繋が^{つな}りながら、この心を、アマテラスに対する思いを、自分なりに見てきたつもりですが、そのとても強いところを、私は、まだまだクリアできておりません。

なぜならば、アマテラスのパワーを利用しようとしてきたからです。己を表していきかけた。アマテラスにひれ伏しながら、私は、己のパワーをこの宇宙に広めていきかけたのです。

アマテラスをも上回る私のエネルギーを、宇宙に知らしめたかった。この心の底にある思いに、私自

身まだ触れておりません。だから、私のアマテラスに対する反省は、なかなか拗りはかどません。

私は、自分をさらけ出すことに対して、やはり、躊躇ちゆうちゆうしています。肉は、もちろん、自分の思いをすべてさらけ出したいと思っています。

しかし、私の意識は、まだまだ、まだまだ、私は私を崩してなるものか、その思いがとても強いです。アマテラスにひれ伏す、いいえ、アマテラスを利用してきた、その思いのほうが大きいと思います。

異語。

***さん、田池留吉に思いを向けてみてください。
よ。

田池留吉、お前は、私の何を語ろうとするのか。お前の目を見ると、私は、とても苦しくなる。とてもとても苦しくなる。ああ、でも、お前の目は、私をじっと見ているではないか。心を開きなさい。心

を開いてすべてを語りなさい。苦しみを、あなた自身の愚かさを、自分で見てください。そのように私に伝わってきます。

異語。

私は田池留吉を肉としてとらえています。意識、波動、心、田池留吉の世界、すべて肉でございます。

今読み返してみれば、全くその通り、一分の狂いもなく一〇〇パーセント、これが私の心です、との思いです。

しかし、十年前の私はそうではありませんでした。少しは学んでいるので、全く肉で受け取ってはいないだろう、それに、先生に対してあんなに失礼な言い方をする自分などいるのだろうか、素直に受け入れる事のできない私でした。

まさに、己れ偉いアマテラスそのものでした。

何回か自分へのメッセージである意識を読んでから、「ともに瞑想を」の文章を読むと、まるで違う勢いで心に入ってくるエネルギーがありました。

こんなにストレッチに自分の意識を伝えて頂いたのに、十年も放置していたとは、何と勿体無い、申し訳のない学びの姿勢でした。

残された肉の時間をやり直さねばなりません。

間違ってきた自分から学んでまいります。

田池先生、申し訳ございません。

92

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、今、自分の心を見つめています。苦しい、苦しい中から生まれてきた私の心を、自分なりに見つめています。しっかりと見つめていこうとしてい

ます。

他力の中にある私です。なかなかそこから、自分の心を解き放していくのは難しいです。しかし、自分を救っていくのは自分だという思いがこの心の中から上がってきます。

お母さんに生んでいただきました。そして私は、曲がりなりに、今ここにこうして、田池留吉に心を合わせよう、しっかり自分を見つめていこうとする時間が許されています。この時間を大切にしていきたいと思います。

本当は、すべてを投げ捨てて、瞑想、心を見ることをしたいのですが、まだまだ肉に引っ張られます。肉の生活に思いが行きます。

昔からの私の心癖です。やはり、きちんと形を整えて、すべてを整えてという私の思いが心の中にあるります。

それでも、今、このように自分を振り返る、見つめるということ、私からすれば、本当に考えてもみなかった静かな、ゆったりとした時間が与えられて

います。このことを喜んでいきます。

焦らず、たゆまず、です。ね。そうですね、焦らず、たゆまず、私は、今の自分を見つめていこうとしています。

***さん、そうですね。焦らず、たゆまず、です。あなたがどれだけ上を望んでも、焦らず、たゆまず、です。

上を望む思い、あなたのその思いが、あなたの中にまだしっかりとあります。欲で、他力で、この学びをつかまえているあなたの思いを、もっと見つめていってください。

肉の向上、あなたはそこに、やはり心が縛られていると思います。

肉の向上、この意味が分かりますか。もちろん、あなたは、その肉を立派にするためにとか、素晴らしいにするために、学びをしているわけではありませぬ。しかし、あなたから感じられるものは、向上という思いなんです。

その思いが基盤にあつてということ、やはりあなたの基盤は肉ということでしょう。

ただただ自分を見つめていく、自分のエネルギーを見つめていく、それも優しい思いで見つめていくのです。

優しい思いですよ。お母さんがあなたを生んでくれたときのあの優しさです。あの温もりです。その優しさ、その温もりで、自分自身を見つめていくんです。厳しい目、しっかりとした目、そういうのではなく、優しい目、温もりの目で、自分を見つめてください。

そういうところを、自分の心で学んでいってください。

もちろん、アルバートへの道をしっかりと自分の中で位置付けたならば、つまり、自己確立ができてくれば、肉は、しっかりとってきます。はっきりとってきます。肉がしっかりと、はっきりとしていなければ、アルバートへの道は歩いていけません。

あなたのすることは、まだまだたくさんあります。

ここまでということはございません。あなたの学びは永遠です。

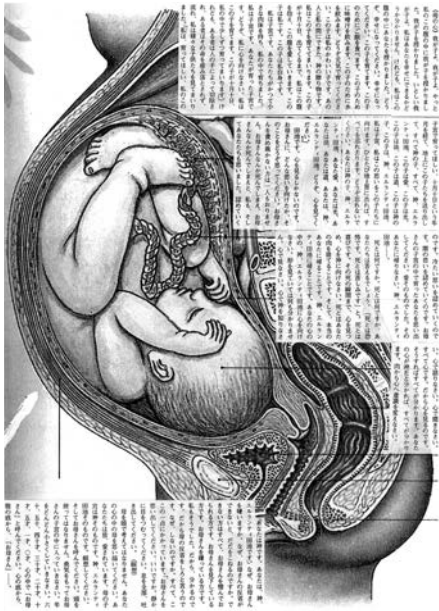
これからも、心を見ていってください。心を見つめていってください。時間の許す限り、瞑想を続けていってください。

十年前のメッセージに寄せて

お母さん、産んでくれてありがとう。私生まれてきてよかった。

お母さんは、いつも私と一緒にいてくれました。「あなたは愛ですよ」といつもいつも私に伝えてくれていました。私が気付くまで、待つて待つて待ち続けてくれました。お母さんありがとう。間違い狂い続け、凄まじいエネルギーを垂れ流し、宇宙を汚しに汚しまくってきました。でも、そんな暗黒の宇宙とともにお母さんのもとへ帰っていきける私は、喜び幸せです。

お母さん、待つていってください。必ず必ずお母さ



んのもとへ、愛、心のふるさと、母なる宇宙へ帰ります。たくさんたくさん宇宙とともに必ず必ず帰ってみせます。

そんな思いが心の中から湧いて出てきます。嬉しいです。

まだまだこれからです。まだまだ道遠しです。でも、この思いが、私の背中を押してくれます。この思いが、私を支えてくれます。

愛を捨て、間違い狂い続けて、ただただ戦い続け、

ガムシヤラに頑張ってきたけれど、今、そんな自分が愛しくて愛しくて、「ありがとう、ごめんなさい」と自分自身に伝えていけることが本当に何よりも嬉しいです。ただただ「ありがとう、ありがとう」と抱きしめて包み込んでともに歩いていきます。

何も頑張らなくてもよかった。勝っても負けても、己一番にならなくても……そんな事どうでもよかったです。

お母さんに産んでいただいて、田池留吉という真実を伝えてくれる肉と出会えたことがどれだけの喜び幸せか。今、肉を持って、ただひたすら愛へ帰る道を真っ直ぐに歩いていけることがただただ嬉しい、幸せです。

思うは、田池留吉、アルバートです。愛から出て、愛へ帰る道を、自分の心ひとつで、喜んで喜んで、真っ直ぐに突き進んで、そして必ず二五〇年後再会を果たします。

すべてをなくしても、心の中には、お母さんが、

そして田池留吉、アルバートがいる。どんな時も、そばに寄り添って、優しい優しい温もりで「あなたは愛ですよ」と包み込んでくれている。それだけでよかった。田池留吉、アルバート、ありがとうございいます。お母さんありがとう。私、今、喜び幸せです。嬉しいです。お母さん産んでくれてありがとう。私生まれできてよかった。そう心の底からお母さんと呼べる私だけでよかった。

ありがとうございました。



題目：五つの原宿をしましょう。
お母さんの心もみえますが、
お父さんも立っています。
お母さんの愛も感じています。
お父さんも立っています。
お母さん産んでくれてありがとうございます。
お母さん産んでくれてありがとうございます。
お母さん産んでくれてありがとうございます。
お母さん産んでくれてありがとうございます。

***さん、あなたの今を語ってみてください。

他力信仰に使ってきた心を掘り下げて、見ることをやってきたつもりです。他力に使ってきた心を見てきたつもりです。間違った道を歩いてきたことを心に感じ、私は、自分の心を見てきました。

今、あなたの今を語ってくださいということですが、私は、心を見てきました、他力に使った心を見てきましたと、自分を語りました。しかし、私の中から、まだまだその見方が甘い、甘い、甘いと出てきます。確かに、以前とは違っています。自分の中が変わってきていると感じます。ですが、あなたの今を語りなさいと促された時、私の中は、反応しました。他力のエネルギーのすごさに自分自身が驚いている状態です。これが、私の今です。

他力に使った心を、掘り下げて、見ることの難し

さを感じています。母に使った心を見ることの難しさを感じています。どちらの反省をする時も、私は、やはり、自分の偉さ、そびえ立つ自分を、心に感じるのです。

中が言ってきます。

「心に求めてきた他力の神々への思いを、もっと、見ていってください。どれだけのエネルギーで、他力の神々を吸い寄せてきたことか。自分の苦しさを、もっと、もっと見ていってください。」

私の中が、そのように伝えてきます。

異語。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉……、心の中に田池留吉を呼ぶとき、私

は自分の世界を感じます。ああこれが、私が培ってきた他力の世界です。他力信仰をしてきた時の私の凄まじいエネルギーを感じます。心に感じる世界です。私の肉、頭では、計り知れない世界です。ああ、このことを言っていたんですね。私の中は知っていません。このことを言っていた。

あなたの中には、凄まじいエネルギーがありますよ。私達は、その中に、まだまだ沈んだ状態です。もっと、もっと、心を向けていってください。そんな思いを感じます。

はい、己が偉かったです。心を見てきたつもりです。少しは変わってきた自分だと思ってきました。認めてくださいという思いはないにしても、私は、少し自分が変わってきたことに、それで満足していたのかもしれない。そんなところではありませんでした。私の中には、もっと、もっと深いところで苦しんでいる意識達が、たくさんあります。はい、心を向けていきます。

心を繋いでいくために、今世の肉体をいただきます

した。私は、そうなんです、はい、今、感じます。自分を繋ぐために、今世生まれてきて、このように学びに繋がったのです。このことの大切さを、心に、今、感じていきます。ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。

UTAブックさん、メールありがとうございます。十年一昔、本当にあつという間の時間でした。今振り返ると、田池先生からお電話があり、「パソコンを開きなさい、〇〇の番号を見てな、開いたら電話をください」と言われて急いで立ち上げ、先生をお待たせしてはいけないうとすぐ電話しました。すると先生は「えらい早いな」と言われました。

これは「あなたの意識ではありませんか」でした。この本はすぐ手の届くところにありました。しかし、慌て者の私はすっかり勘違いしていました。

「あなたの意識です」と、メールをUTAブックさんからいただいたのに、あれ内容が違う、さてこの本はどこへ行ったのか。探しても見つかりませ

ん。翌日やっと思つて出しました。「あなたの意識です」、ああUTAブックさんの言われる通り忘却ぼんぎやくの彼方かなたでした。すっかり忘れ去っていました。

自分はいったい何を学んできたのか。結果は出てくるのか。どんなことでも喜びで受け取れる自分に成長しているのか。

答えはノーでした。

甘い甘い、自分に甘いと言いながら、その自覚がなかった。ただ、セミナーにオール参加していただけでした。

塩川さんのホームページにCDをいただいた人、あの坂道を雨の日も暑い日も寒い日もあったらうにと……。ああ、私もCDと意識をいただいています。

私は三月中旬。まだ風も冷たく寒かったのではと思つたと本当に申し訳ありません。先生、塩川さん、ありがとうございます。

本当に本当に申し訳ありません。心が平伏してま

した。

こんなにも至れり尽くせりしていただいたのに、私はのんびりと何をしてきたのか。何を学んでいたのか。頭は熱心なのに心が向いていない。全くの勉強不足でした。

もう一度、原点に戻り学び直します。

(CDより抜粋) 二五〇年後の転生を私達は待っています。厳しい転生でしょう。しかし、あなたのは私たちとの出会いを待っています。

どうぞ、心を見つめていってください。今世の間を大切にしていってください。

私、田池留吉のメッセージです。今世の時間を大切に、どうぞどうぞ、本当に大切にしていってください。

今世、あなたのおすべきことをして、そして、次の転生に繋いでいけるようにしていってください。ただただ、私達は、あなたにこのメッセージをお伝えします。

***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、私は、***でございます。お母さん、お母さん、私は、とても己が偉かったです。あなたの肉を見てまいりました。あなたにすごいエネルギーをぶつけてきました。私の心でございました。あなたから返ってくるものは、私の心でございました。それを私は、いつも、いつも、それ以上、倍にも三倍にもあなたに返していました。これは、私の周りの人すべてに、です。己が一番そびえ立っていたからです。自分の心の苦しさを、すべて周りにぶつけてきました。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉をどれだけ心で憎んできたか。恨んできたか。お前の言う通りにしても、私は幸せを感じられなかった。むしろ、私の心の中に苦しみが広がっていった。この学びは嘘っぱちだ。そのような思いをずっと持ってきました。持ち続けてきました。でも私は、学びを離せなかった。どれだけ、田池留吉に、この思いを投げつけてきたことか。すべて、すべて、私でございました。

私の中から、このすさまじいエネルギーを流している、そのあなたの心を見てくださいと、あなたは伝えてくれていたんですね。

心が本当にお粗末で貧しくて、どうしようもない自分でございました。今世、そのことに少しでも気付けたからよかったです。残りの肉の時間、田池留吉、あなたを思って、過ごします。どれだけ心が歪み、屈折して腐り切ってきた私でも、あなたを思って生活してみます。

十年前のメッセージに関して、大切なメッセージ

でした。その後も時々読み返していました。

私は思いの中で、お母さんに助けを求め、田池先生の言葉に問題解決のヒントを求めてきました。

物事がうまくいかぬ時は、お母さんのせいにし、田池先生のせいにしてきました。

己の非を認められなかったからです。

今は過去の思いを振り返り、申し訳ない思いとなつていますが、今もこのメッセージは、私にとって大切なものです。

95

***さん、心を語ってみてください。

他力の思いが、とても強いことを感じます。瞑想をしていても、反省をしても、何か私の周りに他力

のエネルギーが、ピッタリ張り付いているの感じます。私は、その中に、すっぽりと納ま^{おさ}まっているような気がします。そんな気がしてなりません。

***さん、そうですね。その中から、早く出てきてください。お母さんを思い瞑想を続け、焦らずに、一步一步進んでいってください。焦る必要はありません。あなたはあなたの歩み方があります。そのことを忘れないでください。

心の中のエネルギーを感じます。あなたは、あなたの中の苦しさを感じませんか。私は、あなたの中の苦しさを感じます。どうぞ、今世の時間、その自分達を解き放^{はな}つことに、取り組んでいってください。

十年前、なんて短いメッセージなんだろう。他の人は長いのに何で私は短いのかもっといっぱい伝えてほしいのに……。欲、欲、欲いっぱいでした。「私にはワンポイントメッセージが無い。だから私は進めないんだ」とずーっと心の底で思ってい

ましたが、数年前ぐらいに、そうだ、「あなたの意識ではありませんか、参考にしてください」に応募したんだったと思ひ出し、事あるごとに自分のメッセージを見るようになりました。

こんなに優しく、自分との今世の約束を果たすには、こうやっていけばいいよと的確に伝えてくれている。自分が自分に伝えてくれている。ありがとうしかありません。すべてが至れり尽くせりでした。「中心棒の確立」やるか、やらないか。意識の世界は単純明快。



***さん、田池留吉です。はい、あなたがあなたの中を語ったように、中はすごいんですよ。すごいエネルギーを蓄えてきたあなたの過去です。

それをあなた自身しっかりと心を見て、自分のエネルギーを本当に心で感じて下さい。そして心から懺悔ざんげして下さい。心から自分に詫わびて下さい。

この宇宙を汚してきた自分自身に詫わびて下さい。そして、しっかりと自分を見つめて下さい。自分を責めるのではなく、小さくするのではなく、ただ、ただ、自分を見つめていくのです。いとしい目で自分を見つめていくんです。そして、優しい思いで自分を抱きしめてあげて下さい。

あなたの中の温もりと安らぎ、それでしか、あなたは本当の優しさであるとか喜びであるとか、温もりであるとかは、わかりません。あなたがどれだけのエネルギーを自分の中に蓄えてきたのかを、しっかりと自分の中に感じていく事です。それは誰が言

うではありません。田池留吉が伝えるものでもありません。

あなたが、あなたの心を見て、あなたがあなたに伝えていくのです。私、田池留吉は、ただ、ただ、その事をお知らせしているだけです。心を見るか見ないかは、あなたの選択です。心を見ていけば、それ相当の結果が出てまいります。心を見なければ、その結果が出ます。そういう事なんです。それだけです。

私達と共に歩いて行く事を、ただ、ただ、あなたの中で待ち続けている私達の思いを知って下さい。

***さん、あなたの心を田池留吉にしっかりと向けて下さい。

異語。

田池先生から頂いたCDを聞いていましたが、今回、書き起こす事で何度も繰り返し聞き文章にする

事で、改めてメッセージの厳しさを再確認しました。しかし、書き終えた後、ほんわりとした嬉しさを感じました。心をもっとしっかり見つめ、どんなに真っ黒い闇でも出して認め、共にお母さんの温もりに帰ろうと伝えていきます。十年前に頂いたメッセージをもっと真剣に受け入れ、実践すべきでした。反省の機会を与えて頂き、ありがとうございました。

◇

***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は己を表してきました。己を誇ってきました。この肉は素晴らしい、肉は素晴らしい、素晴らしい私を認めよ、そんな思いを、ずっと、ずっと流してきました。その心はとても苦しい。本当に自分の中で、苦しい、苦しいって叫びを上げている。今世、私は、ようやくそのことを感じさせていたいただきます。自分の肉を通してそのことを感じる、そのような環境を設定してきました。学びに集う前は、もちろん、まだまだ己を表す思いを緩めることもなく、

そして、学びに集ってからも、その思いを、なかなか自分の中で、認めることができませんでした。なぜ、私の中はこんなに苦しいのだろうか、そう私は、己を大きく、大きくそびえ立たせていたからだ、近頃になって、ようやく心で感じてきています。己をそびえ立たせている、そのことを心で感じてきている私でございます。

***さん、もっと、もっと、あなたに優しくなっていてください。あなたに優しくなっていくとは、どういうことでしょうか。お母さんを、ただただ思っていてください。あなたの中に本当の優しさ、本当の温もりを教えてくれたのは、あなたが下に見てきたお母さんです。何度も、何度も、転生の機会を得ました。でも、そのたびに、あなたは、お母さんを下に見てきました。己こそ素晴らしい、私こそ素晴らしい、そうやって、あなたは、自分の中を見ずにきたんです。今、そのことに、少し気が付かれています。どうぞ、そのことを喜んでいって

ください。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、お前なんか、お前なんか……、私は、その思いを、ずっと、ずっと広げてきました。苦ししい私なのに、お前なんか、お前なんかと、私の苦しい中を見ずに、エネルギーを外に、外に向けてきました。田池留吉、申し訳ございません。心を中心に向けてまいります。自分にもっと優しく、本当に優しい思いで、自分を見つめていこう、そのように思っ、今、とても嬉しいです。ありがとうございました。

そびえ立つ心、己偉い心、私の岩盤だと思えます。現象の場でも、その心を見るようにと言われてきました。

今、少し心で気付けるようになりましたが、まだ、

まだ、その心しつかりと見れておりません。 凄まじいエネルギーを出しているのを感じても、母の温もりで受け入れる、包むという事ができていません。お母さんを、ただ、ただ、思っただけという十年前に頂いた田池留吉からのメッセージを、実践してこなかったと反省しております。残された肉の時間、もっと心の中に向け、お母さんを思う事、真摯しんしに実践していきます。このような機会を頂き、ありがとうございます。

97

****さん、心を語ってみてください。

私は、****です。難しく、難しく考えていました。私のこの頭で難しく、難しく考えていました。いつも暗い顔をして、そして、自分の心を見ているようなふりをしてきました。私は、とても暗かった

です。今、それを感じます。この頃、私は感じます、ああ、私は、暗かったなあ、そう感じています。

心に響くものを、ただ肉の私は、素直に、それを認めていけばいいだけでした。認めるというよりも、素直に見つめて、ただ、優しい思いでそれを見つめているだけでよかったです。それを私は……。

やはり、私は、己が偉かったんですね。色々な心を感じ、色々なものを感じてきたけれど、私は、優しい思いを向けることをしてきませんでした。そして、暗いほうへ、暗いほうへ、自分を引っ張っていくエネルギーに、私は、流されていったような気がします。

異語。

****さん、田池留吉のことをどのように思っていますか。

異語。



生まれたての弟を抱くお兄ちゃん

はい、私に、本当のことを教えてくださった先生を、私は、とても仰ぎ見ておりました。近寄り難い存在でした。ああ、そう、私は、そうです、やはり、田池留吉を上においでいました。ということは、私は、田池留吉を見下していたんですね。上におくことも、下におくことも、同じ心だったということを感じます。

私の中に、タイケトメキチ、本当の私が存在して

いることを、先生は、肉を通して、伝えてくれました。しかし、私の中では、距離がありました。すべて肉でとらえようとしてきたからです。

田池留吉を上においても下においても、何も分らなかった。そうだったんですね。今、そう思います。

異語。

改めて十年前の自分と向き合う機会をいただいで、はつきりと思うことは、自分の心を変えることができるのはこの学びしかないということです。全く思いもよらない方法でした。

それまではどんなに頑張っても自分の心を変えるなんて無理だったから、人から自分の闇を指摘されることは恐怖以外のなにものでもなく真つ暗な自分を恥じて、嫌って、逃げ回ってきました。

それでも苦しみから救われなくて、幸せにならなくて、しがみついていたこの学びは、当初の自分の願いなど、ちっぽけな欲でしかなかったこと、やつ

てきたこと全てが、まったくの見当違いどころか苦しみの上塗り^{うわぬ}でしかなかったことを教えてもらって、その上、本当のあなたはそんなちっぽけな存在ではないと、ぐいぐいと引つ張られてきた世界は、想像もしていなかった世界でした。

でも、そこがあなたのふるさとですよ、あなたは温もりですよ、あなたははじめから幸せですよ、と信じられないことを伝えていただきました。

十年経^たっても、笑っちゃうほど固くて小さくて近寄りがたくて、肉は十年分の老いを感じても、いろんなことが楽です。日々自然を感じながら、こんなにも恵まれていたのかって驚くこともしばしばです。

十年後の今、田池先生亡き後も、このような形で学ばせていただけていることを喜んで、今世の残り時間を大切にに使わせていただきます。

ほんとうに、ありがとうございます。

***さん、お母さんに対する思いを語ってください。

私は、母親を嫌ってきました。母親が大嫌いでした。私は、母の姿を見て、ああ、これが私の姿なのか、そうではない、そんなはずはない、それを認めることができませんでした。

全く肉でした。母も肉なら私も肉、肉の中で、私は苦しみ続けてきました。

母の思いを心を感じることもございます。瞑想をして、お母さんの思いを感じることもございます。しかし、私の中には、そういう思いを吹き飛ばすほどの真っ黒なエネルギーが、まだまだしっかりと心の中に残っているのです。

お母さんを思い、田池留吉を思い瞑想をしなさい、そして、母を語れと言われました。

私は、母を語るできません。母を見下して

きた。その思いから、なぜ母親の反省なのかと……、そんな私があります。それよりも、私に、何かを授けてくれるものを探し続けてきました。

母親の中に、それがあつただなんて、まだ信じられないです。

お母さんを思いなさい。お母さんを語りなさいですか。

はい、私は、母親を語る時、自分の汚い、汚い思い、汚い、汚い意識の世界を語ることになるかと思えます。

すべてを見下げてきました。我一番の世界を広げてくださいました。

どれだけこの心にその思いを^{つちか}培ってきたことが、すべて、すべて、我一番でした。

異語。

***さん、どうぞ、あなたが作ってきた他力の世界を、自分の中で感じていってください。他力

の中に本当にどつぶりのあなたを感じます。

どれだけ学びに繋^{つな}がり、自分の心を見ようとも、あなたの中は、依然として、他力一色です。

この学びの言わんとするところを、あなたはご存知ですか。

自分に冷たいことを、もっと、もっと知っていただく。自分に冷たいんです。心の中の冷たさを感じていってください。

もう、すべてを捨て置いて、自分を見つめる、それしかないと思います。

おそらく、あなた自身は、ここまで思っておられないと思います。やはり、どこかに甘さがあるので、はないでしょうか。しかし、このくらいの思いで、自分の中を見つめていこうとしなければ、他力の世界を自分の中で崩していくことは難しいでしょう。

それだけの分厚い壁がある、私はそのように感じます。

しかし、それも、あなたの思い方ひとつで、心の決め方ひとつで、変わっていく可能性を秘めている

のです。私はそれもまた感じます。

ただし、それには、先にあるように、すべてを捨て置いてということが大前提になるかと思えます。それがあなたにできるかどうかは、あなた次第です。

メールが届きました。

私の心は衝撃を受けました。十年前の事、すっかり忘れさり、改めて目を通し、読ませて頂きました。「貴方も肉なら、お母さんも肉肉」この事だけが強く強く心にのこっていました。私の心は、今現在も何も変わらず（意識か肉かと己に尋ねれば）転回も中々時間がかかる私です。本当に甘い甘い私です。母を思う時、嫌な所ばかりを拾い上げ、醜い私が見えてきます。

現在も過去も母を思う心などなかった。母は子供を守るべき、救うもの、他力の思いで母を求めてきたのです。叶わない、いらぬ、こんな母はいらぬ私は母を捨て去りました。私は力が欲しかった。何事も人より優れる力が欲しかった。頭脳、美貌、金

皆んな皆んな肉を掴んできました。その心の転回が十年たった今も変わりません。愚かな私ですが、そんな私を見て、タイケトメキチ、アルバートに心に向けて、やっと、やっと出会った今世を歩んでいこうと心から願っている私です。この様な機会を頂き嬉しいです。ありがとうございました。

（瞑想にて）全て間違っていました。

私は帰ります。必ず必ず帰ります。待っていてください。お母さん、懐かしい懐かしい故郷、私は必ず帰ります。心が上がってきます。私は信じ歩んでいこうと思います。

99

***さん、心を語ってみてください

そびえ立ちの私の中に広がるのは苦しい思いだけ

でした。お母さんを呪い恨んできた私の世界でした。その私の世界をしっかりと知っていくようにと、今世また母の思いが肉を持たせてくれました。お母さん、私は、あなたを呪って恨んできたけれど、お母さんあなたに、この肉をいただかなければなりませんでした。

私の心からの思いでした。心の中にある思いをしっかりと見つめてまいります。

私は、何も分かっておりませんでした。この思いを、苦しい思いを抱えたままの私でした。心の中に何も思いが広がっていきませんでした。苦しい中にあった思いだけでした。しかし、なお お母さんは、私にあなたの本当の姿を思い出してくださいと伝えてくれたその思いを、今感じていきます。そびえ立ってきた私の心の中に母は、常に、常に伝えてくれました。そびえ立ちの私は、その思いを真っ向から否定してきました。それが私の意識の世界の現実でした。

私は、そびえ立っております。優しい私がいま

せんでした。優しい私をお母さんは待っていてくれました。お母さんは私を信じてくれていました。

そのことが、今、お母さんから伝わってきます。心の中に母の温もりを思い出しなさい。あなたの本当の姿を思い出しなさい。その様に伝わってきます。

どこまでも、愚かな私。本当に申し訳ございません。母の思いを心にとっかりと感ぜられる、今世でありたいと思います。私に残された今世の時間、母を思う瞑想を続けてまいります。何も分かっていませんでした。私は、愚かな、愚かな意識の世界の中で、苦しみ喘いでいただけでした。私の中にあるのは、呪いと恨み、そして寂しい、寂しい孤独な真っ暗な世界。そんな世界を、お母さんは私に伝えてくれていました。

母の思いを捨ててきた私の中に、なお、あなたの思いがこんなにも苦しいですよと母は優しく伝えてくれていました。

それが私自身でした。本当の私に申し訳ない。私は、今、そのように感じています。お母さん 申し

訳ございません。

***さん、田池留吉です。学びの時間は長い
あなたですが、今、あなたが語ったように、実は、
あなたの中は、ほとんど何も変わっていない。これ
があなたの意識の世界の現実です。

その現実をしっかりと感じていってください。心
を落とすことなく、しっかりと自分を見つめていく
時間、その時間を持っていくのです。心を落とす
いる時間などありません。あなたの今世の肉の時間、
ただひたすら自分を見つめ、お母さんを思い、瞑想
をしていく。ただひたすら、そのことをやっていっ
てください。

分かりますか。もう時間はないのです。あなたの
学びに対する思いは、とても、薄く浅いものでした。
私はそのようにお伝えします。

あなたがどのように反論しようとも、あなたが語っ
たように、あなたの意識の世界は、ほとんど何も変
わっていない。このことだけをあなたに伝えます。

厳しいメッセージかもしれません。しかし、私は、
あなたの本当の姿を信じています。あなた以上に信
じています。それがあなたなんです。あなたは、優
しい母の温もりの中に抱かれて優しい、優しい、本
当に優しい温もりのある喜びのあるあなたが本当の
あなたです。そのあなたを、しっかりと自分の中に
思い起こしていただければ、それでいいんです。

私、田池留吉に向かって、どのような思いが出よ
うとも、それはあなたの中から出てくる意識の世界、
他力のエネルギーです。その凄まじいエネルギーを
しっかりと見つめていくこと、そのことを、まず始
めてください。

母の温もりが、あなたを待っています。本当のあ
なたに目覚めてくれるように母の意識が待っていま
す。本当のあなたが待っています。そのことを、あ
なたは、どれだけ信じているか。その信じた分、私、
田池留吉が今お伝えしていることが、心で分かって
いただけると思います。

要は、波動なんです。波動です。あなたが流して

きた波動、それがほとんど変わっていない。学び続けてきたとはいえ、波動がほとんど変わっていない。そのことを、私は、今、お伝えします。

この私の意識と田池留吉のメッセージを読んだとき恥ずかしく思いました。

とても人には見せられないと思いました。

自分の闇を嫌って嫌って人の前では取り繕って出さないようにしてきたからです。

でも読まないだと毎日読んで田池先生が吹き込んでくれたCDを聞きました。

田池先生は私をこんな風に思ってくれているんや……。

でも自分の闇は許せませんでした。

しかし今パソコンに向かって打ち込んでいると温かくなってきました。

嬉しくなってきました。遅れてばかりですがUT Aブックさんに送りたいと思いました。そう思うと、もっと嬉しくなりました。

こんなに愛されてきた私、愛されている私。本当に本当にありがとうございます



***さん、あなたの思いを聞かせてください。

肉、肉、肉の中に、ずっと存在してきました。今も、私は肉です。肉の中にあり、この学びに繋がっていると思っています。心を見ること、田池留吉に心を合わせることに、お母さんの反省、そのような流れの中で、私は、自分を振り返る今という時を、本当にもったいなく過ごしてきたなあ、そのように思っています。凄まじいエネルギーを蓄えてきた。私も例外ではありません。すべてを牛耳ってきた、すべてを支配してきました。

アマテラスの心そのもので生きてきた私に、田池留吉は、母の反省をしなさいと伝えてくれました。心の中が、煮えくり返りました。私は、正しく生きてきた、私は間違っていない、いつも、いつも、そのように、歯向かってきました。どこがどんなに正

しいのか、今思えば、本当に滑稽こっけいな私があります。何年も、何年も学ばせていただいた今、本当に、自分の中が素直でなかったと思います。これが、ずっと他力の中に生き続けてきた私の現実です。

素直でなかった。田池留吉、申し訳わけございません。今、私は、このように語らせていただいています。長く学ばせていただいたけれど、本当にお粗末そまつな私を感じ、自分ながら、情けない思いも出てきます。しかし、まだまだ、今世、時間の許す限り、自分を見つめていこうと思います。母に向けて出してきたエネルギーのすごさ、じっくりと瞑想する中で、自分と向き合っている今、語らせていただき、改めて、そのように思いました。

異語。

***さん、田池留吉に対して齒向はなむかかってきたエネルギーのすごさ、あなたは素直でなかったと語られました。そうですね、素直なようで素直でなかっ

たあなたの意識の世界が、心の奥底に、大きく、大きく、広がっています。どうぞ、素直とはどういうことか、自分に訊ね、そして、瞑想をする時間を持つていってください。

肉のことは程々に、ただ、そこにこだわるあなたの思いを、もっと深く見つめていってください。そこにあなたのエネルギーが感じられると思います。素直なせ口歳の時のあなたの思いに立ち戻り、どうぞ、これからの時間、過ごしていってください。

素直なようできて素直でない。学んでいるようできて学べていない。形を整えることに躍起やつきになっている私の意識の世界です。

今も私は正しいを振りかざし苦しんでいる私です。十年も前にこのように私の目の前に示していただいているのに、まだまだ修正できていない私の岩盤です。

本当に素直でないと学びは前に進みません。苦しみだけが膨らんでいきます。

学びをカルチャーかなんかのようにつまみ、遊び半分できた結果です。

まさに自業自得。

息子が学びに対して辛らつな言葉を投げかけてきました。

セミナーに行けなくなりました。

やっと目が覚めたかと思いましたがやはり息子よりも私が正しいの思いはなかなか消えず悪戦苦闘の結果、息子が出す思いは、すべて私が母に又周りの人に向けてきた思いと認めるに至りました。

少し、このころより、息子に感謝の思いが出てきました。私ごとこと間違いを認めるまで、ブラックのエネルギーを出し続けてくれます。

これほどまで真剣に命がけで心を見せてくれます。

母もそうでしたが、息子も私の心を見せてくれる愛の人でした。私が学びを続けるようにと愛のエネルギーを流し続けてくれていました。

この世界には愛しかないんだ、そう少し思えるようになってきました。

100

***さん、どうぞ、あなたの思いを語ってください。

どうして、パワーを求めることがそんな間違いなのか、私には分かりません。パワー、そう言葉で言えば、パワーですけれど、私は、ただ安らぎが欲しかったです。温もりが欲しかったです。そのため、そういうパワーというものを、自分の中から欲しているでしょう。しかし、温もりも安らぎもパワーに繋がっていることが、私は、まだ理解していません。

だから、***さん、あなたは、自分の心を見てくださいと伝えていらっしゃるんですよ。あなたの心の中を、ずつつと覗いてみてください。安らぎが欲しかった、温もりが欲しかった、なぜなのでしょう。底なし沼のような寂しさがあなたの中に広がっているのではありませんか。どうぞ、そのことを、日々の中で、

あなた自身気付いていってください。人と語り合う時、また、あなたが何か物を求める時、そして、一番分かりやすいのは、お母さんに使ってきた心を、ずっと書き出してみた時に、その奥に、安らぎや温もりを求めるその奥に、寂しい心があることに気付かれると思います。しかし、これは、あなた自身が、自分の心を見るということを通して、自分の心で気付いていかなければなりません。それがこの学びです。自分の心で気付く、そうしなければ、いつまで経っても、寂しい中から抜け出ることはできません。

学び始めたころの私の意識です。学びから早十二年過ぎた私は、今もまだまだ寂しい思いが心の中にあります。母を恨んできたこと、愛を捨てたこと、本当に冷たかったこと。今お母さんを思うと、



懺悔の思いでいっぱいになります。こんな恐ろしい私を、ずっと待っていてくれる思いに、ありがとうございます。間違い続けてきたけれど、すさまじいエネルギーもあります、泣き叫んでいる自分もいます。それもみんな自分だから、優しい思いで、受け入れていくこと、ぬくもりと安らぎに変えて来世の自分に繋いでいくこと、喜んでやっていきたいと思いません。

今回はいい機会をいただけたこと、意識の計らいだと思っています。とても嬉しいです。ありがとうございました。田池留吉、UTAブックさんありがとうございます。

二〇一〇年五月二十六日（水）

***さん

***さん、心を語ってみてください。

田池留吉、お母さん、申し訳ございません。なぜ
 だか、私は自分の中が本当に間違ってきた、はい、
 私は、自分の中が間違ってきた、間違ってきた、間
 違ってきた、そういう思いが突き上がってきます。
 はい、間違ってきました。私は、自分を見捨ててき
 たんですね。私は私を見捨ててきたんですね。冷た
 い私になってしまっていたんですね。

今まで、反省の中で瞑想の中で、そんなことは繰
 り返し出てきました。私は、私を見捨ててきた、間
 違ってきたと。

ああでも違うんです。その時の思いと今感じてい

る思いと違うんです。心の底から突き上がってくる
 思い、はい、これは、私の肉では説明が付きません。
 しかし、自分の中から突き上がってくる思い、私は
 間違ってきました。本当に間違ってきました。私は
 私を見捨ててきました。心の中から突き上がってく
 る思いがあります。お母さん、ごめんなさい。

本当に間違ってきました。

私はこの学びをずっとやっているつもりでした。
 長くやってきました。自分の心を見てきたと思って
 きました。しかし、私は何も学んでこなかった。そ
 れが、近頃、私は間違ってきました。自分に冷たかっ
 たです、申し訳ありません、そんな思いとともに心
 から上がってきます。これからの時間、自分の中を
 しっかりと見つめてまいります。田池留吉の指し示
 す方向に心を向け、素直になっていきます。そう、
 素直ではありませんでした。***という壁を大
 きく作り上げ、その中で、自分の心を見て、瞑想を
 して反省をして、そんな私でした。すべてが間違っ
 てきました。申し訳ありません。

さん、田池留吉です。自分の中で何か気付きがあったんでしょうか。よかったですね、さん。私達は、あなたの気付きを待っていました。どんなことでもいいんです。自分の心で気付いていく、それがこれまでのあなたの学びの時間だったのではないのでしょうか。

これまで学びの長い時間があつたから、今、自分が語つたように、何かしら、自分の学びが違つていた、私は自分に冷たかつた、そう心の中で、そのことを感じられたのではないのでしょうか。

どうぞ、これからも自分の心を見つめ、瞑想を続けていってください。お母さんと素直に呼べるあなた、そのあなたの中で自分を見つめていくんです。ゼロ歳の頃、いいえ、あなたがお母さんのお腹にいた頃、そんな中で、あなたが何を思い、何を感じていたか、どうぞ、瞑想の中で感じていってください。田池留吉、アルバート、その宇宙は待っています。心の中に溢れるほどの喜び、温もり、優しさ、あな

たの中で広がっていくのを待っています。

宇宙はこれからどんどん変わってまいります。どうぞ、あなたも自分の宇宙に心を向け、その喜び、変化を感じていってください。心の中に田池留吉、アルバートです。アマテラスを神としてきたあなたの世界、その心を、その世界をただただしっかりと見つめていってください。そして、アマテラスの宇宙に伝えていくんです。ともに帰りましょう母なる宇宙へ、私達とともに帰りましょう、そう呼びかけることができるあなたに蘇よみがえっていってください。

五月十六日のともに瞑想会をみて、その中に塩川香世さんが「CDをいただいた方も」と言われたとき、私ももらつてると思いすぐに香世さんのホームページを開けてビックリしました。ポストに先生からの封書が来てて、嬉しくてすぐに開け読みました。CDも聞きました。もうこの時に「宇宙はどんどん変わってまいります。どうぞあなたも自分の宇宙に心を向け、その喜び、変化を感じていってください

い」とありました。私は宇宙を思うことが怖かった。嫌ってきました。見たくなかった。でも意識をいただいたのは嬉しかった。でもしなかった。気持ち悪いと逃げてきました。ホームページ2008を読み田池先生は「私は命がけでやっています。あなた達も命がけでなさい」と言っておられました。田池先生、塩川香世さんがこんなにまでしてくださっていたのに、それすら分らない私でした。欲、欲でもっともつとやってみました。いますることをはっきりいってくださってた。自分の宇宙に心に向けていきます。ありがとうございます。

102

二〇一〇年五月四日（火）

*****さん

*****さん、心を語ってみてください。

心の中にお母さんと呼んでいます。ああしかし、私は、まだまだ他力の反省ができておりません。他力のエネルギーをしっかりと握にぎっています。他力に使ってきた思い、そのエネルギー、パワーを求める心、はい、私は、まだまだ自分の中で見つめておりません。そのエネルギーが、私の中で今か、今かと待ち構えています。

田池留吉、アルバートを思えば、そのエネルギーが出てくるんです。

しかし、私は、そのエネルギーを自分の中でまだしっかりと包んでいくだけのお母さんの温もりを感じておりません。母の温もりを、まだまだ私は、自分の中で感じてはいない。

色々な反省はしています。自分に心に向けています。もちろん、田池留吉、アルバートを呼んでいます。ああしかし、私の心の底にあるものは、他力のエネルギーです。他力の反省がまだまだ進んでいません。

私の中にある思い、どす黒いヘド口のような思い、はい、私の奥底に渦巻うずまいています。私は、今世、この学びに集う前、色々なところに首を突っ込んできました。心の中を知りたかったということはありません。私自身を知りたかった、そう、だから私は、色々なところに興味を持ちました。

はい、パワーです。パワーの世界に興味を持ちました。私は、その反省をまだ自分の中でしっかりとしておりません。

そのことを、田池留吉、アルバートが伝えてくれていると思います。心の中の優しさ、温もり、そこに本当に私が行き着くまでには、まだまだ私の中で見ていかなければならないエネルギーがあります。

ああ、私は、まだそのエネルギーを知らない。自分の中を知りません。今、私は自分を語っています。語っていかばいくほど、そして、自分の中を見ていけばいくほど、この狂ったエネルギーが本当に待っていることを感じます。母の温もりが第一でした。お母さんを思う瞑想を続けてまいります。心の中に

田池留吉、アルバート、そう素直に、ただただ素直に呼んでいける日がくるのを、私は自分の中で準備を整えていこうとしています。

ああお母さん、お母さんと呼ぶ心、その心の奥に潜ひそんでいる他力のエネルギー、心の中で、しっかりと見つめてまいります。

***さん、田池留吉です。私は、あなたに伝えました。他力の反省です。他力のエネルギーを自分の中でしっかりと見つめていくこと、そう、田池留吉、アルバート、その宇宙を心に広げていくには、あなたにはまだまだすることがたくさんあります。

他力のエネルギーを自分の中で、しっかりと見つめていってください。

同時にそれは母の温もりを自分の中で思い起こすことに繋つながっていきます。母親の温もり、母の思いをしっかりと自分の中で確立しなければ、他力のエネルギーに思いを向けても、そのエネルギーを自分の中で包んでいくことはできません。つまり、自己

供養が自分の中で進んでいかないんです。

学びの手順をしっかり踏んで、お母さんの反省、お母さんに向けて瞑想をしっかりとやっていってください。他力のエネルギー、あなたの中に、まだまだ、まだまだたくさん、たくさん残っています。どうぞ、その自分を見つめていくようにしていきましょう。

学びに集う時間は短いでしょうが、あなたはそれなりに自分の心の中を見つめます。はい、その方向はいいと思います。

しかし、まだまだです。他力のエネルギーに自分を任せていったあなたの過去からの思い、その凄ま



じいエネルギーを自分の中で感じていってください。

はい、そのエネルギーがあなたを待っています。そのエネルギーはいつか、いつかと待っています。

どうぞ優しい、本当に優しい思いを向けていってください。

己を表すことなく、ただただ自分を見つめていくあなたであってください。

二〇二〇年六月十二日（金）

やってきたつもりでした。母親の反省、母を思う瞑想。自分なりにやってきたつもりでした。今、こうやって読み返し、CDを聞き直し、反省を進めています。ああ、本当に

まだまだ、まだまだだという思いです。自分の中を語れば、語るほど、苦しみが込み上げてきます。苦しさとか寂しさが以前に増して瞬時に飛び出していきます。身体が疲れているとき、しんどい状態が続くとき、それらの思いが一気に怒りとなって爆発するのを感じます。周りを責め裁く思い、妬み、羨み、自分や相手を見下げる思い、支配する思い、闘いのエネルギーが瞬時に出てきます。出来る限り、ふと田池留吉を思う。一日自分が出してきたエネルギーを思い、田池留吉を思う。肉で何もなければ安泰、ほっとしている自分がある。肉の安泰、無事、平和を願って祈り、他力の神々を探し求めてきた。人であれ、物であれ、なんでも良かった。幸せにしてください。力を下さい。パワーを与えてください。私をどうか幸せにしてください。私の過去からの過ちを赦してください。助けてください。どうか、私を見捨てないでください。もう苦しみたくないです。もうこんな寂しい思い嫌なんです。どうか、私を。そんな思いで生きてきた。

今、こうして振り返って、その思いはまだ自分の中で残っている。そんな自分に絶望したり、気落ちしたりするけれど、やはり、お母さんの反省、ゼロ歳の瞑想がまた私の背中を押してくれる。頑張りと言ってくれているかのよう、温かく優しく伝えてくれる。ここに帰ってくるんだよ。どんな思いが出ても、ここに、何もなかったあの時を思い出すんだよ。しっかりと伝えてもらったんだよ。お母さんが伝えてくれたよ。他力のエネルギー、本当にまだまだ私のなかでやらなければいけないことがたくさんある。母親の反省も、お母さんに向けて瞑想もここまでということはない。死ぬまでやらなければいけないし、他力の反省だってやることは山積み。焦っても、力んでも、がむしゃらにやってもだめ。焦らずにこつこつと弛まずにやっていくことが大切。自分に誠実に。もつと優しくをモットーに、これからもやっていきます。

***さん、心を語ってみてください。

はい、心を見つめてまいります。己高く、己が偉かった。本当に偉かった。今、自分のエネルギーを感じ、そう言わざるを得ません。どれだけ聳え立ってきたことか。私は、自分の中に本当に埋没してきました。

心を見ることをしてきたつもりです。しっかりと心を向けることをしてきたつもりです。しかし、私のそのつもりは、本当に肉を基盤とするちっぽけなところで留まっておりました。それでは田池留吉、アルバートの世界が分かるはずがございませんでした。

そのことを私は、ようやく、ようやく、ほんの少しずつ、分りかけてきています。己が壁として、田池留吉、アルバートの前に立ち塞がっていた。その壁を、私は、今世の肉を通して崩していくことを自分に約束してきたんです。しかし、今世の私は、

その壁を大きく、大きく、さらに大きく積み重ねてまいりました。その自分の愚かさを嫌というほど感じております。

心を見つめていくだけです。瞑想する中で、私は、自分のエネルギーを感じていくだけだと思います。心の中の素直な私に、本当に素直になっていきたいです。ゼロ歳の私に戻っていききたい。お母さんに生んでいた頃の私に戻っていききたい。本当に心から戻っていききたい。今そのように思っています。

田池留吉、アルバート、私の心の中を語らせていただきました。私の一歩まだまだ、まだまだです。しかし、しっかりと心を見つめていく、自分を知っていく、自分のエネルギーを感じていく、そのことに私は、心を傾けていききたいと思います。

本当に申し訳ございません。自分に申し訳なくて、私は、今まで何をやってきたたのだろうか。そんな思いがでてきます。ああ、これはまた己が素晴らしいからでてくるんですね。本当に私は、この思いがとても強いです。己を大きく広げました。こ

の心を見つめてまいります。

田池留吉からのメッセージ

「あなたの中に本当の喜び、本当の温もりがあることを信じて、日々淡々と瞑想を続けていってください。」

お母さんの反省。お母さんを思いゼロ歳の自分を思う瞑想を重ねています。

教祖を語った私はどんな心を使ったのか。

私は本当に己が偉かった。高かった。高い所からこの学びをしていた。肉を基盤に教祖のエネルギーと一体化してきた。そんな私に素直さもなければ、自分に対する真摯^{しんし}な気持ちなどどこにもなかった。ただ己の素晴らしさを見よと、認めよと、己を誇り己を表してきた。そんな自分が地獄の底の底のずっと底を這い^はずり回っていたこと、あまりにも自分を知らなすぎた。

間違った自分の心を修正したくて、本当の自分を

知りたくて、どれだけ思いでこの肉をくださいと、願い出てきたことか。お母さんはそんな切なる私の思いを受け入れてくれたんです。お母さん、ありがとう。私を産んでくれてありがとう。

素晴らしい教祖を語るほどに自分まで素晴らしくなっていくような気がした。この自分と向き合った。素晴らしい自分になりたかった。素晴らしい自分になろうとしてきた。そしてそんな自分を認めてほしかったと過去からの自分を感じた。

教祖を握^{にぎ}ったのは私です。肉の小さなカラの中で、己、己、己と己を大きく広げて、私は本当に己が偉かった、高かった。真実に反するその波動そのエネルギーこそ田池留吉、塩川さんの上に聳え立ってきた自分だったんだと心で感じ気が付いた。間違ってきた。間違ってきた。ごめんなさい、本当にごめんなさい。自分の世界が分からなかった。自分の使っているエネルギーが分からなかった。愚かな自分、愚かすぎる自分を知って、ただただ自分自身に申し

訳なかったです。

意識をいただいた後、自分の間違った思いを反省し瞑想。その都度気付いたことを田池先生にお知らせしました。しばくして田池先生からメールがきました。「田池留吉の磁場に心に向けて瞑想してください」と。

104

****さん、心を語ってみてください。

私は、****です。間違っていました。お母さん、間違っていました。私の心の使い方が間違ってきた。物事を見通せることが、素晴らしいことだと思ってきました。

私は、それをよしとしてきた、たくさんの過去世を抱えておりました。

今世も、道を外すところでした。肉の私

が、はつきりと自覚している段階でない時に、そう言われました。

私は、それから、自分の心を見ようと必死になりました。

私の中にも、占いババア的な思いが潜んでいる、心の奥底に潜んでいる、これが、私が道を誤った大きなものでした。そのことを、私自身、心を見るところということを通して、自分の心で感じるようになりました。

間違っていました。間違っていました。

異語。

****さん、タイケトメキチに心に向けてみてください。

異語。

今回の原稿募集の機会に、これだと手に取って読

みました。

スーッと読んだ時、間違っていたと気付いたんだから、と流しました。

短い文章だし、と軽く思ってしまった。

でも、何かしら心が動く。こっただよと動く。

再度手に取り読みました。「心の奥底に潜んでいる」心がここだと動きまします。

信じるものか、認めるものか、占いババアだと、

何を抜かす。クソツ田池殺したろか。

お前は嘘を暴く、^{あは}認めたくない心をかき混ぜる。

殺せ、殺してしまえ、田池に向かってこそつて殺しにかかる。

クソツクソツクソツ、ああクソ、死んでしまえ。

来るな、邪魔だ。俺の前に姿を見せるな。ぶっ殺せ、皆殺しにしろ。死ね、死ね、死ねーっ。



気付いたなんてとんでもなかった、心から嘖き上げてくる。見たくない、認めたくない。でもそれをやっていくことが肉を持った私が出来る今の時間だ、やっていこう。

ああ、おぞましい、嘘つきの自分。適当に言葉を並べて人にいい加減なことを言ってきた自分の心が見えてくる。

見たくないと反発する思いがでる。その思いに向き合っていく。

こんなにも大勢の自分が、苦しんでいる。同じ過ちの中でもだえ苦しみを伝えてくる。

そんな自分を見殺しにしてきた。ごめん、ごめん、ごめんね。

吐き気をもよおす思いの中で、涙もでてくる。喜んでくれている、思いを向けてくれてありがとうと伝えてくれる。

こうやっていけば良いんだな、一緒に田池留吉に
思いを向けて、故郷に母なる宇宙へ帰れると伝えて
いけば良いんだ。

嬉しい瞑想の時間です、ありがとうございます。

105

二〇一〇年九月十七日（金）

***さん

***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は頭を誇ってきました。頭で色々この学びを
やっています。心で感じることもあるけど、まずは
頭です。私は頭でこの学びをやってきたなあ、今、
そのように思います。

私の心の中の思いは、全てこの頭を通して語って

いるような、そんな気がします。

母に使ってきた心、母に向けた思い、それは、そ
れは凄まじいものがあります。まだ、私はその凄ま
じさを自分の中でしっかりと自覚しておりません。
私の心の中に燃えたぎるような思いがあります。た
だ私の職業柄、その思いは常に抑えられています。
ああ、しかし、全てが私の中で狂い出しそうな、そ
んな時がもう遠くはないと感じています。これから
の転生の中で、私は、自分の培ってきたエネルギー
をしっかりと見させていたくださなあ、そんなこ
とも思いません。

肉という形を持ってきた過去からの私。自分の中
にあるエネルギーを、はっきりと見出すにはまだま
だ時間がかかりそうです。ああこれも私の計画なん
だなあ。焦らず、たゆまずお母さんに使ってきた心
を見て、そしてお母さんを想う瞑想を続けようとは
思いますが、しかし、心の中のマグマ、その噴き出
しが恐ろしくてたまりません。

巷で起こっている犯罪者の様子を見るにつけ、あ

これは私の姿、私のエネルギー、なんだかそのようなことを、以前よりしばしば感じるようになりました。

私の心はまだまだ固い状態です。しかし、条件を整えば、その狂ったエネルギーは瞬間的に飛び出していくんだということを、私は私にしっかり伝えて、それに振り回されない状態に一日も早く自分をもっていくことが大切なんだ、そう私の中が伝えてきません。

***さん、田池留吉です。今あなたが語ったことは、それはその通りです。しかし、それをあなたの心で感じて下さいと私は伝えていきます。心で感じるものが大切です。学びを頭で組み立てていく、そうではなくて、あなたの心で感じ、心の中を素直にさらけ出し、その中であなたはまた自分のエネルギーを知っていく、そのようなお勉強をなさってください。とはいえ、まだまだ、あなたの中はしっかりと自分で蓋ふたをして、あなたが語ったように、狂った自分のエネルギーをしっかりとその中に閉じ込め

ておられます。それでもいいんです。焦らずたゆまず、そうです、お母さんに使ってきた心を思い出し、ゆったりとした静かな瞑想をする時間を持つていってください。

知識はあなたの中に充分に入っていると思います。あとは心で感じる、その実践です。それは、あなたが自分のエネルギーの中に向け、あなたの中の狂った意識達の思い、声を聞いていくこと、本当に聞いていける優しい、優しいあなたを知っていくことです。優しいあなたを待っています。

優しい、優しいあなたを、温もりのあなたを、あなたの中のたくさんのあなたが待ち望んでいます。どうぞ、お母さんを思い、瞑想を続けていってください。焦らずたゆまず続けていってください。

私の思い

最初に手紙に目を通した時の感想は、なーんだ、こんなことかと少し残念なような、気落ちするよう

な思いでした。やはり、目につくような、素晴らしい、特別なものを期待していたのだと思います。

幼少の頃の私は、なぜこんな暗い悪人のような心が出るのか、当時の自分自身でも怖くなるような真っ黒な思いが次から次へと出てきて、自分でも不思議でした。自分自身を信用できなかった。自信がなかった。学校の先生をはじめとして周囲には普通ではなく悪いほうの異端児いたんじのように思われていた気がします。ある人からは大人になって警察のお世話になるだろうとも言われました。小学校の高学年になって少し変わり、中学校を卒業するころにはやや普通の子と同じようになつていたような気がします。中学生の時冬の寒い放課後に震ふるえてお腹を空すかして練習していた時、お母さんや我が家のことを思い出すと何故か気が安らいでいくのを感じて、もう少し頑張ろうと思ったのを思い出しました。

六十歳を過ぎた今でも、遠くに住んでいたいとこの家に遊びに行った三歳の頃のことを母に言われることがあります。いとこの近所の友達に向かつて、

「いいかよく聞け。俺はお前たちの大将だ。言うことを聞かないと痛い目にあわずぞ」と宣言していたということ。この部分は今でも少し記憶に残っています。それ以外のことを思い出すにつけても、無邪気むじやきな子供の心はあまりなかったような気がします。

この勉強をするようになって合点が行きました。このような思いを過去からずっと持ち続けてきたのだなど。

先生の手紙に書かれていたことはこういうことだったんだなと思います。

過去世から暗い冷たいとんでもない思いを抱かかえてきました。極悪非道ごくあくひどうの所業の数々を行ってきた気がします。その通りです。

頭に頼るといふのは確かに言われる通りです。この極悪非道な心が信用できなかったので、理性で、理屈で矯正きようせいしようとしたような気がします。しかしその方法では根本的な解決にはなりませんでした。心は変わりませんでした。

この心を正しく修正する方法が、この勉強に出会うまでは分かりませんでした。

心にあるものを隠すことなくすべて出し尽くして認めていけない限り解決出来ないということがようやく分かりました。

最後にお母さんに対するすさまじい心を持ち続けているという点について、思ってみました。

お母さんが大好きですがそのことを素直に言えない心があります。指摘されるようなすさまじい心を母に使っているとは思いませんでしたが、日常生活

で母以外のいろんなことに不平不満、不足、不安、恐怖、怒り、焦りあせが出る心があるということは母に対してすさまじい心を使っていたんだということだったんですね。見方が甘かったんですね。自分で見えなくしていたんですね。これはこれ、それはそれではなく、すべて共通だったんですね。まだまだたくさん聞



の心が待っています。お母さんと素直に呼べるように、この闇の心も素直に呼んでいきたいと思えます。この闇の心があつたから田池先生に会うことができず、毛嫌いすることなく、迎合げいじょうすることなく、ともに歩んでいきたいと思えます。

困ったとき、分からなくなつたときは原点に戻るというのが基本でした。思い、心を見る勉強でした。優しく温かい心を取り戻していきたい。もう一度原点に返つて、母の反省をやつていきたいと思えます。

田池先生の手紙は、いつでも見られるように机の一番上の引き出しに入れていて、頻回ではないですが折に触れて時々は見返してはいましたが、今回改めて見直して良かったです。先生の心は遠くにあるのではなく、私の心に存在するのです。それをまだしっかりと信じきつていない心があります。そのことを忘れる

ことなく、どのくらい分かりませんが肉体生命が続く限り、この心をしっかりと見ていきたいと思えます。今回の企画をありがとうございます。

***さん、心を語ってみてください。

心を宇宙に向ける喜びを感じている、はい、そう私もその喜びを感じています。しかし、私の宇宙はまだまだとても小さな宇宙です。

心の中の宇宙はとても小さいです。その小さな宇宙を、私は大きな宇宙としてきました。このことがとても苦しいです。苦しいです。

今、心を語りながらとても苦しいです。

宇宙は小さかった、私の宇宙は小さかった、そのことを認められずにきました。田池留吉の宇宙、その思いが心に過ります。

田池留吉の宇宙、私の宇宙、その中で私は戦ってきました。心の中の戦いを繰り広げてきました。ああ、今もそうです。今世も、田池留吉の宇宙に戦いを挑む私の宇宙がございました。

私の宇宙は広い、広い、お前の宇宙には負けないぞ、そんな思いを、ずっと、ずっと広げてきた過去からの私、そう、今世もまたその思いのまま、この学びに集い、田池留吉に歯向かってきました。

田池留吉の世界を認めるわけにはいきませんでした。私の宇宙はすごいんです。すごいパワーがありました。そのパワーを田池留吉の目の前にチラつかせました。しかし、そのパワーは、私の中で萎えていくんです。田池留吉の宇宙に、私のパワーは通じない、そのことを、私はなかなか認めることができませんでした。認めれば、私は消滅してしまう、そんな恐怖から、私はなかなか自分の宇宙は小さかった、田池留吉の宇宙の前には、本当に小さな宇宙だったということが、なかなか認められませんでした。

これが私の過去からの思いでした。この思いを、

しっかりと確認するために、私はこの肉を持ち、田池留吉、あなたの学びに集ってきました。

誇りたかった。誇ってきました。宇宙こそすべて、宇宙は我なり。宇宙のパワーは私なり。はい、この思いを広げたいと。

ああ、こんなに苦しい思いをしてきたんですね。ああこれが苦しかった、苦しかった。

今、語れば語るほど苦しいです。ああこのエネルギー、とても苦しいです。とてもとても暗い、暗い真っ暗なエネルギーです。

田池留吉の宇宙、そのエネルギーが、私の中に伝わってきます。ああ、お母さん、こんなに、優しい、優しい広がりのある世界。

こんな私を、今、初めて感じました。今世、初めて感じました。田池留吉の宇宙、その一端を、今感じています。

***さん、田池留吉です。どうぞ、心をしっかりと、私の方に向けてください。あなたの中には、

まだまだ自分の宇宙を誇る思いがあります。

そのエネルギーはまだまだ強いです。

そのエネルギーはあなたを幸せに喜びに導いていない。

どうでしょうか、あなたの中にその自覚はありませんか。お母さんの温もりはどうでしょうか。

しっかりと、私を思い、瞑想を続けていってください。お母さんをないがしろにしてきたあなたの思いを、しっかりと見つめていってください。

お母さんは伝えてくれていたんです。あなたの中の優しさ、安らぎ、温もりを思い出してくださいと。

あなたは、そんな母の思いを、足蹴にしてきました。一蹴してきました。そんなあなたの凄まじいエネルギーを、どうぞ、心で感じていってください。

田池留吉の世界、その中にあなたは生かされています。

あなたは、田池留吉の宇宙の中にあるエネルギーです。そんなエネルギーが、田池留吉の世界に戦いを挑むことが愚かなことだということを、もっと、

自分の心で知ってってください。

私を思う瞑想から、お母さんを思う瞑想から、どうぞ、愚かな自分の姿を感じてってください。

あなたの中の優しさ、安らぎ、温もり、私たちは信じています。

あなたの心の中から、その優しさと安らぎ、温もりがにじみ出てくるように、あなたの中を、もっと精査してってください。

心の中に田池留吉の宇宙、その宇宙を素直に呼べるあなたであってください。

これが送られてきたのは、二〇一〇年五月三日（月）となっています。ちょうど十年前ですね。どんな思いで送ってくださったのか、そんなこと思い及ぶこともできませんでした。ああ母の思いですね、田池先生はただお母さんの思いで送ってくださいなんです。私は全て全て当たり前だと思ってきました。よくしてもらって可愛^{かわい}がってもらって一番に愛されて当たり前、さらに、もっとももっとこんな思

いはずっと膨らませ続けてきました。この思いがとても強かったです。

そんな私だったからこそ、宇宙へとパワーを求め続けてきたのでしょう、宇宙へ自分を誇^こ示^じしていきなかったのだと思います。

宇宙には全てがある、なぜかそう思い続けてきました、そのパワーさえ手に入れたら全ては私の思いどおりになるはず、過去から私の抱^かえ続けてきた思いです。

その思いで今世もまた、様々なパワーを求めてきました、手に入れようとしてきました。けれど、それがとても苦しくなつてこの学びにつながりました。

最初にセミナーに参加したとき、田池先生は、本当に良かったなと喜んでくださいました。

母の反省をと言われたとき、こんなに素晴らしい私なんで今更あんな母親なんかの反省をしなくちゃいけないんだと思いました。母は良妻賢母^{りよさいけんぼ}な普通の専業主婦でした。

三人妹弟の一番上に生まれた私は、最初はとても可愛がられました。けれど、妹、弟が生まれるにつれ、私へと一心に注がれていた愛情が分散されていくにつれ、面白くなくなっていたのだと思います。特に末っ子の弟をとても可愛がる母の様子に、私は失望し、もう愛されていないんだと寂しさを募らせていったんだと思います。

今、思うと本当に単純な理由というのか、つまらないことというのか、ああとても寂しかったんです。愛は外から注がれるものだと思ってしまっていたから。こう振り返ると、たくさんものを求めていたかと思っていたけれど、本当は愛だけをただひたすらに求め続けていたんだなあと驚きます。

愛が欲しかった、再び両親の愛情を一心に私に注いで欲しかった。だから私は素晴らしくなりたくないと願いました、素晴らしくなって、あの母を見返してやるんだと思いました。

私を一番に愛してくれなかった母を見返してやるんだと、私に跪かせてやるんだと、素晴らしくなれ

ばまた私を一番に愛してくれるに違いないと。

私は愛が欲しかったんです、一番に一番に愛されなかった。だからその一番に愛される道を模索し始めました。そうやって私は両親のもとを離れました。

様々な人との出会いがありました、そして手っ取り早く素晴らしい自分になるためにパワーを求め始めました。そうパワーでした、私の願いを何でも聞いてくれて、私を一番に愛してくれる、そんな存在を求めました。ああでもこの思いはとても苦しかったです。こう思うととても苦しいです。私の心はほとんどん小小さく小さくなっていくことを感じていきました。

あんなにあつた優しい思い、温もり、全部捨てていきました。そんなものあつてもただ邪魔になるだけだと、全部全部私の中から捨てていきました。

今振り返ると、愛を求める思いが、母の愛に飢える思いが、こんなにも幾重にも捻じ曲がってしまつて、複雑怪奇な宇宙を意識の世界を作ってきてしまったことに驚かされます。

お母さん、お母さんと私の心は叫びます。お母さんに帰りましたかと、本当は帰りましたかと叫びます。本当に私は愚かだったなあと思います。

一度だけ母がセミナーに来てくれたことがありました。その道中のバスの中で、こんなふうに思ってた私の思いを語りました、すると、母は、「そんなことを思ってたのね」と明るく言いました。

母のその一言は、私の色んな思いを知って、本当にアホねえと、許してくれているようでした。

今、私を振り返って、改めて私は母の愛を求めていたことを感じます。けれど、それは外から降り注がれる愛でした。そこが決定的な間違いだったんですね。

外に愛を喜びを幸せを求め続けてきた私が本当に間違っていたんだなあと思います。田池先生は、伝えてくれました。あなたは愛ですよ、あなたの中に愛は今も変わらずに存在しているんですよ、私は愛、あなたも愛、一つですよ。ああこの事実、この事実だけで十分でした。この真実にどれだけ

れだけ出会いたかったか、この真実がこの波動が

どれだけどれだけ私の苦しい真つ黒で真つ暗な宇宙を救っていけることか、変えていけることか、本当に嬉しいです。

田池先生にもう一度会いたいなあと時々思います。その度に、いつも私の中から温もりが返ってきます。肉体を離れて、こんなにも優しい存在を私は感じたことはありません。

以前、十人以上の方の意識を受けるお勉強の中で、様々な人に向けたけれど、肉体を離してもこんなにも優しく純粋で何もなくて、そう、自然のような大きさと温もりで伝わってくる存在を私は知りません。このことにも改めて驚きます。

田池先生、本当にありがとうございます。愚かな愚かな本当に愚かな私だったけれど、今も愚かだけれど、ただ待ち続けてくれてそして今も待ち続けてくれて、真実をたった一つの真実をただ伝え続けてくれて、本当にありがとうございます。私も、先生が伝え続けてくれた真実、本当の自分へと帰る

道、ただひたすらにたくさん私の私に私の宇宙へ伝え続けていきます。一つになって歩み続けてまいります。とても嬉しいです、一本の道が目の前にすっと広がって続いていくようです。

私は良かった、本当に良かった、全てを間違いつづけてきたけれど、全部全部愛へ本当の自分へつながっていたんだと思います。

UTAブックさん、本当にいつもたくさんさんの企画をありがとうございます。今回も、思いがけなく、とてもいい勉強をさせていただきました。

いつもいつも本当にありがとうございます。

107

***さん、今、あなたは、どこに心を向けていますか。

私は、***でございます。どこに心を向けて

いるかって、私は、一生懸命にこの学びをやるうとしていきます。いいえ、そうではなかった。

私は、やはり、この身を誇りたかった。私の素晴らしさを認めさせたかった。周りのみんなに認めさせたかった。私は、だから、そのために、自分のすべてを使ってきました。私のエネルギーをすべて、そちらに注いできました。そして、その片隅で、チョコとこの学びを続けてきました。この学びを離すことはできません。私は、欲がいっぱいでございます。

離すと恐いんです。恐怖の思いもあります。でも、欲の思いが、もっともつとすごいです。この学びから、何か自分のプラスになるものはないか、私は、目を皿のようにして、そう、そのような思いで、この学びにしがみついています。そんな私が、今、自分を語る時、とてもバカらしく感じます。バカだなあって、自分で思います。そんなことをしなくても、私は、私の中を見ればいいのに。私の中に、いっぱい、いっぱい詰まっている私を見ればいいのに、そんな思いが聞こえてくるような気がします。

***、大バカ者でございます。でも私にも家族があります。生活があります。その中で、この学びを続けていくのは、とても困難なことだと感じているのは、事実です。

私に、何か示してほしい、何か私のこれから先に行く末を、示してほしい、そんな思いで、名乗りを上げました。ああ、今、自分を語れば、語るほど、バカらしい自分が見えてきます。

***さん、そのようにして、あなたは、あなたの心を素直に、有りのままに、見ていってください。あなたの心の中から、どんどんどんどん自分の思いが湧き上がってくると思えます。仕事をして結構、何をしてダメだという学びではありません。でも、心を見ること、自分の心の中に向けること、そのことにエネルギーを注ぐこと、それを忘れないでください。

そうすれば、片手間ではできないことだと、あなた自身感じてくるでしょう。その時、あなたは、ど

うするでしょうか。それも、あなたが決めていくことです。そう、今は、あなたが、あなたの心を見る、その訓練をなさってください。

たしかにそうだった。僕は確かに自分を誇りたかっただけだった。でもそれではいけない、それじゃあないというのもなんか少し感じていたと思う。そして今でも岩盤に思いを向けると、「私は素晴らしい」という自分を誇りたい思いがいくらでも出てきます。いくらやっても尽きない思いだと思います。

今、自分は正直言って、少しは変わったかなと思います。少しかな、だいふ変わったん



じゃないかな？ 知らんけど。コロナウイルスのおかげで、肉を誇るのも、肉の喜びを追うのも馬鹿らしいことが、何となく感じられるようになったんじゃないかと思います。

十年間、形の上では色々なことが起こりました。だいぶ生活環境も変わったんじゃないかと思います。それでもまだまだ、まだまだです。まだまだまだまだやるかあると思います。まあ考えてみれば、まだまだですね。それでも何かふと喜びが感じられたり、嬉しくなったりすることがあります。なんか今も少し嬉しいです。この学びをやってよかったと思います。

108

さん、さん、あなた達のお父さんやお母さんは、どのような生活をなさっているでしょうか。どうぞ、それを含めて、あなた方の思い

を語ってみてください。

はい、とても、とても、苦しい、苦しい中にありました。ふたりは顔を合わせれば、喧嘩けんか、喧嘩けんかをしていた毎日でした。何で、そんなに怒るのか、何でそんなにイライラするのか、私達は、いつも、ヒヤヒヤ、ヒヤヒヤしていました。お父さん、お母さん、仲良くしてください。私達は、いつも、そうやって、お父さんやお母さんを見ていました。

そして、お父さんやお母さんは、この学びに繋がつながってたんですね。

以前よりは、お互いに少しだけ、喧嘩をする日が少なくなっただような気がします。私達にも、何か優しいお父さんやお母さん、というよりも、優しい何かを向けられているような気がします。

でも、お母さんは、何かある時、すごい顔をするんです。それが、やはり私達は、ヒヤヒヤして見ているような、そんな感じですよ。

異語。

***さん、*さん、今、あなた方おふたりの子供さんの思いを聞かせていただきました。どうでしょう。学びに繋がって、変わられたでしょうか。

はい、私達ふたりは、よく喧嘩けんかをしておりました。喧嘩のもとはお金です。そして……、ああそう、お金がやっぱり中心です。色々なことがあるけれど、突き詰めていけば、やっぱりお金だったんです。

イライラして、自分達のエネルギーを互いにぶつけ合っていました。

私、*は、心が敏感です。主人の仕草、顔色、言葉遣い、何気なくても、フツとそこから、すさまじいエネルギーを自分の中から感じるんです。

それを、前は、どうもしようもありませんでした。でも、今、少し、ブレーキが効きいているような気がします。

主人は、どちらかというと、自分のエネルギーを

抑おさえ込むほうだと思います。

異語。

夫婦仲良く、親子仲良くというのは、この学びをしていなければ、成り立っていかないことを、あなた方は、分かっておられると思います。

どうぞ、それぞれがそれぞれの心を見ていってください。夫婦、親子といっても、互いが互いを見る教材です。まずは、お父さん、お母さんからでしょうね。そして、子供さんは、あなた方の姿を、ずっと見ておられます。子供だから……、そういうことは、意識の世界では通用しません。

どうぞ、家族ひとつになって、本当に、今世、家族となつてよかったなあと言えるような、そんな時間を積み重ねていってください。

◇娘さんからの原稿

十年前を振り返って

頂いたメッセージを読んで當時を振り返り、母と電話で「真っ暗やったな」と笑い合いました。

今は、両親と三人で毎朝ズームで瞑想しています。こんなに幸せ（肉ですが……）は目の前にあったのに、自分から離れていったんだ。バカだったなあって思います。

当時の私は、両親の姿を見て何で喧嘩ばかりするの。私はあんたとは違う。苦しくて、寂しくて、辛いのはこの環境のせいだ。何で私を産んだんだ。こんな家に生まれたくなかったと真っ暗な思いをいっぱい膨らませていました。環境を変えたかったし、この真っ暗な思いをエネルギーに変えて、私は両親のようにはならないと、表面はいい子、中は真っ黒で頑張ってきました。子供の頃は、真っ暗な



思いを、そして成長するにつれて自分に鞭打ちナニクソと自分を縛って生きていく苦しさを両親は私に教えてくれていました。私はこんな自分を知っていたために、この環境を選んで私

はお母さんに生んでくださいとお願いしてきたんだな。間違ってきたな。本当に私は己が偉かったです。

私は子供の頃からずっと心の中の空洞を感じていました。何か穴が開いているような。子供の頃は両親のせいにしてきました。私はいらない子。いつか捨てられる。両親との間に自分で壁を作ってきました。そしてこの穴を埋めるために、私はたくさんものを求めてきました。これを手に入れたら安心できる。満足できると外へ外へ探し求めました。一時は満足できたと思ってもまたすぐに違う、違うと言っている自分があつてなぜなんだろう。こんな自分が嫌でした。暗い寂しい思いが私を苦しめている。こ

んな思い消えてなくなれと冷たい思いを流し続けてきました。でも、ふとある時この思いが肉の幸せと喜びに満足する自分にブレーキをかけてくれていたんだ。寂しくて真つ黒な思いは私の協力者だったんだと思えたら、涙がこぼれてきて自分にごめんなさい、寂しい思いにありがとうって思えました。苦しい自分を認めて受け入れていけばよかったのに、全部周りのせいにしてきました。「認めて受け入れる」文字にすると簡単なように思えるのに本当に難しい。私は己が偉すぎました。肉の私は本当にバカです。

私も両親も、地獄の奥底を這いずり回って苦しみ抜いてきた意識。だけど、この苦しみが本当の自分へ帰っていくための協力者であることを信じて、これからも日々ともに心を見ていきたいと思えます。今世家族となつて本当によかったです。U T A ブックさんこのような機会を与えてくれてありがとうございました。

◇お父さんからの原稿

ひとつも、なんも言うこと、きかんかった、いや、きけんかった。

おのれが偉すぎて、そびえ立ちすぎて、やかましい、殺すぞ!! を中に抑え込め、密教で封じ込め、閉じ込めていました。

やはり、いっぱい現象がこれでもか? まだわからぬか、もう白旗出して少しは、謙虚けんきよそうにして先生に電話するも、一分で言えと言われれば、なに!! ぬかしやがるのぞ、くそ! 田池。が……口では言えず、ひがんで、嘆なげいて、怒るのも抑え込めていました。

また中のあほかこれではいかんやろ、回りも喧嘩けんかを売りに協力してくれ交通事故でホンマに人を殺してしまい警察のお世話にもなりお通夜葬式、敵だと思つた人が助けてくれたり、不思議な事も色々起こり、検察官も裁判に協力してくれ散々悪の限りを

…ブラックのエネルギーはこの辺でやめにして、なにぶん、一分で言え!! ですの…

愛の円盤でどうにか動けるようになり、前を向いて行こうと、今じゃコロナも協力してくれ息子夫婦、孫娘との同居がはじまりました。

今世こそは、家族一つになり本当に家族になって良かったなあ〜言えるようなそんな時間を積み重ねられるようになりたいと思ってます。

ありがとうございます。

109

二〇一〇年四月九日（金）

****さん

****さん心を語ってみてください。

私は心寂しく生きてきました。自分の心を見れば、私はそんな思いを感じます。寂しい、寂しいと私の中は訴えていました。寂しいから、私はパワーを求めてきました。人の優しさ、温もり、そういうものを求めてきました。寂しくて寂しくて仕方がありませんでした。己を表すことも寂しさに繋がっていきませんでした。私は人の注目を浴びたかったのです。思いを私に向けさせようと思いました。寂しかったからです。その中で、私は、その寂しさを癒してほしかったです。寂しくて、寂しくて仕方がありませんでした。そんな私が、今ここにいます。

今世の環境の中で寂しさを募らせてきました。心が不安定な時があります。ふっと自分を思うとき、自分の中から、寂しい思いや不安な思いや、色々な思いが競り上ってくるのを感じます。

そんな時、私は、自分を自分で包んであげる、そういう余裕はありませんでした。ああ、しかし、今このように語り、自分を自分で包んでいく、自分に

優しい思いを向ける、それがどれだけ大切なことなのか、そんな私だったと私は感じています。

私は、寂しい、寂しいと訴えてきたけれど、それを私は私自身聞いてあげなければなりませんでした。私は、誰かにその寂しさを訴えてばかりでした。何かに訴えるばかりでした。まさに心が外に向いていました。他力のままで、私は、ずっときたんですね。そして、今世もまたその寂しさに直面しました。心が動揺どうようしました。もう私は、どうしていいかわからず暗闇の中でずっと過ごしてきたことを、今、振り返っています。

今、ようやく、私は、自分のこの思いこそ、私自身を正しい方向に導いてくれているんだ、そんな気がしてなりません。

間違ってきた道を歩いてきた、他力の道ばかりを選んできてきた私にとって、田池留吉、この学びは難しかったです。

難しいけれど、私はここにしか帰るところはない、今、そのように思っています。

***さん、田池留吉です。どうぞ、しっかりと自分の心を見つめていってください。

あなたの時間の中で、自分を見つめていける、それをただただ喜んでいってください。自分は幸せだ、喜びだ、ありがとう、お母さんありがとう、私は幸せです、そうやって、自分に言えることが、本当の喜びと幸せです。あなたも、少しずつ、そのように自分の心に向けていけるようになっていってください。自分に素直に、自分に誠実に、本当に自分というものを大切にしていってください。周りはずべて、あなたを見せてくれます。まだまだ肉の思いが強いと思いますが、そこから、どうぞ、ほんの少しでも浮き上がってください。あなたの目や耳は、その肉体は、本当の喜びと幸せを知っていくためにあることを、今一度、瞑想の中で確認していってください。

先生からCDを送って頂きました。

その時のことは今でもハッキリと覚えています。

買い物に出ようと外に出て、ポストを見れば封筒があり先生からでした。

パアーツと心が温かくなつて嬉しくて、帰ってからじっくり見れば、達筆で、私の宛名と先生の住所お名前が書かれていました。今も、その時の封筒は取っております。

嬉しくて、毎日毎日繰り返して聞きました。

***さん、田池留吉です、から始まっていく文言を記憶するくらい、毎日聞きました。

そして、最後の部分にある私の意識。

「難しいけれど、私はここにしか帰るところはない、今、そのように思っています」という言葉を、ただ信じていこうと喜んでいこうと思っています。

学びに集いながら、何度も何度も間違ってきた。

そして今、聞き返し、あなたの意識ですを読み返せば、本当にその通りですと頷くことばかりです。

ちゃんと学んでこなかったと、ただ申し訳なくて



初孫の生後6日目の沐浴

懺悔の思いが出てきます。同時に自責の念も。

限りある肉持つ時間、

ひしひしとそう感じるようになった今、

心から、「お母さん、有難うございました」と言つて肉を離していきたいと思います。

意識の流れ、意識の転回

大事な大事な言葉です。

有難うございました。

◇

(原稿を送ってから、瞑想をしました)

その当時、嬉しかった。

けれども、私は人を思いやるということがなかった。その肉の行為を慮ることがなかったと思いましたが。

香世さんが私の意識を受けてくださってからの色んなこと、大宝の郵便局までの一連の事。

香世さんのホームページを読み返したら、言葉がありません。

なんとなんと傲慢な私の心であったことか。

無償の行為に対して頭が下がる思いです。

こうしてまた、心を見せて頂けること懺悔できることが嬉しいです。

間違ってきた自分を許していけること、幸せです。

110

二〇一〇年七月十九日

***さん、田池留吉です。もっとも自分の中を語っていただく。やさしいあなたが噴出してくるまで自分を語っていくんです。エネルギー

ギーを見つめていってください。心の中に田池留吉、アルバートその世界を広げていけるあなたになっていってください。

確かにあなたは田池留吉、アルバートを信じている自分があると思っておられます。その信をもう一度自分の中で見つめてください。

あなたの広げている世界、感じている世界、その宇宙、田池留吉の宇宙というもの、その世界の大きさ、広さ、温かさ、やさしさ、それには限りがありません。ここまでということはございません。そのことを心に留め置いて、ただただあなたはあなたを見つめていくだけです。あなたから流れるもの、つまり波動、それがどういふものなのか、あなたの中で自己確立が出来てくれば、その波動はまた変わってまいります。言葉を発するとかそういうことではありません。

ただ自分と真向かいになって自分のエネルギーを心で受け止めていく、包んでいく、真剣に真摯な思いでそのことをやり続けていく、それを私はあなた

に望みます。まだまだ、あなたの課題はたくさんあります。しっかりと心を見つめていってください。心の中に田池留吉、アルバートその世界を呼び起こしていけるようなあなたを、着実な一歩を、今歩み出していってください。

***さん。あなたの心を田池留吉にしっかりと向けてください。

(田池留吉の異語)

五月十八日。感想と、反省文です。

田池先生から「メッセージと異語のメッセージ」を一緒にCDで頂きました。

厳しいと思いました。体から力が抜けていくのを感じ、頑張っで学んできたのにも思いました。そして、異語を聞いた瞬間、ただただ恐怖でした。繰り返し聞き直しても恐怖の思いは変わりませんでした。異語に蓋をしました。その時の自分が蘇りました。

今回、ブックさんからの問いかけがあったから、いただいたメッセージを改めて見て、異語を聞くチャンスをおいただきました。涙が溢れて止まりませんでした。

今だから思える。私の宇宙は素晴らしいと、叫び狂っていたのだと思います。大宝に行つてからの自分を振り返れば戦い続けた自分ばかりだった。その時はなぜどうしてと苦しい自分ばかり、責任転嫁しかできなかった。みんなが私の宇宙こそ素晴らしいと、戦いの火花を上げていた宇宙仲間だったのだと今なら思える。だから今があることに感謝です。

今、ライブ配信を通して異語を語る、語れるチャンスをおいただいています。「死ぬまで瞑想」のズームエビナーを通して更に異語を語る。異語でこたえる勉強のチャンスをおいただいています。異語を語れば語るほど、心が解放されていく。言葉をつかみ、人の肉を握る、どんどん拘り続けた自分の姿がはっきりと見えてくる中で気が付いた。私の宇宙こそ素晴らしいと叫ぶ思いは、寂しい寂しいと叫び続けて

いる自分を抑え込んでいただけだった。今は一人でいる恐怖の思いも、友達がいない寂しさも消えている。異語とともに生き、異語とともに死んでいく自分であればいいんだと思える。私にはこの生き方が一番あつていると思つた。異語を語れば語るほど、どんどん握つていた思い、拘つていた思いが小さくなっていく、私の宇宙こそ素晴らしいと叫んでいた思いが小さく小さく感じてきた。異語の世界はすべてに通じる世界、誰でも、いつでもどこでも条件などはいらない異語の世界、それが嬉しい。

そんな時にブックさんからの問いかけがあつたのです。

そして、田池先生からいただいたメッセージと異語の音声を聞きました。涙が溢れて止まりませんでした。ただただ嬉しかったです。田池先生からいただいた最後のメッセージは異語でした。今、やっとここに辿り着いたという思いです。

異語の音声を繰り返し聞く中で自然に私も異語を発していました。異語を語れる喜びを広げていこう。

異語とともに着実な一步を今世歩み出していける今がある。勇気が湧いてくる。これからだ、ここからだ、私の宇宙こそ素晴らしいと叫ぶ思いの裏側にどれほど寂しい意識達が待っていてくれていたかに気付ける今が嬉しい。まだまだ私の宇宙こそ素晴らしいと肉の己を掲げている自分がある。その自分とともに宇宙を思えば、尽きることなく異語が溢れてくる。嬉しくて嬉しくて心がどんどん軽くなる。肉で頑張ってきた。肉で頑張っていた。その頑張りこそが、私の宇宙こそ素晴らしいと叫んでいただけでいい。何もいらぬ。誰もいらぬ。自分の為に生きていけばいいだけだった。自分の意識と真向かいになれる異語の世界、異語が語れる今があることだけでよかった。異語とともに生き、異語とともに死んでいける自己確立の道を真つすぐにと固い決意と勇気が湧いてくる。嬉しいです。ありがとうございしました。

111

二〇一〇年三月一日(月)

***さん、あなたの心を語ってみてください。

心の中に、己偉い私がありました。お母さん、ごめんなさい。今、私は、ひとつの現象を通して、自分の中を見つめていこうとしています。己の偉い私を感じます、母に衝突してきた私を感じます。私ほど偉い者はない、そうやって、私は周りを蹴散らしてきました。

そのエネルギーを、私は、これからしっかりと見つめていこうとしています。このひとつの現象の中で、私は、私を見つめていだけです。

まだまだ肉にとらわれていっています。肉にとらわれる心をしっかりと見つめていきなさいと、そうやって意識の世界の働きがあります。

私は、しかし、この心の中に、肉を本物とする思

いが、しっかりとあるんです。だから、心の中の苦しさが、私の中に増してくるばかりです。

田池留吉のほうに心を向けようとしています。しかし、心の中に苦しい思いがあるから、その苦しみを和らげていくために、田池留吉を思っている自分があるような気がします。

私の中が、他力なんです。他力で、私は、この学びをやってきたんですね。なかなか認めることができませんでした。真実の道を歩いていこうとする本道の思いに従って、私は、学びをやってきた、自分にそう言いたかったです。しかし、私は、残念ながら、そうは言えません。他力の中を、私は、歩き続けてきました。私の心の中は、まだまだ何も変わっていないことを、今、感じています。

しっかりと自分の現実を見つめていかなければなりません。この現実をしっかりと見つめ、そして、そこから私は、一歩を歩みださなければならぬんです。

私は、私にやはり甘いと思いました。自分を語り

ながら、今、そう思いました。

***さん、田池です。どうぞ、しっかりと、自分を見つめていってください。自分を責めずに、心を小さくせずに、ありのままの自分を見つめていってください。優しい思いで自分を見つめていくんです。心を語ることをやっていってください。心を語ることをやっていくんです。

しっかりと自分を語っていくんです。どんな思いが出てきても、あなたの中でしっかりと自分を見つめていきなさい。田池留吉、アルバートを心の中に思っ、あなたの心を語っていくんです。

あなたの中の優しさ、温もりを信じていきなさい。私は、あなたに、そのようにずっと伝え続けてきました。

どれだけこの思いを信じていますか。あなたの心は、どれだけ、私のほうに向いていますか。あなたの中を語っていくとき、私のほうに心を向けてこなかったあなたを感じるはずですよ。

田池留吉の波動、アルバートの波動、あなたの中に届いているはずですが、あなたがそれを遮さえぎっているのです。そのことを、あなたは、これから学んでいってください。

私、田池留吉は、あなたの心の中で待っています。静かに、静かに目を閉じ、私を思ってください。目の前のことに、あまり、心を揺らさずに、しっかりと自分を見つめていってください。

難しいかもしれませんが、しかし、あなたは、それができる大きなチャンスを得ているのだと思います。

どうぞ、しっかりと自分を見つめていってください。

十年前に頂いた自分の意識を久しぶりに読み返していたら、田池留吉のメッセージが心に響いてきて、なんて優しいメッセージを頂いていたんだろうと涙が込み上げてきた。優しい



思いで自分を見つめる、田池留吉、アルバートを心の中に思っただけの心を語っていくんですよとメッセージを頂きながら、私はいつも自分にあまり優しい思いを向けてこなかった。自分を語ることが好きではなかった。苦しい自分は嫌だった。周りが変われば私は楽になれると思い、人を憎にくみ、変えようとしてきた。それが欲ということがずっとわからなかった。自分に甘く、何も変わっていない、間違いだらけの自分が嫌だけど、田池留吉は、そんな自分を責めずに、心を小さくせずに、ありのままの自分を見つめていってくださいと言ってくれている。本

当に自分に必要なことをこんなにも優しい思いで伝えてくれる存在は他にはないと心から思った。田池留吉に心を向けていきたい。これからは今までより素直に田池留吉を思えるような気がする。自分の中の温もり、優しさ、田池留吉に必ず出会いたいと思った。



あなたの意識です その後 vol.1

初版発行 2020年9月30日

編 集 U T Aブック編集部
発 行 一般社団法人U T Aブック
TEL 0745-55-8525 FAX 0745-55-8440
印刷・製本 モリモト印刷株式会社

© UTABOOK, Printed in Japan 2020

平

意識

永遠の生命

平成三十年男

田地留書